

史料目録 第119集

出羽国雄勝郡湯沢
佐竹南家・佐竹南家分家早川家文書目録
(その2)

令和6年3月

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館
学術資料事業部

史料目録 第119集

出羽国雄勝郡湯沢
佐竹南家・佐竹南家分家早川家文書目録
(その2)

The catalogue of historical collections

Vol. 119

The catalogue of papers on the Satake Minami family, who is the lord of Yuzawa and the branch of the Kubota domain in Dewa Province, and the Hayakawa family, who is a branch of the Satake Minami family.

No.2

National Institute of Japanese Literature,2024

ISBN978-4-87592-213-1

ISSN2435-2055

凡 例

- 1 本目録は、『史料目録』第119集として「出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家・佐竹南家分家早川家文書目録(その2)」(文書記号:22K)を収めた。
- 2 目録編成にあたっては、ISAD(G)(国際標準・記録記述の一般原則)の考え方も参考にしつつ、文書群を発生させた組織・集団の機能に留意し、文書群の持つ体系的なコンテキストを把握することに努めた。その結果、これまで佐竹南家文書とされてきた本史料群を、上記のように、佐竹南家と分家早川家に大きく分けることとし、史料群の階層構造を生かすように心掛けた。
- 3 本文記載は、(1)表題、(2)作成者または差出人、(3)宛名、(4)作成年月日、(5)形態・数量、(6)整理番号の順である。一括状況などの情報は、(5)形態・数量に続けて/(半角スラッシュ)で区切った上で、これを明記した。また保存状態などの情報も同様に適宜注記した。原文書の判読不能箇所などは、[]をもって字数を埋めた。
- 4 表題は原表題のあるものはそれを探り、ないものについては()を付して仮表題を与えた。また、表題のみでは内容が判別できないものについても、内容摘記を行い、同様に()を付した。
- 5 作成年は和年号で示し、干支だけの場合はそれを採録した。推定年月日については、()を付した。
- 6 史料の形態は、堅紙、折紙、堅切紙、堅継紙、横切紙、横切継紙、小切紙などと表記することで、料紙の使用法の違いを示した。冊子型史料では、半(半紙堅折判)、美(美濃堅折判)、横長半(半紙横折判)、横長美(美濃横折判)、横半半折(半紙横折紙半折判)などの略称によって形態の大概を示した。また絵図類や定形外の印刷物は、縦横の寸法をセンチ・メートル単位で示し、紙継があるものは鋪、ないもの(1枚もの)は枚とした。
- 7 整理番号は、当館受け入れ時に付したものを扱い、枝番号は今回新たにこれを付与した。
- 8 当館受け入れ後に仮整理のために、書き入れられた鉛筆書や付された付箋(上書を含む)については、今回データを収取しなかった。
- 9 本目録は研究部藤實久美子がこれを担当し、学術情報課の長田直子がこれを補佐した。文書の目録データの作成にあたっては、大銃地駿佑、大淵菜音子、江口真由、北村駿之介、黒滝香奈、権英玉、佐藤成浩、菅原一、鈴木萌花、関千賀子、高井望、高橋梓、高橋直大、高木まどか、鷹野真子、角田くるみ、戸森麻衣子、林かおる、布川寛大、山田拓実の各氏の協力を得た。文書の目録編成にあたっては、戸森麻衣子に全般にわたり助言を得た。

総目次

凡 例

総目次

1. 出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家文書目録（その2）本文細目次	3
解題	6
1. 伝来と整理方針	6
2. 佐竹南家の歴史	6
3. 文書群の階層構造と内容	7
表1・表2 佐竹南家知行地一覧	13
目録本文	15
家	15
苗字衆	62
家中	87
所預	92
組下・足軽	102
2. 出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家分家早川家文書目録（その2）本文細目次	119
解題	121
1. 伝来と整理方針	121
2. 早川家の歴史	121
3. 文書群の階層構造と内容	122
表3 早川家知行地一覧	125
目録本文	126
家	126
藩士	141
近代	142

出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家文書目録
(その2)

出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家文書目録（その2）本文細目次

1. 家	15
1.1. 系図	15
1.1.4. 佐竹本家系図	15
1.5. 元服・出仕・家督・致仕（口上書・覚）	15
1.5.7. 佐竹義舒（10代）	15
1.5.14. 佐竹義隣（16代）	15
1.6. 婚姻	15
1.9. 分家・縁戚	15
1.9.2. 縁戚	15
1.11. 通信（家内）	15
1.11.1. 南家当主差出	15
1.11.7. 貞淳院受取	16
1.11.8. 裏方受取	16
1.11.11. 分家早川家差出	16
1.11.12. 酒出金太夫差出	16
1.12. 通信（藩内）	16
1.12.1. 家老差出	16
1.12.2. 表方・側方など差出	19
1.13. 交際	23
1.13.1. 贈答書上	23
1.13.2. 武家書状	23
1.13.4. 五条家	23
1.14. 伝来文書・文書管理	23
1.15. 家政	24
1.15.1. 知行地	24
1.15.1.1. 検地	24
1.15.1.2. 黒印状	24
1.15.1.3. 新開	24
1.15.1.4. 替地	29
1.15.1.5. 年貢・小役銀	34
1.15.1.6. 領外廻米	35
1.15.1.7. 上米・指上銀	36

1.15.1.8. 産業奨励	37
1.15.2. 拝借・合力米金	38
1.15.3. 用座（湯沢）	40
1.15.3.1. 用状	40
1.15.3.2. 支払い勘定手形	41
1.15.3.3. 受払い書ほか	44
1.15.4. 屋敷番（久保田城下）	52
1.16. 為替・借入金・購入	59
1.17. 寺院	59
1.17.1. 菩提寺（清涼寺）	59
1.17.2. 菩提寺以外の寺院	60
1.19. 書籍・地図・護符・引札	60
1.20. 経営（近代）	60
1.21. 勝雄忠国社・尽忠報国会（近代）	60
1.22. 通信（近代）	60
1.22.1. 佐竹義隣差出	60
1.22.2. 早川家差出	61
2. 苗字衆	62
2.1. 藩主条目・御書付・被仰渡等	62
2.1.1. 藩主婚姻・代替・法事ほか	62
2.1.2. 系図・文書	62
2.1.3. 儉約・風儀	62
2.1.4. 借上	64
2.9. 幕府・維新政府触書	66
2.10. 藩主・嫡子応接（湯沢立寄）	68
2.11. 佐竹南家格式	72
2.12. 佐竹本家分家・一門	73
2.12.1. 佐竹壺岐守家	73
2.12.2. 佐竹左近家	73
2.12.3. 佐竹北家	73
2.12.4. 佐竹東家	78
2.12.5. 佐竹西家	80
2.12.6. 石塚市正・今宮大学一件	80
2.12.7. 藩政参与	86
3. 家中	87
3.1. 系図・文書	87

3.2. 支配・身分	88
3.3. 荒卷十蔵妻訴願一件	90
3.4. 拝借金	90
3.5. 上申	91
4. 所預	92
4.1. 湯沢米蔵	92
4.2. 郷学・学館	93
4.3. 湯沢町	95
4.4. 郡代・代官支配	96
4.5. 伝馬・通行手形	97
4.6. 往来	98
4.6.1. 国目付	98
4.6.2. 隣国ほか	99
4.7. 入会山	100
4.8. 軍役（幕末・維新）	100
4.8.1. 海岸警備	100
4.8.2. 京都警衛	100
4.8.3. 戊辰戦争	101
5. 組下・足輕	102
5.1. 系図・文書	102
5.2. 組下	102
5.2.1. 支配・身分	102
5.2.2. 触書	104
5.2.3. 新開・給分	106
5.2.3.1. 土地所持	106
5.2.3.2. 根本家新開	107
5.2.4. 貸付金・合力銀	108
5.2.5. 備銭・差上銀銭	110
5.2.6. 湯沢屋敷	113
5.2.7. 境口番	115
5.3. 足輕	115
5.3.1. 支配・身分	115
5.3.2. 蔵出支給ほか	115
5.3.3. 貸付・合力銀銭	116

出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家文書 解題（その2）

【史料群番号】 22K

【史料群名】 でわのくにおがちぐんゆざわさたけみなみけもんじょ
出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家文書

【年代】 慶長期～大正7年(1918)

【レコード数】 1,583 データ(本目録(その2)の収載レコード数、(その1)と重複2<○印>)

【入手の経緯】 1948年に原蔵者より当館に譲渡された。

【役職等】 久保田藩苗字衆、所預、男爵

1. 伝来と整理方針

出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家文書の伝来については、『出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家文書・南家分家早川家文書』（『史料目録第114集』2022、以下、114集と略記）の解題に記したため、ここでは省略する。

本目録収載文書は整理番号13～1250である。このうち、整理番号327、381、539、768～770、858、915～925は欠番（未使用）である。今回の整理でも、国立史料館時代の番号を継承しつつ、包紙・紙縫り・綴・巻き込みなどで一括されたものには新たに枝番号を付けた。

本目録では、114集と同様に、文書群を発生させた組織・集団に留意しつつ、佐竹南家文書と佐竹南家分家早川家文書という2つの文書群（フォンド）として、それぞれに目録編成をおこなうこととした。大方針は以上の通りである。

2. 佐竹南家の歴史

南家は佐竹本家の血筋を受け、苗字「佐竹」の使用許可、初出仕のときに本家当主の名の一字（「義」）を与えられる格式を得ていた。佐竹本家の血筋を受けているのは、佐竹本家の分家（壺岐守家・式部少輔家・左近家）と、「苗字衆」と呼ばれる「一門衆」の上層4家（北家・東家・南家・西家〈小場家〉）、大山氏や戸村氏などの「一門衆」である。

苗字衆のうち北家（角館）・南家（湯沢）・西家（大館）と、上層家臣の茂木氏（十二所）・多賀谷氏（檜山）・戸村氏（横手）・大山氏（院内）は、秋田藩領の要地に「所預<ところあずかり>」として居館を構え、居館周辺には家中が居住した。また、本藩（久保田藩）から派遣された組下給人・足軽も居館周辺に駐屯して、治安維持や藩境の警備などの警察業務一般を担当して、所預の一円支配は封じられた（加藤民夫、2015）。所預は年貢徴収権を保持したが、その権限の強弱は本藩の地方行政制度の変更に影響をうけ、18世紀末には警察・民事事件の裁き・軽犯罪処分は本藩の郡奉行や代官に移り、治安維持に狭められていった（秋田県、1977、pp.147-148）。

3. 文書群の階層構造と内容

本文書群の整理を進めるにあたって、階層構造をもとに編成するように努めた。本目録に収載する文書に基づく組織・機能として、つぎの3つのサブ・フォンドを設定している。114集に一部、修正を加えている。

- ① 家の機能に基づいて作成、授受、保管された文書群
- ② 苗字衆の機能に基づいて作成、授受、保管された文書群
- ③ 所預の機能に基づいて作成、授受、保管された文書群

本目録には①として、大項目1.家、3.家中、②として大項目2.苗字衆、③として大項目4.所預、5.組下・足輕を設定して、大項目の下には機能を重視して中項目・小項目を設定した。それらの内容は次の通りである。なお、114集に掲載した中項目・小項目については、特段の加筆を要しない場合は省略する。

サブ・フォンド(大項目) 1.家 レコード数 743

本項目には、家の機能に基づいて作成、授受、保管された文書群を配置した。

1.1.系図の1.1.4.佐竹本家系図には、佐竹南家の系図、佐竹本家の系図などを収めた。整理番号542-1「(佐竹氏系譜、天喜3年義光より慶長14年生まれ義隆までの生没年・幼名・法名・略歴等)」、整理番号542-2「(佐竹氏歴代当主名前書上、義光より義真まで)」は114集に掲載済であるが、数量に修正すべきところがあるため、再掲した。

1.6.婚姻は1点で、年代不明。佐竹南家の家臣に守られた嫁入り行列記である。

1.9.分家・縁戚の1.9.2.縁戚には、佐竹義安(佐竹南家7代)および佐竹義伯(佐竹南家8代)がそれぞれ赤田氏および森川氏に与えた証書などの控えである。

1.12.通信(藩内)の1.12.1.家老差出には、本藩家老より佐竹南家当主に到来した書状を基本的に収めた。1.12.2.表方・側方など差出には、本藩の政務・財務を担当する表方〈おもてかた〉、藩主の側まわりを扱う側方〈そばかた〉を差出し、主に佐竹南家当主・嫡子宛の書状を配した。鷹・鷹場関係の書状が一定数含まれる点に特徴がある。

1.15.家政には、知行地・財政関係の小項目1.15.1.知行地、1.15.2.拝借・合力米金、家政組織に関わって小項目1.15.3.用座(湯沢)、1.15.4.屋敷番(久保田城下)を立てた。

佐竹南家当主宛の知行目録については114集の1.2.2.知行目録に収載し、知行地については本解題の最後に「表1・表2 佐竹南家知行地一覧」を掲載しているのので、合わせてご覧いただきたい。

1.15.1.知行地の1.15.1.1.検地は村の訴願による打直検地(部分的な検地)である。打直検地は新田開発や起返の進行、川欠や砂埋れなどの災害によって面積や田位や免が錯綜し、実情に合わなくなり、困窮したときに、改めて検地を行うものである(秋田県、1977、pp.241～242)。

1.15.1.2.黒印状は、申請にしたがって藩主が知行地を安堵したものである(鈴木満、2016)。

1.15.1.3.新開は総検地後の新田開発のことである。久保田藩は慶長8年(1603)、慶長19年、正保3年(1646)から3年間、と三度の総検地を実施したが、新開は慶長8年直後から行われた。新開には差

紙開と注進開がある。差紙開は、藩が開墾予定地を指定したもので、本田に支障さえなければ許可され、開発許可証である差紙が交付され、開墾者は開発地を知行地として与えられた（一説に5割給付、湯沢市史編さん会事務局、1965、p.262）。本文書群には新規許可のほか、差紙譲渡に関する文書が含まれている。一方、注進開は、開墾希望者が地域を選定して藩に注進して許可を得る新田開発である。寛文期、新田に辛労免を設定している。新田開発のうち三分の二を蔵入分として召し上げ、三分の一を辛労免として開墾者に給付した。文政年間、藩の開墾奨励により、辛労免の割合は変化し、蔵入分を少なくし、開墾者への恩給を増やしている（湯沢市史編さん会事務局、1965、pp.262-263）。なお、本藩組下・足輕による小規模新開については、大項目 5. 組下・足輕の中項目 5.2. 組下の小項目 5.2.3. 新開・給分を参照されたい。

1.15.1.4. 替地は、悪所・荒地地化による替地渡し、知行割替や代地要求などに応じた替地証文である。差出は久保田藩金蔵、宛名は佐竹南家当主が多くを占める。ここからは替地が進み、広範な地域に知行地が分散していったことがわかる（渡部景一、1988、p.119）。なお、この金蔵渡状についても整理孫番号の秩序を優先したため、次の 1.15.1.5. 年貢・小役銀がより相応しい文書が本小項目に含まれている。利用にあたっては、中項目全体をぜひ見渡していただきたい。

1.15.1.5. 年貢・小役銀には、物成・小役銀の計算書、年貢減免の休高（やすみだか）・捨り高（すたりだか）・毛引高に関する文書を収めた。

1.15.1.6. 領外廻米は、整理番号 254 の一括文書などで、主として秋田湊（土崎湊）の間屋駒野屋平左衛門を通じて、西廻海運を利用して大坂に廻米した手形である。

1.15.1.7. 上米・指上銀は、財政難を補填するために藩が収入の一部を借り上げたもの、藩が凶作対策のための備金を強制的に借り上げたものである。これに関しては、大項目 2. 苗字衆の中項目 2.1. 藩主条目・御書付・被仰渡等の小項目 2.1.4. 借上も参照されたい。

1.15.1.8. 産業奨励は幕末の漆・養蚕を収めた。

1.15.2. 拝借・合力米金は、主として佐竹南家当主名での作成文書の下書・控である。

1.15.3. 用座（湯沢）は、佐竹南家の居館であった通称「淡路屋敷」（内廊町）内の役所である（湯沢市史編さん会事務局、1965、pp.205-206）。佐竹南家の家政は家中の家老2～3人、勘定方、膳番などによって取り行われた。用座の職務は多岐にわたったが（湯沢市教育委員会、1994）、小項目 1.15.3.1. 用状、1.15.3.2. 支払い勘定手形、1.15.3.3. 受払い書はかとした。

1.15.4. 屋敷番（久保田城下）は、久保田詰の佐竹南家の家臣で、本藩との折衝にあたった。屋敷番は、藩の家老や行政機関と湯沢用座を繋ぐ役割を果たしていた。本項目には菊地孫兵衛・赤須小右衛門差出・受取の湯沢用座受取・差出の書状が多い。佐竹南家の久保田城下の屋敷は、久保田城の二の曲輪と三の曲輪の境となる広小路に面した、土手谷地町にあった（下中邦彦、1980、pp.351,356、渡部紘一、2000）。佐竹南家当主は、佐竹西家当主と交代で、3か月ずつ秋田屋敷に居住したという（渡辺喜一編、1993、p.262）。

1.16. 為替・借入金・購入は、為替と京都・江戸での買物覚書である。

1.17. 寺院には、小項目 1.17.1. 菩提寺（清涼寺）と 1.17.2. 菩提寺以外の寺院を設けた。

1.19. 書籍・地図・護符・引札には、新たに2点を収めた。このうち整理番号1170「水産物魚採藻仕法図」は佐竹南家の活動と結びつきが薄いことから、他家文書の混入の可能性がある。

1.20. 経営（近代）には、2点収めた。明治11年（1878）段階での家政規模がわかる。

1.21. 勝雄忠国社・尽忠報国会（近代）は、明治26年（1893）の営業が確認できる雄勝忠国社（社長佐竹義隣）がすでに明治32年に閉鎖していたことを示している。

1.22. 通信（近代）は、小項目1.22.1. 佐竹義隣差出、1.22.2. 早川家差出を立てている。宛名となっている「下中城（したなかじょう）」は久保田城の三の丸・二の曲輪城郭内である（下中邦彦、1980、pp.352-353・365）。いずれも、南家後見中の早川睦友宛とも考えられるが、確証がないため、ここに配した。

サブ・フォンド（大項目）2. 苗字衆 レコード数 396

本項目には苗字衆の機能に基づいて作成、授受、保管された文書群を配置した。苗字衆については、秋田県公文書館所蔵古文書目録『佐竹北家文書・佐竹西家文書目録（秋田藩関係文書Ⅲ）』を参照し、共通する傾向を確認して項目を立てた。

2.1. 藩主条目・御書付・被仰渡等には、苗字衆に出された藩主の施策・意向を示す条目・御書付・被仰渡などを配した。本目録で新たに立てた小項目は2.1.1. 藩主婚姻・代替・法事ほか、2.1.2. 系図・文書、2.1.3. 儉約・風儀、2.1.4. 借上である。

2.9. 幕府・維新政府触書は、本藩を通じて、周知を命じられたものである。

2.10. 藩主・嫡子応接（湯沢立寄）は、久保田藩主・嫡子が参勤交代の折に湯沢で昼食休みする際の佐竹南家当主・家族、組下の応接に関わる文書である。1.12. 通信（藩内）に配するべき文書もあるが、内容を優先して本項目に置いている。

2.11. 佐竹南家格式は、佐竹南家と佐竹西家（小場家）の座順、佐竹南家嫡子の元服時の家中召見（佐竹北家・東家同様）などに関わる。座順は、元禄15年（1702）正月2日の久保田城内の謡始めの式で西家当主佐竹義方より疑義があったことに発したようである。これに南家当主佐竹義安は、翌元禄16年、江戸藩邸での佐竹義格家督儀式時に出席しておりながら、儀式を欠席している。このとき、義安は処罰されていないが、その後も佐竹南家と佐竹西家は座順をめぐり、対立している（渡辺喜一編、1993、pp.199・269・274）。

2.12. 佐竹本家分家・一門では、2.12.1. 佐竹壱岐守家、2.12.2. 佐竹左近家を小項目として立てた。壱岐守家の始祖は、久保田藩2代藩主佐竹義隆の三男義長（生没年1655-1740）で、元禄14年に新田2万石で立藩した。明治2年（1869）に岩崎藩と改称する。左近家の始祖は、久保田藩7代藩主佐竹義明の次男（生没年1754-1809）で、6,000石を領した。整理番号20「（湯沢・大館両家の座席前後の事、今度御家督御礼の節各公方様へ御目見の書付差し出す旨、次席は以後の例には立たない旨の証文）」は前記の元禄15・16年の西家・南家の座順争いに対して、3代藩主佐竹義処の死去後、すぐに佐竹壱岐守義長が混乱を長引かせないように発した証文である。

2.12.3. 佐竹北家、2.12.4. 佐竹東家、2.12.5. 佐竹西家は、苗字衆の間で交わされた書状などである。2.12.3. 佐竹北家には、享和3年（1803）に決着をみる「廻座諸士同席一件」（清水翔太郎、2020、整理

番号 618-1・2) に関する文書が含まれている。2.12.4. 佐竹東家は、苗字衆のなかで唯一、久保田城下に常駐し、藩主の諮問に応えることがあった。ただし、文化2年(1805)、佐竹義府は9代藩主佐竹義和に重用されながらも、川狩の折に痛飲して、同行者を殺傷したため、縁戚の多賀谷下総和経に永預となっている(清水翔太郎、2020、整理番号 131)。このほか、先述の「廻座諸士同席一件」、文化3年の「殿付一件」(廻座くまわりざ 久保田藩の譜代家臣で上級藩士の家格の一つ。三番座)の家臣(陪臣)の藩士への対応に端を発する事件)、鷹関係の文書が複数ある。2.12.5. 佐竹西家は、主として家格に関係する文書である。2.12.6. 石塚市正・今宮大学一件は、明和元年(1764)11月に終結した事件である。江戸詰家老であった石塚市正義陳と今宮大学義栄を勤め方宜しからずとして、国元に帰国ののち生涯蟄居と知行高三分の一の召上を命じた一件である。このとき、北家当主の佐竹義邦と東家次男の佐竹義路は江戸におり、東家当主佐竹義智と南家当主佐竹兵馬義以と西家当主佐竹大和義村は久保田におり、書状を用いて協議している(鎌田奈菜子、2023)。これに関わるものを本小項目にまとめている。ただし、確信がもてないものは、ほかの小項目に配しているの、中項目全体をやはり参照していただきたい。苗字衆の藩政参与は、上の石塚市正・今宮大学一件において析出されているが、2.12.7. 藩政参与に財政諮問に対する意見書などを置いた。

サブ・フォンド (大項目) 3. 家中 レコード数 66

本項目には佐竹南家の家中に関する文書を収めた。佐竹南家の家中は宝永5年(1708)段階で83名、明治元年(1868)段階で84名であった(秋田県公文書館、2000)。家中は御付人と家人に階層が分かれる。御付人は弘化元年(1844)段階で、荒巻十蔵、中村治大夫、疋田六左衛門、大和武右衛門、山方市之進、野尻新右衛門、田中正大夫、赤須小右衛門の8名である(三浦賢童編、2005)。

3.1. 系図・文書の多くは青印状である。青印状とは、元禄9年(1696)の文書提出命令に応じて、藩士・陪臣より提出された文書を藩で検討したのちに、元禄11年(1698)から宝永7年(1710)にかけて、藩の文書所(のち、記録所と改称)より発給された「秋田史館」の印文のある証書である。青印状は相伝文書の正統性を認めたものである。ついで、明和3年(1766)に藩より文書提出命令が出され、寛政年間に記録所より青印状が発給された。また文化2年(1805)と文政8年(1825)に藩より文書提出命令があり、文政年間に青印状が発給された模様である(伊藤勝美、1997)。ただし、本文書群には文政年間の青印状はなく、添状のみ伝来している。

3.2. 支配・身分には、家中宛の通知を配置した。藩政上、重要な 2.1. 藩主条目・御書付・被仰渡等や執達・別紙とは次元が異なり、対象を限定した通達である(金森正也、2017)。

3.3. 荒巻十蔵妻訴願一件は、安政5年(1858)に御付人荒巻十蔵の妻が、久保田城目安箱に訴状を提出し、それに対する議論である。

3.4. 拝借金、家中の辛労免借用などである。

3.5. 上申は、家中困窮による佐竹南家よりの願書である。

サブ・ファンド(大項目) 4. 所預 レコード数 154

本項目には所預の機能に基づいて作成、授受、保管された文書群を配置した。

4.1. 湯沢米蔵は、湯沢にあるが秋田藩の米蔵で、湯沢給人(組下)が米蔵支配を行っているものである。湯沢近くにある蔵入地の年貢米(藩に納入すべき米)は湯沢米蔵に納められるようである。また、佐竹南家や組下・足輕に藩から下される米(扶持米、役料など)も湯沢米蔵から振り出された。

4.2. 郷学・学館には、郷学・学館に関する藩主条目(整理番号 363)、条目を奉じた藩家老の執達(整理番号 362-2)、条目の具体的な内容を記した別紙(整理番号 362-1)、佐竹南家から組下への通達(整理番号 781)などを収めた(条目・執達・別紙、通達については金森正也、2017)。

4.3. 湯沢町は、目安・出火など治安に関わるものである。

4.4. 郡代・代官支配は、毛見や処罰など郡代・代官権限に関わるものである。雄勝郡は代官制、郡奉行制を繰り返したが、寛政7年(1795)郡奉行が再置され、郡内の民治を統括した。結果、佐竹南家の所預としての権限は狭められた。この藩の方針に南家当主佐竹義良・嫡子義珍は抵抗したという(湯沢市史編さん会事務局、1965、pp.220-222)。

4.5. 伝馬・通行手形、および 4.6. 往来の小項目 4.6.1. 国目付、4.6.2. 隣国ほかは、道中往来に関わるものである。国目付は、幕府より藩主幼少の場合などに、大名家領内に派遣し、監督させるものである。久保田藩には4回(元禄・宝暦・文政・嘉永)派遣されている(秋田県公文書館、1996)。

4.7. 入会山は、1点である。水野目林は水源滋養林であり、寛政期に保護・育成の目的が生産から水源滋養に変更されたことを示している(芳賀和樹、2017)。

4.8. 軍役(幕末・維新)には、小項目 4.8.1. 海岸警備、4.8.2. 京都警衛、4.8.3. 戊辰戦争を設けた。安政2年(1855)12月の幕府による松前守備命令に対して、久保田藩は総勢90人(うち湯沢組は35人)は安政3年3月14日に発足し、12月晦日に湯沢帰着。宗谷警備(湯沢給人石井兵右衛門以下53人)は安政4年3月7日に発足し、9月9日に湯沢帰着である(湯沢市史編さん会事務局、1965、PP.359-363)。京都警衛は、文久3年(1863)6月の幕府よりの警衛命令、7月の朝廷よりの上京依頼に応じるものである。8月久保田藩主佐竹義堯は藩士に訓示し、多くの武器と兵を率いて上京を目指す、幕府は天狗党の乱と江戸の治安維持を理由に義堯の上京を許さなかった(渡辺英夫、2019、pp.185-186)。戊辰戦争では、慶応4年(1868)2月に久保田藩は維新政府により会津・庄内への出兵を命じられる。湯沢からは100人が出立した。8月1日南家当主佐竹義隣は数え年12であったため、義隣の陣代は早川輔四郎と早川左五郎が務めた(湯沢城資料編纂委員会、1986、p.166)。義隣は秋田城、横手、大曲へと避難した(湯沢市史編さん会事務局、1965、pp.376-378・381)。

サブ・ファンド(大項目) 5. 組下・足輕 レコード数 224

本項目には、組下・足輕の機能に基づいて作成、授受、保管された文書群を配置した。組下・足輕は藩から配属された直臣130名ほど(うち足輕55名)で、藩境の警備や地域の治安維持など、軍事警察業務全般を担当した(渡辺英夫、2019、p.23)。

5.1. 系図・文書は、元禄9年(1696)の藩による文書提出命令に応じて、藩士より提出された文書を

検討したのちの通達である。重要なものを秘蔵するように命じている。

5.2. 組下には、小項目 5.2.1. 支配・身分、5.2.2. 触書、5.2.3. 新開・給分、5.2.4. 貸付金・合力銀、5.2.5. 備金・差上銀錢、5.2.6. 湯沢屋敷、5.2.7. 境口番を設けた。5.2.3. 新開・給分にはさらに項目 5.2.3.1. 土地所持、5.2.3.2. 根本家新開を設けた。

5.3. 足輕には小項目 5.3.1. 支配・身分、5.3.2. 蔵出支給ほか、5.3.3. 貸付・合力銀錢を設けた。

【検索手段】

国文学研究資料館学術資料事業部『史料目録』114 集、『史料目録』第 119 集（本目録）

【複製の存在】

マイクロフィルムによる複製物がある。フィルム撮影は秋田県公文書館によっておこなわれたもので、秋田県公文書館・国文学研究資料館の閲覧室で利用できる。ただし、若干ではあるが撮影されていない史料がある。本目録で新たに枝番号を付した番号通りに撮影されていない場合があるので、利用にあたっては注意いただきたい。

【参考文献】

秋田県、1977、『秋田県史』2

秋田県公文書館、1996、『秋田を訪れた国目付』（公文書館館蔵資料紹介展）

秋田県公文書館、2000、『秋田藩の家臣団』（秋田県公文書館企画展）

伊藤勝美、1997、「秋田藩家蔵文書」の成立の過程『秋田県公文書館研究紀要』3

加藤民夫、2015、「佐竹北家の分領統治」渡辺英夫編『秋田の近世近代』高志書院

金森正也、2017、「政策はどのようにして決定されたか」『「秋田藩」研究ノート』無明舎出版

鎌田奈菜子、2023、「秋田藩主下達・一門共有文書の史料空間に関する考察」

2023 年度アーカイブズ・カレッジ長期コース修了論文

清水翔太郎、2020、「一九世紀初頭の秋田佐竹家における大名・家臣関係」『秋大史学』66

下中邦彦、1980、『日本歴史地名大系 5 秋田県の地名』平凡社

鈴木満、2016、「秋田藩発給文書二題」『秋田県公文書館研究紀要』22

芳賀和樹、2017、「秋田藩における御札山の管理・利用」『徳川林政史研究所研究紀要』51

三浦賢童編、2005、『秋田武鑑』無明舎出版

湯沢市教育委員会、1994、『佐竹南家と御日記』

湯沢市史編さん会事務局、1965、『湯沢市史』

湯沢城資料編纂委員会、1986、『湯沢城』

渡辺喜一編、1993、『新編佐竹七家系図』加賀谷書店

渡部景一、1988、『佐竹氏秋田藩の台所』無明舎出版

渡部紘一、2000、「幕藩制後期秋田藩における一上級武士の動静」『秋田県公文書館研究紀要』6

渡辺英夫、2019、『シリーズ藩物語 秋田藩』現代書館

表 1 佐竹南家知行地一覧 (8900 石 六ツ成 正徳 2 年)

郡名	町村名	知行高			
		内 (本田)	(石)	開	(石)
雄勝郡	桑崎村之内		983.156		519.137
〃	松岡村之内	〃	865.831	〃	320.542
〃	大戸野中村之内	〃	580.755	〃	527.453
〃	鮎川村之内	〃	496.639	〃	706.288
〃	高松村之内	〃	477.908	〃	340.769
〃	床舞村之内	〃	443.207	〃	122.171
〃	杉宮村之内	〃	280.677	〃	212.289
〃	川井村之内	〃	266.627	〃	110.056
〃	役内村之内	〃	255.497	〃	216.919
〃	泉沢村之内	〃	104.507	〃	189.404
〃	鹿内村之内	〃	91.980	〃	62.899
〃	石塚村之内	〃	85.543	〃	65.054
〃	宇留院内村之内	〃	78.143	〃	75.269
〃	上関村之内	〃	0.168		
〃	横堀寺沢村之内	〃	1.237		
〃	川連村之内	〃	0.592		
〃	山田村之内	〃	0.100		
〃	深堀村之内	〃	0.108		
〃	湯沢町之内			開	185.329
〃	中村之内			〃	109.458
〃	杉沢村之内			〃	26.876
〃	角間村之内			〃	18.485
〃	八幡村之内			〃	18.757
〃	赤袴村之内			〃	3.724
〃	蔵内村之内			〃	3.292
〃	小野村之内			〃	1.000
〃	関口村之内			〃	0.072
〃	猿半内村之内			〃	16.000
〃	新金屋村之内			〃	20.000
平鹿郡	谷地村之内			〃	0.036
〃	今泉村之内			〃	4.000
〃	石塚村之内	内 (本田)	0.701	〃	0.725
仙北郡	横沢村之内			〃	5.000
〃	小貫高畑村之内			〃	5.800

表 2 佐竹南家知行地一覧 (5718 石 9 斗 6 升 7 合 六ツ成 天保 7 年)

郡名	町村名	村高	知行高				村高における 知行高の割合
		(石)	内 (本田)	(石)	開	(石)	
雄勝郡	桑崎村	1115.988		389.380		322.665	63.8%
〃	松岡村	1185.906	〃	586.145		107.959	58.5%
〃	大戸野中村	1496.806	〃	346.165	〃	206.233	36.9%
〃	相川村	1145.787	〃	182.991	〃	303.402	42.5%
〃	高松村	782.100	〃	477.448	〃	269.927	95.6%
〃	床舞村	564.691	〃	234.304	〃	7.323	42.8%
〃	杉宮村	787.252	〃	131.345	〃	33.527	20.9%
〃	川井村	339.150	〃	265.752	〃	101.335	108.2%
〃	役内村	447.257	〃	254.157	〃	202.167	102%
〃	泉沢村	273.618	〃	63.052	〃	18.757	29.9%

郡名	町村名	村高	知行高				村高における 知行高の割合
〃	鹿内村	150.344	〃	103.888	〃	15.427	79.4%
〃	石塚村	143.425	〃	56.987	〃	11.646	47.9%
〃	宇留院内村	141.464	〃	78.143	〃	59.256	97.1%
〃	成沢村	222.832	〃	0.111			0.05%
〃	湯沢町	2575.998	〃	0.029	開	31.818	1.2%
〃	中村	1097.953	〃	10.030	〃	114.606	11.4%
〃	杉沢村	306.520	〃	5.397	〃	28.684	11.1%
〃	赤袴村	567.002	〃	91.498			16.1%
〃	稲庭村	1117.025	〃	6.000			0.5%
〃	三梨村	2060.686	〃	30.000			1.5%
〃	戸波村	137.262	〃	10.000			7.3%
〃	荻袋村	328.604	〃	10.000			3.0%
〃	山田村	2562.146	〃	10.000			0.4%
〃	椿台村	94.377	〃	15.000			15.9%
〃	下関村	601.759	〃	5.000			0.8%
〃	関口村	1005.863	〃	15.000	開	8.528	2.3%
〃	森村	679.011	〃	2.904	〃	4.345	1.1%
〃	二井田村	699.661	〃	5.000	〃	0.759	0.8%
〃	角間村	684.432			〃	3.156	0.5%
〃	倉内村	592.459			〃	2.328	0.4%
〃	八幡村	777.734			〃	6.370	0.8%
〃	杉沢新所村	239.300			〃	0.588	0.2%
〃	金屋新田村	251.236			〃	15.548	6.2%
〃	岩崎村	1018.118			〃	9.515	0.9%
平鹿郡	新関村	210.116	内(本田)	10.000			4.8%
〃	増田村	1464.023	〃	25.000			1.7%
〃	新古内村	306.563	〃	63.425			20.7%
〃	八木村	257.244	〃	7.000			2.7%
〃	浅舞村	2997.892	〃	15.000			0.5%
〃	越前村	592.216	〃	25.000			4.2%
〃	深井村	415.315	〃	25.000			6%
〃	道地村	330.830	〃	10.000			3%
〃	上鍋倉村	729.833	〃	20.000			2.7%
〃	阿気村	1975.160	〃	75.000			3.8%
〃	与作村	470.500	〃	10.000			2.1%
〃	横手前郷村	649.598	〃	20.000			3.1%
〃	植田村	1473.869	〃	4.096			0.3%
〃	今泉村	1346.832	〃	5.000			0.4%
〃	石成村	775.158	〃	15.958			2.1%
〃	醍醐村	876.269	〃	51.042			5.8%
〃	下樋口村	694.796	〃	35.000			5%
仙北郡	横沢村	473.112	〃	0.013	開	0.302	0.07%
河辺郡	椿川村	576.399	〃	15.000			2.6%
〃	諸井村	407.389	〃	5.000			1.2%
〃	岩見村	722.423			開	6.702	0.9%
〃	三内村	807.786			〃	3.834	0.5%

註1 表1・表2ともに、後藤富貴「史料紹介 国文学研究資料館史料館所蔵「佐竹南家文書」について」(『秋田県公文書館研究紀要』8、2002年)より転載・加工した。

註2 表1・表2ともに、数字の表記は、「」までが石、その下がそれぞれ、「斗」「升」「合」である。

註3 表2の項目「村高における知行高の割合」の村高は天保5年を基準としている。

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

1. 家

1.1. 系図

1.1.4. 佐竹本家系図

(佐竹氏系譜、天喜3年義光より慶長14年生まれ義隆までの生没年・幼名・法名・略歴など)○		横切継紙・1通	542-1
(佐竹氏歴代当主名前書上、義光より義真まで)○		横切継紙・1通	542-2

1.5. 元服・出仕・家督・致仕(口上書・覚)

1.5.7. 佐竹義舒(10代)

口達覚(其許幼年に付是迄小野岡市太夫(義亮)に看抱を仰せ付けられていたが、市太夫御家老御役仰せられるに付、石塚孫大夫・宇都宮四郎を看抱代とする旨)	(宝暦4年)正月24日	横折紙・1通	1088
---------------------------------------------------------------------------	-------------	--------	------

1.5.14. 佐竹義隣(16代)

口上(末期養子の願書書式) * (雛型)	(明治元年)	縦紙・1通	43
----------------------	--------	-------	----

1.6. 婚姻

(輿入れの行列書)		横切継紙・1通	69
-----------	--	---------	----

1.9. 分家・縁戚

1.9.2. 縁戚

(先祖外戚の由緒あるにより佐竹義安の一字を遣わす旨の申渡状) 佐淡路義安御判→赤田元立老(安友)	元禄14年6月15日	横切紙・1通	188
(佐竹義安による偏諱賜与状) 佐(竹)淡路義安御判→赤田雲瑞老(安遷)	元禄15年4月29日	折紙・1通	1056
(先祖外戚の由緒があるにより証書を授与する旨) * (包紙上書)「御先代ニ根岸惣内を以森川権太郎願申上被下候節被仰渡被差置候付元文五年申六月廿日右証書被下候下書」南(佐竹)淡路義伯(花押)→森川権太郎殿	元文5年申6月何日	縦紙・1通	907

1.11. 通信(家内)

1.11.1. 南家当主差出

(書状、源通院<8代藩主佐竹義敦>様御病御養生かなわず去る10日御逝去遊ばされ言語に絶し奉る旨) * (包紙上書)「疋田斎様 佐竹左衛門 御直ニ御礼被仰遣候故止」佐竹左衛門義良(花押)→疋田斎様	(天明5年)7月朔日	折紙・1通	130
(書状、此度御用として酒出金太夫所へ遣わされるに付、小柳と申し唱える御刀一腰白鞘にて御家老共に相渡す旨) * 下書 名所→御名所		横切継紙・1通	1245

1. 家/1.11. 通信(家内)/1.11.1. 南家当主差出

覚(吉日の義御尋ねもあれば2月11日・19日御障りこれ無き節仰せ付けられる様に御執成し頼入り存ずるに付) 佐竹兵馬(義以)→	2月	折紙・1通	1130
----------------------------------------------------------------	----	-------	------

1.11.7. 貞淳院受取

(書状、左近様(佐竹義方)去月10日御逝去に付御機嫌御伺として御文の趣申し上げる所、宜しく申達すようにと仰せ出だされるに付) ひき田斎→佐竹左衛門(義良)殿 御老母とのへ 御返事	(文化6年)3月16日	折紙/(1100-1~3は紙縫・巻込一括)・1通	1100-2
-------------------------------------------------------------------------------------------	-------------	--------------------------	--------

1.11.8. 裏方受取

(書状、むすこいよいよ御ふちをも下さるべきよしにて三郎殿誠に有り難き旨、女筆の書状) 山田は、→佐竹内御春		縦紙・1通	1115・1066
-------------------------------------------------------	--	-------	-----------

1.11.11. 分家早川家差出

覚(御番頭伊兵衛は貧病にて御免、ほか渋江左膳・松野弥五郎も御役御免、彼らをいもの子・かつこ鳥と噂する旨)		横切継紙・1通	1220-1
(書状、山城殿(佐竹東家)御所存は一通り御受けにて後々御訴訟成られる御趣意は道理に存ずる旨、並びに亀田大しよう寺船路も通路滞りなく相成るなどに付) 早川喜太郎直行(花押)→(佐竹)左衛門(義良)様参人々御中	5月14日	横切継紙・1通	1220-2
覚(御財用御指支に付御帰国御礼御使者は省略の旨仰渡書) * (端裏書)「寛政八辰十一月被仰渡候御親類中御催足(早川)喜太郎(和貴)様御書取写済」	(寛政8年)11月	横切継紙・1通	198

1.11.12. 酒出金太夫差出

(書状、御願い2000貫拝借の件、おもよ引越につき銀拝借の件、ほか) * (端裏書)「於湯沢御家老衆中要用 山手」(酒出)金太夫→於湯沢御家老衆中	12月27日	横切継紙/(985-1~14は紙縫一括)・1通	985-10
---------------------------------------------------------------------------	--------	-------------------------	--------

1.12. 通信(藩内)

1.12.1. 家老差出

(佐竹三郎殿御用にて鵜10を神宮寺村にて相違なく取らせる旨の達書) * (包紙上書)「戸村十大夫殿御指紙」/(包紙裏書)「百姓へ被仰渡候御さし紙ニ而佐竹三郎殿と有之候後ため交シ置」 戸村拾大夫(印)(義国)→神宮寺村肝煎	(寛文4年)5月18日	堅切紙・1通	149
覚(神宮寺村内にて佐竹淡路が鵜7を取ることを許可する差紙) (渋江)内膳(処光)(印)→佐竹淡路(義安)	宝永3年7月2日	横切紙・1通	427-1
覚(神宮寺村内にて佐竹淡路が鵜20を取ることを許可する差紙) (渋江)内膳(処光)(印)→佐竹淡路(義安)	宝永4年4月9日	横切紙・1通	427-2
(書状、当春罷り登った際に貴公様より岡本又太郎殿宛の御状と、をのへ・まつへより稲葉下野守(正能・旗本)殿奥様宛書状を佐貫藤兵衛方家来へ渡すも、詔物を役人へ渡すのを失念した旨の詫書ほか) 渋江宇右衛門處光(花押)→(佐竹)淡路(義安)様 参人々御中	(宝永7年)9月24日	横切継紙・1通	553

(書状、清源寺後住の引き移りに付) 渋江内膳處光(花押) →(佐竹)三(郎カ)様	2月29日カ	折紙/(虫損)・1通	785-1
(書状、上意により名を相改めるに付) 渋江内膳處光(花押) →(佐竹)三郎様	7月19日	折紙・1通	785-2
(書状、拙者久保田より爰許に着、明晩貴宅において御料理を指上の際に参上する旨) 梅津左衛門忠経カ(花押) →佐(竹)淡路殿 貴報	4月29日	折紙・1通	787
(書状、年始の賀状) 梅津藤十郎忠経カ(花押)→佐(竹)淡路殿様 参人々御中	正月13日	折紙・1通	788
覚(岡見形右衛門が理右衛門を斬り殺した事件に付罪科申し渡しなど書上) 梅津半右衛門(印)→佐竹淡路様	8月晦日	横切継紙・1通	1021
(書状、孫大夫殿御下りの際にその許へ御立ち寄りにて御物語のことは少々相違の事もある旨、(佐竹東家)源六郎殿御儀式はかけの間ゆえ老中は披露もうさざる旨、古十太夫などが御手伝を申されている件に付) 岡本又太郎元朝(花押)→佐竹淡路(義安)様人々御中	10月23日	折紙/(786-1~2は一括)・1通	786-1
(書状、義尚より始まるなら御二男、義郷(義里)は今宮家などの弟ゆえその御末となる旨など南家系図紛糾に付) 岡本又太郎元朝(花押)→佐竹淡路(義安)様人々貴報	12月3日	折紙・1通	786-2
(書状、着城に際し送った使者を御前へ召し出され、有難き旨を仰せになったことに対し、南家から送った礼状の紙面の内容を披露した旨) 小野崎権大夫通貞(花押) →佐竹淡路殿	5月27日	折紙・1通	784-1
(書状、殿様が去月21日に御宅へ御一宿遊ばされ、万端御懇ろの饗応を有難く思召されている旨、並びに27日に着城の旨) 小野崎権大夫通貞(花押)→佐(竹)三郎様 貴報	6月7日	折紙・1通	784-2
(書状、12月2日に松平美濃守(柳沢吉保)邸へ將軍(徳川綱吉)御成にて、殿様(佐竹義峯)も御勝手へ御詰めのところ、懇ろの上意にて講釈拝聴・御能拝見・緞子20巻拝領に付、江戸へ御悦びの旨を仰せ上げられるようにとの旨の知らせ) 小野崎権大夫通貞(花押)→佐竹淡路(義安)殿	12月16日(綱吉政権期)	折紙・1通	784-3
(書状、小室豊前守義堅を藩主佐竹義峯の御養子になさる儀に付、今宮大学江戸へ指し登り上々様へ相談してより御承知までの経緯など) *(包紙上書)「豊後守様御養子之節之御来書」 小瀬縫殿助伊信(花押)・大越甚右衛門貞国(花押)・多賀谷左兵衛峯経(花押)・今宮大学義透(花押) →佐竹淡路(義伯)殿	(享保17年)4月22日	横切継紙・1通	67
(書状、山方清兵衛罷り下り、若殿様より貴殿への御口上書を届ける故、拝見なさるべき旨) *(包紙上書)「佐竹淡路殿 宇都宮帯刀・多賀谷左兵衛・小瀬縫殿助」 小瀬縫殿助伊信(花押)・多賀谷左兵衛峯経(花押)・宇都宮帯刀典綱(花押)→佐竹淡路(義伯)殿	(享保17年)閏5月7日	折紙・1通	289
(書状、屋形様(5代藩主佐竹義峯)御男子御座無きに付相馬因幡守殿を御養子に遊ばされる件の御相談相極る旨) *(包紙上書)「因幡守様御養子之節御内々為御知 佐竹淡路殿 宇都宮帯刀・多賀谷左兵衛・大越甚右衛門・小瀬縫殿助自筆」 小瀬縫殿助伊信(花押)・大越甚右衛門貞国(花押)・多賀谷左兵衛峯経(花押)・宇都宮帯刀典綱(花押)→佐竹淡路殿	(寛延1年以前)8月12日	横切紙・1通	983-1

1. 家/1.12. 通信(藩内)/1.12.1. 家老差出

(書状、御城附の儀に付申し召しを仰せ渡されるに付、別紙書付壹通を指し越す旨) * (包紙上書)「佐竹淡路殿 宇都宮帯刀・今宮大学・多賀谷左兵衛・大越甚右衛門・向石近」向石近政美(花押)・大越甚右衛門貞国(花押)・多賀谷左兵衛峯経(花押)・今宮大学義透(花押)・宇都宮帯刀典綱(花押)→佐竹淡路殿	3月5日	折紙・1通	983-2
(差紙、御用あるに付登城すべき旨) 須田美濃→小野岡源右衛門殿	8月11日	横切紙・1通	1062
(書状、愚妻方へ見事の梨子下され過分至極の旨) * (端裏書)「兵馬様貴酬 又太郎」(岡本)又太郎(元貴)→(佐竹)兵馬(義以)様	10月14日	横切紙・1通	290-1
(書状、明夕御障りこれ無くば御出で下されたき旨) * (端裏書)「兵馬様机下 又太郎」(岡本)又太郎(元貴)→(佐竹)兵馬(義以)様	9月22日	横切紙・1通	290-2
(書状、昨夕は寛々貴慮を得て大慶の旨、亀抹の御取扱いを詫ぐる旨) * (端裏書)「兵馬様貴酬 又太郎」(岡本)又太郎(元貴)→(佐竹)兵馬(義以)様	9月24日	横切紙・1通	290-3
(書状、少々御物語仕りたき義あるに付御出で下されたき旨) * (端裏書)「兵馬様机下 又太郎」(岡本)又太郎(元貴)→(佐竹)兵馬(義以)様	9月10日	横切継紙・1通	290-4
(書状、御財用御用にて北・東兩人へ相談、丈部にて江戸へ言上の筈に決した旨) (岡本)又太郎元貴(花押)→(佐竹)兵馬(義以)様机下	8月24日	横切継紙・1通	290-5
(書状、銅山を始め江戸御遣金差し支えるに付評議に及ぶ旨、上も思召し改めずしては不測の難事出来は必定の旨など) (岡本)又太郎元貴(花押)→(佐竹)兵馬(義以)様机下	8月21日	横切継紙・1通	290-6
(袋、「向庄九良殿より御贈答之次第相記 同右庄九郎殿より参候口達書茂入 淡路義以公之時も」)	明和2年酉8月 ~9月	袋/(566-2~3は袋入)・1点	566-1
向庄九郎殿より御贈答之次第書ス控(庄九郎方より之分文・此方より右挨拶文の控)	明和2年	半・1冊	566-2
口上之覚(各様御同列が拙者共に御対応にて「御自分」と仰せられた儀は是までなきに付心得難く存じ、お尋ねした件に付) * (包紙上書)「口上之覚 向庄九郎」向庄九郎→佐竹淡路(義以)殿	酉8月3日	折紙・1通	566-3
(書状、親茂助永々御座御免成し置かれ、此度私儀も御座御免仰せ渡された旨) * (包紙上書)「佐竹淡路様 平元典膳 私茂助兩人共ニ永々御座御免之為御知之書状也」平元典膳正道(花押)→佐竹淡路(義以)様参人々御中	12月8日	折紙・1通	279
(書状、当朔日・2日両度御直書成し下され、御拝領物など仰せ付けられ有難く思召す由の御札の御紙面が御聴に達した旨) 平元茂助正直(花押)→佐竹淡路(義以)殿	12月8日	折紙・1通	1120
(書状、屋形様(9代藩主佐竹義和)御家督御札の御名代として壱岐守(義祇)様御登城の旨を飛脚にて申し来るに付、御歎びとして当15日御登城すべき旨) 正田斎(定綱)→佐竹左衛門(義良)殿	(天明5年)9月11日	横切継紙・1通	762-1
(書状、岡本東郭に対し、御家老勤中の本席をもって同職共加談を仰せ付けられるに付知らせ) 正田斎(定綱)→佐竹左衛門(義良)殿	9月7日	横切継紙・1通	762-2

(書状、源通院様(8代藩主佐竹義敦)百ヶ日に付天徳寺において法事執行の旨) 匹田斎(定綱)→佐竹左衛門(義良)殿	(天明5年)9月12日	横切継紙・1通	762-3
(来月2日に登城し、独礼にて御入部の御歓びを申し上げるべき旨の達書) 岡本但馬(元亮)→佐竹三郎殿	5月26日	横切継紙・1通	765
(書状、御葬礼法事執行の際拝礼を仰せ付けられるに付、天徳寺へ御詰なさるべき旨) 岡本刑部(元亮)→佐竹左衛門(義良)殿	(天明5年)7月19日	横切継紙・1通	766-1
(書状、明28日より29日に源通院様(8代藩主佐竹義敦)五十ヶ日御法事を天徳寺にて執行の旨) 岡本刑部(元亮)→佐竹左衛門(義良)殿	(天明5年)7月27日	横切紙・1通	766-2
(書状、佐竹石見(義種・佐竹西家)病氣にて当月21日隠居願申し立て、長菊(義幹)へ家督仰せ付けられるに付、御城守護泊附の指揮の件) 宇都宮小膳孫綱(花押)・大越十郎兵衛範國(花押)・疋田斎定常(花押)・岡本但馬元亮(花押)→佐竹左衛門(義良)殿	(寛政11年)6月24日	横切継紙・1通	66-1
入記(御直書1封、御用状1符)	(寛政11年)未6月24日	横切紙・1通	66-2
(書状、佐竹石見義種は家督以来家政不穩、組下指揮も如何の次第にて国家の指し障り少なからざるに付、病名をもって閑居の願いを申し立たせる旨)	(寛政11年)6月	横切継紙・1通	66-3
(書状、屋形様今日西馬音内村へ御止宿遊ばされ、御機嫌御伺いとして御文の趣申し上げる処、宜しく申達すようにとの御事に付) 疋田斎→佐竹左衛門殿 御老母	8月8日	折紙/(1100-1～3は紙縫・巻込一括)・1通	1100-1
(書状、屋形様(9代藩主佐竹義和)当9日其許へ入らせられ、其の節拝領物仰せ付けられし御礼として御紙面の趣、上聞に達すに付) 疋田斎定綱(花押)→佐竹三郎(義珍)殿	(文化6年)5月13日	折紙・1通	1100-3
(包紙) * (包紙上書)「佐竹衛門殿 石塚源一郎(義貞)・匹田斎(定綱)・小鷹右近(政尹)自筆」		包紙/(353-1～4は包紙一括)・1点	353-1
(包紙) * (包紙上書)「文政十亥十二月御寒中御自筆にて御難渋筋被仰知之御書 右御別紙御直筆二而被差遣候」	(文政12年)	包紙・1点	353-2
(書状、元来御分限不相応大勢の家中御扶助により勝手向難渋、更に吉凶不時の物入40万両に及び、江戸大坂表の借財も嵩むゆえ、格外の儉約等を仰せ出される旨) →石塚源一郎殿・疋田斎・小鷹右近殿		横切継紙・1通	353-3
(書状、元来御分限不相応大勢の家中御扶助により勝手向難渋、更に吉凶不時の物入40万両に及び、江戸大坂表の借財も嵩むゆえ、格外の儉約等を仰せ出される旨) * 353-3と同文 小鷹右近政典(花押)・疋田斎厚綱(花押)・石塚源一郎義貞(花押)→佐竹左衛門(義珍)殿	12月14日	横切継紙・1通	353-4
(書状、御用の儀あり明5日5ツ半時御登城成さるべき旨) * (包紙上書)「佐竹左衛門殿 渋江内膳」 渋江内膳→佐竹左衛門殿	5月4日	横切紙・1通	287

1.12.2. 表方・側方など差出

(包紙) * (包紙上書)「御南家御西家御席之義ニ付大和作左衛門呈書 二枚」	包紙・1点	85-1
----------------------------------------	-------	------

1. 家/1.12. 通信(藩内)/1.12.2. 表方・側方など差出

(書状、御法事に付、光聚院様〈2代藩主佐竹義隆室〉・御老中へ申し上げる段の旨) 大和作右衛門清景(花押)→(佐竹)淡路(義敏)様	4月6日	横切継紙/(85-2・3は包紙一括)・1通	85-2
(書状、鑑照院様〈2代藩主佐竹義隆〉御法事の時分の目録と同様に此度宝明院様御法事の御座着を申し付ける旨の光聚院様御意に付) 大和作右衛門清景(花押)→(佐竹)淡路(義敏)様	10月18日	横切継紙・1通	85-3
(書状、御前様御眼病の段、馬嶋瑞伯御呼びになられ御療治遊ばされ然るべきに付) 佐竹三郎義安(花押)→御膳番者	10月14日	横長半/(紙縫共)・1冊	1064
(包紙) *(包紙上書)「佐竹左衛門殿 深谷宇兵衛」		包紙・1点	1247-1
(書状、天真院様御逝去に付御悔御機嫌伺の紙面を披露のところ御満悦に思し召される旨) 深谷宇兵衛廣邦(花押)→佐竹左衛門殿	7月4日	折紙・1通	1247-2
(書状、蓮寿院様〈5代藩主義峯長女〉御機嫌よき旨、並びに去月22日より御屋形様御勝れ遊ばされざるにより御機嫌伺の紙面を仰せ上げられ、披露遂げる所御満悦に思し召される旨) 深谷宇兵衛廣邦(花押)→佐竹左衛門殿	(江戸中期)6月11日	折紙・1通	1247-3
(包紙) *(包紙上書)「佐竹左衛門殿 深谷宇兵衛」		包紙/(1246-1~13包紙一括)・1点	1246-1
(包紙) *(包紙上書)「御鷹御免ニ付大沢弥五兵衛方へ御礼被仰遣候へハ御答申上候覚、享保貳年酉八月七日」/(包紙裏書)「御鷹ニ付書付色々四枚」	(享保2年)	包紙/(326-1~4は一括)・1点	326-1
大沢弥五兵衛方江被仰遣御答(先々の場所御鷹御免に付、内々は鷗拝領の積りのところ大鷹を下さる御左右の件)	酉8月7日	折紙・1通	326-2
覚(久世大和守様〈幕府老中・重之〉より渡された御条目通初鳥より5番鳥までは江戸へ差登らせ申すべき旨ほか鷹捉鳥に関する指示)	8月4日	折紙・1通	326-3
覚(御拳場・御留場における鳥類捕獲・鳥類商売等に関する幕府触書写、関東地方における鷹場整備政策の一環法令)	(享保3年)戊7月	縦継紙・1通	326-4
(書状、今晚御料理下さるため、ハツ時以前登城致さるべき旨) 松塚長右衛門→佐竹竹寿(義伯)殿	極月29日	横切紙/(288-1~5は一括)・1通	288-1
(書状、明8日晚御姫様より御料理下さるため、ハツ時以前登城すべき旨) 松塚長右衛門→佐竹竹寿(義伯)殿	正月7日	横切継紙・1通	288-2
(書状、今晚御拍子あるにより三郎〈義貫〉・竹寿〈義伯〉拝見致したくば罷り出でらるべき旨) 松塚長右衛門→佐竹淡路(義安)殿	12月25日	横切継紙・1通	288-3
(書状、明晩は三郎〈義貫〉・竹寿〈義伯〉へも御料理下されるに付ハツ時以前に同道されたき旨) 松塚長右衛門→佐竹淡路(義安)殿	12月23日	横切継紙・1通	288-4
(書状、御登りの節には御子息様方へも御姫様より御料理下され、その御礼紙面を披露した旨) 松塚長右衛門忠英(花押)・萩庭市左衛門政孫(花押)・赤須平馬通安(花押)→(佐竹)淡路(義安)様	正月17日	折紙・1通	288-5

1. 家/1.12. 通信(藩内)/1.12.2. 表方・側方など差出

(書状、鶴3居拝領に付御礼仰せ上げる段を披露の旨) *(包紙上書)「佐竹淡路殿 平野丹波」 平野丹波定安(花押)→佐竹淡路(義伯)殿	(享保15年カ)4月24日	折紙・1通	80
(書状、御鷹野場の儀御先格の通に仰せ出されるに付、有難く御礼仰せ上げる旨を申し上げた旨、並びに御目録を下される旨に付) *(包紙上書)「淡路殿 駒木根丹下・松塚長右衛門」 松塚長右衛門忠□(花押)・駒木根丹下安宣(花押)→淡路(佐竹義伯)殿	9月26日	折紙・1通	81
(書状、御鷹の鴨5羽を献上し、江戸へ差上げたことを御心得遊ばされたき旨) 松塚長右衛門忠栄(花押)・赤須平馬通宣(花押)→(佐竹)淡路様	2月28日	折紙・1通	793
覚(鷹の葉の調法など) *(包紙上書)「御鷹葉書付一枚入」		横切紙・1通	79
鶉野御人数御相図覚(勢子・拍子木の使用など、鷹方に関する佐竹左衛門より檜岡左馬助・瀬川小兵衛宛書状の写などあり)		横長半・1冊	83
(書状、明7日朝御料理御相伴仰せ付けられる間五ツ時登城すべき旨) *(端裏書)「佐竹左衛門殿 赤須平馬」 赤須平馬→佐竹左衛門殿	正月6日	横切継紙/ (1246-1～13包紙一括)・1通	1246-6
(書状、近々帰邑に付明23日夕御料理頂戴仰せ付けられる間九ツ時登城すべき旨) *(端裏書)「佐竹左衛門殿 赤須平馬」 赤須平馬→佐竹左衛門殿	7月22日	横切継紙・1通	1246-7
(書状、家督御礼仰せ付けられるに付、御内々御茶兩種・塩雁2羽拝領の旨) 赤須平馬→佐竹三郎殿	7月20日	横切継紙・1通	1079
(書状、当秋引鳥鉄炮日数10日御免成し置かれる旨を江戸表より仰せ出されるに付) *(端裏書)「佐竹兵馬殿 築治部左衛門」 築治部左衛門→佐竹兵馬(義以)殿	11月5日	横切継紙・1通	727
(包紙) *(包紙上書)「諸役人被下候御切紙 根岸和作殿 左衛門 寛政元酉五月廿三日」 (佐竹)左衛門→根岸和作	寛政元年酉5月23日	包紙/(307-1～3は包紙一括)・1点	307-1
(書状、明後26日に祝儀の料理を進ずるので八ツ時以前の御越しを待ち入る旨)	(寛政元年)5月24日	横切継紙・1通	307-2
(書状、明後26日に祝儀の料理を進ずるので八ツ時以前の御越しを待ち入る旨) *307-2と同文面	(寛政元年)5月24日	横切継紙・1通	307-3
(書状、御後室様当月12日より御法号貞明院様と称すに付〈貞明院は8代藩主佐竹義敦室〉) *(端裏書)「佐竹左衛門殿 向勘七郎」 向勘七郎→佐竹左衛門(義珍)殿	(文化7年)8月21日	横切紙・1通	88
(登城召しの書状、明9日四ツ時御登城すべき旨) *(端裏書)「佐竹左衛門殿 向勘七郎」 向勘七郎→佐竹左衛門殿	8月8日	横切紙・1通	89-1
(登城召しの書状、明12日九ツ時過ぎ御料理頂戴のため登城すべき旨) *(端裏書)「佐竹左衛門殿 菅谷小隼人・田代新右衛門」 菅谷小隼人・田代新右衛門→佐竹左衛門殿	6月11日	横切紙・1通	89-2
(書状、御用の儀につき明毎日四ツ時御用所へ御出席成さるべき旨) *(端裏書)「佐竹左衛門殿 向勘七郎」 向勘七郎→佐竹左衛門殿	7月29日	横切紙/(1246-1～13包紙一括)・1通	1246-2
(書状、今日まで忌中の処忌御免成されし間御出勤成さるべき旨) *(端裏書)「佐竹左衛門殿 向勘七郎」 向勘七郎→佐竹左衛門殿	8月12日	横切継紙・1通	1246-3

1. 家/1.12. 通信(藩内)/1.12.2. 表方・側方など差出

(書状、御用の儀につき明15日四ツ時登城成さるべき旨) *(端裏書)「佐竹左衛門殿 向勘七郎」 向勘七郎→佐竹左衛門殿	8月14日	横切継紙・1通	1246-4
(書状、先頃より帰邑の儀差し留められし所、御用相済みし間勝手次第帰邑致すよう昨日仰せ出された旨) * (端裏書)「佐竹左衛門殿 向勘七郎」 向勘七郎→佐竹左衛門殿	8月16日	横切継紙・1通	1246-5
(書状、明15日屋形様より左近様へ御旅館に於いて夕御料理進らせるに付、その相伴を仰せ付けられる間、ハツ時以前罷り出らるべき旨) * (端裏書)「佐竹左衛門殿 籠谷縫殿」 籠谷縫殿→佐竹左衛門殿	8月14日	横切継紙・1通	1246-8
(書状、当5日二ノ丸において御初の御規式成し置かれるに付五ツ時登城すべき旨) * (端裏書)「佐竹左衛門殿 町田大之進」 町田大之進→佐竹左衛門殿	正月3日	横切継紙・1通	1246-9
(書状、御先君様去月御逝去遊ばされるに付御後室様への御機嫌窺いの御紙面について、御披露を遂げし段御承知置かれたき旨) * (包紙上書)「佐竹左衛門殿 駒木根友之丞・津田三郎左衛門」 津田三郎左衛門秀寛(花押)・駒木根友之丞隆英(花押)→佐竹左衛門殿	7月13日	折紙・1通	1246-10
(書状、近年春秋鳥不足に付鳥輪繩刺等の徒者吟味逃げられるべき旨) * (端裏書)「佐竹左衛門殿 菅谷小左衛門・桜田三八郎・籠谷縫殿」 菅谷小左衛門・桜田三八郎・籠谷縫殿→佐竹左衛門殿	8月22日	横切継紙・1通	1246-11
(書状、当春引鳥鉄砲日数10日御免成し置かれる段仰せ出されるに付) 三宅吉右衛門正(花押)・籠谷小左衛門高(花押)・福地敬右衛門久(花押)→佐竹左衛門殿	閏3月3日	横切継紙・1通	1246-12
(書状、白鳥1羽拝領仰せ付けられるに付) * (端裏書)「佐竹左衛門殿 町田大之進」 町田大之進→佐竹左衛門殿	正月2日	横切紙・1通	1246-13
(当春引鳥鉄砲日数10日御免成し置かれる段、御道中より仰せ出される旨の達書) 藤本野内治行(花押)・金大之進秀安(花押)→佐竹左衛門殿	3月26日	横切紙・1通	280
御口上之覚(御入部御祝儀を御広間でなく御座之間で行うに付、四ツ時登城致すべき旨) * (包紙上書)「御口上之覚」 →佐竹左衛門・佐竹三郎江	6月8日	横切紙・1通	313
(包紙) * (包紙裏書)「印」無事」 弥内→(佐竹)左衛門様 尊几下要用		包紙/(1043-1～3は一括)・1点	1043-1
(書状、御帰国御礼御使者御省略に付御留守詰家老仰せ付けられる儀に付、今年御使者に塩谷右膳差し登せられる事なれば不調法ながら願草稿認め御覧に入れたき旨) * (包紙上書)「草稿 入」 弥内→(佐竹)左衛門様 尊几下	11月19日	横切継紙・1通	1043-2
(書状副啓、御帰国御礼御使者に付明日相談申遣わし、来月10日以前申し立てたき旨)	同日	横切継紙・1通	1043-3
(書状、此度天朝より御高御頂戴・御昇進の御祝儀として当27日御酒御吸物下し置かれるに付、五ツ時登城致さるべき旨) 石井定之進→佐竹左衛門殿	6月26日	横切紙・1通	1046
(書状、明ヶ時御提灯にて御出殿のようにと存じ奉る旨、この段戸村氏へも御伝達し下されたきに付) * (封筒表書)「申上 要用 鳥」/(端裏書)「申上」	17日	横切紙/(1078-1～3は紙縫一括)/(1078-3は(その1)に採録)・1通	1078-1

1. 家/1.12. 通信(藩内)/1.12.2. 表方・側方など差出

(書状、御引かせの御馬未だ亥之松ひと鞍も乗せ申さず、当 人気の毒により今日なり明日なり乗る様に仰せ付け下 されたま旨) * (封筒表書)「左衛門様 御内披 石 志之助 書」	7月3日	横切継紙・1通	1078-2
(書状、見事な苺苔を御贈り下されたことへの礼状) 佐 藤忠左衛門茂倍カ(花押)→新発意様 貴報 御小姓衆中	12月16日	折紙・1通	789
(書状、先達で宇都宮帯刀内室逝去のことを示しに預かる 旨、忌明に付御礼) 佐藤半蔵清信(花押)→佐(竹)三郎様	9月4日	折紙・1通	790
(書状、忌中に貴札に預かるに付、忌明早々御礼を申し上 げる旨) 真崎(長兵衛)處望(花押)→佐淡路様参人々御中	7月15日	折紙/(一部破損) ・1通	791-1
(書状、御廻御逗留中に御機嫌伺を指し上げるため私方 へ御使者下され忝き旨、兵庫・私儀も仙北中御供つかま つる旨) 真崎彦六處延(花押)→佐淡路様参人々御中	11月4日	折紙・1通	791-2
(書状、前月29日に娘の婚札が相整うに付) 真崎兵庫處 (花押)→佐(竹)三郎様 尊報	9月2日	折紙・1通	792
(書状、御金抱の儀御頼申し上げ置く件などに付) 木下 彦右衛門→松村喜左衛門様	12月5日	横切継紙・1通	1083
(書状、江戸御詰中・御道中御蔭蒙りしは前度申上げる通 りの所、御念を入らせられる御書中にて御酒御肴下し 置かれ有難き旨) 金大之進九拜→尊殿	6月13日	折紙/(1248-1～ 10は紐一括)/ (1248-1～15は 紐一括)・1通	1248-9

1.13. 交際

1.13.1. 贈答書上

覚(左右衛門(マ)様へ菱織3疋・経緒2柄など差上の目録) * (包紙上書)「覚目録」		横切紙・1通	1013
-----------------------------------------------	--	--------	------

1.13.2. 武家書状

(書状、来る4月8日芳楊軒殿(義継・佐竹北家)150回忌に付 報恩として微志を設け供養したきものの遠路ゆえ鹿菓 を送る旨) 成實→佐竹左衛門殿	(文化3年カ)2月3日	折紙・1通	1124
-------------------------------------------------------------------------------	-------------	-------	------

1.13.4. 五条家

覚(京都鷹司家・五条家等への進物書上、肴代等) 名前→ 宛所	(4月)	横長半・1冊	1147
-----------------------------------	------	--------	------

1.14. 伝来文書・文書管理

覚(佐竹南家に伝来の源真様御書1通を写して御記録に 留め置いた旨、火災・紛失の際は写しを拝領させる旨の 申渡書) →佐竹淡路(義安)	元禄15年8月	縦紙・1通	560-1
(書状、天英公御書1通・鑑照公御書2通・光聚君御書5通、 伝来の文書に付御記録に載せ置いた旨、後代の亀鑑 に備えるべき旨の達書) * (包紙上書)「御青印 佐竹左衛 門」(青印「秋田史館」)→佐竹左衛門(義珍)	寛政5年3月	縦継紙/(継目印 あり)・1通	17
御宝物入記(鷹司家ほかの公家・諸大名よりの来書・当主 直書・朱印状等の収蔵目録) 御膳番御代主殿・安東栄治・ 御記録方佐藤左内・高橋重内→	元治元年子7月24日	横長半/(460-1 ～2は紙縫一括) ・1冊	460-1

1. 家/1.14. 伝来文書・文書管理

明治廿三年十一月十六日奥御宝物にて帳入候分(所蔵古文書の目録、鷹司家ほかの公家・諸大名よりの来書など) 立会調 原田晴也・安東静磨→	明治23年11月16日	折紙・1通	460-2
--------------------------------------------------------------------	-------------	-------	-------

1.15. 家政

1.15.1. 知行地

1.15.1.1. 検地

(包紙) * (包紙上書)「桑崎村御打直被仰立被下候御口上書有り」	享保11年午3月6日	包紙/(392-1~3は包紙一括)・1点	392-1
口上(知行所雄勝郡桑崎村地形混雑致し惣百姓極窮のため、当年も春中より秋中までに御竿入れ下されるように願ひ申すに付)	(享保11年)午3月4日	横切継紙・1通	392-2
乍恐口上書を以奉願候御事(当村平均御竿の義先年より願ひ申し上げるに付、当年は御竿御入下されたき旨) *(端裏)「草稿」 桑崎村江(ママ、郷)人→	享保11年3月2日	横切継紙・1通	392-3
覚(佐竹淡路知行所雄勝郡湯沢町平均御竿入に付本田平均割合掛高の件、当高77石7斗5升6合) 伊藤儀右衛門・志賀喜右衛門・熊谷藤八・岩屋五右衛門・岡村才三郎→	西8月26日	横切継紙・1通	861
覚(湯沢町去酉年平均御竿入のところ地形混雑に付、開高1斗9升を加え置く旨) 志賀喜右衛門・熊谷藤八・岩屋五右衛門・岡村才三郎→	戌3月29日	横切継紙・1通	389
覚(湯沢町平均御竿入にて分付違などの混雑あるに付、追って御判紙御書替を申し立てるべき旨) 志賀喜右衛門・熊谷藤八・岩屋五右衛門・岡村才三郎→	戌3月29日	横切継紙・1通	862

1.15.1.2. 黒印状

(岡田万吉知行御黒印御判紙、知行高53石余、桑ヶ崎村の内本田10石ほか4か所) [印]→	宝永7年寅3月10日	縦紙・1通	577
御判紙写(①光徳寺領御黒印御判紙写、②寺領寄付証文写、光徳寺領は松岡村ほか2ヶ村に高50石) ①御黒印、②佐貫平八郎判ほか3名→②光徳寺殿	元文5年申11月①4日、②5日	縦継紙・1通	578

1.15.1.3. 新開

(新開差紙、関口の内下河原新開に付心得向など) * (包紙上書)「うら物被仰付候筈 裏打致候指置候様小貫右助指図之段申来候」 渋江内膳(印)→関村角左衛門・儀右衛門・いづみ・作右衛門	慶長16年3月17日	堅切紙・1通	145
(新開差紙、せきくちの内新開に付心得向など) 梅津半右衛門(花押)→関口村弥右衛門	慶長20年6月24日	堅切紙/(144-1~7は一括)・1通	144-7
(新開差紙、念仏田など7ヶ所永荒新開に付) 梅津半右衛門(花押)(印)→赤袴ノ内助右衛門	慶長20年6月28日	堅切紙・1通	144-2
(新開差紙、村の内柏野・同下河原之野など新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか) 梅津半右衛門(花押)→芳賀六左衛門殿・同作内殿・根本市兵衛殿参	寛永2年9月27日	縦紙・1通	144-1

(新開差紙、杉沢海道の西野など新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨など) 梅津半右衛門(花押)→佐藤七左衛門殿・萩庭弥右衛門殿・安嶋羽右衛門殿参	寛永4年6月16日	縦紙・1通	144-4
(新開差紙、湯沢堀廻ノ内など新開に付心得向など) 梅津半右衛門(花押)→もり町甚助方へ	寛永4年極月10日	縦切紙・1通	144-6
(新開差紙、仙北杉宮大窪之内など新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨など) 梅津半右衛門(花押)→益子又八殿	寛永6年霜月2日	縦紙・1通	144-5
(新開差紙、杉宮原之内花立原野中境など新開に付、本田の障りになれば相止めるべき旨ほか) 梅津主馬(花押)(印)→一部七左衛門との	寛永9年霜月21日	縦紙・1通	144-3
(包紙) * (上書1)「慶安年中平鈞御竿之節之御高書付なるへし」/(上書2)「未之年分」		包紙/(153-1～21は包紙一括)・1点	153-1
(給分宇留院内村高107石余の内本田82石余5ツ7歩・此米46石余ほか、本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙/(153-2～21は一綴)・1通	153-2
(給分役内村高377石余の内本田255石余6ツ成・此米153石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-3
(給分泉沢村高218石余の内本田89石余7ツ成・此米62石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-4
(給分鮎川村高701石余の内本田438石余6ツ8歩・此米297石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-5
(給分杉宮村高511石余の内本田474石余6ツ5歩・此米308石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-6
(給分桑ヶ崎村高1209石余の内本田936石余6ツ3歩・此米590石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-7
(給分石塚村高115石余の内本田88石余5ツ8歩・此米51石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-8
(給分高松村高597石余の内本田478石余6ツ成・此米287石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-9
(給分床舞村高450石余の内本田408石余6ツ5歩・此米265石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守判→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-10
(給分鹿内村高128石余の内本田100石余5ツ5歩・此米55石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守判→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-11
(給分松岡村高1044石余の内本田824石余6ツ3歩・此米519石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-12
(給分赤沢村高475石余の内本田316石余6ツ成・此米190石余ほか本田・開高書付) 梅津外記(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-13
(給分杉沢村高169石余の内本田123石余5ツ5歩・此米67石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-14
(御蔵入分湯沢堀廻村高2267石余の内本田1734石余7ツ成・此米1214石余ほか本田・開高書付) 梅津外記(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-15
(給分蔵内村高608石余の内本田473石余7ツ成・此米331石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	縦切紙・1通	153-16

1. 家/1.15. 家政/1.15.1. 知行地/1.15.1.3. 新開

(給分森村高634石余の内本田336石余6ツ3歩成・此米212石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	堅切紙・1通	153-17
(給分関村高933石余の内本田577石余7ツ成・此米404石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	堅切紙・1通	153-18
(御蔵入分中村高1192石余の内本田1012石余7ツ成・此米708石余ほか本田・開高書付) 梅津外記(印)→	慶安3年9月21日	堅切紙・1通	153-19
(御蔵入分川井村高320石余の内本田245石余6ツ5歩・此米159石余ほか本田・開高書付) 梅津外記(印)→	慶安3年9月21日	堅切紙・1通	153-20
(給分八幡村高771石余の内本田590石余6ツ5歩・此米383石余ほか本田・開高書付) 須田美濃守(印)→	慶安3年9月21日	堅切紙・1通	153-21
(石井権左衛門40石知行御判紙の写)	寛文9年極月13日	堅紙・1通	191
(大野七左衛門知行地6ツ成高判紙写)	寛文9年極月13日	堅紙・1通	629
(中村・杉沢村新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか開発心得向達書) 渋江宇右衛門(隆光)(印)・多賀谷左兵衛(隆家)(印)→石塚市正殿	延宝3年卯5月13日	堅紙・1通	150
(大山留兵衛知行地の役内村六つ成高判紙) (印)→	延宝3年霜月7日	堅切紙・1通	630
(新開差紙、高松村之内当平より悪戸まで畑返り野開などに付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか心得向など) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	堅紙/(146-1～12は一括)・1通	146-1
(新開差紙、床舞村之内松岡境大戸沢畑返りなど新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか心得向) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	堅紙・1通	146-2
(新開差紙、役内村之内黒沢より小杉山まで野谷地畑返りなど新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか心得向) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	堅紙・1通	146-3
(新開差紙、川井村之内海老田河原沼野台中野より黒沢まで新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨など心得向) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	堅紙・1通	146-4
(新開差紙、鹿内村之内たも木沢・野菅谷地沢・くるしか沢・持田沢4ヶ所野開新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか心得向) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	堅紙・1通	146-5
(新開差紙、泉沢村之内京びつ中野中道下中河原畑返り野開共に新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨など心得向) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	堅紙・1通	146-6
(新開差紙、峯鮎河村之内大堤上下本畑返りなど新開に付、本田の障りになれば相止めらるべき旨ほか心得向) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	堅紙・1通	146-7
(新開差紙、宇留井内村之内沼ヶ沢口はしり沢口新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか心得向) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	堅紙・1通	146-8

(新開差紙、石塚村之内古屋敷岩野沢畑返り新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか心得向) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	豎紙・1通	146-9
(新開差紙、松岡村之内とほり頭後坊中中田尻まき沢畑返りなど新開きについて、本田の障りになれば相止められるべき旨など心得向) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	豎紙・1通	146-10
(新開差紙、桑ヶ崎村之内長谷沢より山神など畑返り新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨など心得向) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	豎紙・1通	146-11
(新開差紙、湯沢堀廻村之内かね打沢畑返り野開新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか心得向) 梅津茂右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	延宝5年丁巳年正月22日	豎紙・1通	146-12
(中村・杉沢村など畑返りに付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか開発心得向達書) 梅津茂右衛門(印)・渋江宇右衛門(印)→石塚市正殿	延宝5年丁巳9月10日	豎紙・1通	151
(新開差紙、泉沢村・桑ヶ崎村両河原新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか心得向) 真崎兵庫(印)・渋江宇右衛門(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	天和元年12月13日	豎紙・1通	147
覚(寛永9年梅津主馬判形のある一部長左衛門新開の指紙所持により注進開を申し立てるに付、新開すべき旨) 黒澤多左衛門(元重)[印]→赤袴村 十右衛門	天和2年霜月16日	豎紙・1通	387
(新開差紙、宇留院内の内みのか沢新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか心得向) 大越甚右衛門(印)・真崎兵庫(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	天和2年12月20日	豎紙/(148-1~3は一括)・1通	148-1
(新開差紙、床舞村之内大谷地野中新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか心得向) 大越甚右衛門(印)・真崎兵庫(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	天和2年12月20日	豎紙・1通	148-2
(新開差紙、桑ヶ崎村之内・小比内沢之内ほか新開に付、本田の障りになれば相止められるべき旨ほか心得向) 大越甚右衛門(印)・真崎兵庫(印)・梅津半右衛門(印)→佐竹淡路(義敵)殿	天和2年12月20日	豎紙・1通	148-3
覚(杉沢森成沢分の御判紙所持致すに付、御注進開申し上げ、貴殿両人金本にて開発すべき旨ほか達書) 山田新右衛門(印)・川井藤右衛門(印)→湯沢肝煎茂左衛門殿・同五郎左衛門殿	貞享4年卯ノ4月20日	豎継紙・1通	388
(加納重右衛門151石9斗知行御判紙写、高松村ほか) * (包紙上書)「御判紙写下書 加納重兵衛」	宝永4年亥7月9日	豎紙・1通	186
(佐竹淡路組足軽60人分485石知行判紙、雄勝郡関村ほか3ヶ村) * (包紙上書)「御足軽知行之御判紙」 (印「佐竹義格」)→	正徳2年辰2月11日	豎紙・1通	185
(佐竹淡路組足軽60人6ツ成高判紙写) * (包紙上書)「御朱印 御蔵入成候御足軽分 地形ニ而被返付候御朱印」/(包紙裏書)「御足軽御判紙写壹枚、御朱印壹枚」 (印影写「義格」)→	正徳2年2月11日	豎紙・1通	648

1. 家/1.15. 家政/1.15.1. 知行地/1.15.1.3. 新開

(雄勝郡役内村・泉沢村自分開発地のうち高35石を永代に相渡す旨の証文) * (裏書)「表書之通相違無是候、案以上、申正月十一日 淡路印」 荒巻十蔵印・赤須左大夫印・佐貫平八郎印→吉成根左衛門殿・妹尾園右衛門殿・加藤伊右衛門殿・小田部又兵衛殿・泉田庄兵衛殿・引田助重郎殿	正徳6年申正月11日	縦紙・1通	863
荒地高之覚(下小屋に所在する2筆×1斗1升2勺の下田は当春より荒地になるに付) 下関村肝煎五郎兵衛[印]→	享保14年酉8月21日	縦切紙・1通	437
覚(佐竹淡路支配足軽60人分御蔵入のところ、以後地形を以て上関村・下関村に配当に付、当丑年より物成小役受納すべき旨) * (包紙上書)「御朱印 佐竹淡路支配」 御金蔵→佐竹淡路殿	延享2年8月18日	縦継紙・1通	246
覚(旦那知行所河辺郡岩見村・三内村開御指紙下開発致し、御本入に付、起高の入目代として都合17石指し遣わす旨) 珍田清右衛門(印)・根田勘左衛門(印)→佐貫平八郎殿・菊地治右衛門殿・田中忠蔵殿	(寛延4年)未5月	縦継紙・1通	393
証文之事(宇都宮四郎知行所内河辺郡岩見村・三内村新開の普請入目に付) * (包紙上書)「証文 壺通」 宇都宮四郎(印)→佐竹新発意(義舒)殿	寛延4年末10月晦日	縦紙・1通	154
覚(6郡村々起返方出高調をうけて、雄勝郡高松村当高14石1斗等は御所務成さるべき旨の達しに付) * (包紙上書)「明和三年戊八月中御検地方より相渡候高松村起返出高御書付」/(端裏貼紙)「淡路殿誰頼」 国安三右衛門・瀬田喜内・小柳伝右衛門・上神谷藤左衛門→	(明和3年)戊8月14日	横切継紙・1通	394
覚(6郡村々起返方出高調をうけて、今年より川井村当高8斗4升2合等所務仕るべき旨の達し) * (端裏貼紙)「兵馬殿」 国安三右衛門・瀬田喜内・豊田幸左衛門・小泉七郎右衛門・中川弥右衛門・片庭久次→	申	横切継紙・1通	399
口上書(桑ヶ崎村忠進開に付、百姓八左衛門の件) * (包紙上書)「上 添田喜弥太」 添田喜弥太(花押)→	明和5年子3月6日	縦継紙・1通	357-1
口上書(桑崎村開発に付、八左衛門に大小御免又は足軽奉公召出願) 添田喜弥太(花押)→	亥6月4日	縦紙・1通	357-2
文化九申年より元治元子年迄五ヶ度御調御帳尻写(開発地辛労免関係) * 控 石川平兵衛→	(文化9年～元治元年)	半・1冊	439
証文(旦那御指紙所雄勝郡倉内村・八幡村野形新開の儀、其方様御勝手に新開発成さるべきに付) * (包紙上書)「証文 御不用ニ相成候」/(包紙裏書)「此御開発御違起相生、御破証ニ相成候、此証文不用ニ相成候故後年見高候而相返可申候、以上」 平沢典膳(印)・佐藤市左衛門(印)→赤須左大夫殿・原田嘉右衛門殿・中村伊大夫殿	文化10年酉2月	縦紙・1通	400
(包紙) * (包紙上書)「文政十二年開事」 江畑孫兵衛・新田永助・平沢惣兵衛→湯沢ニ而中村伊太夫様・井上才蔵様・原田織衛様	文政12年	包紙/(402-1～5は包紙一括)・1点	402-1
(書状、八幡村・金屋新田村開発場に付、御所務高と辛労免に分けて下し置かれるよう金屋新田村より願い出るに付) 平沢惣兵衛・新田永助・江畑孫兵衛→中村伊太夫様・井上才蔵様・原田織衛様	(文政12年)3月20日	横切継紙・1通	402-2
(書状別紙、金屋新田村より辛労免割合の儀について申し来るに付、御返礼下されたきに付) 三人→御三人様	(文政12年)同日	横切紙・1通	402-3

(書状、八幡村・金屋新田村開発地に付、10分の3の割合にて拝領したき旨を八幡村肝煎・長百姓らが願い出た件) 平沢惣兵衛・新田永助・江畑孫兵衛→中村伊太夫様・井上才藏様・原田織衛様 御報	(文政12年)2月9日	横切継紙・1通	402-4
(書状別紙、金屋新田村先肝煎九右衛門の忠進開発は、6割知行高・4割辛労免に成るに付) 三人→御三人様	(文政12年)同日	横切紙・1通	402-5
(雄勝郡松宮村開に關し郡方より湯沢町小川長右衛門へ辛労免高15石を下される旨の一札) 阿部小介[印]・出市太郎(印)→原田織衛殿・荒巻重藏殿・山方藏人殿	安政3年辰4月	豎紙・1通	859
乍恐書附を以奉申上候御事(岩崎村平兵衛・新古内村甚藏兩人にて差紙の森村御忠進場のうち甚藏分は私が譲り受ける旨) 森合村勘六[印]→加藤傳助殿・猪狩喜惣太殿・佐瀬兵治殿	元治2年丑3月	豎紙・1通	883
口上(北浦御釜木ほかの御注進場の状況に付) 平鹿郡上鍋倉村吉右衛門(印)→	戊12月9日	豎継紙・1通	249
口上(拙者知行平鹿郡今泉村開高6石9升9合を町処御備へ相渡申したきに付) *雛形 名前花押→	月日	豎紙/(1053-2は1に巻込一括)・1通	1053-1
(卯4月御譲り当高6石余のうち5石余は辰年休高の旨書付)	卯4月	横切紙・1通	1053-2
覚(手前家人・附人の引田織部儀、起返新開の忠進致すに付、御配当を以て御朱印を下されたき旨) 佐竹左衛門→	12月	横長半・1通	433
(松岡村・赤袴村・泉沢村当高分は、末秋権少属幸丸半兵衛御竿入出高にいまだ御取扱下されざる分に付)		横切紙/(1239-5-1~3は括り紐一括)・1通	1239-5-1

1.15.1.4. 替地

覚(知行替証書、御足輕前上関村知行の内荒地になり、巳年より大戸野中村上り地3斗9升9合代知にて渡す旨) * (包紙上書)「寛延貳年御足輕知行御代地被下候御朱印 壹枚 巳七月廿八日二相達」 御金藏→佐竹淡路殿	寛延2年巳7月2日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	649
覚(知行替証書、御足輕前上関村知行のうち関下成の分、当午年より同村上り地5斗3升代知にて渡す旨) * (包紙上書)「寛延三年午九月朔日相達候御足輕御朱印 壹枚」 御金藏→佐竹新發意殿	寛延3年午8月11日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	650
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行の内御用地になるにより、当子年より2ヶ村上り地より代知を渡す旨) * (包紙上書)「宝暦六年子御朱印 御足輕分」/(包紙裏書)「御朱印式枚」 御金藏→佐竹三郎殿	宝暦6年子7月29日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	651
覚(佐竹三郎支配御足輕前引替え代知として4ヶ村の当高を下される旨、高合83石4斗4合) * 下書 →御金藏後三人家名	宝暦6年子12月25日	豎紙/(付箋あり)・1通	856
覚(支配御足輕知行所雄勝郡上関村・下関村のうち荒地場所などは捨高とし、1石7斗1升4勺の代知を下し置かれる旨の仰渡書) * (包紙上書)「宝暦七年丑正月十九日相達候、御足輕知方当高二被成下候由申来候書付」 志賀喜右衛門・熊谷東八・佐藤吉兵衛→(佐竹)三郎殿屋敷番	宝暦7年丑正月12日	横切紙・1通	652

覚(支配御足輕前上関村・下関村知行のうち悪所引替代知渡の朱印書) * (包紙上書)「宝暦八年寅七月廿一日御足輕知方上関村下関村悪所引替御代知相川村ニ而被下候御朱印」 御金蔵→佐竹三郎(義舒)殿	宝暦8年寅7月21日	豎継紙・1通	163
覚(支配御足輕前上関村・下関村知行のうち荒地成代知を当卯年より渡す旨の達書写) * 写 御金蔵→	宝暦9年卯7月21日	豎紙・1通	857
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行のうち荒地成に付、当卯年より上関村・相川村の内合4石9斗1合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「御足輕分上関下関村荒成候御代知上関村相川村ニ而御代知相渡候御朱印 宝暦九年卯閏七月十三日ニ達」 御金蔵→佐竹三郎殿	宝暦9年卯7月21日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	653
覚(支配御足輕前上関村・下関村知行のうち荒地成代知渡の朱印書) * (包紙上書)「御珠印式枚 御分御足輕前御珠印 宝暦十年辰七月廿二日ニ相渡、同八月八日ニ相達」 御金蔵→佐竹三郎殿(義舒)	宝暦10年辰7月22日	豎継紙・1通	160
覚(支配御足輕前下関村知行のうち道下成代地渡の朱印書写) * (包紙上書)「御足輕前 宝暦十二年午八月十四日ニ相渡ル」 御金蔵→佐竹兵馬殿(義以)	宝暦12年午7月24日	豎紙・1通	161
覚(知行替証書、御足輕前上関村知行の内荒地成に付、当中年より同村上地1斗1升を代知として渡す旨) * (包紙上書)「右者去未之秋調御足輕前上関村之内荒地御代知同村上地之内ニ而相渡候御朱印 明和元年申七月廿二日」 御金蔵→佐竹兵馬殿	明和元年申7月22日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	654
覚(知行替証書、上関村支配御足輕知行の内御用地になるに付、当酉年同村上地6斗5升5合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「明和二年酉八月 御分御足輕前御朱印 式枚」 御金蔵→佐竹淡路殿	明和2年酉7月8日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	655
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行の内関道下になるに付、当戌年より同村上地合1石1斗7升4合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「明和三年戌八月中相渡候、御朱印壹枚御足輕前壹枚」/(包紙裏書)「御朱印御分共ニ拾八枚」 御金蔵→佐竹淡路殿	明和3年戌7月8日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	656
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行のうち関下並びに御用地になるに付、当丑年より同村上地合9斗8升8合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「御足輕分関下御代地御朱印 明和六年丑七月」 御金蔵→佐竹三郎殿	明和6年丑7月11日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	657
覚(知行替証書、御足輕前下関村・上関村知行のうち御用地になるに付、当寅年より同村上地合3石8斗6合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「明和七年寅七月六日 御足輕前御用知御代知 御朱印 壹枚」 御金蔵→佐竹左衛門殿	明和7年寅7月6日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	658
覚(知行替証書、御足輕前上関村知行のうち関道下になるに付、当午年より同村上地5斗3升を代知として渡す旨) * (包紙上書)「安永三年午七月四日御足輕前御用知御代知 御朱印壹枚」 御金蔵→佐竹左衛門殿	安永3年午7月4日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	659
覚(知行替証書、足輕前下関村知行のうち道下になるに付、当未年より同村上地1石4斗8升3合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「御足輕前御朱印式枚、安永四年未八月四日」 御金蔵→佐竹左衛門殿	安永4年未7月17日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	660

覚(知行替証書、御足輕前上関村知行のうち関道下になるに付、当申年より同村上地6斗6升5合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「安永五年申七月二日、御足輕前御朱印壹枚、間違安永六年酉二月十五日相達ス」 御金蔵→佐竹左衛門殿	安永5年申7月2日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	661
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行のうち御用地になるに付、当酉年より同村上地合7斗を代知として渡す旨) * (包紙上書)「安永六年酉七月八日、御足輕前御代地上関下関ニ而被下候御朱印壹枚、八月八日ニ相達ス」 御金蔵→佐竹左衛門殿	安永6年酉7月8日	豎継紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	662
覚(支配御足輕前雄勝郡上関村知行高のうち悪所分の御代知くださる旨御書付) * (包紙上書)「安永七年戌六月御足輕前上関村御代地被下候御書付」 加藤三郎兵衛・坂本吉五郎・戸沢与右衛門→(佐竹)左衛門殿屋敷番	(安永7年)6月16日	横切継紙・1通	177
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行のうち水堀砂埋になるに付、当戌年より同村上地合9斗9升6合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「御分壹枚、御足輕前壹枚御朱印 戌閏七月廿七日相達」 御金蔵→佐竹左衛門殿	安永7年戌7月25日	豎継紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	663
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行のうち関土手下となるに付、当亥年より岩崎村上地4石8升9合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「御分御朱印式枚、内壹枚御足輕分、安永八年亥八月十九日達」 御金蔵→佐竹左衛門殿	安永8年亥7月26日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	664
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行のうち石砂埋・関道下になるに付、当子年より同村上地合2石7升9合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「安永九年子八月中相渡候、御足輕前上関村下関村、御朱印壹枚入、石砂埋之御代知御朱印也」 御金蔵→佐竹左衛門殿	安永9年子7月21日	豎継紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	665
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行のうち関道下並びに田畑になるに付、当丑年より小野村・下関村上地合5石6斗7升6合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「天明元年丑八月八日相達候御分御朱印壹枚御足輕分壹枚、メテ式枚、右御足輕分ハ写以同十日益子多郎兵衛ニ渡ス」 御金蔵→佐竹左衛門殿	天明元年丑7月6日	豎継紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	666
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行のうち石砂埋・関下になるに付、当寅年より同村上地合4石5斗3升3合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「天明二年寅七月廿九日相達候御朱印、御代地御分壹枚御足輕分壹枚、御足輕へハ写以相渡候」 御金蔵→佐竹左衛門殿	天明2年寅7月17日	豎継紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	667
(御足輕分御代知下され分高14石6斗7升より毛引・人足扶持方などの差引覚書) 塩谷伯耆→湯沢御米蔵衆	天明2年寅12月25日	豎紙・1通	855
覚(御足輕前上関村・下関村知行の内関下成代地を相川村・下関村上地合の内にて当辰年より相渡し申すに付御朱印書) * (包紙上書)「御足輕分 御朱印 壹枚」 御金蔵→佐竹左衛門殿	天明4年辰7月9日	豎紙/(4ヶ所に小朱印あり)・1通	1075
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行のうち荒地になるに付、当未年より貝沢村上地6石6斗5升を代知として渡す旨) * (包紙上書)「天明七年未八月廿七日相達ス、御足輕分御朱印壹枚、九月廿五日達ス」 御金蔵→佐竹左衛門殿	天明7年未7月23日	豎紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	668

覚(湯沢御足輕知行の内岩崎村平均竿入減高代知高物成の御蔵渡証文) * (奥書)「右者申二月六日斎藤左太夫ニ写相渡」 但馬殿御印→	天明8年申正月晦日	堅紙・1通	165
覚(知行替証書、御足輕前上関村・下関村知行のうち荒地道下になるに付、当申年より森村・下関村上地合6石3斗4升4合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「天明八年申七月四日御日付同九月中相達、御足輕分写ヲ以益子多郎兵衛ニ相渡」 御金蔵→佐竹左衛門殿	天明8年申7月4日	堅継紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	669
覚(知行替証書、御足輕前岩崎村知行のうち平均竿入打減御割合代知として当申年より八面村上地1石2斗3升3合を渡す旨) * (包紙上書)「天明八年申八月中御足輕八面村御朱印壹枚写、斎藤左大夫相渡」 御金蔵→佐竹左衛門殿	天明8年申7月4日	堅紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	670
覚(手前知行所を雄勝郡山本沢目の村々より久保田近在へ引替下されたき旨の願書) * (包紙上書)「寛政元酉六月より同閏六迄ニ菊地孫兵衛以取扱被仰付候御書付写三ヶ条也、外ニ御高御引替下書共ニ入」/(下書) →御苗御衆	(寛政元年)閏6月9日	横切紙・1通	156
覚(荒地川欠などあるにより分限御割合御代知を八幡村・倉内村にて下し置かれる旨) * (包紙上書)「寛政四年子十二月御割合御代知被下候御書付 添田忠右衛門」 杉山三太郎・大井宗之允・中嶋弥角→(佐竹)左衛門(義良)殿 屋敷番	(寛政4年)子12月2日	横切継紙・1通	158
覚(知行替証書、御足輕前湯沢町・下関村知行のうち荒地並びに海道下になるに付、当丑年より湯沢町上り地1石2斗5升9合を代知として渡す旨) * (包紙上書)「寛政五年丑十月、御朱印三枚内壹枚御足輕分」/(包紙裏書)「御足輕分御朱印壹枚入、御朱印壹枚御足輕分」 御金蔵→佐竹左衛門殿	寛政5年丑7月17日	堅継紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	671
覚(知行替証書、御足輕前上関村知行のうち道下になるに付、当寅年より同村上地1石2斗を代知として渡す旨) * (包紙上書)「寛政六年寅七月八日、上関村御足輕前御代地」/(包紙裏書)「久保田行、町送御判紙 壹枚」 御金蔵→佐竹左衛門殿	寛政6年寅7月8日	堅継紙/(当高記載部分に朱印あり)・1通	672
覚(知行替地証書、雄勝郡役内村御開当高9合、役内村知行開のうち道下成の代知を同村内にて当未年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義珍)殿	天保6年未7月6日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	579
覚(知行替地証書、雄勝郡下関村上地・御開当高6斗6合、雄勝郡役内村ほか5ヶ村知行のうち御用地成の代知を下関村内にて当酉年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義珍)殿	天保7年申7月5日	堅継紙/(替地高数字横・継目に朱押印あり)・1通	580
覚(知行替地証書、雄勝郡山田村御開当高1升8合、泉沢村知行のうち御用地成の代知を山田村内にて当酉年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義珍)殿	天保8年酉7月4日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	581
覚(知行替地証書、雄勝郡大戸野中村上地当高8升4合、大戸野中村知行のうち道下成の代知を同村内にて当亥年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義珍)殿	天保10年亥7月5日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	582
覚(知行替地証書、雄勝郡相川村御開当高1斗7升、中村知行のうち道下成の代知を相川村内にて当子年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義珍)殿	天保11年子7月4日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	583

覚(知行替地証書、平鹿郡新古内村上地当高5升9合、増田村知行の一部を十文字新田村へ結び置くに付引替代知を新古内内にて当丑年より渡す旨) 御金蔵→佐竹三郎(義孟)殿	天保12年丑7月5日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	584
覚(知行替地証書、雄勝郡役内村上地ほか当高4斗7升2合、役内村ほか3ヶ村知行のうち御用地成の代知を役内村ほかにて当丑年より渡す旨) 御金蔵→佐竹三郎(義孟)殿	天保12年丑7月5日	堅継紙/(替地高数字横・継目に朱押印あり)・1通	585
覚(知行替地証書、雄勝郡桑崎村・相川村当高5斗8升、桑崎村知行のうち関下成の代知を桑崎村・相川村内にて当卯年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義孟)殿	天保14年卯7月2日	堅継紙/(替地高数字横・継目に朱押印あり)・1通	586
覚(知行替地証書、雄勝郡相川村当高6石9斗2升、相川村知行のうち平均御竿入打減高御割合代知を相川村内にて当卯年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義孟)殿	天保14年卯7月2日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	587
覚(知行替地証書、雄勝郡大戸野中村上地の当高6石7斗2升5合、大戸野中村知行のうち打抜御竿入打減高御割合代知を同村内にて当巳年より渡す旨) *(端裏書)「弘化二巳年御出高 御朱印 壹枚」 御金蔵→佐竹左衛門(義孟)殿	弘化2年巳7月5日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	588
覚(知行替地証書、雄勝郡相川村御開当高4斗3升9合、泉沢村知行のうち御用地成代知を相川村内にて当未年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義孟)殿	弘化4年未7月5日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	589
覚(知行替地証書、雄勝郡桑崎村当高1石6斗2升2合、桑崎村知行のうち御用地成代知を同村内にて当酉年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義孟)殿	嘉永2年酉7月4日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	590
覚(知行替地証書、雄勝郡桑崎村当高2斗2升2合、桑崎村知行捨高のうち御用地成代知を同村内にて当酉年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義孟)殿	嘉永2年酉7月4日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	591
覚(知行替地証書、雄勝郡桑崎村・新関村当高4斗5升1合、桑崎村・新関村知行のうち御用地成代知を同村々内にて当子年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義孟)殿	嘉永5年子7月2日	堅継紙/(替地高数字横・継目に朱押印あり)・1通	592
覚(知行替地証書、雄勝郡桑崎村当高8斗7合、桑崎村知行捨高のうち御用地成代知を同村内にて当子年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義孟)殿	嘉永5年子7月2日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	593
覚(知行替地証書、平鹿郡阿気村ほか3ヶ村当高1斗6升5合、桑崎村ほか知行のうち御用地成代知を桑崎村ほかにて当丑年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義孟)殿	嘉永6年丑7月20日	堅継紙/(替地高数字横・継目に朱押印あり)・1通	594
覚(知行替地証書、平鹿郡新古内村当高3升5合、新古内知行のうち堰下成代知を新古内村にて当寅年より渡す旨) 御金蔵→佐竹左衛門(義孟)殿	嘉永7年寅7月10日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	595
覚(知行替地証書、雄勝郡関口村当高3升3合、関口村知行のうち打抜御竿入打減高御割合代知を同村にて当卯年より渡す旨) *(包紙上書)「卯八月渡 御朱印」 御金蔵→佐竹左衛門(義孟)殿	安政2年卯7月2日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	596
覚(知行替地証書、雄勝郡山田村当高2斗1升3合、三梨村・湯沢町知行のうち御用地成代知を山田村にて当辰年より渡す旨) *(包紙上書)「安政三辰 御朱印」 御金蔵→佐竹三郎(義誠)殿	安政3年辰7月2日	堅継紙/(替地高数字横・継目に朱押印あり)・1通	597

1. 家/1.15. 家政/1.15.1. 知行地/1.15.1.4. 替地

覚(知行替地証書、雄勝郡深堀村当高1石6斗2升6合、角間村ほかの知行のうち御用地成代知を深堀村にて当巳年より渡す旨) * (包紙上書)「安政四年丁巳七月御知行所御用地御代地深堀村ニ而被相渡候 御朱印式枚入」 御金蔵→佐竹三郎(義誠)殿	安政4年巳7月2日	堅継紙/(替地高数字横・継目に朱押印あり)・1通	598-1
覚(知行替地証書、雄勝郡深堀村当高1斗1升6合、大戸野中村知行のうち御用地成代知を深堀村にて当巳年より渡す旨) 御金蔵→佐竹三郎(義誠)殿	安政4年巳7月2日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	598-2
覚(知行替地証書、雄勝郡中村当高1斗6升8合、中村知行のうち道下成代知を同村にて当子年より渡す旨) * (包紙上書)「元治元子年」 御金蔵→佐竹淡路(義誠)殿	元治元年子7月2日	堅紙/(替地高数字横に朱押印あり)・1通	599
(佐竹左衛門知行地の内巳ノ御用地御代知高渡証文、高1石3斗6升2合) 渋江内膳→	午3月2日	堅紙・1通	157
(包紙) * (包紙上書)「天明七年未七月中御足輕前捨り高書付写ニ而斎藤左太夫ニ相渡」		包紙/(173-1~3は包紙一括)・1点	173-1
覚(御足輕知行雄勝郡上関村当高5石5斗7升ほかに付、減高と代知の申渡) 小松丹右衛門・小野忠助・森田仁右衛門→(佐竹)左衛門殿屋敷番	6月16日	横切継紙・1通	173-2
覚(支配御足輕前雄勝郡上関村荒地になるにより御代知下され置く旨の申渡) 中川平右衛門・貴志案左衛門・内海市右衛門→(佐竹)左衛門殿屋敷番	7月26日	横切継紙・1通	173-3
覚(雄勝郡下関村の湯沢御足輕前知行分が悪所となるに付、吟味の上、代知を下される旨ほか) 豊田幸左衛門・立原兵左衛門・中川平右衛門→(佐竹)兵馬殿屋敷番	7月5日	横切継紙・1通	174
覚(雄勝郡二井田村当高1石1斗8升7合、平均御竿入れ置くに付減高御引落御判紙御書替仰せ上げらるべき旨) 茂又新太郎・立原兵左衛門・片庭久兵衛・小貫忠助・杉山三太郎・中川弥三郎→(佐竹)左衛門殿誰頼		横切紙/(1150-1~2は巻込一括)・1通	1150-1
覚(雄勝郡岩崎村当高13石余、平均御竿入れ置くに付減高御引落御判紙御書替仰せ上げらるべき旨) 茂又新太郎・立原兵左衛門・片庭久兵衛・小貫忠助・杉山三太郎・中川弥三郎→(佐竹)左衛門殿誰頼		横切紙・1通	1150-2
別紙覚(寺領41石余と相川村などの高所務分書上に付、当春御知行所御吟味にて渡されし御書付に元付き申上げる旨)	壬戌11月14日	横切紙・1通	1006-1

1.15.1.5. 年貢・小役銀

(延享元年以降の上り高・小役銀高などに関する計算書)	(延享元年～)	横切紙・1通	853
覚(佐竹三郎支配御足輕前知行雄勝郡上関村・下関村毛引高書上) 志賀喜右衛門(印)・熊谷東八(印)・佐藤吉兵衛(印)→	宝暦6年子9月20日	堅紙・1通	631
覚(佐竹三郎知行所の内土手下成につき小役銀御蔵出し分銀2匁6分4厘請取手形) 佐竹三郎内飯田嘉左衛門→御金蔵役三人家名	宝暦6年子12月25日	堅紙・1通	252
乍恐以口上書奉願上候御事(当村困窮にて去年は悪作に付、毛見・毛引と作食拝借などを願ひ上げる旨) * (包紙上書)「上 御ひかへ 桑崎村」 桑崎村肝煎又五郎(印)・同村長百姓作兵衛・同利右衛門→	安永2年巳2月	堅継紙・1通	397

証文之事(当村多吉田地370刈の上米のうち3斗入9俵1斗3升年貢米返済分を私方より渡す旨) 杉宮村田地作子伊助(印)→御閑居様	安永4年末3月	堅切紙・1通	374
天明六年上関村捨り高(高3石8斗2升5合にて相違なき旨) 上関村肝煎久左衛門(印)→	天明6年午閏極月20日	堅紙・1通	175
(包紙) * (包紙上書)「休高御調一紙 湯沢御足輕前 御証拠下書も入 下関村」		包紙/(172-1~3は包紙一括)・1点	172-1
(支配御足輕前当高雄勝郡下関村7斗7升7合は2年間休高になる旨の書付) 杉山三太郎(印)・石川文治(印)・宇名治右衛門(印)→	寛政3年10月13日	堅切紙・1通	172-2
覚(支配御足輕知行所雄勝郡小野村の当高7斗2升6合は、当亥年より卯年まで5年御償い下し置かれる旨の申渡) * (付箋)「湯沢屋敷番」 茂又新太郎・坂元吉五郎・杉山三太郎・戸沢与右衛門→左衛門殿屋敷番	亥10月	横切継紙・1通	172-3
上(当村郷備米を郷蔵普請料として引き落とすのは延引下されたき旨) 惣百姓、(奥書)杉宮村肝煎亀藏(印)・同村長百姓専之助(印)・理右衛門[印]・文四郎(印)・辰藏(印)・重藏(印)・鶴松(印)→肝煎亀藏殿・惣長百姓衆中	元治元年子9月	半・1通	888
村々銀穀受取帳(平鹿郡今泉村・雄勝郡猿半内村ほかの知行当高)	慶応4年辰10月21日	横長半・1冊	806

1.15.1.6. 領外廻米

(包紙) * (包紙上書)「能登部村式千七百俵辰ノ年受取手形拾八枚ニ而 正徳三年赤須左太夫持参 巳五月十二日」	正徳3年5月12日	包紙/(254-1~11は綴一括)・1点	254-1
覚(御払米1万800俵の代銀99貫522匁差上げ、寅年より巳暮まで4年間1年に郷納米2700俵ずつ御渡しの御定めのところ、寅年分2700俵受取の旨) 大坂久宝寺屋太兵衛代判湊宿駒野屋平左衛門(印「秋田湊《輪違い紋》駒野屋」)→淡路様御内小助川吉左衛門殿・佐々木治右衛門殿	宝永8年卯4月19日	堅紙・1通	254-2
覚(大坂久宝寺屋太兵衛方へ卯年御渡米2700俵の内淡路様御助成郷納升300俵請取申すに付) 駒野屋平左衛門(印「秋田湊《輪違い紋》駒野屋」)→小助川吉左衛門殿・佐々木次右衛門殿	正徳2年辰4月22日	堅切紙・1通	254-3
覚(大坂久宝寺屋太兵衛方へ卯年分御渡米2700俵の内淡路様御米郷納升269俵請取申すに付) 駒野屋平左衛門(印「秋田湊《輪違い紋》駒野屋」)→小助川吉左衛門殿・佐々木次右衛門殿	正徳2年辰4月24日	堅切紙・1通	254-4
覚(淡路様御米俵成にて860俵請取預かり申すに付) 駒野屋平左衛門(印「秋田湊《輪違い紋》駒野屋」)→加納長左衛門殿	正徳2年辰5月18日	堅切紙・1通	254-5
覚(淡路様御米291俵成にて預かり申すに付仮手形) 駒野屋平左衛門(印「秋田湊《輪違い紋》駒野屋」)→加納長左衛門殿	辰6月6日	堅切紙・1通	254-6
覚(淡路様御米400俵預かり申すに付仮手形) 駒野屋平左衛門(印「秋田湊《輪違い紋》駒野屋」)→加納長左衛門殿	辰6月13日	堅切紙・1通	254-7
覚(淡路様御米150俵預かり申すに付仮手形) 駒野屋平左衛門(印「秋田湊《輪違い紋》駒野屋」)→加納長左衛門殿	辰6月13日	堅切紙・1通	254-8

1. 家/1.15. 家政/1.15.1. 知行地/1.15.1.6. 領外廻米

(淡路様湯沢村御米125俵にて預かり申すに付仮手形) 駒野屋平左衛門(印「秋田湊《輪違い紋》駒野屋」)→加納長左衛門殿	辰6月22日	堅切紙・1通	254-9
覚(大坂久宝寺屋太兵衛方へ御渡米卯年分2700俵のうち御米305俵請取に付) 駒野屋平左衛門(印「秋田湊《輪違い紋》駒野屋」)→佐々木次右衛門殿・小介川吉左衛門殿	正徳2年辰12月10日	堅切紙・1通	254-10
覚(辰暮御渡し湯沢様御米1280俵請取に付仮手形) 駒野屋平左衛門(印「秋田湊《輪違い紋》駒野屋」)→大山軍太夫殿・加納市郎兵衛殿	正徳3年巳4月8日	堅切紙・1通	254-11
(知行所物成米300俵先売代銀30貫目受取手形、米は久保田馬口旁町加納長左衛門蔵入にて渡す旨) 加納重兵衛・佐貫平八郎(印墨消)→摂州大坂久宝寺屋多兵衛殿・湊蔵宿間杉五郎八殿	享保元年申11月29日	堅紙/(宛所は掛紙訂正あり)・1通	255

1.15.1.7. 上米・指上銀

(淡路殿去年上米21石6升8合俵数76俵2斗4升4合受取手形) 萩庭市左衛門(印)・小貫三左衛門・深や郷左衛門・黒木藤二左衛門[印]→鹿内村治部殿	元禄4年未4月2日	堅切紙/(250-1～20は一綴)・1通	250-1
(淡路殿去年上米220石2斗7升2合俵数800俵2斗7升2合受取手形) 黒木藤次左衛門[印]・小貫三左衛門・深谷郷左衛門・萩庭市左衛門(印)→桑ヶ崎村七左衛門殿	元禄4年未4月2日	堅切紙・1通	250-2
(淡路殿去年上米65石8斗1升4合俵数233俵1斗8合受取手形) 小貫三左衛門[印]・深谷郷左衛門・萩庭市左衛門・黒木藤二左衛門→川井村長吉殿	元禄4年4月6日	堅切紙・1通	250-3
(淡路殿去年上米73石4斗8升7合俵数260俵1斗6升7合受取手形) 萩庭市左衛門・深谷郷左衛門・小貫三左衛門[印]・黒木藤二左衛門[印]→役内村吉十郎殿	元禄4年4月6日	堅切紙・1通	250-4
(淡路殿去年上米91石8斗9升2合俵数337俵2斗2升8合受取手形) 深谷郷左衛門(印)・萩庭市左衛門(印)・小貫三左衛門・黒木藤二左衛門→床舞村七兵衛との	元禄4年4月12日	堅切紙・1通	250-5
(淡路殿去年上米110石1斗6升3合俵数389俵7升6合受取手形) 深谷郷左衛門(印)・萩庭市左衛門(印)・黒木藤二左衛門・小貫三左衛門→高松村四郎左衛門との	元禄4年4月12日	堅切紙・1通	250-6
(淡路殿去年上米45石7斗4合俵数157俵1升7合受取手形) 黒木藤二左衛門・深谷郷左衛門(印)・小貫三左衛門・萩庭一左衛門(印)→泉沢村十兵衛殿	元禄4年4月16日	堅切紙・1通	250-7
(淡路殿去年上米1石2斗5合俵数4俵9升3合受取手形) 萩庭市左衛門(印)・小貫三左衛門・深谷郷左衛門(印)・黒木藤二左衛門→宇留院内村羽左衛門殿	元禄4年4月16日	堅切紙・1通	250-8
(淡路殿去年上米3石7斗6合俵数13俵1斗8升3合受取手形) 黒木藤二左衛門・萩庭一左衛門(印)・深谷郷左衛門(印)・小貫三左衛門→八幡村空左衛門との	元禄4年4月16日	堅切紙・1通	250-9
(淡路殿去年上米161石7升俵数579俵1斗8合受取手形) 小貫三左衛門・深谷郷左衛門(印)・黒木藤二左衛門・萩庭一左衛門(印)→鮎川村市郎兵衛殿	元禄4年4月16日	堅切紙・1通	250-10
(淡路殿去年上米70石8斗5升俵数261俵1斗1升受取手形) 黒木藤二左衛門(印)・小貫三左衛門・深谷郷左衛門(印)・萩庭市左衛門→大戸村伊兵衛殿	元禄4年4月25日	堅切紙・1通	250-11

(淡路殿去午年上米57石4斗1升9合俵数208俵2斗1升9合受取手形) 深谷郷左衛門(印)・小貫三左衛門・黒木藤二左衛門(印)・萩庭市左衛門→杉宮村喜兵衛との	元禄4年4月25日	堅切紙・1通	250-12
(淡路殿去午年上米8石5斗4升5合俵数30俵2斗6升5合受取手形) 萩庭市左衛門・深谷郷左衛門(印)・小貫三左衛門・黒木藤二左衛門[印]→堀廻村五郎左衛門との	元禄4年5月1日	堅切紙・1通	250-13
(淡路殿去午年上米35石5斗5升3合俵数128俵2斗2升5合受取手形) 深や郷左衛門(印)・萩庭市左衛門・小貫三左衛門・黒木藤次左衛門[印]→石塚村多兵衛との	元禄4年5月2日	堅切紙・1通	250-14
(淡路殿去午年上米59石7斗3升7合俵数213俵9升7合受取手形) 黒木藤次左衛門[印]・小貫三左衛門・萩庭市左衛門・深谷郷左衛門(印)→切畑村作左衛門との	元禄4年5月2日	堅切紙・1通	250-15
(淡路殿去午年上米97石6斗5升7合俵数345俵2升2合受取手形) 黒木藤次左衛門[印]・萩庭市左衛門・小貫三左衛門・深谷郷左衛門(印)→松岡村兵右衛門殿	元禄4年5月2日	堅切紙・1通	250-16
(淡路殿去午年上米71石1升俵数270俵受取手形) 黒木藤次左衛門[印]・小貫左衛門・萩庭市左衛門・深谷郷左衛門(印)→野中村治兵衛との	元禄4年5月2日	堅切紙・1通	250-17
(淡路殿去午年上米8石9斗6升俵数32俵受取手形) 深や郷左衛門(印)・小貫三左衛門・萩庭市左衛門・黒木藤二左衛門[印]→野中村治兵衛との	元禄4年5月2日	堅切紙・1通	250-18
(淡路殿去午年上米5斗2升6合俵数1俵2斗5升2合受取手形) 深谷郷左衛門(印)・小貫左衛門・萩庭三左衛門・黒木藤二左衛門→野中村仁右衛門との	元禄4年5月8日	堅切紙・1通	250-19
(淡路殿去午年上米25石3斗6升2合俵数92俵1斗5升4合受取手形) 小貫三左衛門(印)・深谷郷左衛門・黒木藤二左衛門・萩庭市左衛門→中村五右衛門との	元禄4年5月8日	堅切紙・1通	250-20
(寅年淡路殿差上米並びに湯沢御藏上納米615石受取手形) 指木平兵衛[印]・川尻長右衛門[印]・湊金右衛門(印)・高久新右衛門(印)→小介川内蔵助殿	元禄13年辰2月19日	堅切紙・1通	251
覚(去丑年より米300石・同寅年より銀2貫目の合力を下し置かれる所、この度旧知の内返し下される事ゆえ合力は御引揚げると、当午年より来申年までは金100両宛合力成し下されるに付)	(寛政10年)3月	横切継紙/ (677-1~678は包紙一括)・1通	678
証文(御備金10両借用証文) * (包紙上書)「一札入」 小野寺主水内箕浦金次(印)→湯沢様御家来殿	文久元年酉12月	堅紙・1通	243
(包紙) * (包紙上書)「上 御払符」		包紙/(247-1~3は包紙一括)・1点	247-1
覚(指上銀7貫600目銀勘定書付) 斎藤五左衛門・芳賀四方之助・生田目武右衛門・萩屋弥右衛門→	巳4月8日	横切継紙・1通	247-2
覚(3斗入973俵代銀5貫838匁勘定書付) 斎藤五左衛門・芳賀四方之助・生田目武右衛門・萩屋弥右衛門→	巳2月23日	堅紙・1通	247-3

1.15.1.8. 産業奨励

覚(雄勝郡一円の漆・蠟などの山里実共買担方御任セの証拠を御渡し下されたき旨の願書) * (包紙上書)「覚 山里実証拠」 湯沢屋敷番御代主殿→	文久2年戌10月	横切継紙/(876~877は包紙一括)・1通	876
------------------------------------------------------------------------	----------	------------------------	-----

1. 家/1.15. 家政/1.15.1. 知行地/1.15.1.8. 産業奨励

(雄勝一郡漆取立并漆実買纏蠟製方を御開産に付、漆実買入値段などを取調べるべき旨) 山縣伊織(印)・黒沢中兵衛(印)・熊谷舎人・後藤又左衛門・奈良力蔵・上曾直江(印)・土濃塚長右衛門・加藤老之助・平沢内蔵進(印)・小峰喜七郎→	文久2年戌10月	横切継紙・1通	877
覚(養蚕方御取運御難渋、御手当等の御沙汰及ばれ難きに付、御拝借の500貫文は御返納に及ばず、当卯年より桑畑運上金3割分を渡さるべき旨) *(包紙上書)「桑畑運上言渡書入」	12月	横切継紙・1通	297
口達覚(沼ノ台より御嶽まで5ヶ山御林内にある漆木の搔取に付、御益筋の方法を申上げる旨)		縦継紙・1通	875

1.15.2. 拝借・合力米金

覚(去卯年凶作のため自力にて家来共扶助の手当無きに付、御積をもって拝借仰せ付けられ下されたき旨) *(後筆)「写」 佐竹左衛門→	5月	横長半/(1068-1～8は紙縫一括)・1冊	1068-1
覚(江戸登の物入などにて必止と指迫るに付、返上米は湯沢御蔵へ返上仰せ付けられ下されたき旨) *(後筆)「写済」 佐竹左衛門→	11月	横長半・1冊	1068-3
覚(雄勝郡八幡村近郷、御検地役調および宥赦高仰せ付けられたき旨申し出でるに付) *(後筆)「写」 佐竹左衛門→	(安永5年)6月	横折紙・1通	1068-4
覚(内証向逼迫により、格別の思し召しをもって銀10貫目拝借仰せ付けられるに付) *(後筆)「写済」	2月	横切継紙・1通	1068-5
覚(六郡村々毛見願の件、並びに高15石以上へは御扶持5人扶持より一人扶持ずつ借し置かれる旨の申渡書)	8月	横切紙・1通	1068-6
覚(去卯年凶作のため自力にて家来共扶助の手当無きに付、御積をもって拝借仰せ付けられ下されたき旨) *(後筆)「写」/1068-2と同文 御苗御名→	5月	横切継紙・1通	1068-7
御草案(拙者内証向不如意により上の助力をもって指揮致すところ、今年に至り必止の差し支えに付引継願を指し出す旨、刑部様宛の別紙も記す) *(端裏書)「御老衆へ被進候御艸稿」/「写済」とあり 御苗御名前 御判→岡本刑部様・戸一学様・疋田斎様・向勘七郎様	(天明6年)2月	横切継紙・1通	771
(知行所凶作にて財用向差支えに付助成米願) *(端書)「天明六年閏十月御願御草稿」/下書	(天明6年)閏10月	半・1冊	623
(包紙) *(包紙上書)「寛政十年午ノ三月廿九日御登被為入候節被仰蒙御書付并ニ御合力御書付、志賀九十九ヲ以十郎兵衛殿へ被仰渡御広問ニ而拙者共へ被相渡候」	寛政10年午3月29日	包紙/(677-1～678は包紙一括)・1点	677-1
(包紙) *(包紙上書)「御自筆御書付写」		包紙・1点	677-2
(書状、組下支配出情により、今般格別の存慮を以て佐竹南家の旧知高の内500石返し置くに付)	(寛政10年)3月	横切継紙・1通	677-3
御合力米帳(米272石7斗2升7合を御受取なされたき旨) 御評定處→佐竹左衛門(義孟)殿	弘化3年午12月	半・1冊	842
覚(手前在府屋の儀、内外大破に付修復手入致したきものの、内証向不如意、仕向難渋に付、拝借願) 佐竹左衛門→	2月11日	横長半・1冊	1019

(書状、拙者内証向極段の差し支えにて、去春中銀2貫目の御助成を受けるも又々家来菊地孫兵衛を指登らせて役人共へ願うに付、御心添を頼みたま旨) * (端書)「猶々御手廻様方江茂可然様御頼致候、且不相替輕少之兩種書中之印迄進上致候、已上」→向庄九郎様	2月22日	縦継紙・1通	391
(書状、諸向積年差し支え、家来共扶助手当のため銀2貫目下し置かれるも、去年中兩度の不幸にて手段なきに付、御心添を偏に御頼み申す旨) 御苗御名→須田美濃様	2月22日	折紙/(墨消あり)・1通	1117
覚(南家内証向窮迫に付銀10貫目拝借・銀7貫目助成成し下されたま旨の願書、南家の財用向の状況説明共) 佐竹左衛門→	2月	横長半・1冊	416
(書状、去春中家頼安東栄治指し登らせた際、格段の思し召しにて銀2貫目下し置かれあり難き旨) 御名計小奉書→岩屋弥兵衛殿・黒木忠兵衛殿・吉川和助殿・赤尾関織部殿・大久保久治殿	2月	折紙・1通	1146-1
(書状、去春中家頼田中忠藏指し登らせた際、格段の思し召しにて銀子7貫目下し置かれあり難き旨) →吉川和助殿・牛丸市右衛門殿・岩屋孫兵衛殿・黒木忠兵衛殿・鈴木与一左衛門殿・代り石井庄左衛門殿	正月	折紙/(1146-2～4は一綴)・1通(2枚)	1146-2
(書状、去春中家頼安東栄治指し登らせた際、格段の思し召しにて銀10貫目下し置かれあり難き旨) →吉川和助殿・牛丸市右衛門殿	2月	折紙・1通	1146-3
(書状、財用向難渋にて御助成向願ひ申すため家頼田中忠藏指し登らせるに付、其表何分宜しく御心添えを偏に頼み入る旨) →岩屋弥兵衛殿・黒木忠兵衛殿	2月	折紙・1通	1146-4
覚(此度旧知の内返し下されし事ゆえ、米300石・銀2貫目の御合力を御引き揚げ成されるに付) * (包紙上書)「御自筆御書付写」	3月	横切継紙/(1132-1～2は紐一括)・1通	1132-1-1
(書状、先年其方知行高の内少なからず荒廢等有り勝手向難渋の段内聴に達すに付、今般格別の存慮を以て旧知高の内500石返置く旨)	3月	横切継紙・1通	1132-1-2
口達(今年家中扶助の手段これ無きに付、格別の思し召しを以て銀10貫目拝借仰せ付けられるに付)	3月	横切継紙・1通	1144
覚(手前知行所沢目通りの村々不熟にて毛見高願出るゆえ引高を申し達す旨、並びに雄勝郡役内村川井村では去冬より飢命に及ぶ百姓数多くあるに付拝借仰せ付けられたき旨) * (端裏書)「写済辰夏中遣候分此通りに久保田へ遣分 辰四月中」	辰4月	横切紙・1通	1007
覚(御滞府御願が御願ひの通り相済むに付、指上銀穀返上方御覧の御沙汰を頼み入る旨) * (端裏書)「写済」御苗御名→	5月朔日	横切継紙・1通	943-1
(書状下書、去る延享年中不慮の不幸により高を召し上げられ、残り高4千石余りに相成り、不如意の旨) * (裏書)「扣メ」		横切継紙・1通	943-2
覚(手前諸向難渋に及び、家来共扶助なり難きに付助成願を申し立てる旨、当時より秋中まで取り続きの手段これ無きに付申し上げる旨、金130両を御助力下されたま旨) 御苗御名→	6月	横切継紙・1通	1018-1

1. 家/1.15. 家政/1.15.2. 拝借・合力米金

覚(去戌正月申より嫡子御扶持共に召し上げられ面々難渋に相及ぶ所、別して2人御扶持方の者38人は御奉公相成り兼ねるに付、1人に付米3石ずつ御助成成し下されたき旨) 御苗御名→	4月27日	横切継紙・1通	1018-2
覚(手前内証不如意にて是迄御助成成し下されるも、吉凶の物入り打ち続き至って急迫に及ぶに付、米300石宛10ヶ年助成くだされ有り難き旨ほか) 佐竹左衛門→	8月	横長半・1冊	1022
覚(銀穀598石余ほか返上方延引願) *写 佐竹左衛門→	11月15日	半・1冊	622
(書状、御拝借御願の儀此御時節ながら宜しく仰せ出され有難く存じ奉る旨、並びに江戸表省略始まりの件等) *後欠		横切紙・1通	1081
(書状、今年も願筋申し達す外これ無く、其の節は何分宜しく御心添御願い仕るに付) *下書		縦紙・1通	1096
(願書、家中窮迫のため拠んどころなく拝借御願を致す旨) *下書		縦紙・1通	1097
(書状、薬流院淡路不幸など打続き、内証向き必死と相迫り拠無く御願申し上げるに付) *下書		縦紙・1通	1098

1.15.3. 用座(湯沢)

1.15.3.1. 用状

(雄勝郡関口村三右衛門が拾った鉄砲を請取、御兵具蔵へ差し置くよう御評定所より仰せ渡しの旨) 奈良圓太(印)・小池忠蔵[印]→岩崎源内殿	文化13年子年4月9日	縦紙・1通	850
(佐竹左衛門方にて持えた大筒2挺について、文化5年の拝借手形を此度認め直して引き替えたき旨) 佐竹左衛門内岩崎源内→根岸隼太殿・益田治右衛門殿	文化14年丑11月26日	縦紙・1通	851
横手遣し候書状案紙写(近年其方様よりの御書御文面が御手高に付、ほか書状文言に関する要請の文案) 正田第七郎・佐藤宇兵衛・大和市兵衛・御代九十郎→今村理右衛門様	巳2月13日	横長半・1冊	1104
(書状、古切支丹縁者親類病死の際の見分手続きについて江戸より仰せ付けられるに付) 平沢四郎右衛門通定(花押)→田中庄太夫殿・荒巻掃部殿	3月28日	折紙・1通	321
(書状、湯沢御米蔵役石井専之助罷り登るに付、左衛門様より貴翰成し下され拝見仕る旨) *(包紙上書)「原田織江殿・山方市之助殿・田中造酒殿 清水衛門」 清水衛門通(花押)→原田織江殿・山方市之助(ママ)殿・田中造酒殿	3月11日	折紙/(1125-1~4は紐一括)・1通	1125-1
(書状、湯沢御米蔵役菊地助之進罷り登るに付、三郎様より貴翰成し下され拝見仕る旨) *(包紙上書)「荒巻重蔵殿・原田時也殿 清水衛門・信太理兵衛」 清水衛門通(花押)・信太理兵衛高(花押)→荒巻重蔵殿・原田時也殿	12月	折紙・1通	1125-2
(書状、湯沢御米蔵役益子又八罷り登るに付、左衛門様より貴翰成し下され拝見仕る旨) *(包紙上書)「原田織江殿・山方市之進殿・田中造酒殿 清水衛門・跡部惣兵衛」 跡部惣兵衛改(花押)・清水衛門通(花押)→原田織江殿・山方市之進殿・田中造酒殿	4月23日	折紙・1通	1125-3

(書状、湯沢御米蔵役菊地助之進罷り登るに付、三郎様より貴翰成し下され拝見仕る旨) * (包紙上書)「荒巻重蔵殿・山方蔵人殿・原田織衛殿 清水衛門・大久保正太」 清水衛門通(花押)・大久保正太盛(花押)→荒巻重蔵殿・山方蔵人殿・原田織衛殿	3月6日	折紙・1通	1125-4
(書状、この度御鷹場先規の通り御免遊ばされる由を仰せ出されるに付) * (包紙上書)「御代半蔵殿 平野丹波」 平野丹波興世(花押)→御代半蔵殿	10月2日	折紙・1通	82

1.15.3.2. 支払い勘定手形

(相川村過納代銭284文を相渡す旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月4日	堅切紙/(257-1~3は一括)/ (257-1-1~24は綴一括)・1通	257-1-1
(関口村過納銭123文を相渡す旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月4日	堅切紙・1通	257-1-2
(院内村過納銭122文を相渡す旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月6日	堅切紙・1通	257-1-3
(下関村過納銭81文を相渡す旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月7日	堅切紙・1通	257-1-4
(小町過納銭3文を相渡す旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月7日	堅切紙・1通	257-1-5
(川井村過納銭2貫863文を相渡す旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→川井村肝煎殿	辰2月8日	堅切紙・1通	257-1-6
(中村過納銭102文相渡す旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月8日	堅切紙・1通	257-1-7
(野中村過納銭469文を相渡す旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月10日	堅切紙・1通	257-1-8
(杉宮村過納銭470文を相渡す旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月10日	堅切紙・1通	257-1-9
(大戸村過納銭318文を相渡す旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月10日	堅切紙・1通	257-1-10
(惣戸村過納銭3文を相渡す旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月11日	堅切紙・1通	257-1-11
(杉沢村過納銭165文を相渡す旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月20日	堅切紙・1通	257-1-12
(角間村過納銭231文を相渡す旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月20日	堅切紙・1通	257-1-13
(森村過納銭218文を相渡す旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月20日	堅切紙・1通	257-1-14
(猿半内村過納銭81文を相渡す旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月20日	堅切紙・1通	257-1-15
(御小屋番忠四郎へ銭2貫220文相渡されるべき旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月27日	堅切紙・1通	257-1-16
(切畑村丑蔵へ銭7貫770文相渡されるべき旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	辰3月20日	堅切紙・1通	257-1-17

1. 家/1.15. 家政/1.15.3. 用座(湯沢)/1.15.3.2. 支払い勘定手形

(大町吉右衛門へ錢7貫404文相渡されるべき旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月28日	堅切紙・1通	257-1-18
(御山守長右衛門へ錢2貫220文相渡されるべき旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月28日	堅切紙・1通	257-1-19
(坂野又兵衛へ錢53文相渡されるべき旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→御蔵本佐藤久右衛門殿	辰2月29日	堅切紙・1通	257-1-20
(御山守長右衛門へ錢19文相渡されるべき旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→御蔵本佐藤久右衛門殿	辰2月29日	堅切紙・1通	257-1-21
(岡田宅右衛門へ錢10文相渡されるべき旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月29日	堅切紙・1通	257-1-22
(小川長右衛門へ錢1貫244文相渡されるべき旨の勘定手形) 高橋彦兵衛(印)→佐藤久右衛門殿	辰2月29日	堅切紙・1通	257-1-23
(下村武兵衛へ錢17貫482文相渡されるべき旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	辰3月10日	堅切紙・1通	257-1-24
(泉院寺分御代錢660文を九十郎へ相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯2月16日	小切紙/(257-2-1 ~33は綴一括)・ 1通	257-2-1
(御中間葛平へ錢924文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯正月19日	小切紙・1通	257-2-2
(小川多之吉へ錢13貫235文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯正月20日	小切紙・1通	257-2-3
(御本方御役所へ錢9貫77文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯正月25日	小切紙・1通	257-2-4
(御本方御役所へ錢1貫647文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯正月26日	小切紙・1通	257-2-5
(長谷寺宗元へ錢238文相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯2月3日	小切紙・1通	257-2-6
(佐藤左内へ錢70文相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯2月3日	小切紙・1通	257-2-7
(千葉八十八へ錢517文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯2月3日	小切紙・1通	257-2-8
(菊地又一郎へ錢670文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯2月3日	小切紙・1通	257-2-9
(渡部官蔵へ錢25文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯2月3日	小切紙・1通	257-2-10
(坂野又兵衛へ錢19文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯2月3日	小切紙・1通	257-2-11
(古川養七へ錢8貫65文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯2月3日	小切紙・1通	257-2-12
(高橋民部へ錢20文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯2月3日	小切紙・1通	257-2-13
(佐藤久右衛門へ錢290文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯2月5日	小切紙・1通	257-2-14
(藤本平兵衛へ錢39文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	卯2月5日	小切紙・1通	257-2-15

1. 家/1.15. 家政/1.15.3. 用座(湯沢)/1.15.3.2. 支払い勘定手形

(野中村物成過納銭349文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方案	卯2月7日	小切紙・1通	257-2-16
(大戸村物成過納銭271文を相渡されるべき旨の勘定手形) 河(ママ)田圓之助(印)→御本方案	卯2月7日	小切紙・1通	257-2-17
(岩崎氏へ銭713文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方案	卯2月8日	小切紙・1通	257-2-18
(物成過納により銭727文相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方案	卯2月12日	小切紙・1通	257-2-19
(桑崎村物成過納により銭534文を相渡されるべき旨の勘定手形) 金子義助[印]→御本方案	卯2月14日	堅切紙・1通	257-2-20
(中村物成過納により銭455文を相渡されるべき旨の勘定手形) 金子義助[印]→御本方案	卯2月14日	堅切紙・1通	257-2-21
(造石村物成過納により銭26文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方案	卯2月15日	小切紙・1通	257-2-22
(川井村物成過納により銭308文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方案	卯2月15日	小切紙・1通	257-2-23
(杉宮村物成過納により銭400文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方案	卯2月17日	小切紙・1通	257-2-24
(九十郎へ返上銭5貫227文を御請取なさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方案	卯2月17日	小切紙・1通	257-2-25
(桑崎村物成過納566文の内32文不足の旨の勘定書付) 御蔵→御本方様	2月14日	小切紙・1通	257-2-26
(御足輕浅右衛門へ銭823文を相渡されるべき旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→御蔵本久右衛門殿	卯12月28日	堅切紙・1通	257-2-27
(赤須小右衛門へ銭1貫900文を相渡されるべき旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→御蔵本久右衛門殿	卯12月28日	堅切紙・1通	257-2-28
(古川養七へ銭6貫415文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御蔵本久右衛門殿	卯12月29日	堅切紙・1通	257-2-29
(佐藤左内へ銭175文を相渡されるべき旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→御蔵本久右衛門殿	卯12月29日	堅切紙・1通	257-2-30
(御山守重蔵へ銭315文を相渡されるべき旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→御蔵本久右衛門殿	卯12月29日	堅切紙・1通	257-2-31
(御元方役所へ銭16貫444文を差し出されるべき旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	卯12月30日	堅切紙・1通	257-2-32
(諸越長右衛門へ銭815文を相渡されるべき旨の勘定手形) 須藤貞右衛門(印)→佐藤久右衛門殿	卯12月30日	堅切紙・1通	257-2-33
(相川村肝煎へ銭428文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方案	寅2月4日	小切紙/(257-3-1~18は綴一括)・1通	257-3-1
(高橋彦兵衛へ銭2貫100文を相渡されるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→小川多郎吉殿	寅11月23日	小切紙・1通	257-3-2
(堀尾清治へ銭1貫320文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方案	寅11月26日	小切紙・1通	257-3-3
(岡見丈助へ銭1貫240文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方案	寅11月26日	堅切紙・1通	257-3-4

1. 家/1.15. 家政/1.15.3. 用座(湯沢)/1.15.3.2. 支払い勘定手形

(岡見丈助へ錢2貫180文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	寅11月26日	堅切紙・1通	257-3-5
(鈴木吉右衛門へ錢1貫320文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	寅11月28日	堅切紙・1通	257-3-6
(菊地重治へ錢744文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	寅11月28日	堅切紙・1通	257-3-7
(大内源四郎へ錢1貫320文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	寅11月28日	堅切紙・1通	257-3-8
(石井与右衛門へ錢1貫760文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	寅12月朔日	堅切紙・1通	257-3-9
(御木屋へ返上により錢610文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	寅12月18日	小切紙・1通	257-3-10
(竹内多門へ錢462文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	寅12月	小切紙・1通	257-3-11
(石井与右衛門へ錢563文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 金子義助[印]→御本方衆	寅12月18日	堅切紙・1通	257-3-12
(川口種平へ錢770文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	寅12月25日	小切紙・1通	257-3-13
(石山団治へ錢437文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	寅12月30日	小切紙・1通	257-3-14
(錢826文をこの書付と引替に御渡し下さるべき旨の手形) 金子義助[印]→御本方衆	寅12月26日	小切紙・1通	257-3-15
(御中間八右衛門へ錢220文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	寅12月26日	小切紙・1通	257-3-16
(山方氏へ錢5貫232文を御渡しなさるべき旨の勘定手形) 川田圓之助(印)→御本方衆	寅12月27日	小切紙・1通	257-3-17
(一二三へこの書付と引替えに錢3貫80文御渡しなさるべき旨の勘定手形) 金子義助[印]→御本方衆	寅12月28日	堅切紙・1通	257-3-18

1.15.3.3. 受払い書ほか

(丁銀7貫500目御用立に付、返進まで当高20石の証拠文書を預りおく旨) 長谷寺[印]・宮原七左衛門(印)→荒巻十蔵殿・赤須左太夫殿・佐貫平八郎殿	正徳5年末4月28日	堅紙・1通	256
覚(鹿毛駒・栗毛駒御諍馬御取の証文に付) *(端裏書)「返り証文 泉七郎左衛門」 泉七郎左衛門(印)→菊地孫兵衛殿	享保15年戌9月23日	堅紙・1通	376
浮炭代通帳(卯年浮炭32メ余の代516文ほか出入金額の書付、表紙・裏表紙の余白部分に金子を私用に致すまじき旨の戒め書あり) 御記録所(裏表紙には「御台所」とあり)→	文化5年辰3月	横半半・1冊	852
御用座御備金帳(貸付口などの書上)	文政12年丑4月吉日(～天保3年)	横長半・1冊	442
覚(文金23両1歩預証文) 藤木平兵衛(印)「ユサワ《山形に木紋》藤木」→	文政13年寅12月	堅切紙・1通	843
(左衛門殿御拝借分として米輕升30石受取書) 川又吉郎治(印)→中村伊太夫殿	天保3年辰閏11月23日	堅切紙・1通	844

(伊太夫様より仕送り銭662匁857文請取書) 荻崎金蔵(印)→佐藤礼治様	天保4年巳12月24日	堅切紙・1通	845
(湯沢御屋敷御分として米軽升3石9斗6升8合の受取書) 仁平礼蔵(印)→相川村肝煎(カ)十兵衛	天保9年戌12月	堅切紙・1通	846
(兼ねて御世話申し上げている1000貫文の元利金銅銭1090貫文に関する佐藤久右衛門の預書を受け取った旨) 仁平礼蔵(印)→山方市之進様	戌11月29日	堅紙・1通	848
御用钱受払御勘定帳(ろふ運上・足軽小役銀・小買物代など)	天保14年卯(～弘化4年)	横半半・1冊	1173
御勘定帳(入金・払金書上、入金は足軽小役など)	嘉永元年申	横半半・1冊	1184
諸払帳(漢方薬調剤の法、食品・雑貨などの買物代金の書付)	嘉永2年己酉正月	横長半・1冊	453
御用立金銭御勘定帳(原田様・荒巻様御指図にて出金などの日々用立金留、元利匁223貫602文) 小川長右衛門(印)→上	嘉永7年甲寅12月	横半美・1冊	826
萬覚(小川長右衛門より入金、うどん・にわとりなど贈物の代金書上など)	嘉永7年寅正月	横半半・1冊	827-1
覚(金2両拝領) 金沢岩右衛門(印)「秋田湯沢大町金澤」→上	嘉永7年寅10月15日	横切紙/(827-1の挟込文書)・1通	827-2
(御用座米銀受払関係文書綴)		綴/(828-1-1～24まで紙縫り一綴)・1綴	828-1
(相川村ほか10ヶ村分年貢米銀高指引勘定、石匁53石5斗9升7合・保銀匁293匁6分8厘)		横長半・1冊	828-1-1
(半紙10文代金350文請求書) 大町 文平→高橋門弥様 御取次	6月24日	横切紙・1通	828-1-2
(佐々藤左衛門・岡田宅右衛門らへ急事用立金書付)		横切紙・1通	828-1-3
(渡辺四兵衛・岩屋兵次らへ渡し銭書付)		横切紙・1通	828-1-4
(御米蔵の米銀差引勘定書付、断簡)	寅12月	横切紙・1通	828-1-5
口上(入中村平蔵へ下され金1分を御渡し下されたき旨) 堀尾→原田様	2月6日	横切紙・1通	828-1-6
(為替分1129匁750文に関する明細書付) 山方→原田様	寅12月大晦日	横切紙・1通	828-1-7
別段小役銀(岩見助右衛門へ渡し銀など差引匁10貫885文)		横切継紙・1通	828-1-8
覚(御勘定御用立金書上、匁233匁602文) 小川長右衛門→上	卯正月14日	横切継紙・1通	828-1-9
覚(金子15両差上げ、内2両は弘化元年に差上げ、13両は此度差上げ) 小川圓之助・芳賀小八郎→	寅8月	横切紙・1通	828-1-10
寅年別段御物成御小役銀村々(相川村ほか11ヶ村分軽米・保銀、匁49石4斗4升1合、255匁3分8厘)		横切継紙・1通	828-1-11
(書状、切畠村へ下された金子9歩の拝領を仰せ付け下されたき旨) 堀尾→原田様	2月7日	横切紙・1通	828-1-12

1. 家/1.15. 家政/1.15.3. 用座(湯沢)/1.15.3.3. 受払い書ほか

覚(桑畑運上金・桑苗木代ほか勘定、差引90文過を沼倉七郎へ御渡し下されたき旨) 佐々木禮治→		横切継紙・1通	828-1-13
覚(233匁602文御用立匁につき、御返付状況の書上並びに返付依頼) 小川長右衛門→上 御取次	寅極カ30日	横切継紙・1通	828-1-14
覚(12月小役銀匁高1貫407匁2分2厘より返上分・拝領分など差引勘定書) 古川喜市郎→山村周藏	嘉永6年丑12月分	横切継紙・1通	828-1-15
覚(12月渡足輕小役銀・松高梅治合力銀ほか書上、残銀938貫984文を為替にて仕送りの旨) 佐々木禮治→御用座	寅12月	横切継紙・1通	828-1-16
(真綿代拝領願) 山方→御向様	3月16日	横切紙・1通	828-1-17
(受取書、御用立せんの内返付金2両3分) 小川長右衛門(印)→上	甲寅12月30日	横切紙・1通	828-1-18
(受取書、御用立の内返付10匁文) 小川長右衛門(印)→上	甲寅12月14日	横切紙・1通	828-1-19
(受取書、御用立の内返付銭4匁文) 小川長右衛門→上	甲とら12月8日	横切紙・1通	828-1-20
(受取書、御用座御用銭のうち返付金18両2歩) 小川長右衛門(印)→	甲寅12月30日	横切紙・1通	828-1-21
(受取書、御用立の内返付銭20匁文) 小川長右衛門(印)→上	甲とら12月27日	横切紙・1通	828-1-22
(受取書、御用座御用立銭の内返付11貫文) 小川長右衛門(印)→	甲寅12月30日	横切紙・1通	828-1-23
(受取書、御用立銭の内返付24貫840文) 小川長右衛門(印)→	甲寅12月30日	横切紙・1通	828-1-24
覚(当寅12月小役銀・御利足返上・残拝領分書上) 古川善藏・渡部惣治→	嘉永7年寅12月	横切継紙・1通	828-2
(荒巻丈右衛門ほか5名へ渡し俵高書上、匁95俵ト4升2合)		横折紙・1通	828-3
証文(正銭45貫文借用) * (包紙上書)「証文 山方捨りナル」 山方亀治(印)→原田時也殿	安政元年寅12月	堅紙・1通	886
(書状、御細書の趣御賢慮の通り御取扱い下されたきに付) * (端裏書)「貴酬の拝」	7月12日	横切継紙・1通	1129-1
(書状、吉田三益金子50両差支えに付当高6石御払分を卯年より永久銀石御蔵出を以て相渡さる旨) * 下書 原田織衛・荒巻十蔵・山方蔵人→	安政2年7月	堅紙・1通	1129-2
(書状、吉田三益金子50両上納致せしに付当高6石御払を卯秋中より永久銀穀御蔵出を以て相渡さる旨) * 下書	年号月日	堅紙・1通	1129-3
覚(山方蔵人野中村にて辛労免高吉田三益へ相払候仕末、其方頼られ取扱致す次第御問合及び御答)		半・1冊	1166
(金子5両1分半利足付を午2月までお預かり置かれたき旨の連絡書) * (包紙上書)「御預り書入」 御用座(印)→高橋小弥太殿	安政4年巳12月30日	堅切紙・1通	832
安政四巳四月より同六未年迄御用座并御膳番日記抜書 附考書(佐竹南家日記)	(安政4~6年)	半・1冊	528
未ノ年入払御勘定帳(御本・御払・追御払分、長右衛門より指図書にて渡し金・木山方御用立金ほか)	申2月	横長半・1冊	829
安政七年申受払帳(入金・払金書上、仕送金・小川長右衛門へ払金・家臣給金ほか)	安政7年申	横長半・1冊	830

(御用座米金受払関係文書綴)		綴/(831-1~22 一綴)・1綴	831
(御用立金17両2分余のうち金1両2分300文を受取の旨の書付)		横切紙・1通	831-1
覚(御立寄御頼書・畑運上金御渡し・年中行事の件に付、惣七へ伝え来る旨)		横切紙・1通	831-2
(巳歳・午歳分について諸方下され分引残りの米高・銀高書付)		横切継紙・1通	831-3
覚(養蚕方より桑畑地代1両3歩2朱を相渡し、其余1両1歩を明日差上げの旨) 沼倉定五郎→	申7月11日	横切継紙・1通	831-4
(須藤貞右衛門の手取分軽升10石に関する書付)		横切紙・1通	831-5
天保十二丑八月家督御礼之節(入用正銭・金・札の両替の覚)	天保12年	横切継紙・1通	831-6
当未年別段銀穀(西院内村ほか11ヶ村分)		横切継紙・1通	831-7
(内藤吉兵衛御用立分利足・御役屋米・芳賀伝右衛門拝借などに関する覚書)		横切紙・1通	831-8
(内藤吉兵衛・駅場方・入江金吾らに対する御用立金高の書上カ)		横切継紙・1通	831-9
(須藤謙一郎返上せん上納高書上、ノ74貫433文) 猪狩与惣→	申12月22日	横切継紙・1通	831-10
(今泉惣治ほか8名への渡し米高書上、ノ174俵)		横切継紙・1通	831-11
覚(私親類山方蔵人へ御用座御備金のうち15両の拝借を仰せ付け下されたき旨) 面谷縫殿[印]→	安政6年末12月26日	縦紙・1通	831-12
十蔵ニ被頼力蔵口上(御軍用御備金より当座用立分14両2分の返上に付)	6月	横切継紙・1通	831-13
覚(午4月中調達金30両の利足金に付) 内藤吉兵衛→上	申2月24日	横切継紙・1通	831-14
当座方覚(4口元利金高書上、ノ88貫155文)	申10月	横切紙・1通	831-15
貞右衛門拝借(借入金元利205ノ856文より返済分の差引勘定)		横折紙(継紙)/ (横折紙を糊継ぎ)・1通	831-16
覚(軽米・保銀高書上、米ノ68石2斗1升5合・銀ノ367匁7分5厘)	午12月28日	横切継紙・1通	831-17
覚(炭代40ノ文を帳面記載することなどについて倉忽があり、不審を持たれた件に関する詫書) 入江惣七郎(印)→	申4月18日	折紙・1通	831-18
(三月朔日分より元利金書上、元リノ31両3分永9貫)		横切継紙・1通	831-19
覚(山方殿へ差出金5両ほか書付)		横切紙・1通	831-20
(御蔵より出た180俵の代銭について帳面と照合した際の覚書)		横切紙・1通	831-21
(軽米4石5斗9升1合の代銭と小役銀の合算書、ノ18ノ344文)		横切紙・1通	831-22
御用座御用立金銭御勘定帳(御用立金元利ノ正37貫389文、金子・久保田・御勘定所ほか宛) 小川長右衛門(印)→	万延元年庚申11月	横半美・1冊	833

1. 家/1.15. 家政/1.15.3. 用座(湯沢)/1.15.3.3. 受払い書ほか

万延元年申年受払御勘定帳(入金・払金書上、家臣へ下され金・小川長右衛門御用立元利ほか、148両2分1朱)	万延元年申	横長半・1冊	834
御用座(御会の諸費用書上げ、青物・御酒・遠目鏡・蠟燭・菓子など) 御納戸役→	申年12月	横長半・1冊	835
(未年分の別段御物成銀穀・新屋敷銀穀ほかの入銀穀高、並びに吉田三益・佐藤治右衛門らに対する払銀穀書上)	未	横長半・1冊	836
佐竹淡路様 御薬料之事(金20両・銀654匁3分、手代の者へ仰せ付け下されたく頼み奉るに付) 橋本→荒巻十蔵殿・佐貫平八郎殿・赤須左太夫殿	卯9月	縦継紙・1通	84
(御用座米金受払関係文書綴)		綴/(837-1~27まで紙綴一綴)・1綴	837
(前川原土手普請の節人足10人へ下され金2匁文ほかの書付)		横切紙・1通	837-1
(書状、刀身を立てるのでお遣わし下されたき旨)		横切紙・1通	837-2
御用座分(御会青物代・白酒・遠目鏡などの買物代金書付、2口、49匁900文)		横切紙・1通	837-3
(相川・桑崎などの村名と金額の書上、1匁7両2朱ト300文)	(12月21日)	折紙・1通	837-4
覚(金銭2筆、1947文を指し上げる旨)	2月	横切紙・1通	837-5
(喜惣太へ御用立金400文書付) 御勝手方→	(11月25日)	横切紙・1通	837-6
覚(未12月に借りた金10両の元利金計算書) 添田久治→	申7月29日	横切紙・1通	837-7
(已12月に山方渡しの金5両に付、元利・残金計算書) 高橋重内→	申9月晦日	横切紙・1通	837-8
(諸方被下分差引残り米173俵余、並びに諸方被下差引銭小役銀代30匁344文ほかの書付)		横切紙・1通	837-9
(出役御会度毎御酒被下諸かり代・馬当年分・内藤吉兵衛へ御渡分などの書付、金惣、20両2朱)		折紙・1通	837-10
覚(申8月に借りた金9両3分1朱の元利残金について只今返上する旨) 添田久治→	申12月29日	横切紙・1通	837-11
(出役御会度毎御酒被下諸かり代・馬当年分・内藤吉兵衛へ御渡分などの書付、金惣、20両2朱) *837-10と同内容		横切紙・1通	837-12
(長寿者に対する養老被下金の書付、72歳師又右衛門へ金100疋ほか7名分)		横切紙・1通	837-13
御用座江御用立分(3両貸受取残り分・御納戸役へ振向渡分ほか、178匁710文、山方市之進拝借分共)		折紙・1通	837-14
廣澤甚内残木御払代之内(53匁600文)	申7月19日	横切紙・1通	837-15
覚(濁酒・隠売酒御停止の触の趣を厳しく守るべき旨、佐藤松四郎母の風聞もあるので厳しく申し渡す旨) 小頭中→	申12月	横切紙・1通	837-16
(指上高御割直分として国札566文・486文の受取書) 木口望吉(印)→	9月21日	横切紙・1通	837-17

申ノ払(払金書上、御用方・御山方・御勝手方など)	(申)	横折紙(継紙)/ (横折紙を糊継ぎ)・1通	837-18
(鮭・松茸などの食品買物代金書付、ノ3ノ29文)		横切紙・1通	837-19
(金助・喜代松ら9名へ渡し金書付、ノ2両3歩1朱20文)		横切紙・1通	837-20
(松葉60把代金と御用立金としてノ1ノ60文の渡金書付)	2月18日	横切紙・1通	837-21
覚(喜惣太へ御用立金400文の旨) 御勝手方→	12月25日	横切紙・1通	837-22
覚(未12月の御用立金13両に関する元利書付) 入江金吾 →上	申9月晦日	横切紙・1通	837-23
(9月分御本方へ返し・祝儀料・喜惣太へ返しなどの金額 書付)		横切紙・1通	837-24
覚(御用立御勘定帳ノ高37ノ389文に付御返付分受取 書) 小川長右衛門(印)→上	申11月29日	横切紙・1通	837-25
(御用立金の借用証文、ノ23両、来申11月中まで) 御用座 (印)→入江金吾殿	未12月20日	横切紙/(印に抹 消墨あり)・1通	837-26
(10月朔日残ノ分ほかの金額計算書、ノ18貫394文) 当座 方→	申12月	横切紙・1通	837-27
文久元年酉之分御用座御備受払御勘定帳(「御元」に入金 分を書上、「払」に御用立金元利返済分ほかを書上)	文久元年酉	横長半・1冊	838
辛酉三月ヨリ霜月迄御用座御用立御勘定覚帳(ノ元利75 貫456文) 小川長右衛門(印)→	文久元年12月	横半美・1冊	839
急事御備御本并御勘定帳(拝借金等出入高書上) 菊地 孫兵衛・吉田八蔵・大輪権四郎→	文久2年戊5月26日	横長半・1冊	452
戌年請払帳(小川長右衛門より入金、酒代などの払い金 書付、惣ノ8両3分1朱261文)	文久2年	横半半・1冊	823-1
(村々別段上納米・銀石の書上、並びに御米蔵から家臣等 への払米書上)		横長半・1冊	823-2
御用座御用立御勘定帳(貸金の元利勘定・馬代など、元利 ノ73貫561文) 小川長右衛門(印)→	文久2年戊11月吉日	横半美・1冊	824
(御用座米銀受払関係文書綴)		綴/(825-1~19 まで紙縫り一綴) ・1綴	825
(高割拝領分・御足輕もち代ほか拝領) 高橋重内(印)→	戌12月29日	横切継紙・1通	825-1
覚(大借・中借金ノ18貫文を返上の旨) 御足輕小頭→	文久2年戊12月29日	縦紙・1通	825-2
覚(酒代金1ノ504文請求書) 御用座→原田様御取次	戌3月5日	横切継紙・1通	825-3
(葛・舞茸など代金ノ1ノ270文の書上) 役方通り方→		横切紙・1通	825-4
(佐藤治右衛門へ金渡分書付、ノ4ノ59文)		横切紙・1通	825-5
(酒・ろうそく代など書上、ノ4ノ275文)		横切紙・1通	825-6
覚(平山武兵衛様行き差図書代800文請求書) 大町 永知 堂→荒巻掃部様 御家頼衆	戌12月	横切紙・1通	825-7
(のり・玉子代等ノ4ノ760文請求書) 御肴屋庄七→上 御取次	7月4日	横切紙・1通	825-8

1. 家/1.15. 家政/1.15.3. 用座(湯沢)/1.15.3.3. 受払い書ほか

覚(御用立金御返付分の受取書) 小川長右衛門(印)「セン ホク ユサワ《鍵に小紋》庄屋」→上	(文久2年)壬戌12月24日	横切紙・1通	825-9
覚(15両の利分として金子1両2分1朱拝納) 廣大寺(印)→ 原田儀助様	極月27日	横切紙・1通	825-10
(献納金取纏ノ高・大野兵衛貸金元利等計算書、差引9両 3朱9文の過)		横切紙・1通	825-11
覚(桐上丙木代金ノ1ノ980文を上納下されたき旨) 糸井 茂助→原田時也様	12月	横切紙・1通	825-12
(岡田十松へ下され銭立替分ほか書付、ノ22ノ408文) 当 座方→御用座	戌12月	横切紙・1通	825-13
(諸方被下差引ノ高保銀356匁余より御酒代など差引計 算書) 御米蔵→	12月27日	横切紙・1通	825-14
覚(玉子・なし・ささげ・大根など食品類代金ノ11ノ950文 請求書) 御肴屋庄七→上 御取次	戌11月	横切継紙・1通	825-15
(250人・まんじゆ75の数書付)	12月23日	横切紙・1通	825-16
(養老の節立替金・暑中見舞金・酒代など書上、2口ノ6ノ 612文)		横切紙・1通	825-17
覚(人足代・十露盤代など喜惣太御立替分書上)	戌とし	横切紙・1通	825-18
(御会の節酒代・肴代・鶏代など書付、ノ15ノ250文)		横折紙・1通	825-19
覚(村々別段銀石ほか入石銀書上、並びに相川村助成金・ 吉田三益下され金ほかの払方書上) 御米蔵→	11月28日	横長半・1冊	840
(包紙) *(包紙上書)「文久三亥年諸長面諸書附入」*(包紙 裏書)「渡部亥松御預り高之諸かゝり書付アリ」	文久3年亥年	包紙・1点	956-1
覚(引継拝借分57両に付元利勘定) 桑崎村肝煎高橋貞蔵 (印)→上 原田儀助様御取次	亥12月26日	横切紙/(956-1 ~19は包紙一括) ・1通	956-2
(米4俵3升9合代銭5貫989文など金銭書上) 御米蔵→	亥4月20日	横切紙/(956-3-1 ~3は一綴)・1通	956-3-1
(ノ4俵3升9合代銭5貫989文など米銭差引書上)		横切紙/(前欠)・ 1通	956-3-2
戌年御用座御備(諸方被下金引残50石7斗余ほかより米 銀差引勘定)		横切紙・1通	956-3-3
①覚(毛附代・口籠代など馬関係費用勘定に付)、②覚(泊 り代・手綱代など馬関係費用勘定に付)、③覚(馬口旁町 分・苟和野分・横手掛分4筆割勘定に付) ①馬口旁町宿 勘兵衛、③駒頭助右衛門→③渡部様 上	③神無月③15日	横切継紙/ (956-1~19は包 紙一括)・1通	956-4
(万助通古酒代・同小鳥代など御用座分7ノ843文勘定 に付)		横切継紙・1通	956-5
(金子1両1分3朱拝領仕るに付書付) 高橋重内(印)→	亥12月29日	縦切紙・1通	956-6
御用座(御足輕迄・御立替分など代金ノ14ノ143文勘定に 付)		横切紙・1通	956-7
覚(夏袴代として金1両3分2朱請取るに付) 後藤才助→御 代主殿様御取次	亥4月24日	横切紙・1通	956-8
(御納所役より御山祭銀1分1朱と正134文受け取り差し上 げる間、御落手願ひ奉るに付) 井上拝→原田様	12月29日	横切紙・1通	956-9

覚(酒1斗代1貫700文、別御用仰せ付けられるに付) 藤木貞四郎→原田様御取次	亥12月	横切紙・1通	956-10
覚(相川等4ヶ村より上納分ほか当亥年漆木運上金御取立に付) 芳賀傳右衛門・猪狩喜惣二→	亥12月21日	横切継紙・1通	956-11
覚(しみたけ・わじま・玉子ほかメ4貫440文勘定に付) 柳町庄七→上御取次	亥12月	横切紙・1通	956-12
御利息返上人別(当亥年分返上、佐々木宇兵衛・佐藤貞治ほか11名分)	文久3年亥12月29日	横切継紙・1通	956-13
覚(御用立金2両ほか元利19メ316文勘定に付) 小川長右衛門(印)→	文久3年亥12月	横切紙・1通	956-14
覚(人足13人添雇根切共代金2貫600文ほか買物代金メ10貫415文差引勘定に付) 猪狩喜惣二→	亥12月	横切紙・1通	956-15
御用座(廣大寺御書画御鳥代825文ほかメ7貫343文勘定に付)		横切紙・1通	956-16
(大野兵衛へ拝借仰せ付けられる元利メ高ほかメ金2両1分2朱と正1貫493文金銭書上)		横切紙・1通	956-17
(書状、武芸出精人数15人へ半紙を下されるに付、柳町清兵衛へ代金2貫115文相払い下されたき旨) 諸越傳五郎→原田様	12月29日	横切継紙・1通	956-18
キ(平目600文ほか食品代金メ3貫315文勘定に付) 御宝屋定七→上	3月14日	横切継紙・1通	956-19
(山方市之進横死事件に付三好弥織兄弟無実風聞穿鑿により、関係者への尋ねとその回答書付) * (封筒上書)「山方市之進横死ニ付三好弥織・入江喜平者無実之風聞受候ニ付御穿鑿願申立、御尋覚ヶ条書入」	明治3年9月	綴・1綴	320
(包紙) * (包紙上書)「沖出書付入」		包紙・1点	444-1
(2681挺沖出分・残り分など書付)		堅切紙・1通	444-2
(書状、吹野町千助と申す者が長木の沖出し御証拠申し受ける様願い出るに付、材木川下し関係) 飯田嘉右衛門永充(花押)・同文蔵永逐(花押)→御用座	5月10日	半・1冊	444-3
(書状、山方蔵人辛労免高は重高筋にはこれなく、野中村へ御裏印証文を以て小役銀を償上納するに付、御指紙写あり) (原田織衛)→	(巳10月)	堅継紙・1通	1112
(包紙) * (包紙上書)「上 山方重高一件諸証文也 大切之書付也」 野中村→		包紙・1点	1063
覚(鮭1本ほか魚類員数書上)		横切紙・1通	1126
(書状、わらびなど落手に相成る様、御序の御何分御取り扱い願ひ奉るに付) * (包紙上書)「同沢にて蛭田様奉尊下御同所より岩松金四郎百拝」 (岩松)金四郎百拝→蛭田様奉尊下	8月15日	横切継紙/ (985-1~14は紙縫一括)・1通	985-11
(書状、柳田村太助実弟へ仰せ付けられ、養蚕種と御取り替えにて同人わらび取る処取り押さえるに付) * (端裏書)「柳田 岩崎尊公尊答無事 蛭田」 蛭田→岩崎尊公	4月25日	堅紙・1通	985-13
(書状、田沢村へ桑の約定にて罷り越した際、柳田わらび取の者に取り押さえられるに付) * (端裏書)「岩崎様尊呈下 蛭田百拝」 蛭田→岩崎様	25日	堅紙・1通	985-14

1. 家/1.15. 家政/1.15.3. 用座(湯沢)/1.15.3.3. 受払い書ほか

(書状、郡山尚三郎・樋口多之助・中吉田卯之助召し捕り、爰々元より久保田へ吟味の指遣わし申すべきに付) *(包紙上書)「菊地孫兵衛様 芳賀但見 白石忠太」 芳賀但見・白石忠太→菊地孫兵衛様	8月8日	縦紙・1通	991-5
修復諸入料控(井道普請材木代ほか)	卯5月	横長半・1冊	253
覚(杉長木3本、佐竹左衛門依願により湊沖口へ指し出す旨) 大山与右衛門○(丸印)→大塚源内殿・吉原五右衛門殿	寅ノ5月6日	横切継紙・1通	1067
注文(振袖小袖表・羽織表・麻上下など着物類の注文書、着丈・布の種類・色・家紋入れなどの指定文言あり) 荒巻十蔵・佐貫藤蔵・野尻新左衛門→	亥6月6日	縦継紙/(下札多数あり)・1通	820
(包紙) *(包紙上書)「覚」吉田六太夫へ被下候御書付の草稿入 山方」		包紙・1点	1091
(書状、来る10月に金子にて御返金くださるよう、上院内金之助へお話くだされたきに付願) *(端裏書)「村 栄次郎」		縦紙・1通	1092
(包紙) *(包紙上書)「公儀へ差出候庄屋共より書物之控」		包紙・1点	1103

1.15.4. 屋敷番(久保田城下)

覚(杉宮村百姓利右衛門ほか見立忠進開場はこのたび召上げられ、出高あれば御蔵入御竿願申し立てるべき旨) 須田形右衛門・石井藤兵衛・近藤平九郎・小柳伝右衛門・上神谷藤左衛門→佐竹兵馬殿屋敷番	8月12日	横切継紙・1通	184
(書状、御雑用御指支の趣申し談ず処、助右衛門出精を以残りの10貫文此表へ指出し、受取証文を同人へ渡す旨ほか) 入江采女・大輪軍治・佐貫平作・山方市之進章英(花押)→田中忠蔵様・佐貫藤兵衛様・匹田弟七郎様・菊地孫兵衛様	閏9月12日	横切継紙/(298-1~2は一括)・1通	298-1
(書状追啓、御雑用の義は御本方へも申し越し、御沙汰の上、引継御雑用指し登らせる旨)	9月12日	横切紙・1通	298-2
(書状、殿様御疝ゆえ道中御油断成らざる義、此方は御歩行以下まで息才に勤める旨ほか) 田中忠蔵種勝(花押)→佐貫藤兵衛様・匹田弟七郎様・菊地孫兵衛様	6月11日	横切継紙・1通	299
(書状、御願筋に付(早川)喜太郎殿・源右衛門殿を御頼み指し出された旨、小野寺主水出立延引の旨ほか) *(包紙上書)「田中忠蔵様・菊地孫兵衛様・安東栄次様 匹田弟七郎」 匹田弟七郎種道(花押)→田中忠蔵様・菊地孫兵衛様・安東栄治様	2月26日	横切継紙/(300-1~4は一括)・1通	300-1
(書状、御願筋の件は御吉左右を願うのみである旨、鴨の儀御手柄次第近日中下されたき旨) *(包紙上書)「田中忠蔵様・菊地孫兵衛様・安東栄次様 匹田弟七郎」 匹田弟七郎種道(花押)→田中忠蔵様・菊地孫兵衛様・安東栄治様	3月3日	横切継紙・1通	300-2
(書状、御願筋の儀は相返されるに付、御用御頼みの役人とのやり取りの件) 匹田弟七郎→田中忠蔵様・菊地孫兵衛様・安東栄治様	3月晦日	半・1冊	300-3
(書状、御願筋の件に関し、財用格差し支えの事情など演説すべき旨ほか) 匹田弟七郎→田中忠蔵様・菊地孫兵衛様・安東栄治様	3月晦日	半・1冊	300-4
(包紙) *(包紙上書)「菊地孫兵衛様・赤須小右衛門様・井上才蔵様 山方市之進」		包紙/(301-1~10は包紙一括)・1点	301-1

(書状、御返上延御願の儀に付御屋敷番より窺いの件、光聚院様(2代藩主佐竹義隆室。佐竹南家4代佐竹義章娘)御法事の件、ほか) 山方市之進章英(花押)→菊地孫兵衛様	(貞享元年)11月11日	横切継紙・1通	301-2
(書状、若殿様へ姫君入らせられるに付重縁に相成り、此後両崇メに成し置きたき旨の対談の件ほか) 山方市之進章英(花押)→菊地孫兵衛様・赤須小右衛門様	10月23日	横切継紙・1通	301-3
(書状、角館より仰せ遣わされた両崇メの義、表方御物頭をもって仰せ立てに付) *(端裏書)「十一月五日 返事済」 山方市之進章英(花押)→菊地孫兵衛様・赤須小右衛門様	10月25日	横切継紙・1通	301-4
(書状別紙、来月中光聚院様御法事の件) *301-6の別紙カ	10月27日	横切紙・1通	301-5
(書状、毎日詰めている村々百姓に申し含め相返す旨、出火御届方の件、此表御新法沙汰ほかに付) *(端裏書)「十一月五日 返事済」 山方市之進章英(花押)→菊地孫兵衛様・赤須小右衛門様	10月27日	横切継紙・1通	301-6
(書状、御新法御引揚にて元形に復すに付、拙者事も御用明にて当22日に此表を出足し其地へ着の旨) 山方市之進章英判→菊地孫兵衛様・赤須小右衛門様	11月17日	横切継紙・1通	301-7
(書状、田中新左衛門拝借御願の儀は上の御財用向差し支えにてお取り揚げなり難き旨にて願書お返しに付、ほか) (山方)市之進判→(菊地)孫兵衛様・(赤須)小右衛門様・(井上)才藏様	12月朔日	横切継紙・1通	301-8
(書状、大風の中無理に頼み横山へ一宿致す旨、及び是迄難渋仕り一向御用儀へは取向申さざるゆえ御用承るは追便申すべき旨) 山方市之進(花押)→菊地孫兵衛様・赤須小右衛門様人々御中	10月19日	横切継紙・1通	301-9
(書状別紙、金四郎腰痛にて出席できざるに付病氣御断りの件)	11月21日	横切継紙・1通	301-10
(包紙) *(包紙上書)「山方市之進様・大輪武右衛門様 赤須小右衛門		包紙/(302-1~6は一括)/(302-1-1~3は包紙一括)・1点	302-1-1
(書状、御縁女様角館発駕の件、御願筋の儀を役人衆へ委曲申し談ずるが中々急段に済むとは存ぜられざる様子の旨) 赤須小右衛門政光(花押)→御三方様	2月25日	横切継紙・1通	302-1-2
(書状別紙、御祝儀御日間もなきほど御取込中と遠察している旨)	2月21日	横切継紙・1通	302-1-3
(包紙) *(包紙上書)「山方市之進様・大和武右衛門様 赤須小右衛門		包紙/(302-2-1~3は包紙一括)・1点	302-2-1
(書状、御難渋の趣について宇都宮殿・岡本殿などへ逢って申し上げた際の反応などに付、ほか) 赤須小右衛門判→山方市之進様・井上才藏様・大和武右衛門様	3月23日	横切継紙・1通	302-2-2
(書状、岡本殿・宇都宮殿が両家へ罷り出る件、(根岸)和作へ御鷹の鴨を下される段ほかに付) (赤須)小右衛門→御三人様	3月21日	横切紙・1通	302-2-3
(書状、昨27日に役人が隣家へ招かれ、新助様より御難渋の段仰せ発せられ、願書を渡された件) *(包紙上書)「山方市之進様・大和武右衛門様 赤須小右衛門 赤須小右衛門政光(花押)→御三公様	2月28日	横切継紙・1通	302-3

1. 家/1.15. 家政/1.15.4. 屋敷番(久保田城下)

(書状、御願筋は思し召しの通りには相済まないが遠からざるうちに仰せ出されがある旨、ほか) * (包紙上書)「山方市之進様・井上才藏様・□(大)輪武右衛門様 赤須小右衛門」 赤須小右衛門政光(花押)→山方市之進様・井上才藏様・大輪武右衛門様	3月16日	横切継紙・1通	302-4
(書状、御願書は役人共より手元へ指し出しのうえ江戸言上となる旨、御縁女様御引越しに付女中の召し連れや小姓逗留の相談の件、ほか) 赤須左太夫政邦(花押)→井上才藏様・菊地孫兵衛様・原田嘉右衛門様	9月5日	堅紙・1通(2枚)	302-5
(書状、御願書は評議のうえ今日御老中手元へ指し出しになった旨、(根岸)和作へ御鷹の鴨として真鴨を調え下さるに付、ほか) 赤須小右衛門判→御三人様	3月11日	半・1冊	302-6
(書状、若殿様御取扱仰せ立てられの儀、並びに御拝借願いの儀(ほか)に付) 大輪武右衛門→山方市之進様	8月28日	横切継紙/(303-1~5は一括)・1通	303-1
(書状、若殿様御取扱仰せ達しの儀と拝借御願いの儀に関する評議の動向に付) 大輪武右衛門→山方市之進様	8月21日	半・1冊	303-2
(書状、若殿様御取扱仰せ達しの儀と拝借御願いの拝借銀高に関する件、ほか) 大輪武右衛門→山方市之進様	7月30日	半・1冊	303-3
(書状、拝借銀高の内談の件、新助様湯本にて湯治の手配の件、御判紙墨付御吟味の件、ほか) 大輪武右衛門→山方市之進様	7月26日	半・1冊	303-4
(書状下書、難渋の次第ながら、上においても近年格別の省略中に付、脇々よりの合力筋等は不可の申し決しの旨) *下書		半・1冊	303-5
(書状、老中連署にて学才の者御取立の指示に付学問の者に一郷に懸かる重き御用を仰せ付けられる旨、お玉様御引越しの件、ほか) 大輪武右衛門・井上才藏→赤須小右衛門様・山方市之進様	9月3日	横切継紙・1通	304
(書状、軽からざる御願筋に付、左衛門様出府にて仰せ達せられるか又は御老衆へ申し上げて評議を待ったのちに江戸表へ言上するかの旨、江戸に登らせる家臣の人選(ほか) 菊地孫兵衛盛秀(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様	(天明6年カ) 閏10月25日	半/(305-1~2は一括)・1冊	305-1
(書状、伊八事御添書を以て再応御取立なき旨(飯田)嘉七郎より伝えられたが、代官よりの催促が予想されるため代官への掛合を検討されたき旨)	(天明6年カ) 閏10月21日	横切紙・1通	305-2
(書状、仰聞けらる趣は御尤ではあるが、至ってむずかしき事にこれ在り、御挨拶及び兼ねるゆえ、何れ主馬・仲と取合わせ、これより御挨拶仕るべきなどに付) (菊地)孫兵衛判→(赤須)小右衛門様・(山方)市之進様	(天明6年カ) 閏10月17日	半/(612-1~11一綴)・1冊	612-1
(書状、角館(佐竹北家)様御元服の御式に付、此方様には東御同様の御格にて御同前御式御拝領成られる御年齢にも至らせられるにより格合にも如何しく存ずる旨、御沙汰相決められるならば仰遣わされるべき旨(ほか) (菊地)孫兵衛盛秀(花押)→(赤須)小右衛門様・市之進様	11月4日	半・1冊	612-2
(書状、御減少仰せ付けの件、半分御省略外皆々相止められて然るべし、これ無くては御家中飢命に及ぶなどに付) (菊地)孫兵衛→御両公	11月17日	半・1冊	612-3

(書状、元服御願の件、御草稿遣わさる思召であれば御留守居へ申し達す旨、御草稿など遣わされなければ角館の方へ懸合い、御同所の例を以て仰達せらる外これ無き旨ほか) 菊地孫兵衛盛秀(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様	11月20日	半・1冊	612-4
(書状、諸事半減省略仰せ出され、諸寺院配当高も仰せ分けられるに付、清涼寺へも御内談の件ほか) (菊地)孫兵衛判→御両公	11月23日	半・1冊	612-5
(書状、御願筋も立たず御暮らし方も一円相見え、この上は御無理成されても御一家御保ち成される外これ無きに付) (菊地)孫兵衛盛秀(花押)→(赤須)小右衛門様・(山方)市之進様	11月24日	半・1冊	612-6
(書状、来る2月中御元服にて然るべし、何れ今年中仰達せられる事とさた致す旨、並びに無尽などの件に付) (菊地)孫兵衛判→(赤須)小右衛門様・(山方)市之進様	11月29日	半・1冊	612-7
(書状、亥年亡所高より30年余りに相成るゆえ起返高の取り調べの件、並びに御用銭為替に付振替料の件ほか) (菊地)孫兵衛盛秀判→(赤須)小右衛門様・(山方)市之進様	閏11月1日	半・1冊	612-8
(書状、当2日御物頭山方三郎左衛門御在府屋へ御招き御元服御願書御頼みの件、御願書を相渡し拝見の上明日御用所へ指出すべき挨拶に付、ほか旅僧大應の件など) (菊地)孫兵衛→(赤須)小右衛門様・(山方)市之進様	12月3日	半・1冊	612-9
(書状、長野御引越の義仰遣わされ承知、長門様御頼み仰遣わされ然るべしと存ずるに付) (菊地)孫兵衛盛秀(花押)→(赤須)小右衛門様・(山方)市之進様	12月18日	縦紙・1通	612-10
(書状、御願ひ御引方に付仰付らる通り御口達相調べ、昨8日御在府屋へ中川久左衛門など御招き長々しく御口上申演じ相頼んだ旨ほか) (菊地)孫兵衛判→(赤須)小右衛門様・(山方)市之進様	12月10日	縦紙・1通	612-11
(書状、〈佐竹東家〉源六郎と〈佐竹南家〉新発意殿元服に関する願書草稿をめぐり、双方の御意が容易ならざる逆筋になった件に付) 飯田嘉七郎・菊地孫兵衛盛秀(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様	11月12日	半・1冊	306
(書状、浅利長兵衛代として小室内匠が御役所御用取次役に仰せ付けられたので、小安口御番所の合判を引き替えるようにとの指示) 石川隼人教徳(花押)・信太浅右衛門勝符(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様・井上才蔵様	4月19日	横切継紙・1通	308
(書状、〈酒出〉金大夫様より岡本殿へ御文の通り永々御取扱あるよう御頼みなされるも、難事にて、助成年数50年余にも相至るなどの返答に付) 井上才蔵豊孝(花押)→菊地孫兵衛様・赤須左太夫様・原田嘉右衛門様	9月朔日	半/(312-1~7は一括)・1冊	312-1
(書状、御縁談の御内命により御沙汰相わかり次第御取合の儀仰せ遣わされるべき趣委曲承知の旨、清涼寺再住一件、ほか) 井上才蔵豊孝(花押)→菊地孫兵衛様・赤須左太夫様・原田嘉右衛門様	閏8月22日	半・1冊	312-2
(書状、湯沢表より御内々小伝様御娘を懇望の旨を仰せ下さるに付仲だちの依頼、ほか縁談関係の諸事に付) 井上才蔵豊(花押)→菊地孫兵衛様・赤須左太夫様・原田嘉右衛門様	閏8月14日	半・1冊	312-3

1. 家/1.15. 家政/1.15.4. 屋敷番(久保田城下)

(書状、清涼寺再住一件に付御沙汰仰せ出され委曲承知仕る旨、及び御家中一統系図の儀に付ほか) 井上才藏豊孝(花押)→菊地孫兵衛様・赤須左大夫様・原田嘉右衛門様	8月25日夜	半・1冊	312-4
(書状、御家中系図差出され方について、御附人証文伝来の外一統指出されることは難しき旨、組下御系図持参の件ほか) 井上才藏豊孝(花押)→菊地孫兵衛様・赤須左大夫様・原田嘉右衛門様	8月18日	半・1冊	312-5
(書状、清涼寺再住一件に付、初めは御演説書をもって三寺へ御頼然るべきと三寺申されるところ録所より三寺取扱に差留められる旨、ほか) 井上才藏豊孝(花押)→菊地孫兵衛様・赤須左大夫様・原田嘉右衛門様	8月13日午時下	半・1冊	312-6
(書状、〈酒出〉金太夫様直々小場殿へ御出、縁談の懇望などを行うに付) 井上才藏豊孝(花押)→菊地孫兵衛様・赤須左大夫様・原田嘉右衛門様	8月4日7時	半・1冊	312-7
(書状、役人被下たばこの件、当18日嘉太郎母方の伯父病死忌中申し立てに付、ほか) *(包紙上書)「於湯沢ニ赤須小右衛門殿・大輪武右衛門殿 岩崎吉兵衛・飯田嘉七郎」 赤須小右衛門政光(花押)→御三人様	2月21日	横切継紙・1通	354-1
(書状、御足輕知行御蔵入高について仰渡書写1通並びに江橋甚四郎申渡書付の件承知仕る件、但馬殿御判紙墨付の儀、ほか) *(包紙上書)「赤須小右衛門様・山方市之進様・大輪武右衛門様 岩崎吉兵衛・飯田嘉七郎」 岩崎吉兵衛・飯田嘉七郎永玄(花押)→御用座	7月26日	半・1冊	354-2
(書状、御暮らし方御積の義、御蔵入銀穀では半年の御暮らし方にも行き届き兼ねるに付、勘定目論見など) (井上)才藏→(赤須)小右衛門様・(山方)市之進様・(大輪)武右衛門様	6月3日	半・1冊	355-1
(書状別紙、御用御懸にて出立の節生酒1斗持参仕るも不足の由により、松井の生酒5升御仕送り下されたきに付) 豊孝→御三公玉几下	6月2日	横切紙・1通	355-2
(書状、〈飯田〉嘉七郎伯父角右衛門当23日病死により忌中にて御窺いは申し上げざる旨ほか) 井上才藏→赤須小右衛門様・山方市之進様・大輪武右衛門様	5月29日	横切継紙・1通	355-3
(書状別啓、御酒御振舞と申時は2斗づつも相懸かる由により、酒5升嘉十郎歸りに御仕送り下されたき旨)	17日	横切紙・1通	355-4
(書状、御拝借御願は前書にも申し上げた通りこの表御模様にては御評議も難しきに付、ほか) *(包紙上書)「山方市之進様 大輪武右衛門」 (大輪)武右衛門→(山方)市之進様	8月17日	横切継紙・1通	356
(書状、拙者は28日に到着して29日に御用所へ罷り出たこと、朔日に御用番但馬殿御宅にて逢ったこと、御出迎一件の儀などを仰せ上げられ下されたき旨) 菊地孫兵衛盛光(花押)→山方市之進様・大和武左衛門様	3月2日	横切継紙・1通	608
(書状、御両殿様御着遊ばされ、翌日御登城、御老中様へ御廻勤、御出府の御趣意御対談、御演説成し置かれ、御尤に御取受け成られた由御咄し承知奉るなどに付) 井上才藏豊孝(花押)・山方市之進章英(花押)→大輪武右衛門様	11月8日	半/(611-1~4一綴)・1冊	611-1-1
(書状、御父子様御揃いにて御登城成し置かれ、先日存付の旨老(年)寄共を以て申聞けるに付、書付を以て申渡すので、この旨宜しく承知致すよう仰渡さるなど) 井上才藏豊孝(花押)・山方市之進章英(花押)→大輪武右衛門様	11月16日	半・1冊	611-1-2

(書状、源大夫親和休大病の段申来たり、御暇願いの通り相済み罷歸り、外御用は一昨日伊大夫に申上げたゆえ略致すに付) 井上才藏豊孝(花押)・山方市之進章英(花押)→大輪武右衛門様	11月18日	半・1冊	611-1-3
(書状、屋形様御直に御書付を以て仰渡された御口演書写しを先便にて差遣わしたところ、役人中御沙汰相及ばれ、御延引成し置かれ然るべき旨仰上げらるになどに付) 井上才藏豊孝(花押)・山方市之進章英(花押)→大輪武右衛門様	11月21日	半・1冊	611-1-4
(書状、御閑居御願いの儀に付、出府の件、並びに御家中同様御与(組)下へも仰せ知らされたく存じ奉るなどに付) 井上才藏豊孝(花押)→山方市之進様・大和(輪)武右衛門様	12月11日	半・1冊	611-2
(書状、若殿様御返盃の義、斎殿へ仰入れらる方は根岸和作御頼み成し置かれる御順に仕るべき旨、並びに御縁女様御引越一条ほか) 大輪武右衛門資延(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様・井上才藏様	2月7日	半/(613-1・2は一綴)・1冊	613-1
(書状、御姫様根小屋へ御引越御入方5貫目の御積りにて御極め成し置かれるところ倍余りの御入方御沙汰に相成るに付調達方の件、並びに御在府屋御仕服料の件ほか) 大輪武右衛門資延(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様・井上才藏様	2月11日	半・1冊	613-2
(書状、御類家御系図御親類方御取り合わせ相済みこの度御仕送り致すに付、並びに清涼寺帰住一件ほか) 井上才藏豊孝(花押)→菊地孫兵衛様・赤須左太夫様・原田嘉右衛門様	閏月8日	半/(614-1・2は一括)・1冊	614-1
(書状、系図認め方御名字の儀(酒出)金太夫様へ申し上げるに付ほか) 井上才藏豊孝(花押)→菊地孫兵衛様・赤須左太夫様・原田嘉右衛門様	7月29日	縦紙・1通	614-2
(書状、難渋筋に付拝借願上の件、並びに江戸表大變に付御調達仰せ付けられる件ほか) 赤須左太夫政邦(花押)→井上才藏様・菊地孫兵衛様・原田嘉右衛門様	8月晦日	半・1冊	615
(書状、受取無尽のうち明年150石分を本年に相渡されたき旨、年中不足御補御借り方の件ほか) 菊地孫兵衛盛光(花押)・大和武右衛門・山方市之進→飯田嘉七郎殿・飯田官藏殿	正月15日	半・1冊	616
(書状、旅僧の儀に付長谷寺御請形の件) (菊地)孫兵衛・(飯田)嘉七郎→		半・1冊	617
(書状、御出迎の際の手筈や御供割などに付) 菊地孫兵衛盛光(花押)→山方市之進様・大和武右衛門様	3月9日	半・1冊	620
(書状、幕府御老中はじめ御用御頼への御進物・被下物の儀などに付) 匹田第七郎→安東栄治様・菊地孫兵衛様	正月29日	半・1冊	621
(書状、柳町作太郎と申す者をこの表へ罷り越させたと、途中より逐電いたし近在所々見当たり申さざる旨) 佐藤伊織信(花押)・大縄第右衛門・江畑喜右衛門則仲(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様・井上才藏様・大輪武右衛門様	5月28日	横切継紙・1通	947
(書状、柳町作太郎と申す者に尋ねる儀があるので、差し越すように旦那が申される旨) 佐藤伊織信(花押)・大縄第右衛門・江畑喜右衛門則仲(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様・井上才藏様・大輪武右衛門様	5月23日	横切継紙・1通	948

1. 家/1.15. 家政/1.15.4. 屋敷番(久保田城下)

(書状、柳町作太郎をさっそく差し越される様に致されたき旨) 佐藤伊織信(花押)・大縄第右衛門福武(花押)・江畑喜右衛門則仲(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様・井上才藏様・大輪武右衛門様	5月26日	横切継紙・1通	949
(書状、柳町作太郎を差し越させたところ途中より逐電致し、近在所々見当たり申さざる段、御承知仰せ上げられる様に致したき旨) 佐藤伊織・大縄第右衛門福武(花押)・江畑喜右衛門則仲(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様・井上才藏様・大輪武右衛門様	6月4日	横切継紙・1通	952
覚(雄勝郡金屋村窮迫につき村形御検使指し越され御吟味を遂げられ、5ヶ年は4ヶ壺・3ヶ壺の宥赦高になされるにより宥免高書上ほか) * (包紙上書)「安永二年巳ノ八月中被仰渡候金屋村地首拾五人高書」 芳賀宅右衛門・茂又新太郎・宮澤伊右衛門・田中市郎左衛門→左衛門屋鋪番	(安永2年)巳8月19日	横切継紙・1通	1094-1
(書状、彼是繁雑に罷り在れば何角御無音仕る段失敬の至り偏に御寛恕下されたき旨) * (包紙上書)「佐竹左衛門様・佐竹三郎様奉復 岡本但馬」 岡但馬元亮(花押)→(佐竹)左衛門様・三郎様奉復閣下	3月21日	折紙/(1136-1～4は包紙・紐にて一括)・1通	1136-1
(書状、湯沢御米蔵石井専之助罷り登るに付左衛門様より貴翰成し下され拝見仕る旨) * (包紙上書)「原田織江殿・田中造酒殿 江間郡兵衛・神澤昇」 神澤昇正(花押)・江間郡兵衛時(花押)→原田織江殿・山方市之進殿・田中酒造殿	4月13日	折紙・1通	1136-2
(書状、湯沢御米蔵役大野兵衛罷り登るに付左衛門様より貴翰成し下され拝見仕る旨) * (包紙上書)「原田織江殿・山方市之進殿・田中造酒殿 大腰丹治・近藤瀬兵衛」 近藤瀬兵衛勝規(花押)・大腰丹治政直(花押)→原田織江殿・山方市之進殿・田中酒造殿	5月	折紙・1通	1136-3
(書状、今日は当駅へ檀郡昼休み致され候に付、毎度諸事御取り扱いに罷り成る儀を本陣松井林太郎より申出られ忝く承知致す旨) * (包紙上書)「山方市之進様・井上才藏様・大輪武右衛門様 津軽家中須藤勝司」 寛政九年巳三月十六日達 御通行之節」 津軽越中守内須藤勝司→山方市之進様・井上才藏様・大輪武右衛門様	(寛政9年)3月16日	折紙・1通	1136-4
(包紙) * (包紙上書)「三返三通佐竹淡路殿 相図書頭」		包紙・1点	1244-1
(書状、系譜具の控帳御座候過人数書入御返致候故御引合成さるべきなどに付) 井上才藏豊孝(花押)→菊地孫兵衛様・原田嘉右衛門様	5月3日	横切継紙・1通	1244-2
(書状、御元服の御式拝領にて御出仕は御入国の上にて然るべきや、左候へば当座御返済の内また御借受け成される旨一通仰せ渡されるに付、ほか) 弥兵衛判→小右衛門様・(山方)市之進様	閏10月19日	横切継紙・1通	1244-3
(書状、縁談につき梅津・小場方の娘の御美目の次第委曲承る旨、小場の方は人物はよろしく痾病麻疹共御過しの由、梅津は角館様へ御はまりの事もあるべく、破談の儀相分からざる旨ほか) 井上才藏豊孝(花押)→菊地孫兵衛様・赤須左太夫様・原田嘉右衛門様		横切継紙・1通	1244-4
(書状、海鱗カ和尚再住公辺宜しき儀に付鱗勝院内にて闡正へ示談の上、〈酒出〉金太夫様へ申上げる旨、御科形蟄居を峠の録所評議するも是非に及ばず嚴重の事に相至るに付、ほか縁談の件など) 井上才藏豊孝(花押)→菊地孫兵衛様・赤須左太夫様・原田嘉右衛門様	7月4日	横切継紙・1通	1244-5

(書状、大事の御用掛は一人の取扱いにては恐れ入る旨、 斎どの登られ後にては御願ひ指し出され苦しからざる 御沙汰形にも候はば早々仰せ下さるべき旨などに付)	閏月25日	横切継紙・1通	1244-6
(書状、上到来米村に居置きし手附足輕が上ノ沢境にて吠 米を押え、同村肝煎に預置いて私方へ訴え申し出たに 付尋ねたところ、他領者にて越米に相違これ無き由に より御披露申上げる旨) 根本免毛吉中(花押)→山方市之 進殿	4月12日	横切継紙・1通	1244-7
(書状、此度口達にて申上げ候儀御得心下されるや思召を 仰せ下されたき旨、並びに別紙申上げし通り古より 親族の間を遠く取り臣下に奸佞の者これ有れば骨肉疏 する事間々あるに付能々御勘酌下されたき旨) 直行 (花押)→(佐竹)左衛門様参人々御中	10月29日	横切継紙・1通	1244-8
(書状、御用錢10貫目御本方より相渡され請取りし処御屋 敷御ふち米一向これ無き旨、並びに角間川給人三人よ り訴え出の件) 弥兵衛→御両公	閏10月12日	横切継紙/(別紙 1点あり、糊継不 合により3枚続 き文書の2枚目 が別紙となり、 1・3枚目が糊継 されている)・ 1通	1244-9
(書状、其御地にて御沙汰に及ぶ旅僧へ役付の面々、勤番 計り御免か御願ひ共に御免かの訳久左衛門へ相伺う も一己の挨拶に相成らざるに付)	10月19日	横切継紙・1通	1244-10
(書状別啓、清涼海隣閑居再住の儀、金公寺社方御内談の 儀は先日申上げる通りに付)		横切紙・1通	1244-11

1.16. 為替・借入金・購入

(旦那用錢として京都へ為替銀10貫目請取手形) 加納重 兵衛・佐貫平八郎→上村仁右衛門殿	享保元年申11月29日	堅切紙・1通	242
覚(御勘定目録、上村二右衛門為替・上方へ為登銀関係) 加納重兵衛→佐貫平八郎様	享保元年申霜月晦日	堅継紙/(一部破 損)/(掛紙あり) ・1通	239
覚(佐竹淡路様御用銀として銀1貫目請取手形) 田中源 兵衛(印)→沓沢専右衛門殿	享保3年戌8月6日	堅切紙・1通	241
京都江戸買物覚(書籍・木綿絹物類ほか)	文政10年丁亥正月(～ 天保)	横半半・1冊	635
(安政5年12月晦日御菓子・御肴・御会鶏代金ほか書上、 43ノ776文)	安政5年午12月晦日	折紙/(1031-1～2 は括り紐一括)・ 1通	1031-1
(安政4巳12月晦日菓子代・まんじゅう代など代金、 33ノ973文)	安政4年巳12月晦日	折紙・1通	1031-2

1.17. 寺院

1.17.1. 菩提寺(清涼寺)

(湯沢清涼寺縁起、歴代住持・末寺などの書上) * (包紙上 書)「清涼寺縁記 一枚」 仙北雄勝郡湯沢 清涼寺現住十七代 古陰→	元禄3年庚午9月12日	堅紙・1通	370
-----------------------------------------------------------------------	-------------	-------	-----

1. 家/1.17. 寺院/1.17.1. 菩提寺(清涼寺)

(書状、庫裡・水屋建立の志願成就の後は100石の寺領に成し下されたく、残る処は皆々御返上に仕る旨) 清涼寺→	明和6年丑8月22日	折紙・1通	1054
--------------------------------------------------------	------------	-------	------

1.17.2. 菩提寺以外の寺院

証文の事(財用差支により寺院寄付高借入に付、光徳寺は清涼寺・廣大寺並の割合としたき旨) * (端裏書)「右之通証文被相渡候」 御三人衆→光徳寺	明和6年丑9月24日	縦継紙/(裏書あり)・1通	372
年賦証文之事(米3斗入66俵年賦願) 当村借主多吉(印)・同村受合庄五郎(印)・肝煎孫助(印)→久昌寺御閑居様	安永4年未正月晦日	縦紙・1通	373
(高源院無反別の地一件に付覚書)		横切継紙/(継目剥離)・1通	1121
口上書以奉申上覚(拙寺檀那市郎兵衛子供市五郎は親方より勘当を受けているが、勘当免を願い拙寺へ頼み越すに付) * (包紙上書)「上 東山寺」 東山寺[印]→井口九右衛門殿・大輪武右衛門殿	天明8年11月27日	縦継紙・1通	984

1.19. 書籍・地図・護符・引札

詮儀(兵法書の書抜など)	子3月19日	横長半・1冊	636
桜井金翠氏 水産物魚採藻仕法図 明治十六年四月水産博覧会出品取調草稿目録(八十四)(鯨漁ノ図・海豚漁法ほか) *伊勢・志摩地方関係(混入文書カ) 丹波氏蔵→	明治19年3月20日	横半半・1冊	1170

1.20. 経営(近代)

明治十一年分歳入(経営向の歳入・歳出見込書上)	明治11年	横長半・1冊	941
御改革ニ付条件左之通(御当用御世話方などに付)	(明治期)	横長半・1冊	942

1.21. 勝雄忠国社・尽忠報国会(近代)

配当証売渡之証(元雄勝忠国社8円額配当証2枚を金1円で売渡し) 高橋力蔵(印)→佐竹義雄殿	明治32年2月9日	縦紙/(紙縫共)/青色罫紙(10行)/(1057-2～11は紙帯一括)/(1057-2～6は巻込一括)・1通	1057-2
-----------------------------------------------	-----------	--------------------------------------------------------	--------

1.22. 通信(近代)

1.22.1. 佐竹義隣差出

(書状、当月下旬には其表帰宅仕るべき旨、岩崎縣へ参る処、天気も宜しく面白く罷りある旨) (佐竹)守雄(義隣)→下中城君机下	9月18日	横切継紙/(1032-1～10は括り紐一括)・1通	1032-6
(書状、着館翌日に政庁へ罷り出で御届け夫より三ノ丸御殿へ御伺い申し上げ、下り掛け諸家廻勤に付) * (包紙上書)「下中城様机下 谷地丁 無事」 (佐竹)守雄(義隣)→大人様机下	閏10月19日	横切継紙/(1248-1～10は紐一括)/(1248-1～15は紐一括)・1通	1248-1

(書状、銀の烟管を本寿に持参させるので入掌下されたき旨、ほか) * (封筒表書)「於羽後秋田ニ 下中城様机下 谷地丁拜」(佐竹)義隣→尊大人様玉机下	12月14日	横切継紙・1通	1239-44
----------------------------------------------------------------------------	--------	---------	---------

1.22.2. 早川家差出

(書状、東京へ出立は当月中か又は来月上旬に相成り候や、其節是非申し上げる旨) * (包紙上書)「二月廿三日出し同廿六日達返書済 下中城様机下 谷地町拜」 谷地丁→尊大人様机下	2月23日	横切継紙・1通	1239-4
(書状、若殿様二ツ屋へ入らせられ、その御供の際に拝領の御肴を差し上げるに付召上がり下されたき旨) * (端裏書)「下中城様机下 谷地丁拜」 谷地丁→下中城様	11月13日	横切継紙・1通	1239-22
(書状、此間御咄之ツカイド只今小メ持参に付一寸御出御覧下されたく願ひ奉るに付) 谷地丁→下中城様机下	6月21日	横切紙/(1243-1~15は紐一括)/ (1243-1~5は紐一括)・1通	1243-5
(書状、刈和野村より模様一寸申し上げる旨、出立当日は舟泊になるが無理に参る事は致さざる故御案事下されまじく願う旨) * (封筒表書)「下中城様机下 谷地丁拜」/ (封筒裏書)「二月廿日出し 無事 同廿二日達返答済」 谷地丁→中城様机下	2月20日	横切継紙/ (1248-11~15は紐一括)/ (1248-1~15は紐一括)・1通	1248-13

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

2. 苗字衆

2.1. 藩主条目・御書付・被仰渡等

2.1.1. 藩主婚姻・代替・法事ほか

若殿様(5代藩主佐竹義峯嫡子義堅)御口上覚(屋方様御願いの通り御養子仰せを蒙られ、御名御改登城御礼仰せ上げたことをお知らせに付) * (包紙①上書)「享保十七年修理太夫様御口上覚書一ツ」(包紙②上書)「享保拾七年子八月八日相達候 従修理太夫様御口上書入」(包紙③上書)「若殿様御口上書一通」	(享保17年)5月	横長美/(包紙3重に包む、①が外側)・1通	45
(国目付帰府にて屋形様乗出御入部も遠からざるに付家中へ執達の旨) * (包紙上書)「執達」/後欠		縦継紙・1通	136
(御入部祝儀献上物などについて家中へ達書写)		縦継紙・1通	199
(明年入部御目見は財用難渋に付省略する旨の家中宛御条目) * (包紙上書)「御条目」/(包紙貼紙)「佐竹三郎」	9月	縦継紙・1通	201
申論(昨年凶作による国家大難のため相互扶助など申論書)	3月	横切継紙・1通	203
覚(御入部の儀諸事寛政度御振合に基づき、衣服供立を始め万端質素第一に心懸けるべき旨) * (端裏書)「於秋田被仰渡」	11月	横切継紙・1通	675

2.1.2. 系図・文書

覚(御家中の諸士系図・文書等を改めるに付趣意仰せ渡され書の写、偽作を禁ずる旨等久保田藩主佐竹義処仰せ渡し) * (端裏書)「上 徳雲院様御代被仰渡」	元禄13年辰6月	縦継紙・1通	31
覚(幼少の者には指図し、兄弟・女子の動向も調べて諸人残らず理屈明らかなる系図を指し出すようにとの旨の被仰渡書)	(元禄13年)6月29日	縦紙・1通	33
(御家御分統の面々へ末代のため御証文・系図を下される件、並びに御幕紋の儀につき達書) * (包紙上書)「御紋幕之儀被仰渡書」	(宝永6年)正月	縦継紙・1通	70

2.1.3. 俚約・風儀

(十太夫・藤太夫・権兵衛・服部庄右衛門・野尻徳兵衛・寺崎弥左衛門・茂呂喜左衛門に対する処罰の申し渡し書写、願事を三人の者を以て申し上げたのは思し召しに外れるに付、上使の名前も添記) * (包紙上書)「御老中并諸役人へ被仰出候御書付」	享保2年6月28日	横切継紙・1通	567
被仰渡御書付写(俚約・省略筋に関する藩からの達書の写し、並びに4月8日より22日まで久保田において山城殿等との交渉にかかる日記写し)	宝暦14年申4月	半・1冊	524-1
被仰渡写(文化～文政年間の藩からの達書写し、俚約筋・供方規定・蝦夷人騒擾・箱館沖異国船渡来など)		半・1冊	524-2

被仰渡手控(藩からの達書の写し、公儀触書の連絡・儉約筋・奉公人規制関係など、天保14年頃まで記載)	天保4年巳正月	横半・1冊	524-3
(包紙) * (包紙上書)「文化八年未正月十四日上使大越頼母被指越被仰出候御条目并御執達」	(文化8年)	包紙/(322-1~3は一括)・1点	322-1
(用所を御先代の御遺志により造営するに付、今後も入念に相勤めるべき旨達) * (包紙上書)「御条目」/(包紙貼紙)佐竹左衛門」	正月	縦紙・1通	322-2
(御政務の場所を御先代の御遺志により造営致すに付、御改革御財用の綱紀を張り、行き届くよう心掛けるべき旨執達)	正月	縦継紙・1通	322-3
(佐竹義厚御條目、我等幼年にて家督・入部にあたり政務多端、加えて領内海岸防御や蝦夷地警固・箱館松前警衛向等にて入費容易ならざるに付、寛政度の振り合いを以て内外改革を申し付ける旨、家中は熟和一致をもって忠勤を励むべき旨) * (包紙上書)「御條目」	(文化12年)11月	縦継紙・1通	337
覚(上方米価下値・銅山難渋など御財用續年差支えのため、来年より5ヶ年給銀御借置き)の旨)	(文政5年)11月	縦継紙・1通	232
別紙(御家中着服について男子冬は紬太織・青梅縞木綿に限る旨など儉約規定) * (端裏書)「安政二卯十二月従久府被仰渡御与下御家中江被仰渡」	(安政2年)12月	横切継紙/(204-1~4は一括)・1通	204-3
此方より被仰渡控 申合之覚(春祈祷内神祭は客なし・衣類の儀など儉約条目書付) * 控	(安政3年)正月	半・1冊	204-4
覚(御財用向永久御仕法立て置かれるにより五ヶ年中儉約被仰渡箇条書、家中勤方・衣類などに付)	(安政3年)12月	半・1冊	206
覚(御政事御財用建直しに付省略などの被仰渡書) * (包紙上書)「安政四巳十二月被仰渡書入」	(安政4年)12月	横切継紙・1通	205
覚(御財用難渋に付御改革仰せ出だされ安政3年より大儉執行のところ、来年より5ヶ年年限引継の旨) * (包紙上書)「被仰渡書入」	(万延元年カ)12月	横切継紙・1通	207
於御廣間御出座之上被仰渡 御條目并執達(久保田藩12代藩主佐竹義堯による藩の財政政策に関する方針の仰せ渡し) * (表紙加筆)「御右筆之頭山田伝右衛門談之」	文久2年壬戌年2月19日	半・1冊	807
覚(藩より文久2年3月29日に仰せ渡された条目の写し、儉約筋・家中差上高・着服規制・贈答などに付)	(文久2年)3月29日	半・1冊	524-4
口上覚(御小人又治は薩長両藩と懇意多く、昨年の大事件の際には実意の働きがあったため、士分以上に仰せ付けられ然るべく存ずる旨) 平田大角→	(維新期)6月	横切継紙・1通	884
覚(運上蠟上納絞方に使用する筒盤に付、勝手次第使用御免とする旨の申渡) * (端裏書)「写」	2月	横切紙・1通	687
(財用差支えのため、此の上3ヶ年嚴重の省略相立て候に付)	3月	縦継紙/(一部破損)・1通	226
(去巳年古来稀なる凶作のため財用難渋、一昨申年改革により大儉執行いたすも近年も違作続きに付、又々5ヶ年中諸事仕向取縮めの旨執達) * (包紙上書)「御條目」	3月	縦継紙・1通	227
覚(御財用御指支に付御省略の儀執達の旨を江戸表にて仰せ渡しに付)	3月、(奥書)4月	縦継紙・1通	228

2. 苗字衆/2.1. 藩主条目・御書付・被仰渡等/2.1.3. 儉約・風儀

(江戸屋敷類焼などにて財用向指支えの状況に付、所存の旨を申し聞けるべき旨) * (包紙上書)「御直書」	4月	横切継紙・1通	118
口達覚(御会所より同役共の内御催促にて向庄九郎・須田美濃罷り出る所、御財用向御指支にて御書付を仰せ知らされるに付、並びに4月22日の評議に付)	(4月22日)	横長半/(209-1~5は一括)・1冊	209-5
覚(御城下廻り漆木取立、並びに川除御用として川岸などへ柳植付の達書) * (端裏書)「写済」	4月	横切継紙・1通	685
(去作の儀古来未聞の凶歳に付、軽重一同心を傾け、力を合わせて國中末々を救助すべき旨など執達) * (包紙上書)「御條目」	5月	縦継紙/(包紙一部破損)・1通	229
演説覚(財用積年指し支えのうえ去作非常の凶作に付、格別の御省略の旨を江戸より仰せ出だされるに付)	5月	横切継紙・1通	429
覚(御譜代の家中に対する風俗取締被仰渡、遊山・大礼祝儀・盆中夜踊などに付)	寅7月	縦継紙・1通	335
條々(家中の着服規定条目)	9月	縦継紙・1通	202
覚(百姓困窮にて収納方御指支えに付、百姓往来逗留中の入目を吟味すべき旨)	9月	縦継紙・1通	223
(積年の旧弊にて政事財用共に紊乱し紀律も相建ち兼ねるに付、諸局の政務改正の旨) * (包紙上書)「御條目」	9月	縦継紙・1通	225
(家中風儀取締に関する仰せ諭し書) * (包紙上書)「御條目」/(包紙貼紙)「佐竹左衛門」	10月	縦継紙・1通	336
(家中風儀取締に関する仰せ諭し書) * 336と同文	10月	縦継紙・1通	338
覚(伊勢御初穂納は三日市太夫治郎の名代手代に直納すべき旨の申渡)	11月	横切継紙・1通	686
覚(御苗字・御家老其外鷹御免の面々は新屋へ別野差出の際に御合判引合せに及ばざる旨の達し) 佐竹河内・佐竹山城・佐竹左衛門・佐竹石見→	11月	横切紙・1通	674-1
覚(鷹御免の面々は心得違い無きようにとの旨の達し)	2月	横切紙・1通	674-2
覚(御財用御差支に付、御帰国御使者の儀は御留守詰御家老指登らせ、直に御使者兼勤に仰せ付けられる旨)	酉11月	横切継紙・1通	1036
(財用向難渋に付借上の申渡、並びに節儉に勤めるべき旨執達書)	12月	縦継紙・1通	219
執達(御財用向難渋に付大儉執行の御仕法相立てられ諸事御省略の趣執達状) * (包紙上書)「執達」	12月	縦継紙・1通	224

2.1.4. 借上

(包紙) * (包紙上書)「文化十酉十一月中来戌年より向寅年迄五ヶ年上半知御割合ニ被弛置候御書付也」	(文化10年)	包紙/(222-1~3は包紙一括)・1点	222-1
覚(来戌年より寅年迄五ヶ年上半知仰せ付けられるに付、諸役人役料ほかの御借上割合は御弛めの次第)	(文化10年)11月	横切継紙・1通	222-2
(御借高割合来戌年より寅年迄五ヶ年上半知仰せ付けに付知行高のほか御借上割合御弛めの次第)	(文化10年)酉11月	半/(貼紙あり)・1冊	222-3

(包紙) * (上書)「御口達書老通、被仰渡書三通」[文化十三年子九月中被仰渡、外ニ御儉約筋之書付とも]		包紙/(215-1~3は包紙一括)・1点	215-1
覚(御財用差支えにより来丑年より3ヶ年中御家中知行高四六御借上の旨仰渡書)	(文化13年)9月	横切継紙・1通	215-2
口達(御勝手向不都合により3ヶ年中重き御儉約・四六御借上を行う旨の藩主口達)	閏8月	横切継紙・1通	215-3
覚(江戸上屋敷焼失等にて財用難渋に付、来未年も御借高半知御割合に仰せ付ける旨) * (包紙上書)「文政三年被仰渡候御書付、被仰渡書老通入」	(文政3年)6月	横切継紙・1通	210
覚(今年より向10ヶ年、四六御借上年に限り銀子御助力の旨被仰渡書) * (包紙上書)「巳年より向拾ヶ年半知年三貫目御助力相済候被仰渡書」/(端裏書)「文政四年巳十二月」	(文政4年)巳12月	横切紙・1通	214
覚(江戸上屋敷普請・去年国目付下向のにより御勝手向不都合のため、今年半知・来未年四六割御借上に付)	(文政5年)5月	横切継紙・1通	231
(勝手向危急の難渋に付、当子年より5箇年四六割御借上の旨の御条目執達書) * (包紙上書)「御条目 文政十一年上使森田淳治を以被仰渡」	(文政11年)9月	縦継紙・1通	217
(今年非常の凶作により蔵入米は例年の10分の1と手薄のため、領内余米等は蔵入にして家口に応じ相渡すべき旨執達) * (包紙上書)「御條目」	(天保4年)11月	縦継紙・1通	234
御口上書(当年耕作よろしからず大雪にて百姓極窮に付、御救なさるべきはもちろん、年寄共と打ち寄り相談すべき旨) * (包紙上書)「屋形様御口上書 佐竹淡路江」→佐竹淡路	(天保4年)11月25日(～明治32年書かへ)	横切継紙・1通	235
(今般御条目仰せ出だされ候通り、昨年非常の凶作により小野岡大和を江戸に登らせ調達せんとするも江戸大火にて混乱に付、家中・領中一統出金すべき旨の執達) * (包紙上書)「執達 天保五午上使ニ而可被仰渡候処御時節から故早川を以被仰渡候事」	(天保5年)5月	縦継紙・1通	230
覚(大儉執行年限5ヶ年延長の旨、並びに借上銀穀は別紙の通り御弛め置かれる旨)	(安政6年カ)12月	横切継紙/(212-1～2は一括)・1通	212-1
別紙(来申年より御家中・百姓町人に至るまで御借上銀穀弛め置かれるに付、次第条目書付)	12月	横切継紙・1通	212-2
覚(大儉執行年限5ヶ年延長の旨、並びに家中指上高四六御借上に付仰渡書)	(慶応2年カ)11月	横切継紙・1通	211
覚(国目付下向等にて御財用難渋のため別段の沙汰をもって御借高半知、扶持・蔵出は天保13年仰渡しの通り御弛めに付、組下中へ伝えるべく達書)	2月	横切継紙・1通	233
口上覚(この度御下国御用金不足により御発駕成りがたきに付、才覚のため御家中・諸侍・百姓・町人等にも御用立を申し渡す件) 山方太郎左衛門・小野岡市太夫・宇都宮帯刀→佐竹淡路殿	3月11日	折紙・1通	352
(包紙) * (包紙上書)「御条目」		包紙・1点	208-1
(昨年凶作のため借財したくも、折あしく江戸大火により調達できかねるに付、家中・領中一統へ御救出金仰せ付ける旨の御条目執達状)	5月	縦継紙・1通	208-2

2. 苗字衆/2.1. 藩主条目・御書付・被仰渡等/2.1.4. 借上

(凶作救助のため家中・国中一統に対し金銭の差出を求め る旨の御条目執達状)	5月	縦継紙・1通	208-3
(積年財用困窮に付、今年は半知借高を申し付ける旨、詳細は年寄共執達の旨) * (包紙上書)「御條目」	6月	縦継紙・1通	426
覚(今般蝦夷地警衛の仰せを蒙り莫大の御入方があるものの、家中困窮に付差上高半知とする旨の達書、知行高等は天保13年中仰せ渡されの通り心得るべき旨) *(端裏貼紙)「佐竹左衛門」	6月	横切継紙・1通	574
覚(財用窮迫に付今年半知借上、来子年四六御借上の旨 仰出書)	6月	縦継紙・1通	216
覚(財用差支えに付、明年も是迄通り四六割合の御借上の旨仰出書)	6月	縦継紙・1通	218
覚(御財用差支えに付、今年知行高100石に付60石余を借り置かれる旨) * (上書)「佐竹左衛門」 → 佐竹左衛門	7月	縦継紙/(213-1 ~2は一括)・1通	213-1
(御財用向難渋により御借上高格別の割増に付、気の毒たるも是非に及ばざる次第の旨執達書)	7月	縦継紙・1通	213-2
(包紙) * (包紙上書)「御書付 四六御割合御免被仰渡」		包紙・1点	1138-1
覚(積年御家中重き御借高成し置かれるにより一統窮迫に至るも、大坂表の借財等嵩み容易ならざる難渋に付、今年家中知行高半知割合をもって御借上成される旨ほか達書)	7月	横切継紙/(1138-2~3は包紙一括)・1通	1138-2
覚(知行高半知御割合の外御扶持の内御借上げの分も去々末年仰せ渡された通りに付此旨相意を得らるべき旨ほか)	7月	半・1冊	1138-3
覚(御財用指問えに付今年より戌年迄3ヶ年御借上仰せ渡される旨御書付)	9月	縦継紙・1通	220
覚(御財用積年御難渋のうえ去巳年以來逼迫ではあるが、今年も豊熟に付当卯年差上高半知割返なし下さる旨) * (包紙上書)「被仰渡書」	12月	横切継紙・1通	221
覚(先達て思し召しの旨を御条目をもって仰せ出され、この度別紙2通を以て仰せ渡されるに付、心得るべき旨)	12月	横切継紙/(204-1~4は一括)・1通	204-1
別紙(家中差上高四六割御借上に付、小役銀・御扶持からの御借増は武器の用意もあるによりその儀無きの旨など申渡書)	12月	横切継紙・1通	204-2
覚(近年御出物も相減り、御払方には過半の御不足あり気の毒故、今年より5ヶ年御償御役料などを始め委曲別紙の通り御割合を以て借し置かれるに付)	7月	横切継紙/(1131-1~2は紐一括)・1通	1131-1
覚(御当代の始め莫太の御物入にて財用向差問えにより御本丸御蔵金を用いて凌いだ、御蔵金御償は延引になっているに付、御蔵金は永久御城附の基により、御蔵入高のうち少々金銀に替え本丸御蔵へ納めることを定める旨)	申3月	横切継紙・1通	1131-2

2.9. 幕府・維新政府触書

武家諸法度 *写	宝永7年庚寅4月15日	縦継紙・1通	192
----------	-------------	--------	-----

覚(竹千代様御誕生の御祝儀として諸家領内知行所内の罪科ある者について赦を行うようにとの公儀触書について本藩より伝達の旨)	(元文2年)12月	横切継紙・1通	193
覚(御出生様は松平菊千代と称されるに付、同文字・同唱の名を改めるべき旨仰せ渡される件) * (端裏書)「写相済」	(享和元年)10月	横切継紙・1通	682-1
覚(近年凶作が打ち続くところ当年は作方宜しきに付、手練次第置廻・困米等申し付けるべき旨の幕府触書が出るにより、組下などへ申し渡すべき旨の達書) * (端裏書)「写」	(寛政2年)8月	横切継紙・1通	682-2
覚(野州阿久津河岸の義、荷物その外旅人をも乗船致させ不束ゆえ、旅人乗船禁止の旨が幕府より阿久津河岸の者へ申し渡されるに付、与下へ申し渡すべき旨の達書) * (端裏書)「写」	(寛政年間)正月	横切継紙・1通	682-3
覚(起(ママ)怒川阿久津河岸にて近年、諸家参勤等の荷物も引き請け江戸廻し致し、旅人乗船や止宿もさせていたが、幕府老中松平越中守定信殿指図により荷物船積・止宿を禁じられた件を、与下へ申し渡すべき旨) * (端裏書)「写」	(寛政年間)8月	横切紙・1通	682-4
(去7日、幕府老中松平伊豆守殿宅にて、名代佐竹壱岐守が宗家遺領相続許可の申し渡しを受けるに付、家中へ知らせのため高彦右衛門を差し下す旨) * (包紙上書)「御條目」	(文化12年)9月	縦紙・1通	425
(当月4日、幕府老中牧野備前守(忠雅)宅にて、名代岩城伊予守が宗家遺領相続許可の申し渡しを受けるに付、家中へ知らせのため岡百助を差し下す旨) * (包紙上書)「御條目」	(弘化3年)11月	縦紙・1通	424
(嘉永7年2月10日横浜にて亜美利加へ対応の様子注進書、幕府側の様子・ヘルリ以下のアメリカ人の様子等も記す)	(嘉永7年)	半/(309-1~2は一括)・1冊	309-1
此度浦賀表より御注進之次第(江戸湾へ唐船進入に付、諸固め大名の対応の次第書付、江戸湾警備の諸大名・人数の書上、及び幕府より火消役に対し警戒の指示が出されるに付配備人数の姓名書上)		半・1冊	309-2
(包紙) * (包紙上書)「御書付」		包紙/(194-1~2は一括)/(194-1-1~3は包紙一括)・1点	194-1-1
(將軍の職掌は皇国を治安せしめ外の夷狄を征伐することにあるにより以来政令一途に勤める旨の勅命御請書写) (徳川)家茂→		折紙・1通	194-1-2
(勅書御請書写、横浜鎖港の成功を奏上すべき旨・海岸防禦について急務専一に心得実備致すべきこと、ほか) (徳川)家茂→	4月	折紙・1通	194-1-3
入記(横浜鎖港に付宸翰写・御所より被仰出御書付写・松平陸奥守様より御廻状写など)	(元治元年)子4月16日	横長美・1冊	890
(宸翰並びに御請書など公儀より渡され御同席様より御廻達になり拝見仰せ付けられた旨の添状) * (包紙上書)「佐竹淡路 宇都宮帯刀 小野岡右衛門 塩谷弥太郎」 塩谷弥太郎自筆・小野岡右衛門・宇都宮帯刀→佐竹淡路殿	元治元年4月16日	横切継紙/(194-1~2は一括)・1通	194-2

上意之覚(奥羽鎮撫総督九条左府殿ほか御軍議のうえ討庄御先鋒蒙らさせられるなど形勢切迫に付、軽拳暴動などなきよう忠勤を励むべき旨) * (包紙上書)「御書付」	(慶応4年)7月	横切継紙・1通	195
--------------------------------------------------------------------------------	----------	---------	-----

2.10. 藩主・嫡子応接(湯沢立寄)

(包紙) * (包紙上書)「若殿様御入国之時分之書付覚」久太夫殿より参候」	戊戌6月15日	包紙・1点	315-1
若殿様御入国之覚(御迎・指上物・御見廻などの方法に付) 早川正大夫→	元禄7年戊戌6月15日	横切継紙/(315-2-1~5まで綴)・1通	315-2-1
(二番座にて御振舞の対象者書上、当番大小姓・御祐筆ほか)	(元禄7年)戊戌6月14日	横切紙・1通	315-2-2
覚(御成の時分に御見廻を申し上げる者の名前書付、田中庄太夫ほか11名)	(元禄7年)戊	横切紙・1通	315-2-3
(一番座にて料理振舞の対象者書上、松塚角右衛門ほか5名)	(元禄7年)6月15日	横切紙・1通	315-2-4
若殿様御入部之時御振廻御書付(石川縫殿之丞以下の名前書上、御料理頂戴の者など)	(元禄7年)	綴/(横切紙2紙、原状は横切継紙)・1綴(2枚)	315-2-5
(書状、15日に御成につき書付を披露した旨、御献立の悪しき所を直した旨、御地での謡の旨ほか) 宇佐見久太夫忠辰(花押)→田中庄太夫殿、田代六左衛門殿	(元禄7年)6月12日	折紙・1通	315-3
正徳年中より之御上下役割(屋形様・若殿様御登・御下などの際の役付覚、舟奉行・宿割・刀番など、正徳元年～延享元年分)	(正徳元年～延享元年)	半・1冊	282
御成御茶道具覚帳(茶道具一覧) 丹野伊貞・藤本喜袋→	元文2年巳ノ2月14日	横長半・1冊	461
(書状、屋形様益御機嫌能く御旅行、今晚院内御止宿遊ばされるに付) * (包紙上書)「佐竹左衛門様糸賀九左衛門」 糸賀九左衛門一継(花押)→(佐竹)左衛門様	3月25日	折紙/(985-1~14は紙縫一括)・1通	985-1
(書状、屋形様当24日御宅へ入らせられる節、御昼御膳指上げる様に仰せ出されるに付) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 大嶋平馬」 大嶋平馬久當(花押)→(佐竹)左衛門様	3月22日	折紙・1通	985-2
(書状、屋形様明後19日御宅へ入らせられる節、お先に御昼御膳差し上げられるよう仰せ出でられるに付) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 田代新右衛門」寛政二年戊三月御登之節御膳奉之儀御別紙ニ而被仰遣候所右御別紙へ御直様申上ル書状也」 田代新右衛門綱記(花押)→(佐竹)左衛門様	3月17日	折紙・1通	985-4
(書状、当12日御宅へ入らせられる節、御料理指し上げられる様に仰せ出でられるに付) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 田代新右衛門」 田代新右衛門綱記(花押)→(佐竹)左衛門様	5月10日	折紙・1通	985-5
(書状、屋形様当24日御宅へ入らせられ御昼御膳指し上げられる節に、御茶道を御膳奉御先へ参るよう成し置かれたき旨) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 糸賀九左衛門」 糸賀九左衛門一継(花押)→(佐竹)左衛門様	3月22日	折紙・1通	985-6
(書状、願筋の儀、湯沢の儀は格別の次第もあるゆえ御覧い申上げ方もこれ有る旨ほか) * (包紙上書)「左衛門様 早川治太夫」 早川治太夫敦以(花押)→(佐竹)左衛門様参人々御中	7月2日	横切継紙・1通	985-7

(書状副啓、今日出立御飛脚脇触なしに付、自分状相成り兼ねる故、殿付にて上書差上げる旨) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 小野岡四郎」	6月6日	横切継紙/(985-1~14は紙綴一括)/(985-8-1~3は包紙一括)・1通	985-8-1
(書状、先頃御宅へ入らせられる節に御茶道を御膳奉御先に参らせるよう御用人・御膳番へ仰せ遣わされたが、古来より御家来へ挨拶申し来たる処、此度糸賀九左衛門・大島平馬より右挨拶に及び御直答するに付、以前の形と甚だ相違致す旨) 小野岡四郎義年(花押)→佐竹左衛門様貴酬	6月7日	横切継紙・1通	985-8-2
(書状追啓、近頃慮外ながら千万御隠居様御始め御手廻様中へ宜しく御礼御伝え下されたき旨)	6月7日	横切継紙・1通	985-8-3
(書状、御茶道御膳奉の件を御用人御膳番へ申し越し、右の旨承知致すのは古来より御家頼共挨拶形と申し来たる処、此の度糸賀九左衛門・大島平馬へ右挨拶御直答致す故、已前の形と甚だ相違致す旨) * (包紙上書)「上白石惣吉」四郎殿へ被遣候御案文 御用人御膳番之事申遣候御用也」(白石惣吉)→		横切継紙・1通	985-9
①(書状、当24日御宅へ入らせられる節、御昼御膳指し上げる様に仰せ出だされるなら御茶道を御先に参るよう致したき旨)、②(書状、屋形様益御機嫌能く御旅行今晚院内御止宿、御宅に入らせられる際は首尾よくお世話喜悅の旨) * (包紙上書)「御上下之節御用人御膳番へ被下候御直書案入」/(下札)①「如是被仰遣候得ハ右御受之書状拙者共へ遣来候、古書状元仙持参仕候故此分ハ遣不申候」、②「是へ向へ古書状此度遣候」 ①小奉書御名計②御名計小奉書→①糸岡(ママ)九左衛門殿、②御用人糸賀九左衛門殿・御膳番大島平馬殿格	①3月22日②3月25日	折紙/(下札あり)・1通	985-12
(藩主入部時、湯沢通過後に出府を仰せ付けられるのが先格なれど、出仕以前のため出府御免を仰せ出される旨の通達) →佐竹三郎(義舒)	4月	横切継紙・1通	72
湯沢宅江被為入候節御取扱被申上候ヶ条書(藩主の参勤交代道中途次における御立寄時の諸規式、組下湯沢給人・左衛門新発意)	寛政元年酉3月15日	半・1冊	518
覚(手前事近年持病の瘧氣不快相勝れざるに付、屋形様御出迎と御目見は御免成し下され、諸事三郎に勤めさせたき旨) * (包紙上書)「寛政八年辰三月十八日湯沢御昼通之節大殿様御不快ニ而御迎御目見御訴訟被仰上候御覚書之御草稿也、尤前御止宿横手江指遣申候、本書杉原横折」御苗御名→	(寛政8年)3月	縦紙・1通	1152
御上下御料理覚(藩主饗応の料理献立、食材一覧など) 鈴木甚右衛門・鈴木吉右衛門→	文化12年亥ノ5月23日	横長半・1冊	455
御上下之節御茶道勤方手控書物ヶ条(藩主お立ち寄りの節、書院飾りなど) 御茶道東海林金斎(印)→	文政2年卯2月19日	半・1冊	454
宅江被為入之節御取扱覚(藩主の参勤交代道中途次における湯沢御立寄時の諸規式、下札による指示書あり)	文政8年酉3月	半・1冊	519
略御成 文政九年戌三月中 御上下御泊り之節勤形心得覚(書院などの室内調度や諸役人の配置に付) 東海林宗味→	(文政9年)3月	半・1冊	520
御格御成ニ付御伺覚(藩主御成の馳走の作法に付尋、御格御成は年来中絶していたため諸作法の差図を受けたき旨) 佐竹左衛門→	(文政9年)西12月	横長美・1冊	543

2. 苗字衆/2.10. 藩主・嫡子応接(湯沢立寄)

文政十一子三月十八日御立寄之節(伺いに対する返答書、御休息の間において息女御目見仰せ付けられる儀、召使女中の召出等に付ほか)	文政11年3月18日	横切継紙/(73-1-1~8は一綴)・1通	73-1-1
覚(御上下の節に在々給人御通行御用掛にて罷り出る際には、その役名・名前を書いて御先御小人へ差し出すべき旨、ほか)	文政11年子3月	横切継紙・1通	73-1-2
(書状、今度湯沢御止宿の儀、御成の御式ではなく御立寄の御振合とする旨)	2月	横切紙・1通	73-1-3
覚(屋形様先月29日江戸御発駕遊ばされる段、御飛脚申し来るに付) 佐竹又四郎・佐竹左衛門・佐竹石見・戸村十大夫・多賀谷下総・茂木筑後→	5月	横切継紙・1通	73-1-4
①覚(屋形様当5月中着城により出府致すべきに付)、②書取(組下給人のうち御入部の際御歓びとして自身出府御礼を申し上げる格の者並びに惣代等の先例を書き出すべきに付)	①3月、 ②3月	横切継紙・1通	73-1-5
覚(御入部の際の諸注意に関する達書、他所より御使者が参った場合・先私の足輕の件・宿継人馬・賄など)	5月	横切継紙・1通	73-1-6
覚(御入部歓びとして他所より御使者差し越す節は院内より久保田へ注進する旨、先私の御足輕勤め方などに付) 佐竹左衛門・戸村十大夫・浪江堅治→	5月	横切継紙・1通	73-1-7
(入部時の献上物に関する指示書、金山御旅館へ先例の通り干肴1箱献上すべき旨、湯沢宅にて昼休に付御料理を差し上げるべき旨、ほか)	3月	横切継紙・1通	73-1-8
覚(藩主入部時の出迎に関する指示書) * (付箋)「御評定所被仰渡御書付式通 三月廿九日」		半/(73-2-1~3は一綴)・1冊	73-2-1
覚(藩主入部時の出迎に関する達書の写、組下まで申し渡すべき旨)	4月	半・1冊	73-2-2
覚(藩主入部の際に出仕する役職の者に付) * (付箋)「御会所御触書式通 三月廿九日」	3月	半・1冊	73-2-3
義睦公御入部御発駕・御着城御行列帳	安政2年乙卯年5月11日	堅4分の1帳・1冊	556
覚(屋形様が先月23日に江戸を御発駕遊ばされた旨の知らせ状、御領内御泊附とも)	5月	堅紙・1通	557-1
(書状、佐竹右京大夫殿が4月23日に江戸発駕して国許へ初入部に付、御泊附等を連絡する旨、江戸〜久保田着城まで)		横切継紙・1通	557-2
覚(参勤交代途次に湯沢へ御止宿する藩主に対する御機嫌窺・献上品・馳走などの方式に関する伺と付箋による回答書) 佐竹左衛門→	3月	横長美/(付札多数あり)・1冊	568-1
覚(御入部之節御伺書へ下札ニ而被仰渡候、参勤交代道中に湯沢へ御止宿する藩主に対する御機嫌窺・御目見・馳走等の方式に関する伺と付箋による回答書)	安政2年卯5月	横長美/(付札多数あり)・1冊	568-2
覚(御入部の節は古来より与下の者の惣代1人を差し登らせてきた先例に関する伺書) 佐竹左衛門→	3月	横折紙/(付札あり)・1通	568-3
覚(湯沢にて藩主御昼休に際し、料理差し上げや産物の品物献上の心得に付達書) * (端裏貼紙)「湯沢」	4月	横切継紙・1通	569
御上下之節御草履取勤形(藩主通行の節の先例書上) 浅吉→	丑4月19日	折紙・1通	570

御馬繰出覚(屋形様駒上覧に付駒繰出役の勤方ほか) 横山茂作→	丑4月	折紙・1通	571
御使者番覚(御老衆への御使者は屋形様御着のうえ御旅宿へ罷り越して勤めるべき旨ほか) 横山茂作→	丑4月	横切紙・1通	572
覚(御上下の節大配膳勤方の事) 古橋八兵衛→		縦紙・1通	573
御格御成御旧式覚(湯沢にて藩主御出迎時の格式・馳走の先例ほか)		横長美・1冊	626
覚(藩主が湯沢御立寄の際の拝謁儀礼の次第書) * (包紙上書)「御用座御取調 御不用二者候得共、同道被相渡候」		横長半・1冊	822-1
覚(藩主が湯沢御立寄の際における御膳差し上げ等の次第書) * (包紙上書)「御膳番方取調 正田第七郎 不用二者相成候得共、同道御持参可被成候」		横長半・1冊	822-2
(包紙上書) * (包紙)「口上 匹田斎」		包紙/(991-1~4は包紙一括)・1点	991-1
別紙(引田織部義、当時勤役の御家来共同様に屋形様御上下の節指し出される義に付)	4月	折紙・1通	991-2
口上(引田織部義に付御礼旁根岸市郎衛門相頼み申し上げる処、又々思召しの趣同人を以て仰せ下され過分至極に存じ奉るに付) 匹田斎→	4月26日	折紙・1通	991-3
口上覚(引田織部儀、御上下の節勤役家来共同様に差し出す儀に付)	4月	横長半・1冊	991-4
(書状、屋形様去18日貴宅へ入らせられ、拝領物および御目見仰せ付けられし御礼として御紙面の趣、上聞に達するに付) 小鷹狩右近政典(花押)→佐竹左衛門殿	3月21日	折紙/(1080-1~5は巻込・紙縫一括)・1通	1080-1
(書状、屋形様湯沢御昼前の節貴宅へ入らせられ、拝領物仰せ付けられし御礼として御紙面の趣、御聴に達すに付) 岡本又太郎元長(花押)→佐竹左衛門殿・佐竹三郎殿	4月29日	折紙・1通	1080-2
(書状、屋形様去月26日貴宅へ入らせられ拝領物仰せ付けられ、御礼として御紙面の趣上聞に達するに付) 小瀬又七郎伊紀(花押)→佐竹左衛門殿	5月14日	折紙・1通	1080-3
(書状、屋形様当月16日貴宅へ入らせられ、拝領物および御目見仰せ付けられし御礼として御紙面の趣、御聴に達すに付) 石塚孫太夫義貞(花押)→佐竹三郎殿	5月19日	折紙・1通	1080-4-1
(別紙、此方より仰せ上げる御書の草稿を持参するに付)		横切紙/(1080-4-1に挟込)・1通	1080-4-2
(書状、屋形様貴宅へ御止宿の節、御機嫌御窺旁御膳差し上げられたき旨の御紙面の趣御聞に達すに付) 小野崎庄九郎通恒(花押)→佐竹三郎殿	5月7日	折紙/(1080-1~5は巻込・紙縫一括)・1通	1080-5
(包紙) * (包紙上書)「御止宿吟味書付 御老中御來書」		包紙・1点	1141
覚(手前事近年持病積気、去冬出府中より別して相勝れず、種々療養相尽くせども相替わらぬ病体に付、宅へ入らせられる際の御出迎・御目見御免なし下されたき旨) 佐竹左〔虫損〕→	3月9日	折紙/(1140-1~2折込一括)・1通	1140-1

覚(親左衛門事近年持病の積気にて別して去冬出府後は相勝れず、種々療養相尽くすも相替わらぬ病体に付、御登の節御出迎御目見御免なし下されたき旨) 佐竹三郎→	3月9日	折紙・1通	1140-2
------------------------------------------------------------------------------	------	-------	--------

2.11. 佐竹南家格式

(御先祖様御座・御一字・御直書・所持の古記録などに付書上) 岡本又太郎→	2月20日	横切継紙/(371-1～3は包紙一括)・1通	371-1
御家格御願書(4ヶ条のみは旧格に復し下されたき旨) 佐竹左衛門(義珍)→	丑12月4日	美・1冊	14
先祖御分流並旧格之次第(佐竹義里～義安までの先例) 佐竹左衛門(義珍)→	12月	美・1冊	15
旧格覚(佐竹南家の由緒・元服之式・出仕之式書上、元和～享保年間、義里～義持代までの座次格下げの変遷) 湯沢→		美・1冊	13
(安永8年3月3日～4月23日の久保田滞在中日記、上使吉川七郎が御苗字衆へ対し不敬の振舞をした一件に関する交渉の記録)	(安永8年)	半・1冊	527
(包紙) *(包紙上書)「寛政元西六月中御相手衆より申来候書付、此方より被遣書付共入 御控」		包紙・1点	314-1
覚(「梅津」小右衛門が左衛門殿方へ見舞に来た際に番所下式台における取次方法をめぐり行き違いが生じたため、家格による取次は相成らざるやを承知いたしたき旨) 真崎兵庫・小場勘ヶ由・次田内記・梅津小右衛門→	(寛政元年)6月13日	折紙・1通	314-2
覚(先刻山崎伝五郎を以て早川長門へ仰せ聞けられた演説の趣は承知の旨)	(寛政元年)6月14日	折紙・1通	314-3
(湯沢様御通行の節御先触・人馬について少しも遅滞なく差し出すべき旨を誓約する証文) 御村[]伊兵衛(印)→高久傳九郎様	文化8年未4月10日	堅紙・1通	849
覚(左衛門乗輿通行に付栗橋関所番金銭請取証文) *(包紙上書)「文政七年申九月中栗橋御関所御番人より差出候御乗輿之書付 沓通 沓札 御宝物ニ入可申事」 房川渡中田御関所番足立金四郎(印)・足立十右衛門(印)・加藤奎兵衛(印)→原田儀助殿	文政7年申9月11日	横切継紙・1通	378
(「殿」字の字体に関する指示書、去子5月の参勤の節と今年始に下された直書で用いた「殿」字は右筆の手控誤りの旨) *(包紙上書)「文政十二年丑三月廿七日ニ達ス、御直書殿文字御先例ニ図候ニ付江戸御老中匹(ママ)田斎殿へ御内書を以被仰遣候所、右御書付へ直々朱ニ而御取扱形被仰越候御書付」 正田斎定綱→	文政12年丑3月11日	折紙・1通	316
(佐竹南家当主・出仕前嫡子の死去に際し上使として遣わされた秋田藩家臣の人名書上、並びに上使として廻座が遣わされるという先規に関する御隣家との書面でのやり取りの写し)	(弘化元年3月カ)	横長半・1冊	550
覚(安政元年に江戸往来に限り領内使用許可となった紋幕は、以後江戸往来たりとも軍用の外は使用停止に付) *(包紙上書)「御書附」	(安政7年)2月	横切継紙・1通	325

(南家・小場家の座次についての南家の誓約書、由緒御改の上は重ねて申し立てても御取上遊ばされまじき旨)	(明治2年カ)	縦継紙・1通	26
(問合せの家格先規の次第、表向き仰せ立てられるようにとの旨の存寄書) * (包紙上書)「御書付忝通 丑年御老中より御添伺以御達之御書付也」	丑	横切紙・1通	19
口上(苗字衆・御一門の名改願の手続きは先規の通り心得るべき旨) * (包紙上書)「使者口上 山方太郎左衛門口上」 山方太郎左衛門使者 野口新蔵→	4月	横切継紙・1通	514
覚(元服出仕家督御礼申上げる節の格を先祖よりの旧式の家格に返し下されたき旨の願書、先祖義尚以来の由緒を書き添える) * 下書 佐竹新発意→	11月2日	横長半・1冊	694
(殿上元服式・出仕家督御礼などに付旧格に復し下されたき旨の願い出に対する達書、元服式と返盃のみ旧格にする旨)	12月	横切継紙・1通	513

2.12. 佐竹本家分家・一門

2.12.1. 佐竹壱岐守家

(湯沢・大館両家の座席前後の事、今度御家督御礼の節各公方様へ御目見の書付差し出す旨、次席は以後の例には立たない旨の証文) * (包紙上書)「壱岐守様御証文一通」/(写) 佐壱岐守義長(花押)→佐竹淡路殿(義安)	元禄16年未9月16日	縦紙・1通	20
(書状、前屋形様御逝去に付御悔の紙面を佐竹壱岐守義和様へ披見に入れたところ、御入念の儀に思し召さる旨を御報せ) 大田原平右衛門祐之(花押)・大崎十左衛門寶祐(花押)→佐左衛門様	(文化12年カ)7月19日	折紙・1通	761

2.12.2. 佐竹左近家

(書状、御用につき御旅館へ罷り出るようにとの旨の佐竹左近義方様御意の件) 瀬谷五郎右衛門→佐竹左衛門殿	(天明5年カ)7月晦日	横切紙・1通	767-1
(書状、御用につき今九つ時御旅館へ罷り出るようにとの旨の左近様御意の件) 瀬谷五郎右衛門→佐竹左衛門殿	(天明5年カ)8月12日	横切継紙・1通	767-2
(書状、御用につき御旅館へ罷り出るようにとの旨の左近様御意の件) 瀬谷五郎右衛門→佐竹左衛門殿	(天明5年カ)9月2日	横切継紙・1通	767-3
(書状、御用につき八つ時過御旅館へ罷り出るようにとの旨の左近様御意の件) 瀬谷五郎右衛門→佐竹左衛門殿	(天明5年カ)9月8日	横切継紙・1通	767-4
(書状、御別啓拝上、御念入れられる御事忝き仕合せに存じ奉るに付) * (包紙上書)「佐竹左衛門殿 荒谷小隼人」 荒谷小隼人→(佐竹)左衛門様	9月29日	横切紙/(985-1～14は紙縫一括)/(985-3-1～2は包紙一括)・1通	985-3-1
(書状、左近様今晚院内へ御止宿遊ばされるに付、御宅へ入らせられる節の御膳指上げの件) 荒谷小隼人通政(花押)→佐竹左衛門殿	9月29日	折紙・1通	985-3-2

2.12.3. 佐竹北家

(書状、今年も割増などと申す儀を久保田は仰せ渡されると承るに付、家式全体の儀を語るも本ノ役ばかりは同苗受取り申さざる旨ほか) (佐竹)主計義邦→(佐竹)淡路様貴面	8月22日	横切継紙・1通	750
-----------------------------------------------------------------------------------	-------	---------	-----

(書状、支配給人へ申渡す文法等の御ケ条の儀、各様にも御文面は御解し成されかねるが、これまでの通りに致し置き、改め置き申す義にはこれ無き旨ほか) * (端裏書)「淡路様・右膳様 主計」(佐竹)主計→(佐竹)淡路様・右膳様	11月25日	横切継紙・1通	751
(佐竹図書(北家義邦)・佐竹山城(東家義智)ら4名は内談におよび壱岐守様へ虚説書状を送る算段を致すにつき差し控え処分に処せられた旨を、組下・家来共へ申し含めるべき旨の御書付) * (包紙上書)「宝暦丑ノ年被仰知候御書付 一通」	(宝暦7年)5月	横切継紙・1通	323
(書状、只今久太夫が参上する旨、各様よきように御相談を頼む旨ほか) (佐竹)主計→(佐竹)兵馬(義以)様	9月7日	横切継紙・1通	538-1
(書状、昨晚の御礼を略儀ながらこの一書を以て申し上げる旨) (佐竹)主計→(佐竹)兵馬(義以)様	正月11日	横切紙・1通	538-2
(奉書、岡本忠太郎出府の御請が済んだ旨・匹田久太夫一件が無難に済み御満悦に思し召されるに付) 佐竹主計義邦(花押)→佐竹兵馬(義以)殿	11月2日	折紙・1通	538-3
(書状、今九ツ時山城宅へ御出で下されたき旨) (佐竹)主計→(佐竹)兵馬(義以)様	9月5日	横切紙・1通	538-4
(書状、各様御並様より「手前」と御書載なさる儀を向後は「拙者」と書き載せるよう仰せ渡されるにつき山城殿腹立ち、御訴訟の所存の旨ほか) 早川喜太郎→(佐竹)左衛門様 参人々御中	5月4日	横切継紙・1通	538-5
(書状、今般築治部右衛門を以て仰せ出された御用筋御取扱の件、平元茂助一件、匹田久太夫を片付けたのは御威権が立たないためである旨ほか) (佐竹)主計義邦(花押)→(佐竹)兵馬(義以)様 貴復	(安永2年ヵ)10月29日	横切継紙・1通	538-6
(書状、御左右仕りたきに付御光駕を待ち入る旨) (佐竹)主計→(佐竹)兵馬(義以)様 御答	正月11日	横切紙・1通	538-7
(書状、久太夫一件に付、市太夫・藤太に対する遠慮は指し留められ、御用出情相務めるべき旨申し渡され御請相済む旨ほか) * (奥書)「右者明和元年申十一月十日夜四ツ時大和殿を一覧相済山城殿江直々相返候已上」 佐竹主計自筆→佐竹山城殿	(明和元年)10月29日	横切継紙・1通	753
享和三亥九月廿九日小生一人二而申上候手控草稿 右三通之内未一通ハ九月廿八日東家へ所存形承り候手控也(廻座諸士席論の義に付願書等控)	(享和3年)8月	半・1冊	618-1
御渡之一冊也、本書ハ老中所存、附札ハ東家之所存也、右附札之字へハ東之字之印付候也(廻座諸士席論の義に付存寄書等控)		半・1冊	618-2
(袋) * (袋上書)「御直参衆万一件御留書」	文化3年寅3月	袋・1点	436-1
寅三月初の御挨拶(書状、陪臣御附人の外御直参諸士へ応対遠慮致すべく仰せ渡されるに付)	寅3月	横切紙/(436-2~20は紙縫にて一綴)・1通	436-2
二度目の御草紙(書状、組下遠慮一件につき願筋申し立ての旨)		横切継紙・1通	436-3
寅三月二度目(直参諸士と陪臣の御差段仰せ渡される件に付、苗字衆・廻座との相談のことに付)		横切継紙・1通	436-6

(書状、先般東家・大館・拙家より相談申し遣わし、老中衆内々演説の儀を申し伝えるに付)		折紙・1通	436-7
五月四日角館へ遣候御草稿(書状、いずれ御相談の上双方挨拶の趣に付、東家にて取扱方これありたき旨ほか)		横切紙・1通	436-8
(安永4年迄本入分72貫27文ほか、明和期までの銭高差引書付)		折紙/(封紙を再利用)・1通	436-9
(壺石銀不法2貫328文等書付、裏には女性の書状下書あり)		折紙・1通	436-10
(書状下書、諸士陪臣応対一件に付、家人は一通り御受申上げ、跡にて願いを申し立てるほかあるまじき旨) 角館→	5月29日	横切紙・1通	436-11
(書状草稿、東家へ遣わされた御草稿の趣は承知、御揃出府のうえ御直々申し上げるのは御苗字の職分にも関わる旨の意見等) →(角館)	(寅3月27日)	折紙・1通	436-12
(書状下書、来春御検地役による見分をお願い申上げる件)		折紙・1通	436-13
(書状、御直参陪臣応対一件に付、草稿の文言に対する意見等) →(角館)	(5月8日)	折紙・1通	436-14
(書状、本堂御建立は御手元にて拵え下されたく願い申上げる件、御備無尽の件等)		横切紙・1通	436-15
角館へ之御草稿(書状、御直参陪臣差別仰せ渡しに付、東家・大館・拙家にて相談の件、此度江戸御変事に付願筋見合わせの旨ほか) →(角館)	寅3月22日	横長半・1冊	436-16
(包紙) * (包紙上書)「上 湯澤惣給人」/(包紙後筆)「新家席順事」		包紙/(1135-1～6は包紙・紐にて一括)・1点	1135-1
覚(百姓・町人より銀穀献上物等にて武士に召し立てられた面々は新家とし、旧家の次席または給人近進並の次席たるべき段仰せ渡されるに付、新旧座順御伺い申し上げるに付) →湯澤惣給人	戊2月19日	横長半・1冊	1135-2
(書状、旧家・新家の座順に付組下の者共へ申渡せし処、新家の上席に仰せ渡され下されたく願を申し出るに付) *下書		横切継紙・1通	1135-3
(書状、百姓・町人より新たに召立てられし新家の次席致す事に相成れば気の毒の至りに存じ奉るに付、新旧座順御伺い申し上げる間、旧家の筋相立つよう仰せ付け下されたき旨)	戊2月	横切紙・1通	1135-4
(角館より申上書の写し、百姓・町人より銀穀献上物等にて武士に召し立てられた面々は新家とし、旧家の次席または給人近進並の次席たるべき段仰せ渡されるに付、旧家にてても新家の次席となつては気の毒により存寄書)	(文化8年酉8月)	半・1冊	1135-5
(百姓・町人より銀穀献上物等にて武士に召し立てられた面々は新家とし、旧家の次席たるべき段ほか仰せ渡されるも、新家の者心得違いにて公私用談・会席の節労働を生じるは気の毒に付、久保田・在々相混じ候節の座順を仰せ渡され下されたき旨の願書)	正月	半・1冊	1135-6
(袋) * (包紙上書)「上使御取扱形絵図入」		袋/(284-1～12は袋一括)・1点	284-1

2. 苗字衆/2.12. 佐竹本家分家・一門/2.12.3. 佐竹北家

御北家上使御受御絵図面(席図)	安政4年巳8月6日	31.5×73.7・1鋪	284-2
(御相手番小野崎伊織殿御越の節の座敷席図、上使常世栄之助)	慶応4年辰10月29日	80.2×55.9・1鋪	284-3
(表書院にて上使常世栄之助より上意を蒙る節の席図)	慶応4年辰10月29日	64.6×41.7・1鋪	284-4
(表書院にて上使石川束より上意を蒙る節の席図)	慶応4年辰7月7日	61.3×39.2・1鋪	284-5
(表書院にて上使より上意を蒙る節の席図)		60.8×38.4・1鋪	284-6
(表書院へ上使案内時の役人席図図)		40.9×28.2/(彩色あり)・1鋪	284-7
(奥向書院にて御目見の節の諸役人席図)		40.8×28.2/(彩色あり)・1鋪	284-8
(上使と殿様対面時の段取り図)		40.2×56.1・1鋪	284-9
(御悔上使案内の際の席図)		49.8×70.9・1鋪	284-10
(御悔上使案内の際の席図、倍口茂之助自筆書付を添付)		56.7×93.4/(貼紙あり)・1鋪	284-11
(表書院へ上使案内の際の席図、天保13年石川伊之助へ写差し遣わしの旨あり)		39.2×48.9・1鋪	284-12
(年賀状、並びに最禪寺一件にて旦那から親類共へ懸合の儀等に付) 矢野右内森高(花押)→山方市之進様・大和民右衛門様・菊地孫兵衛様 人々御中	正月21日	横切紙・1通	606
(書状、最禪寺一件関係、最禪寺は此表へ出府のこと故、親類を宅に招いて懸合に及びたき旨) 宇源蔵→山方市之進様・大和武左衛門様・菊地孫兵衛様	正月21日	横切紙・1通	609
(書状、今般左衛門様よりの尊書にて伝えられた宝暦年中凶作の砌よりの高300石指上高などに関する御願御旨趣について委細承知した旨) 小野崎主馬→井上才蔵様	5月13日	横切紙・1通	607
(書状、御自草の御答書を同役衆まで申し遣わすので、早く御便りを遣わされ下されたき旨) * (端裏書)「政右衛門来書」 山口政右衛門→井上才蔵様	5月14日	横切紙・1通	605
(書状、御懸合の次第を明日御飛脚にて仰せ遣わされたき旨、18日までに相知れるよう御計らい下されたき旨) 秋山左仲→飯田官蔵様	6月12日	横切紙・1通	601
(書状、御馬代積が済んだので、馬1疋に付30日宛の増銀を御請取なさるべき旨) 安達新太郎→飯田官蔵様	6月13日	横切紙・1通	603
(書状、此方若殿様の御童形御目見・御元服御出仕の仰せを蒙るに付知らせる旨) * (上書)「飯田官蔵様 御書御金分入 篠原吉右衛門」 篠原吉右衛門→飯田官蔵様	6月17日	横切紙・1通	604
(書状、当秋出鶴の件を湯沢御鷹役中へ申し達し下されたき旨) 石井永治→飯田官蔵殿	閏8月12日	横切紙・1通	602
口演之覚(藩の御財用問題に関し、主計殿(北家)・山城殿(東家)が出府して存寄を申し上げたきとの御賢慮の旨は承知した旨) 小野岡市太夫・岡本又太郎・匹田久太夫・小場源左衛門・梅津藤太→	9月	横長半・1冊	423
覚(主計組下給人を主計家来同然に召し仕うべき旨仰せ出されるに付、支配給人は取り受け難き旨を願い出るも、一件取扱い致しかねるに付、ほか)	閏9月	半・1冊	619-1

覚(組下の士に関する主計訴状の儀は御上への不敬許多に付達書)		半・1冊	619-2
(書状、御家格並びに御出仕・御家督・御家来御目見等の御先例を書き出すよう仰せ渡されるに付) 矢野主水邦重(花押)・高垣嘉右衛門重郷(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様・井上才蔵様・大輪武右衛門様	10月4日	横切継紙/(86-1~3は一括)・1通	86-1
(書状、御並方様御始め御引渡・御廻座へ御家督等の御格式に関する書付を達せられたに對し、分かり難い箇条について問い合わせの件) * (端裏書)「角館御家来より書状」 矢野主水邦重(花押)・佐尾強助明成(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様・井上才蔵様	12月26日	横切継紙・1通	86-2
(書状、大番所通用口一件先般將監様より御相談仰せ遣わされるに付) 矢野主水邦重(花押)・佐尾強助明成(花押)・高垣嘉右衛門重郷(花押)→赤須小右衛門様・山方市之進様・井上才蔵様・大輪武右衛門様	6月22日	横切継紙・1通	86-3
(書状、貴殿へ佐竹主計殿(北家)・佐竹山城殿(東家)より急段申達せられる御用これ有る旨申聞かされ、御用状指越すので、左様御意を得成されるべきに付) 小野岡市太夫義著(花押)→佐竹兵馬(義以)殿	4月2日	折紙・1通	735
(書状、拙者江戸表出立にて昨晚乃位に止宿の旨、御財用難渋にて今年は御入部をはじめ入方もあり一入難しき旨ほか) (佐竹)主計→(佐竹)兵馬(義以)様机下	正月11日	横切継紙・1通	749-1
(書状、御出府の儀申達され御苦勞御取込み御大儀に存ずる旨、御財用一件近年御差迫りに付ほか) 佐竹主計義邦(花押)→佐竹兵馬(義以)様	4月2日	横切継紙・1通	749-2
(書状、御相談したき御用ができたので、早々御出府成されるべき旨) 佐竹主計義邦(花押)・佐竹山城義智(花押)→佐竹兵馬(義以)殿	4月2日	横切紙・1通	752-1
(書状、御財用御指支えの件にてこの度差掛りの御用が出来により出府なさるべき旨、ほか財用差支えの状況等) * (端裏書)「申四月晦日暮時到着致候」 佐竹山城義智(花押)・佐竹主計義邦(花押)→佐竹兵馬(義以)様	4月28日	横切継紙・1通	752-2
(書状、阿仁銅山公地に召し上げらるところ御年寄相尽くされ、これまでの通り御領地に仰出され安心の旨、御財用大切にすべき旨の申し聞せに付) * 下書 (佐竹兵馬義以)→佐竹主計殿・佐竹山城様	6月25日	横切継紙・1通	756
(書状、久太夫一件に付市太夫らへ御内意の趣、上の思召し通り片付き御同悦の旨) 佐竹主計 自筆→佐竹山城殿・佐竹兵馬(義以)殿・佐竹大和殿	10月29日	横切継紙・1通	537
(包紙) * (包紙上書)「主計様養子取組御願御草稿有り そふめん忝箱包り熨斗添御進達申演外二御後室様御出産御箱菓子御樽壺ツ此表奥様江」		包紙/(1132-2-2~3は包紙一括)・1点	1132-2-1
覚(拙者家中より在々給人へ養子取組の儀、明和年中並びに去巳8月中の両度御障りこれ有るとて願書返附仰せ渡されしが、再応願申し立てるに付)	月日	横切継紙・1通	1132-2-2
屋敷番矢野清衛より家老共への用書写(此度角館へ郷校御建立に付此方様も御出精なさるべき旨、角館住居の廻座を始めいずれも郷校へ出席学問出精いたす様に伝えられた旨)		横切継紙・1通	1132-2-3

2. 苗字衆/2.12. 佐竹本家分家・一門/2.12.3. 佐竹北家

(書状、申立てる書載へ「手前」と相調えらる儀は向後「拙者」と相調えるよう御発駕前仰出され、此度の改めは甚だ気の毒御同意に付) * (端裏書)「河内殿へ返答写シ」		横切継紙・1通	757-1
(書状、当3日御自筆御書附について上使川上次左衛門を以て仰出され、右御請けの義、拙者においては当時御弁用指当り思慮も無き故、右の旨趣申上げるなどに付)	4月	横切継紙・1通	757-2
草稿(書状、御苗字より引渡廻座への会釈は是迄の通り相心得るべき旨を仰せ渡されるに付、御苗字へ廻座は敷居外にて一礼の上同席致す事にこれあるべきやなど伺いの旨) * (包紙上書)「御北より 東家へ之草稿」	月日	横切継紙・1通	1099

2.12.4. 佐竹東家

寛永十七年庚辰九月佐藤源右衛門を以家中へ被仰渡候覚(東家立て置かれる件、家来は譜代の分は徒士まで召し仕えるべき旨) * (包紙上書)「東家断絶之節家中へ被仰渡候覚写」	寛永17年極月	折紙・1通	197
(包紙) * (包紙上書)「今宮摂津守殿大館へ御預ヶ之節被仰渡候書付三通」「同外記殿へ被仰渡候御書付一通、外ニ与下へ被仰渡候御書付壹通、共ニ三通」/(包紙裏書)「三枚」	(延宝8年)	包紙/(319-1~4は包紙一括)・1点	319-1
(今宮摂津守義教宛申渡の覚、去年の上意に背き、組下の者を其身一分の支配に致したきなどとの主張は我侭な申し立てに付、其方儀今度佐竹石見へ預け置く旨心得えらるべし)	(延宝8年)7月10日	堅紙・1通	319-2
(申渡の覚、今宮摂津守義教の御訴訟不届きに付、組下の儀は箭田野四郎左衛門に仰せ付けらる旨)	(延宝8年)7月10日	堅紙・1通	319-3
(申渡の覚、このたび同姓摂津守義教訴訟に同意、去年摂津守に同道し勝手登城、佐竹主計との不通はいずれも不届き故、今度多賀谷左兵衛に預けの旨心得るべし)	(延宝8年)7月10日	堅紙・1通	319-4
(陪臣着服一条ニ付御直書口演書之写并添状一括)		1点	74
(包紙) * (包紙上書)「衣服之次第 五枚」		包紙・1点	74-1
(書状、家中・陪臣の衣服定に付、家来の儀は主人の指揮に任せ置くよう改める旨を主計・淡路・大和へ申し伝える旨)	3月	横切継紙/(74-2~7は包紙一括)・1通	74-2
(書状、旧臘御質素の御厳制仰せ渡されるうち諸士陪臣の衣服箇条に付、拙者家来に関しては願の通り指揮に任せる旨の御自筆御書付を渡されている旨) 佐竹将監義慶(花押)・佐竹山城義智(花押)→佐竹淡路様 人々御中	3月22日	横切継紙・1通	74-3
(書状、家督御礼のため出府に付、家来着服は拙者共指揮に任せる旨の御自筆御書付の存在を踏まえ、御礼時の衣服についての問合書) * (下書)		横切継紙・1通	74-4
将監様江被遣候御書御草案(家督御礼を申し上げるために出府するに際し、家来着服の儀を何うに付) * (下書) (印「義」)→	9月	横切継紙・1通	74-5
(書状、家督御礼のため出府の際に家来も御目見に付、家来の着服の儀を何う旨) (佐竹)将監義廣(花押)→(佐竹)三郎様	9月29日	横切継紙・1通	74-6
二月十七日於拙宅二岡本文太郎・小野岡市太夫江申談候口演之覚(諸士陪臣着服に付)		半・1冊	74-7

覚(嫡子源六郎の元服出仕仰せ付けられたき旨) *(包紙上書)「御前より被遣候御草稿也 草稿 二通 天明六年午ノ十一月」	(天明6年)10月25日	横切継紙・1通	885-1
演説覚(嫡子源六郎の元服出仕を仰せ付け下されたいが、時節柄難しいなら御前における御加冠と御髪道具拝領仰せ付けくだされたき旨)	(天明6年)10月25日	横切継紙・1通	885-2
(書状、佐竹将監義府が当4月9日山崎伝内・西野伝治へ手傷を負わせ、伝治が相果てたにより、生涯多賀谷氏下総に預けとなった旨) *(包紙上書)「御東権正へ御預ヶ之節御自筆御直書 文化二丑ノ年」	文化2年5月16日	横切紙・1通	131
(書状、東家の儀、佐竹源六郎幼年の時節は成長まで当分掛役人へ相談すべき旨の申達書) 介川東馬・北村平四郎・江間郡兵衛・小貫九兵衛→	5月	横切継紙・1通	676
(書状、佐竹将監身上不取締の義御聴に達し、江戸出立の飛脚をもって思召しの旨を拙者どもまで仰せ出されるに付) 宇都宮小膳 自筆 孫(花押)・梅津藤十郎忠喬(花押)・匹田斎定常(花押)・岡本但馬元亮(花押)→佐竹左衛門殿	2月3日	横切継紙・1通	758
御草稿(佐竹将監身上不取締の義に付思召しの旨を仰せ出されるに付、その次第を将監親類へ口演にて申し達する旨を承知) 佐竹左衛門義良(花押)→岡本但馬殿・宇都宮小膳殿・匹田斎殿・梅津藤十郎殿	2月6日	横切継紙・1通	759
(将監身上不取締に対し、御深慮の趣あるにより屹度の御沙汰には及ばれざるも、病氣快方後も出勤指留の旨申達書)		横切継紙・1通	760
覚(御直参陪臣相混じては宜しからざるに付心得向被仰出書、殿付け・呼下し等の応対方法)	(文化3年)2月3日	半/(421-1~2は合綴)・1冊	421-1
(東家宛書状草稿、諸士陪臣応対一件に付、老中へ御内々仰せ談じたき旨)	(文化3年)5月11日	横切継紙・1通	421-2
(書状、鷹の義仰越され承知致す旨、菅又郷左衛門相越し目利き申しても拙者の心に叶う義は心得申すまじく、兎角一刻も早く申受けたきに付) *(端裏書)「兵馬様 山城」(佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	霜月3日	横切継紙/ (745-1~24は巻込み一括)・1通	745-6
(書状、先達てより御約束の弟鷹を一日も早く申請けたきに付) *(端裏書)「兵馬様 山城」(佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	霜月7日	横切紙・1通	745-7
(書状、主計方への連名書状草稿を相認め御披見に入れるので、貴様か大和殿へ御伝達を頼み入る旨、尤も所存あれば御加筆なさるべきに付) *(端裏書)「兵馬様 山城」(佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	霜月8日	横切継紙・1通	745-8
(書状、兼ねて御約束の弟鷹を菅又郷左衛門へ御見せ成られ、郷左衛門に御頼み遣わされる由段々御念を入れられ仰聞かされ承知等に付) 佐竹山城義智(花押)→佐竹兵馬(義以)様御報	霜月21日	横切継紙・1通	745-9
(書状、当2日菅又郷左衛門罷歸り御契約の御鷹を御意に懸けられる旨、鷹仕込の件ほか) (佐竹)山城義智(花押)→(佐竹)兵馬(義以)様人々御中	12月5日	横切継紙・1通	745-10
(書状、少々御咄致したき義があるので、明昼時なり又は飯後なり御勝手に御越し成らるべき旨) *(端裏書)「兵馬様 山城」(佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	10月5日	横切継紙・1通	745-11

2. 苗字衆/2.12. 佐竹本家分家・一門/2.12.4. 佐竹東家

(書状、鳥屋鷹に余計も有れば御引替え致すべしと貴様へ御咄し申したが、鳥屋鷹がなく残念千万に存ずる等) * (端裏書)「兵馬様 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	10月9日	横切継紙・1通	745-14
(書状、御書附の儀は貴様御思慮の上御指揮然るべく存ずる旨) (佐竹)将監→(佐竹)淡路(義以)様	3月22日	横切紙・1通	535
(書状、出府の節契約の鷹を、鷹匠とともに遣わし下されたことへの礼) (佐竹)山城義智(花押)→(佐竹)兵馬(義以)様人々御中	極月朔日	横切継紙・1通	736
(書状、各様御願書の儀は年寄共へ内々申し談ずるのが宜しき旨、御鷹鉄砲は鳥不足にて不手柄の旨ほか) (佐竹)山城義廣(花押)→(佐竹)左衛門様御報	11月19日	横切継紙・1通	748

2.12.5. 佐竹西家

先年大館江被仰渡候御書付写(貞享4年に発生した佐竹主計殿組下の給人御仕置一件に付、御記録所より御用所へ書上写し)	明和4年亥10月11日	半・1冊	525
(佐竹大和家系家格に付御直書並びに宇右衛門演舌控一括)		1点	22
(包紙) * (包紙上書)「義隣公御出仕御出府之節 明治二乙巳七月五日於政務局月番執政小貫宇右衛門殿申渡、大館江被仰渡候御直筆之写を以被仰知之趣ニ而被相渡候、外ニ宇右衛門殿直筆演舌控入ル」	(明治2年7月5日)	包紙/(22-1~22-2は包紙一括)・1点	22-1
(宇右衛門演説書、大和殿との御座席争いの義、南家・小場家と御列座勿論に付再応御吟味御取調のうえ、大和殿へ御直書拝見仰せ付けられるに付)	(明治2年)	横切継紙・1通	22-1
御直筆写(大和家筋の儀、御吟味により御証文系図誤謬相改める旨、元禄の度居え置かれた引渡列座定格は末代不易の旨、ほか)	(明治2年)	横切継紙・1通	22-2
明治二年巳七月当家小場家御席之儀居而被仰渡書 御直書写	明治2年7月	半/(23-1~23-4は合綴)・1冊	23-1
小場家筋被仰渡稿(系譜吟味に付)	(明治2年)7月	半・1冊	23-2
南家・小場家列座被仰渡稿(系譜吟味に付)	(明治2年)7月	半・1冊	23-3
南家・小場家列座被仰渡稿(系譜吟味に付)	(明治2年)7月	半・1冊	23-4
覚(佐竹石見江府へ罷り登り、軍器の外扇御紋付の儀御吟味に付) * 下書		縦紙・1通	71

2.12.6. 石塚市正・今宮大学一件

(包紙) * (包紙上書)「義以公御出府之節小野岡市太夫殿御自筆代之御書付二枚」	(明和元年)	包紙/(129-1~3は包紙一括)・1点	129-1
(大家の輩別して和熟を第一に、一家中静謐の専要を守るべき旨の御自筆御書付) * 写 → 佐竹山城・佐竹兵馬(義以)・佐竹大和	(明和元年)10月	横切継紙・1通	129-2
(大家の輩別して和熟を第一に、一家中静謐の専要を守るべき旨の御自筆御書付) → 佐竹山城・佐竹兵馬(義以)・佐竹大和	(明和元年)10月	横切継紙・1通	129-3

(書状、御自筆御書付の趣について山城・大和へも相談を遂げた旨、年寄共も相談評議仕るよう申上げて御前退去の旨ほか)	(明和元年)閏9月21日	横切紙/(209-1~5は一括)・1通	209-1
覚(当時に至り江戸・上方御借銀の御融通差し支え、此表も去作不熟収納米若干相減る状況ながら、調達筋相尽くし仕送銀差し登らせる旨に付)		横切紙・1通	209-2
(書状、石塚市正について御役召し放ち・知行高の内3分1召上生涯蟄居仰せ付けられるに付) 小野岡市太夫自筆→小場源左衛門殿・梅津藤太殿・小野寺徳之助殿	(明和元年)12月2日	横切継紙・1通	209-3
(書状、愚家不幸に付仰せ遣われ痛み入る旨、委細は藤太郎心得るにより御物語仕るべき旨)	10月9日	横切紙/(209-4-1~3は紙縫一括)・1通	209-4-1
(書状追啓、将監連名にて御礼に預かるも当11日同人帰発故、連名にて御意を得られざる旨) (佐竹)主計→(佐竹)兵馬(義以)様	10月9日	横切紙・1通	209-4-2
(書状、梅津半右衛門不行跡にて知行高3分1召し上げられ隠居仰せ付けられる所、これは一身の不埒のみ国家の動く事にはなき旨) * (端裏書)「申十月廿一日御会所より此書状相達候」 (佐竹)主計義邦(花押)→(佐竹)兵馬(義以)様貴酬	10月9日	横切継紙・1通	209-4-3
(書状、対談のため打ち寄りくだされたき旨) (佐竹)主計→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)9月6日	横切継紙・1通	291-1
(書状、御城方にて相談決し兼ね、将監参会の時刻遅れの旨) (佐竹)主計→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)9月6日	横切紙・1通	291-2
(書状、大学京上りの事、故淡路殿が京御役仰せ付けられた際の書付を落手の旨、ほか) (佐竹)主計義邦→(佐竹)兵馬(義以)様御報	12月29日	縦継紙・1通	291-3
(書状、江戸において阿仁銅山公地に召し上げられる旨仰せ出ださるに付) 佐竹主計義邦(花押)・佐竹山城義智(花押)→佐竹兵馬(義以)殿	6月23日	折紙/(293-1~2は一括)・1通	293-1
(書状、先日申達しの通り御大切の儀ゆえ拙者共存慮の趣年番中へ申達す処、容易ならざる儀に付、早々出府致したき旨) 佐竹主計義邦(花押)・佐竹山城義智(花押)→佐竹兵馬(義以)殿	6月28日	折紙・1通	293-2
(書状、自筆御用状2封大和殿より相達するにより御一覧の上御返落掌仕るに付) (小野岡)市太夫→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月6日	横切継紙/(294-1~7は一括)・1通	294-1
(書状、当朔日御会所において御対談の主意相伺い申すにより、口演書御熟覧相済む上は御返下されたき旨) (小野岡)市太夫→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)9月4日	横切継紙・1通	294-2
(書状、大和殿最早出府の刻限に付、当朔日御対談仕る主意を認めた口演書を御貸し下されたき旨) (小野岡)市太夫→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)9月4日	横切紙・1通	294-3
(書状、御出府成される旨早速御使者をもって御知らせの趣承知に付) (小野岡)市太夫→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)9月朔日	横切継紙・1通	294-4
(書状、亦太郎出立の節より御医者指副えられることに付、大和殿へ御相談の上明日仰せ渡されるべき旨) (小野岡)市太夫→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月19日	横切継紙・1通	294-5

2. 苗字衆/2.12. 佐竹本家分家・一門/2.12.6. 石塚市正・今宮大学一件

(書状別紙、兼ねて御心得成される通り御財用甚だ危急の御差し支えにより、去冬中より格段の差し支えとなり御国家に係わる御大事に至るに付) (小野岡)市太夫→(佐竹)兵馬(義以)様机下	4月2日	横切継紙・1通	294-6
(書状、今般亦太郎急登仰せ出されるも道中覚束なきにより御医差し添えられる御相談、貴様・山城殿・大和殿も御同意の旨に付) (小野岡)市太夫→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月19日	横切継紙・1通	294-7
(書状、此度の御用向御大切重畳に付御忙ぎ出府成さるべき旨) (佐竹)主計→(佐竹)兵馬(義以)様	6月23日	横切紙・1通	295
(書状、財用危急に及び御国家に係る御大事至極の根源は市正を始めとする江戸御屋敷詰方の者宜しからざる故に付、早々相避けられ屹度御沙汰成し置かれ下されたき旨)	(明和元年)9月7日	横長半・1冊	296
(包紙) *(包紙上書)「御覚書 四枚」	(明和元年)	包紙・1点	317-1
覚(石塚市正・今宮大学に対する御役召放ち・生涯蟄居等の処罰の内容に付)	(明和元年)11月28日	横切継紙・1通	317-2
(会所役人へ通達の写し、兵馬殿・大和殿は江戸表より下知があるまでは此表に逗留致すべき旨)	(明和元年)申9月11日	横切継紙・1通	317-3
(石塚市正・今宮大学・大塚九郎兵衛らに対する処罰申し渡しの覚、務形に付)	(明和元年)9月24日	横切継紙・1通	317-4
(書状、石塚市正・今宮大学御科の儀を仰せ出される御条目の御草稿拝見、山城宅へ年寄中を招き委曲申し談ずる旨、(ほか別紙等写) 佐竹大和自筆・佐竹兵馬・佐竹山城→佐竹主計殿	(明和元年)10月29日	横長半・1冊	351-1
(書状、石塚市正・今宮大学兩人御科について拙者ども所存申し談じ置くに付) 佐竹山城・佐竹兵馬・佐竹大和→佐竹主計殿	(明和元年)霜月	横切継紙・1通	351-2
(書状、石塚市正・今宮大学兩人御科について拙者ども所存申し談じ置くに付) *351-1と同文 佐竹大和・佐竹兵馬・佐竹山城→佐竹主計殿	(明和元年)霜月	横切継紙・1通	351-3
佐竹山城殿同将監殿より宿継二面申来候御用書載写(佐竹兵馬宛書状類の控、石塚市正・今宮大学罪科一件)	明和元年申11月29日	半・1冊	526-1
佐竹山城殿同将監殿より連名之書状相達候写 右兩人江戸より佐竹主計殿小野岡市太夫所より申来候書状写(石塚市正・今宮大学罪科一件)	明和元年申閏12月5日	半・1冊	526-2
佐竹大和殿より申来候御用状(佐竹兵馬宛書状等の控、石塚市正・今宮大学罪科一件)	明和元年申12月	半・1冊	526-3
明和元年申極月十七日夜中九時佐竹山城殿同将監殿御用状 小野寺桂之助宿継書状到着(佐竹兵馬宛書状等の控、石塚市正・今宮大学罪科一件)	(明和元年)12月(17日)	半・1冊	526-4
御答(去月27日に又太郎が差上げた書付に名を書き載せられた人物の件、太田伊太夫・小田野又八郎等、石塚市正・今宮大学罪科一件関係) 小野寺桂之助→	(明和元年)12月朔日	半・1冊	526-5
(書状、福地・石川は遠慮を仰せ付けられる旨、市正・大学は今晚出立にて罪跡は上の思召仰せ出される旨ほか) 佐竹主計→佐竹兵馬(義以)様・佐竹大和様	(明和元年)9月29日	横切継紙・1通	536

(書状、御用に付亦太郎急登仰付けられるも、同人儀難病相煩ううえ齒痛にて旅行指障りの程覚束なきゆえ、側医の細川元利を指副えられ登られ然るべきに付) *(端裏書)「山城様・兵馬様 藤太・市大夫」(梅津)藤太・(小野岡)市大夫→(佐竹)山城様・兵馬(義以)様	(明和元年)10月19日	横切継紙・1通	728
(書状、佐竹北家主計義邦・佐竹東家当主次男将監殿義路御用により出府し、段々御用筋も出精、今もって逗留の段辛勞に付、交肴一台拝領仰せ付けられる旨) *(端裏書)「佐竹兵馬殿 後藤七右衛門・築治部左衛門」 後藤七右衛門・築治部左衛門→佐竹兵馬(義以)殿	(明和元年)11月5日	横切継紙・1通	729
(書状、佐竹東家当主次男将監殿義路殿が江戸より持参された両通の御書付と、先頃上使を以て仰渡された御条目を引合せ見申した所1ヶ条も相違ひ申さざる故、写指遣わし申さざる旨等に付) (佐竹)大和義村(花押)→(佐竹)兵馬(義以)様人々御中	(明和元年)閏臘月21日	横切継紙・1通	730
(書状、貴殿へ佐竹東家佐竹山城義智・次男将監殿義路より急段申達せられる御用これ有る旨申聞かされ、御用状を指越すので、左様御心得なされるべきに付) 小場源左衛門峯昌(花押)→佐竹兵馬(義以)殿	(明和元年)11月27日	折紙・1通	732
(書状、急段御出府の儀仰出され御直書指出されるにつき、御飛脚を以て差遣わすので頂戴成さるべき旨) 小場源左衛門峯昌(花押)→佐竹淡路(義以)殿	(明和元年)11月晦日	折紙・1通	733-1
(書状、先刻御直書を以て御出府の儀仰出された所、又候御直書指出された故、御飛脚を以て差遣わすので頂戴成されるべき旨) 小場源左衛門峯昌(花押)→佐竹淡路(義以)殿	(明和元年)11月晦日	折紙・1通	733-2
(書状、先刻佐竹東家佐竹山城義智殿に仰せ含まれた通り、久太夫へ御条目を以て後藤七右衛門・小野崎斎宮より申渡した旨を、御知らせとして申上げるに付) *(端裏書)「兵馬様・大和様 桂之助・源左衛門」 桂之助・(小場)源左衛門→(佐竹)兵馬(義以)様・大和様	(明和元年)10月13日	横切継紙・1通	734
(書状、永々出府に付御肴を下し置かれたことに対する御礼御札の趣につき披露を遂げたところ、宜しく申し達すよう仰せ出されるに付) *729の関連文書カ 平沢重右衛門常房(花押)・熊谷徳左衛門典雄(花押)・益戸助四郎秀典(花押)→佐竹兵馬(義以)殿	(明和元年)11月23日	折紙・1通	737
(書状、永々御用御取担い御太儀千万存じ奉るなどに付) 九兵衛→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)11月2日	横切紙・1通	738
(書状、江戸表へ登りの拵え出来次第出足致すべし、当時能代にて取扱いの御用も有るので当役のまま召登らせる旨)		横切継紙・1通	739
(書状、岡本又太郎儀病氣にて引籠り罷有る段聞かされたが、御用向の義御苦勞に思し召されるので、病氣を押しても出府致すよう成し置かれたき旨) 佐竹大和自筆・佐竹兵馬・佐竹山城→佐竹主計殿	(明和元年)10月16日	横切継紙・1通	740
(書状、御財用難洪の儀、主計・将監下着迄は手前ども逗留致し、江戸において御決着の上猶各方何分御取扱相尽くされるように致したきに付)	(明和元年)9月	横切継紙・1通	741
(書状、昨日書載を以て主計与下一件について思し召しの趣を申論しようがなき段申上げた旨、何分御書載の趣を以て御賢慮成し下されたき旨)	(明和元年)後9月7日	横切継紙・1通	742

(書状、私儀勤形の儀につき段々御丁寧の御内意蒙り、指扣え申上げた所、早速御免の段仰出され、右の御礼申上げるに付) 大塚九郎兵衛資永(花押)→佐竹兵馬(義以)様	(明和元年)9月24日	折紙・1通	725-1
(書状、先頃築治部左衛門罷下るにつき御意成し下され有難く存ぜられる旨、御礼として御紙面の趣披露遂げた処、相心得申遣わすべき旨仰出されるに付) 大塚九郎兵衛資永(花押)→佐竹兵馬(義以)殿	(明和元年)11月2日	折紙・1通	725-2
(書状、先頃佐竹東家当主次男将監殿義路が罷り下られた節御意成し下され有難く存ぜられる由、御礼として御紙面の趣披露遂げた処、宜しく相心得申遣わすべき旨を仰出され御心易くすべきに付) 大塚九郎兵衛資永(花押)→佐竹兵馬(義以)殿	(明和元年)11月12日	折紙・1通	725-3
(書状、貴殿へ佐竹主計・佐竹山城より急段申達せらる御用これ有る旨申聞かされ、右御用状を差越すので、左様御意を得なさるべきに付) 梅津藤太忠恒(花押)→佐竹兵馬(義以)殿	6月23日	折紙・1通	726-1
(書状、貴殿へ佐竹主計義邦・佐竹山城義智より急段申達せらる御用これ有る旨申聞かされ、右御用状差越すので左様御心得なさるべきに付) 梅津藤太忠恒(花押)→佐竹兵馬(義以)殿	6月28日	折紙・1通	726-2
(書状、今夕御出で成るべしと存ずる旨、尤も大和殿へは貴様より達したかと存ずる旨) *(端裏書)「兵馬様 将監」 将監→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)霜月5日	横切紙・1通	743-1
(書状、先頃御約束の熊膽遣わされ下され忝き御事などに付) *(端裏書)「兵馬様 将監」 将監義慶(花押)→(佐竹)兵馬(義以)様貴報	(明和元年)霜月22日	横切継紙・1通	743-2
(書状、只今市大夫方より申来る義につき主計方への御用状御相談の上相極めざればなりがたき義があるので、早々拙宅へ御出で下されたきに付) *(端裏書)「兵馬様 将監」 (佐竹)将監→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月29日	横切紙・1通	743-3
(書状、江戸へ申し達する趣とも御相談に及ぶべく御対談致したきに付、明日・明後日までこれより御案内致す旨) *(端裏書)「兵馬様 将監」 (佐竹)将監→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)11月朔日	横切紙・1通	743-4
(書状、今夕御出でか又は明日中御出か、御念を入れ仰せ聞かされ委曲承知、明日中仰含まれ御出で下さるよう致したき旨) *(端裏書)「兵馬様 将監」 (佐竹)将監→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)11月2日	横切継紙・1通	743-5
(書状、拙者儀江戸を出立し来る26日其表へ下着致す旨、江戸表にて仰せ出された御用があり着日御対談に及びたいので拙宅へ御揃い御越し成さるべき旨) 佐竹将監義慶(花押)→佐竹兵馬殿・佐竹大和殿	(明和元年)10月22日	折紙/(744-1~3は巻込み一括)・1通	744-1
(書状、拙者儀先刻下着致し、江戸表より仰せ出された御用が在るので、今七つ時以前拙宅へ御越し成さるべき旨) *(端裏書)「佐竹兵馬殿 佐竹大和殿 佐竹将監」 佐竹将監→佐竹兵馬(義以)殿・佐竹大和殿	(明和元年)10月26日	横切紙・1通	744-2
(書状、昨夕御相談致した旨御調べ成られ、御用状草稿を今朝山城より〈小野岡〉市太夫へ手紙相添え指遣わした旨、ほか) *(端裏書)「兵馬様 大和様 将監」 (佐竹)将監→(佐竹)兵馬(義以)様・大和様	(明和元年)10月29日	横切継紙・1通	744-3

(書状、岡本又太郎病気ゆえ道中覚束なく、御側医細川元利同道に付) * (端裏書)「兵馬様 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月19日	横切継紙/ (745-1~19は巻込み一括)・1通	745-1
(書状、昨日源右衛門殿方より連名の手紙にて申来るは、指係りの御用これ有る故、今4つ時拙宅へ相越し申すべきに付) * (端裏書)「兵馬様 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月23日	横切継紙・1通	745-2
(書状、貴様・大和殿御連名の書状相達し御届け致すので御落手なさるべき旨) * (端裏書)「兵馬様 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月24日	横切紙・1通	745-3
(書状、明日下着にて御延引の段伝達申すべき由仰越され、段々御念を入れる義委曲その意を得るなどに付) * (端裏書)「兵馬様御答 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様御答	(明和元年)10月25日	横切継紙・1通	745-4
(書状、菅又郷左衛門明日仙北へ相越すに付、兼ねて御約束の鷹を目利きの上差越されるべき旨、委曲承知致すに付) * (端裏書)「兵馬様 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月29日	横切継紙・1通	745-5
(書状、この度江戸表より小野寺桂之助年寄御役仰付けられる段仰出された故、今朝この旨年寄中へも対談いたした旨) * (端裏書)「兵馬様 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月5日	横切紙・1通	745-12
(書状、主計への書面大和殿へ御持参成られた由仰聞かれ、御念を入れられることと忝く存ずる旨) * (端裏書)「兵馬様御答 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様御答	(明和元年)10月6日	横切紙・1通	745-13
(書状、又太郎方へ大和殿御同前に御越し何分御思慮相尽くされるのは専要の旨、拙者義もこの度の仰渡され御同意に付頼み入る旨) * (端裏書)「兵馬様 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月14日	横切継紙・1通	745-15
(書状、明日江戸表へ御飛脚相立てられるに付、少々御内談申されたき義が有るので、御越し成らるべき旨) * (端裏書)「兵馬様 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月15日	横切継紙・1通	745-16
(書状、昨日小野寺桂之助相越し、この度岡本又太郎病中に付、急登仰付けられる際の御送り指添えの件を申し聞けるに付) * (端裏書)「兵馬様 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月21日	横切継紙・1通	745-17
(書状追啓、御約束の物只今何れの沙汰も御座なき旨)	21日	横切紙・1通	745-18
(書状、去る11日江戸出立の御飛脚参着、将監事も先頃御用滞りなく相勤め、当12日出立の旨) * (端裏書)「兵馬様 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月22日	横切紙・1通	745-19
(書状、江戸出立の飛脚参着、主計・将監より連名の御用状が達するゆえ御届けいたす旨) * (端裏書)「兵馬様・大和様 山城」 (佐竹)山城→(佐竹)兵馬(義以)様・大和様	(明和元年)10月4日	横切継紙・1通	746
(書状、内々仰せ告げられた趣を承知、自草をもって御意を得たき旨) 佐竹山城義智(花押)→佐竹淡路(義以)様人々御中	(明和元年)12月18日	折紙・1通	747
(書状、松平土佐守様へ御兼約の件、市正・大学に対し遠慮仰せ付けられ秋田に下される旨ほか) * 754-2の写カ 佐竹主計自筆・佐竹将監→御三人様(山城殿、兵馬(義以)殿、大和殿)	(明和元年)9月24日	横切継紙・1通	754-1

(書状、松平土佐守様へ御兼約の件、市正・大学に対し遠慮仰せ付けられ秋田に下される旨ほか) * (奥書)「右明和元年申十月四日暮時江戸より御飛脚到着之書状写」佐竹主計自筆・佐竹将監→佐竹山城殿・佐竹兵馬(義以)殿・佐竹大和殿	(明和元年)9月24日	横切継紙・1通	754-2
(書状、去る12日江戸出立の御飛脚同22日参着、主計よりの御用状写取り指遣わすので、御披見の上、御返却成されるべき旨ほか) 佐竹将監義慶(花押)・佐竹山城義智(花押)→佐竹兵馬(義以)様人々御中	閏12月朔日	横切継紙・1通	755-1
(書状、石塚市正・今宮大学御科の儀、御自筆並びに主計よりの御用状に相見える通り故、貴殿・大和へは御相談に及ばず相決め申渡すなどに付) 佐竹将監自筆・佐竹山城→佐竹兵馬(義以)殿	(明和元年)11月27日	横切継紙・1通	755-2
(書状、小野岡市太夫自筆御用状相達し、石塚市正・今宮大学御科の儀申来たるに付、右御用状写取り指遣わすので御披見成されるべき旨) 佐竹将監自筆・佐竹山城→佐竹兵馬(義以)殿	(明和元年)12月14日	横切継紙・1通	755-3
(書状別紙、早速御用状の御意を得べきのところ、昨13日年寄中对談に付、達し来る段は左様に御心得成されるべき旨) (佐竹)将監・山城→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)12月14日	横切紙・1通	755-4
(書状、江戸表にて石塚市正・今宮大学へ遠慮仰せ付けの件ほか) (佐竹)河内→(佐竹)兵馬(義以)様	(明和元年)10月4日	横切継紙・1通	533-1
(書状、川上治左衛門を上使として屋形様御自草の御書附にて仰せ出されの件に付) (佐竹)河内義寛→(佐竹)左衛門様 貴酬	初夏(4月)8日	横切継紙・1通	533-2
(書状、岡本又太郎が財用の義の存寄並びに石塚市正・今宮大学・小田野又八郎の帰役の義を願ひ上げるに付、小野寺桂之助も又太郎に同意ニ付、ほか) 佐竹山城→佐竹淡路(義以)様	(明和元年)12月18日	横切継紙・1通	534

2.12.7. 藩政参与

(日記書拔、図書殿(北家)・佐竹山城殿(東家)・佐竹大和殿(西家)当春中御勤切にて500石宛御加増拝領仰せ付けられる旨、切支丹改役大番組頭・大小姓組頭御吸物下し置かれ御雛子拝見仰せ付けられる旨など)	宝暦7年丑7月12日	横切継紙・1通	999
銅方之儀に付明和元年申八月十四日御本方奉行申聞候覚書写(「大坂回銅是迄之次第大旨」ほか銅山運営に関する本方奉行の意見書などの写し、御会所において年寄中より借用して写す)	(明和元年)8月(14日)	半/(冊の途中に横切継紙文書2通を貼付)・1冊	529
明和四歳亥閏九月廿日御膳番益戸助四郎・土屋吉兵衛・大山伊織等より奉書にて登城之旨被仰出御書付左之通(新たに財用の仕法造立に関する存寄書)	(明和4年閏9月)	半・1冊	530
遠慮定(処罰者の縁座の規定) * (表紙添書)「古御定ニ而當時御不用之分ニ候故仕舞置候事」	文化6年巳閏7月	半・1冊	417
(御預者の儀に付被仰渡条書、囲い屋敷の造作・番人などに付) * (包紙上書)「御預者之節被仰渡書付、案ルニ水野市郎左衛門時歟」	6月24日	横長半・1冊	310
(秋田藩の財用向改正に関する意見書)		半/(小付箋多数あり)・1冊	531

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
(佐竹淡路家人引田六左衛門所持の感状1通は本書でないため焼却する旨、また大條薩摩守書状はさしたる証文でないため御記録に載せざる旨の達書)	元禄11年寅12月	縦紙・1通	35
(佐竹淡路家人にて南へ御附人の子孫5人並びに証文所持者の子孫4人に対し、系図御記録仰せ付けられるに付申し渡すべき旨) * (包紙上書)「御附人并証文伝来之者へ御青印壹枚入」(青印「秋田史館」)→	宝永3年10月	縦継紙・1通	431
(包紙) * (包紙上書)「新御判紙以後ノ御朱印 八枚」		包紙/(16-2~16-9は包紙一括)・1点	16-1
(佐竹右京大夫義昭公御書1通、伝来の文書たるにより御記録に載せ置いた旨、火災・紛失の際は写しを拝領させるに付後代の亀鑑に備えるべき旨の達書) * (包紙上書)「御青印 貳枚」(青印「秋田史館」)→佐竹淡路(義安)	宝永7年3月	縦紙・1通	16-2
(治宗書1通・忠宗書1通、家人雨谷主水伝来の証文に付御記録に載せ置いた旨、後代の亀鑑に備えるべき旨の達書)(青印「秋田史館」)→佐竹淡路(義安)	宝永7年3月	縦紙・1通	16-3
(円信公御書1通・天英公御書1通ほか5通、家人荒巻十蔵伝来の証文に付御記録に載せ置いた旨、後代の亀鑑に備えるべき旨の達書)(青印「秋田史館」)→佐竹淡路(義安)	宝永7年3月	縦継紙/(継目印あり)・1通	16-4
(治廣親親連署1通・本多志摩守書1通・山形出羽守義光書1通、家人麻生勘兵衛伝来の証文に付御記録に載せ置いた旨、後代の亀鑑に備えるべき旨の達書)(青印「秋田史館」)→佐竹淡路(義安)	宝永7年3月	縦紙・1通	16-5
(北又七郎義憲書1通、家人野尻新左衛門伝来の証文に付御記録に載せ置いた旨、後代の亀鑑に備えるべき旨の達書)(青印「秋田史館」)→佐竹淡路(義安)	宝永7年3月	縦紙・1通	16-6
(南左衛門尉義尚書1通、家人中村治大夫伝来の証文に付御記録に載せ置いた旨、後代の亀鑑に備えるべき旨の達書)(青印「秋田史館」)→佐竹淡路(義安)	宝永7年3月	縦紙・1通	16-7
(南五郎義尚書1通・南左衛門尉義種書1通、家人河田団右衛門伝来の証文に付御記録に載せ置いた旨、後代の亀鑑に備えるべき旨の達書)(青印「秋田史館」)→佐竹淡路(義安)	宝永7年6月	縦紙・1通	16-8
(中宮亮永慶書1通・蜂須賀蓬庵書1通・土井大炊頭利勝目録1通ほか15通、家人引田六左衛門所蔵に付、御用により召し上げる旨、年久しく伝来のことを御悦喜に思召される旨の達書)(青印「秋田史館」)→佐竹淡路(義安)	宝永7年9月	縦継紙/(継目印あり)・1通	16-9
(家人大輪武右衛門に伝来の無姓名書2通を写して御記録に載せ置いた旨、向後火災・紛失の際は写しを拝領させるので、後代の亀鑑に備えるべき旨の申渡書)(青印「秋田史館」)→佐竹淡路	宝永7年3月	縦紙・1通	560-3
明和年中系図並由緒古来より勤方之訳・文化年中系図之訳(上遠野隠岐守家先祖書、光秀・秀門)		半・1冊	561

3. 家中/3.1. 系図・文書

(佐竹左衛門家人飯田嘉七郎所持の徳雲公御書1通・西洞院松庵書1通召し上げるに付達書写)	寛政9年3月	縦紙・1通	40
(高力左進書1通は、御先代御名前の文書に付召し上げる旨の達書) * (包紙上書)「高力左進書 御青印」 (青印「秋田史館」)→佐竹左衛門	寛政5年3月	縦紙・1通	559
覚(御附人御青印書1通ほかを相渡す旨) * (包紙上書)「佐竹左衛門」 御記録所→佐竹左衛門	11月	横切継紙・1通	562
(佐竹左衛門家人菊地文一郎系図を御記録に掲載するに付、御青印書を添えて申し渡すべき旨の御書付) * (包紙上書)「覚 文政十年 菊地文一郎へ 御記録所より」 御記録処→佐竹左衛門	文政10年10月	横切継紙・1通	563
(佐竹左衛門家人田中正太夫御附人御青印書1通・同人伝来の古文書など渡すので、申し渡すべき旨の御書付) * (包紙上書)「覚 文政十年 田中正太夫願 御記録所より被仰付候」 御記録処→佐竹左衛門	文政10年10月	横切継紙・1通	564
(佐竹左衛門家人田中正太夫の先祖内蔵頭隆易は闔信公に召し出された家筋に付、願の通り御附人御証文相渡し、系図御記録に載せる件を申し渡すべき旨) * (包紙上書)「覚 文政十年 田中正太夫へ 御記録所より被仰渡」 御記録処→佐竹左衛門	文政10年10月	横切継紙・1通	565
覚(佐竹淡路並びに同人組下・同人家人所持青印書45通の書上)		縦継紙・1通	432
覚(元亀2年に常陸国で死去した石井豊前守為忠の命日に関する返答) 正五郎→	季春(3月)7日	横切継紙・1通	318
覚(野尻新右衛門の元祖靱負忠次は御旗本の士野尻忠政の二子により、忠次已来の系図を差し出すべき旨の申渡書) * (包紙上書)「佐竹左衛門家人 野尻新右衛門」 御記録所→	11月	横切継紙・1通	576
覚(佐竹左衛門家人飯田嘉七郎に対し、徳雲公御直書1通ほか、御先代御名前の文書を召し上げ、御青印書を下し置かれる旨) * (包紙上書)「御青印写 佐竹左衛門家人飯田嘉七郎 右ハ写」 御記録所→	3月日	横切紙/(311-1~3は一括)・1通	311-3
覚(手前所持の指紙取り纏め、本書27枚写共指し出すに付) 御苗御名→	3月13日	横切紙・1通	434

3.2. 支配・身分

(袋) * (袋上書)「天保十年己丑正月念一 御歩行同席一件」	天保10年正月21日	袋・1点	1122-1-1
(包紙) * (包紙上書)「覚」 御歩行岡昧→	亥3月	包紙・1点	1122-1-2
覚(御家老衆・両差引衆たりとも古来より敷内に入ってきたが、菅野藤治・江尻利右衛門をもって文化9年9月中仰せ付けられしは鏡前にかかわらず敷外致すべき事に付) 御歩行岡昧→	亥3月	縦紙・1通	1122-2
覚(御家老衆・両差引衆たりとも古来より敷内に入ってきたが、諸士一統へは同席、鏡前なら敷外致すべき事を高橋三右衛門をもって仰せ渡され、承知の旨) 御歩行岡昧→	亥3月	縦継紙・1通	1122-3
(差引疋田第七郎え申渡候扣、当正月中御歩行共諸士へ同席致せし者これ有りに付、当役・差引の外前々の申し伝えにて同席苦しからずと申す筋に哉など伺)	亥2月26日	縦紙・1通	1122-4

別紙覚(荒巻十蔵・中村四太夫・引田織部・赤須小太郎の不出人数書上)	月日	横切継紙・1通	1122-5
覚(私共御歩行以下へ年始返礼に罷越す節の作法に付、高橋重吾・江尻利右衛門・松江平蔵・高橋三右衛門に限り以前と異なる取扱いにては以来の家格に関わり気の毒に付御伺い申し上げる旨) 荒巻十蔵・中村四太夫・引田織部・赤須小太郎→	天保8年酉正月	横切継紙・1通	1122-6
覚(家中・徒行・百姓・町人等までかかる奢侈禁令・着服制限令) *写	(天保13年)7月11日	半・1冊	403
箇条覚(衣服御禁制・御料理諸披之御仕法ほか、家中困窮に付限年執行) 御代九十郎(花押)→	亥10月	半・1冊	404
覚(御苗字をはじめ引渡之面々の年始・出仕継目登城の節、供侍のうち御目見の家来共は大御番所脇口より通行すべしとの指示に付、当家の格形もあるので旧例の通り仰せ付け下されたき旨) 佐竹主計→	6月	半・1冊	548-1
覚(御苗字を始め引渡之面々の年始・出仕継目登城の節、供侍のうち御目見の家来共は大御番所脇口より通行するようにとの指示に付、再三の願筋ではあるが旧例の通り仰せ付け下されたき旨)	9月	横切継紙・1通	548-2
覚(出仕・家督・御礼・年始登城の節に召連れる御目見の家来は大御番所脇口より通行し、使者供侍は御茶屋口より出入りさせるようにとの指示に対し、前例の通り仰せ付け下されたく頼み入る旨) *文頭に「写」とあり	4月23日	横切継紙・1通	548-3
覚(出仕・家督・御礼・年始登城の節に召連れる御目見の家来は大御番所脇口より通行し、使者供侍は御茶屋口より出入りさせるようにとの指示に付、前例の通り仰せ付け下されたく頼み入る旨) *文頭に「写」とあり 御苗御名前→	4月	横切継紙・1通	548-4
演説(御名字を始め引渡之面々の年始・出仕継目登城の節、供侍のうち御目見の家来共は大御番所脇口より通行すべしとの指示に付、旧例の通り仰せ付け下されたく御沙汰を頼み入る旨)		折紙・1通	548-5
覚(御苗字を始め引渡之面々の年始・出仕継目登城の節、供侍のうち御目見の家来共は大御番所脇口より通行すべしとの指示に付、旧例の通り仰せ付け下されたく、御沙汰を頼み入る旨) *文頭に「写」とあり 御苗御名→	9月	横長美・1冊	548-6
演説(御苗字を始め引渡之面々の年始・出仕継目登城の節、供侍のうち御目見の家来共は大御番所脇口より通行すべしとの指示に付、旧例の通り仰せ付け下されたく、御沙汰を頼み入る旨) *文頭に「写済」とあり 佐竹左衛門→	閏2月	横長美・1冊	548-7
覚(御苗字を始め引渡之面々の年始・出仕継目登城の節、供侍のうち御目見の家来共は大御番所脇口より通行すべしとの指示に付、旧例の通り仰せ付け下されたく、御沙汰を頼み入る旨) *下書、文頭に「写済」とあり 佐竹左衛門→	閏6月	横長美・1冊	548-8
覚(御苗字を始め引渡之面々の年始・出仕継目登城の節、供侍のうち御目見の家来共は大御番所脇口より通行すべしとの指示に付、旧例の通り仰せ付け下されたく、御沙汰を頼み入る旨) *文頭に○印あり 佐竹左衛門→	6月	横長美・1冊	548-9

3. 家中/3.2. 支配・身分

覚(御苗字を始め引渡之面々の年始・出仕継目登城の節、供侍のうち御目見の家来共は大御番所脇口より通行すべしとの指示に付、旧例の通り仰せ付け下されたく、御沙汰を頼み入る旨) *文頭に「写」とあり 佐竹左衛門→	9月	横長美・1冊	548-10
覚(御苗字を始め引渡之面々の年始・出仕継目登城の節、供侍のうち御目見の家来共は大御番所脇口より通行すべしとの指示に付、旧例の通り仰せ付け下されたく、御沙汰を頼み入る旨) *文頭に「写」とあり 佐竹左衛門→		横長美・1冊	548-11
覚(御苗字を始め引渡之面々の年始・出仕継目登城の節、供侍のうち御目見の家来共は大御番所脇口より通行すべしとの指示に付、旧例の通り仰せ付け下されたく、御沙汰を頼み入る旨) *文頭に「写済」とあり 佐竹左衛門→	9月	横長美・1冊	548-12
覚(御入部以前・御入部以後における家臣の御前出仕や御礼御目見などの格式付与に関する比較や達書の写し)		横切継紙・1通	549

3.3. 荒巻十蔵妻訴願一件

上(荒巻十蔵妻が久保田において目安へ封書を差出した件に関し、君臣父子の間より愁訴した場合に御取上御裁判に相成るや心得形を申し上げる旨を仰せ出されるに付申上書) 芳賀久平・芳賀茂兵衛・芳賀主令・舟田富治・斎藤忠一郎・芳賀衆之助・芳賀但見→	(安政5年)午5月14日	半・1冊	870
演説覚(荒巻十蔵妻出府にて目安へ封書を差出した一件に対し、君臣父子の間より目安・愁訴などを申し立てる儀は是迄承ざるに付申し上げるべき儀はなき旨) 神部監物・石井兵右衛門→	(安政5年)5月14日	横切紙・1通	873-1
(荒巻十蔵妻が御目安へ封書を差出した一件、御苦柄筋は時勢よんどころなき義と存ずる旨) 芳賀又六→	(安政5年)5月	縦紙・1通	873-2
演説覚(このたび荒巻十蔵無調法筋に付) 鹿子畑治右衛門→	(安政5年)午5月14日	横切紙・1通	873-3
(書状、十蔵妻目安差上げに付、並びに教授御見習差上の書付有るに付、役々へ相尋ね、扣の写を差し出す旨) 与頭芳賀又六→	(安政5年)	横切紙・1通	1041

3.4. 拝借金

御救銀辰本銀覚帳(佐貫平八郎・山方市之進ほか分、ノ2貫522文) 岩崎左内・入江庄助→	享保9年辰10月17日	横長半/(貼紙あり)・1冊	244
御救銀巳年勘定目録(元利勘定、本銀980匁) * (包紙上書)「御救銀巳年勘定目録」 入江庄助(印)・岩崎左内(印)→	享保11年午6月21日	横切継紙・1通	245
覚(私拝領の野中村辛労免高を、同村御竿入の節6石1斗2升7合に永々引上げ願) 山方藏人(印)→	安政2年卯7月	縦切紙・1通	953-1
覚(御勘定所より野中村へ仰せ渡された山方分の高書上)	辰11月	横切継紙・1通	953-2
(書状、正金15両野中村辛労免高3石5斗指向け借用致すに付) 山方藏人→□(虫喰)藤治右衛門殿、(奥書)荒巻印	嘉永5年子7月	縦切紙・1通	953-3
覚(尋壺、去年中須藤貞右衛門拝借金10両の返済に付貞右衛門父子へ尋ねた内容の書取)		半/(260-1~5は一括)/(260-1-1~2は紙縫一括)・1冊	260-1-1

3. 家中/3.4. 拝借金

(尋二・願意壺、去年中須藤貞右衛門拝借金返上一件に付)	7月18日	半・1冊	260-1-2
覚(須藤貞右衛門拝借金返済一件、山方市之進より内借金などに付答書)	7月26日	半・1冊	260-2
覚(須藤貞右衛門拝借金返済一件、山方市之進より内借金などに付答書)		半・1冊	260-3
(去年中須藤貞右衛門拝借金返済一件に付、8月4日・7日の尋ねの記録)	万延元年申8月7日	半・1冊	260-4
覚(須藤貞右衛門拝借金返済一件に付答書、居宅並びに小長屋普請のための拝借金の旨ほか)	7月24日	半・1冊	260-5
上(山方市之進様より金子100両拝借に付、返上の仕方の件願書) 大館村孫右衛門(印)→山方様ノ御親類様中 上	万延元年閏6月	半・1冊	407
上(服部三達様より金子45両借用、その返済は御屋敷様にて御繕い成し下されたきに付) 大館村孫右衛門(印)→山方蔵人様御親類様	万延2年申12月	半・1冊	408

3.5. 上申

演説覚(御政事・御財用向に関する存寄内密申上書、南家家中困窮救助方に付) 御代九十九郎(花押)→	亥10月	豎継紙・1通	345
(書状、薬流院淡路不幸にて知行高三分の一召し上げ、亥・子両年の不熟など不幸相続き、至極の窮迫に相成る故、家来扶助御取計いを願う旨) *(下書)	(近世)	豎継紙・1通	955

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

4. 所預

4.1. 湯沢米蔵

(普門寺へ1人扶持宛行の黒印状) 御用所→御蔵方	享保6年丑正月16日	堅切紙/(162-1~2は一括)・1通	162-1
(養照院へ1人扶持宛行の黒印状) 御用所→御蔵方	享保6年丑正月16日	堅切紙・1通	162-2
覚(30石以下部屋住御扶持は親家督相続以前の分は渡切りとするべき旨の享保12年6月定書の証拠文書に付) * (包紙上書)「三拾石以下御扶持御証拠御蔵役へ相渡候写」 多賀谷左兵衛→湯沢御米蔵衆	享保19年寅11月5日	横切継紙・1通	187
覚(御下国御使者として江戸立帰・登仰せ付けられるに付知行高のうち差上高2244石を返下されていたが、御滞府により米598石余の上納を仰せ付けられる旨、願により15ヶ年賦にて上納仰せ付けられる旨) * (包紙上書)「天明元年十二月」[年割御證拠写、本書者御米蔵役芳賀第八・木口勘治へ相渡]「匹田斎殿御印 年割御證拠壹枚入」 疋田斎→湯沢御米蔵衆	天明元年丑11月29日	横切継紙・1通	1094-2
覚(佐竹左衛門分指上高に関し、39石余を当卯暮に上納すべきところ来年3月まで上納を延し置く旨) 戸村一学→湯沢御米蔵衆	天明3年卯12月25日	横切継紙・1通	610
(残米を後役へ渡す節には判突帳に御目付の印形を取るべき旨などの申渡書) * (包紙上書)[御蔵役へ被仰渡候前後より後役江残米相渡候節之指図書 寛政十一年未ノ十月相達ス]	寛政11年未10月7日	堅紙・1通	639
湯沢御米蔵受払目録(寛政12年10月~享和元酉年12月迄分の入米・払米書付) 斎藤主税(印)(花押)・石井宇左美(印)(花押)→	享和2年戌4月8日	半・1冊	261
湯沢御米蔵請払目録(文化2年10月~同3寅年9月迄) 益子八郎兵衛(印)(花押)・芳賀伊右衛門(印)(花押)→	文化4年卯3月27日	半・1冊	262
文化六巳年十月より同七午年九月迄 湯沢御米蔵ニ而受払目録 星軍八(印)(花押)・安嶋兵庫[印](花押)→	文化8年未閏2月	半・1冊	263
文化七年午十月より同八未九月迄 湯沢御米蔵ニ而受払帳 安嶋兵庫[印](花押)・芳賀茂兵衛(印)(花押)→	(文化9年)申4月	半・1冊	264
文化九申十月より同十酉年九月迄 湯沢御米蔵ニ而受払目録 萩屋彦右衛門(印)(花押)・佐藤清治(印)(花押)→	(文化10年)	半・1冊	265
文化十年酉十月より同十一年戌九月迄 湯沢御米蔵ニ而受払目録 佐藤清治(印)(花押)・鹿子畑重右衛門(印)(花押)→	文化11年10月朔日	半・1冊	266
文化十一年戌十月より同十二亥九月迄 湯沢御米蔵ニ而請払目録 鹿子畑重右衛門(印)(花押)・木口武十郎(印)(花押)→	文化13年子3月24日	半・1冊	267
文化十二亥十月より同十三子九月迄 湯沢御米蔵ニ而諸払目録 木口武十郎(印)(花押)・大野三右衛門[印](花押)→	文化13年子12月	半・1冊	268

文政元寅年十月より同二卯年九月迄 湯沢御米蔵請払目録 芳賀又兵衛[印](花押)・芳賀作内[印](花押)→	文政3年辰3月	半・1冊	269
文政二卯十月より同三辰九月迄 湯沢御米蔵受払目録 芳賀作内[印](花押)・芳賀茂右衛門[印](花押)→	文政3年辰10月	半・1冊	270
文政三辰十月より同四巳十月迄 湯沢御米蔵受払目録 芳賀茂右衛門[印](花押)・石井政治[印](花押)→	(文政5年)午3月	半・1冊	271
文政五午十月より同未年九月迄 湯沢御米蔵請払目録 糸井茂助[印](花押)・菊地喜六郎[印](花押)→	文政7年申4月	半・1冊	272
文政十年亥十月より子九月迄 湯沢御米蔵受払目録 芳賀貞四郎[印](花押)・萩屋彦右衛門[印](花押)→	文政11年子10月	半・1冊	273
文政十一子十月より同十二丑九月迄 湯沢御米蔵二而受払目録 萩屋彦右衛門[印](花押)・和知孫右衛門[印](花押)→	文政13年寅3月10日	半・1冊	274
天保二年卯十月より同三辰九月迄 湯沢御米蔵請払目録 芳賀貞四郎[印](花押)・青柳矢織[印](花押)→	天保2年卯10月	半・1冊	275
嘉永二年酉十月より同三戌九月迄 湯沢御米蔵請払目録 白石鉄治[印](花押)・滑川良太郎[印](花押)→	(嘉永3年)	半・1冊	276
嘉永三年戌十月より同四年亥九月迄 湯沢御米蔵請払目録 滑川良太郎[印](花押)・渡部東太郎[印](花押)→	嘉永5年子3月25日	半・1冊	277

4.2. 郷学・学館

(会読式着座絵図、「三郎殿着座」・「教授」・「組頭以下総組下」ほかの座席書込あり) * (包紙上書)「寛政二年寅七月中御学館役人小野岡織江・細井兵吉参候節御広間講席座烈之次第書印指出候図面書也」	(寛政2年)7月	絵図・1鋪(39.5×30.5)	1139
覚(家中一統のため学校建置かれるに付、引渡・廻座・諸士・在々給人・徒並の者に至るまで出席致すべき旨ほか申渡) * (端裏書)「急回文写済候」	(寛政4年)7月	横切紙・1通	690
(人才教育のため学館建立に付、いずれも出精・修身などを専要とすべき旨の御条目) * (包紙上書)「御條目」	(寛政5年)8月	縦継紙・1通	363
覚(六郡一統文武取立の仰せ渡しのところ、当所には郷館がなきため、與下の根本庄九郎より備錢を差し出すので郷館を取り立て下されたく願ひ出る旨) * (端裏書)「寛政八辰十一月被仰遣候覚書」 御苗御名所→	(寛政8年)11月	横切継紙・1通	781
覚(来月11日積業執行、近進並以上の男は70歳・女は75歳、百姓・町人は男女とも90歳以上の者名簿などを差し出すべき旨の仰渡書) * (包紙上書)「寛政九年巳閏七月 御積業被仰渡御書付也」「写済ム」	(寛政9年)閏7月	横切継紙・1通	364
覚(16歳にて御番入を願う者は御学館にて大学・中庸・論語の御試ののち御用所へ番入を願ひ上げるべき旨、番入願の際に芸術書上を添えて願ひ上げるべき旨ほか) * (端裏書)「写済ム」	12月	横切継紙・1通	365
覚(御組下根元庄九郎が湯沢郷学建立を願ひ出るも破損手入の費用治定致さざるところ、惣組下より鳥目100貫文・支配石井源七郎銀子3貫目を差し上げ備銀とする旨) * (包紙)「郷校備料御取扱之御書付 寛政九年卯三月」「芳賀与吉」	寛政9年3月	横切継紙・1通	366

4. 所預/4.2. 郷学・学館

覚(医学御試の儀、医者並びに手医は上等、町在医は中等より治療指し許される旨の達書)	(寛政12年カ)7月	横切紙・1通	673
(包紙) * (包紙上書)「教授・御山役・御足輕差引御取扱之次第被仰渡書付教授就而教授御取扱之筋内々願申上候公載写并被仰渡付札 文化元年甲子七月」 芳賀但見→上	文化元年甲子7月	包紙・1点	1110-1
教授役内願之書(教授役方の儀は組頭同様の御取扱いと仰せ置かれ、此方様へも掛合申し上げるに付)		横切継紙/ (1110-2~3は包紙一括)/(付札・貼紙多数あり)・1通	1110-2
覚(教授・御山役・御足輕指引御才足の義仰せ渡されるに付)		横切継紙・1通	1110-3
手控(郷校へ刀持参の際の作法や刀掛差し出し等につき、一体の御取扱いを仰せ進らせ下されたき旨)	(文政元年カ)閏4月	横切継紙・1通	773
手控(郷校御改革について指障りが見えるため、天樹院様御代の郷校御草創の砌通りに御仕向を復されたき旨)	(文政元年カ)	横切継紙・1通	774
(書状、屋敷番岩崎吉兵衛が学館の出入口より通ることを受払役平沢小七郎が禁じた一件に付、老中へ申し聞けるよう頼み入る旨) * 写 御苗御名→	(文政元年カ)寅8月	横切継紙・1通	780
(御学館へ武芸方引纏に付、武芸頭取を廃止する旨ほかを門弟中へ達すべき旨の達書) * (端裏貼紙)「当正月於御評定所関口半八・石橋五兵衛を以御与下根本兎毛江被仰渡候」 →武芸師範江	(文政5年)6月	横切継紙・1通	361
覚(在々郷校取立に関する達書) * (端裏貼紙)「湯沢」	10月	横切継紙・1通	359
(教授見習などの郷校諸役・席次に関する定)		横切継紙・1通	360
別紙(芳賀伝五郎・小川忠兵衛に対し一郷に係る御用を仰せ渡される旨、書院教授は組頭並に取り扱いなさるべき旨)	8月19日	横切継紙・1通	362-1
(書状、屋形様今般御学館御取立の思し召しにより、組下給人のうち学力有る者へは書院教授の名目にて表座敷において講習致すに付、別紙名前の方などへ仰せ渡さるべき旨) 真壁圖書自筆登幹(花押)・正田齋定常(花押)・宇都宮小膳孫綱(花押)・岡本但馬元亮(花押)→佐竹左右(ママ)衛門殿	8月19日	横切継紙・1通	362-2
(包紙) * (包紙上書)「霊泉台 御陰間 両図」		包紙・1点	600-1
霊泉台之図(建物間取図)		縦紙・1通	600-2
御陰之間之図(建物間取図)		縦紙・1通	600-3
覚(文学御取立の萩屋文太郎・小川忠兵衛に書院教授を仰せ付けられるに付、勤学の面々は会日に罷り出るべき旨)		横切継紙・1通	772
(包紙、「御学館ニおゐて養老御執行付御与下老人共へ被祝置金子并御趣意書被相添被下候、右写也、御隙次第御認可被成候 う九月八日 写」 * 写	う(卯)9月8日	包紙・1点	782-1
御与下男へ・同女へ(論書の写し、今度養老執行に付、老人を大切にし、子孫の身柄を宜しくし、家事取締、朋友相和し、文武の道を励むことなどを心掛ける旨)	8月	横切継紙・1通	782-2

御足輕之老女へ(論書の写し、このたび養老とり行い、老人を大切に致すようにとの思召しの旨、家内不和合のなきように心得、家内の者へ申し教えるべき旨)	8月	横切紙・1通	782-3
(朝政御一新に付政事・軍制政を学館に纏め局を分け、会議所を設置して衆議を承り下情を通す旨ほかの達書) *(包紙上書)[御條目]	(明治元年)10月	豎継紙・1通	344
(今般養老御執行につき藩主論書)	8月	豎紙・1通	333

4.3. 湯沢町

此度町中より目安あけ申ニ付相定候事(升日・本町わき町諸役・城よりかし銀子・かうしむろ・伝馬つきやそうしなどに付) *(包紙上書)[慶長二十年相渡候御定書、梅津半右衛門より][中村伊大夫より指出] 梅津半右衛門(花押)(印)→中村因幡殿・荒蒔掃部殿	慶長20年5月7日	豎紙・1通	382
湯沢町丁間之覚(上柵から下柵までの距離、橋の数など) 芳賀兵左衛門(花押)・黒沢新左衛門(花押)・石井与三兵衛(花押)→	元禄7年戌5月12日	豎紙・1通	383
杉沢寺里塚より横堀壱里塚迄道度之覚(湯沢町御札場より下院内町御札場迄道度覚とも) 黒沢新左衛門(花押)・芳賀兵左衛門(花押)・石井与三兵衛(花押)→	元禄7年戌5月12日	豎紙・1通	384
証文(新道御屋鋪永地に拝領に付) *(包紙上書)[上 新道大工甚吉] 新道大工甚吉(印)→佐瀬宇兵衛殿・高久徳兵衛殿・岡見弥門殿・井ノ上九右衛門殿	明和9年辰6月25日	豎紙・1通	358
雄勝郡湯沢田町焼失跡書上帳 *(表紙後筆)[大方損打帳面にて高家数共ニメ書なし月日斗、家内人数書除ク] 肝煎市郎兵衛(印)→引田織部殿・原田忠治殿	天明3年卯6月29日	半/(390-1~4は一綴)・1冊	390-1
(天明3年湯沢田町彦兵衛自火火本にて類焼に付、関係者の口上書など写)	(天明3年6月29日)	半・1冊	390-2
覚(去月28日当所田町彦兵衛火本の出火による死傷被害などに付指図書) 佐竹左衛門→	(天明3年)7月朔日	横長美・1冊	390-3
覚(当所田町彦兵衛火本の類焼により、急検使を以て焼失跡御吟味・田地守護駅場御用を勤めるようなし下されたき旨を町方が願い立てるに付) 御苗御名→	(天明3年)7月2日	折紙・1通	390-4
当所御与下芳賀巳之助火本二而女壺人焼死致候二付御検使芳賀専之助佐川忠兵衛相尋候口書写(湯仙寺門前家内きん焼死、芳賀巳之助・田町与兵衛・湯仙寺などの口書) →芳賀専之助殿・佐川忠兵衛殿	天明8年申3月20日	半/(866-1~3は一綴)・1冊	866-1
覚(与下芳賀巳之助火本自火にて当処田町きんと申す女焼死の旨など御届) 佐竹左衛門→	3月21日	折紙・1通	866-2
覚(火本芳賀巳之助の家と類火にて真崎惣助の家が焼失の旨)	申3月21日	横切紙・1通	866-3
覚(昨23日夜、当所前森町庄助の自火火本にて家数9軒焼失の旨届出) 佐竹左衛門→	4月25日	横切紙/(867と868は一綴)・1通	867
焼失御披露(火本酒屋正助、ほか焼失家屋の書上) *(表紙添書)[上書 湯沢前森町焼失家数覚 但シ半紙立帳面] 湯沢町肝煎市郎兵衛[印]・同伊惣治(印)・長百姓源三(印)・同喜右衛門(印)・丁代栄助(印)→引田織部殿・原田忠治殿	天明8年申4月24日	半・1冊	868

4. 所預/4.3. 湯沢町

(新町・下町儉約古御仕法関係書類一括)			386
覚(儉約分限相応にて相守りたき三ヶーほか、古御仕法心得違い無きよう当役より日記を備え置く旨) 新町→	正月22日	半・1冊	386-1
演舌之覚(古御仕法心得違いなきよう、当役より組頭日記を備え置きたきに付) 下町→	正月22日	堅切紙・1通	386-2
口上(御先代様より御省略の儀仰せ渡され町内儉約相定めるもその趣意崩れ候ゆえ、何卒儉約の掟立て下されたきに付) 下町→	子正月22日	堅紙・1通	386-3
(包紙) * (包紙上書)「大山十郎殿より柳町作太郎催そく之儀御家来より申来候書状入次第御日記ニ委シ 寛政七年う五月中」	寛政7年う5月	包紙・1点	951
上(湯沢町林太郎が南家へいかなる無調法を致し御境内へ差塞仰せ付けられたのかの訳返答書、御屋鋪様御分の杉木を伐り取った旨) 湯沢町林太郎(印)→上	元治2年丑2月	半・1冊	412
覚(町内儉約筋申合の届出、衣服・大礼振舞など) 内館町→	正月	横長半・1冊	860
覚(屋敷借家内人数・家業・年付・親族の訳を帳面に書き付け、当5日限御用所へ指し出すようにとの旨、ほか奉公人の件等久保田より仰せ渡されるに付) * (端裏書)「写済」	4月	横切継紙・1通	681

4.4. 郡代・代官支配

(手前支配所湯沢やその近在にて飼犬が度々切り殺される事件が発生、以後左様の者があつたならば押え置いて知らせるようにと雄勝郡御代官清水万四郎らが百姓へ申し含めた旨を御届申し上げるに付) * 下書 佐竹淡路→	明和3年戌2月	横切継紙・1通	821-1
(手前支配所湯沢やその近在にて飼犬が度々切り殺される事件が発生、以後左様の者があつたならば押え置いて知らせるようにと雄勝郡御代官清水万四郎らが百姓へ申し含めた旨を御届申し上げるに付) 佐竹淡路→	2月	横切継紙・1通	821-2
(包紙) * (包紙上書)「上 切畑村 右口上書之通五分迄可申上候、格座申付候、安永二年十二月中」/(包紙裏書)「安永二年巳十二月十四日 御代官安藤平八ト茂御問合格座被仰付候○御日記ニ有り」	安永2年12月	包紙/(398-1~3は包紙一括)・1点	398-1
乍恐口上書を以奉願候御事(歟延百姓石塚村清右衛門と当村百姓五郎兵衛の間の田境出入) 切畑村肝煎作右衛門[印]・同村長百姓長右衛門(印)・同専右衛門(印)・同喜右衛門(印)・同喜兵衛(印)・同利右衛門(印)→	安永2年巳12月7日	堅継紙・1通	398-2
乍恐書付を以奉願候御事(物成米・小役銀御掛り渡部重兵衛殿が催促に来るも五郎兵衛が取り受けざるに付) 切畑村肝煎作右衛門[印]・同村長百姓長右衛門(印)・同専右衛門(印)・同喜右衛門(印)・同喜兵衛(印)→	安永2年巳12月10日	堅紙・1通	398-3
覚(不屈者召し捕えの節は御代官への引き渡しを仰せ渡されるのは支配所の趣意なく気の毒千万に付、以前の通り指揮仰せ付けられるよう頼む旨) * 下書 佐竹左衛門→	天明4年辰10月	横長半・1冊	418-1

覚(不届者召し捕えの節は御代官への引き渡しを仰せ渡されるのは支配所の趣意なく気の毒千万に付、以前の通り指揮仰せ付けられるよう頼む旨) *下書 佐竹左衛門→	(天明4年)10月	横長半・1冊	418-2
(郡奉行設置ほか六郡支配郡邦の制度改革に付口演の覚)	(寛政7年)11月	半・1冊	624
上(昨5日、小川左内が当村白山権現より杉宮三社へ参詣の際、銀山長之助と申す者を手打ちに致すに付届書、早速見分・死骸片付仰せ付け下されたき旨) 松岡村肝煎多右衛門・助五郎・同村長百姓小左衛門・惣左衛門・友吉・甚三郎・吉之丞・嘉兵衛→西野源太殿	弘化3年午5月6日	半・1冊	410-1
上(昨5日、小川左内が当村白山権現より杉宮三社へ参詣の際、銀山長之助と申す者を手打ちに致すに付届書) 松岡村肝煎多右衛門(印)・助五郎(印)・同村長百姓小左衛門(印)・惣左衛門(印)・友吉(印)・甚三郎(印)・吉之丞(印)・嘉兵衛(印)→	弘化3年5月6日	半・1冊	410-2
上(湯沢町小川左内が帯刀にて山内見物に参られたが、山領内は帯刀成らざるに付、御刀預かりに関する顚末や長之助手打ちの始申上書) 松岡銀山師七右衛門→	(弘化3年)午5月	半・1冊	411
演説覚(柳田村友吉が飯沢山での蕨取から帰る際、湯沢様乗番御目付がお越しにて取り押さえられた一件) 岩崎金四郎→	文久元年酉6月	半・1通	887
口上(道に迷って入った松岡銀山にて大小の刀を取られたため、有松様がその者を討ち果たした件に付) 鈴木新右衛門(花押)→	午5月6日	半・1冊	634
(村方宛触書の写し、給分村々百姓より申し立ては向後代官をもって申し立てるべき旨、在々出火の報告方法ほか)	卯7月	横切継紙・1通	380
覚(当11日夜、雄勝郡田代村吉郎兵衛宅へ盗賊が入り子供吉助を殺害致すに付) *下書 佐竹左衛門→	閏5月18日	横切継紙・1通	419
覚(毛見日延申渡書)	8月	横切紙・1通	684
覚(先頃仰せ渡されのうち不届者を召し捕えて代官へ引き渡すべきとする箇条に付、支配所取扱御一変の旨) *写		半・1冊	406

4.5. 伝馬・通行手形

(湯沢より金山まで町送伝馬など出すべきに付伝馬手形) * (裏書)「美作守」 [青印]([]傳馬局印)→	承応2年12月17日	堅切紙・1通	377-1
(仙北逗留中に扶持方など相渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「美作守」 [青印](馬曳図)→	慶安4年7月26日	堅切紙・1通	377-2
(鷹野逗留中に扶持方など相渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「美作守」 [青印]傳馬徒歩]]→	慶安2年6月16日	堅切紙・1通	377-3
(仙北渡野中に扶持方など相渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「美作」 [青印]傳馬徒歩]]→	正保5年2月22日	堅切紙・1通	377-4
(院内より湯沢まで町送りの伝馬など出すべきに付伝馬手形) * (裏書)「三郎」 [青印]傳馬徒歩]]→	寛永21年4月3日	堅切紙・1通	377-5
(仙北渡野中に扶持方など相渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「淡路守」 [青印]傳馬徒歩]]→	寛永19年2月12日	堅切紙・1通	377-6

4. 所預/4.5. 伝馬・通行手形

(虻川渡野中に扶持方など渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「淡路守」 [青印「傳馬徒歩」]→	寛永17年正月11日	堅切紙・1通	377-7
(湯沢より院内まで扶持方など相渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「左衛門」 [青印「傳馬徒歩」]→	寛永11年4月14日	堅切紙・1通	377-8
(湯沢よりかね山まで町送り伝馬など出すべきに付伝馬手形) * (裏書)「左衛門下総馬八騎」 [青印「傳馬徒歩」]→	寛永11年4月14日	堅切紙・1通	377-9
(院内より湯沢まで町送の伝馬など出すべきに付伝馬手形) * (裏書)「左衛門」 [青印「傳馬徒歩」]→	寛永11年8月27日	堅切紙・1通	377-10
(湯沢より窪田まで町送伝馬など出すべきに付伝馬手形) [青印「傳馬徒歩」]→	寛永10年7月18日	堅切紙・1通	377-11
(仙北渡り野中ふちかた等相渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「左衛門」 [青印「傳馬徒歩」]→	寛永8年8月10日	堅切紙・1通	377-12
(仙北渡野中の町送伝馬など相渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「左衛門」 [青印「傳馬徒歩」]→	寛永8年5月3日	堅切紙・1通	377-13
(仙北渡野中の扶持方など相渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「左衛門」 [青印「傳馬徒歩」]→	寛永4年6月25日	堅切紙・1通	377-14
(仙北渡野中の扶持方など渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「左衛門」 [青印「傳馬徒歩」]→	寛永4年4月8日	堅切紙・1通	377-15
(わたり野中の町送伝馬など相渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「左衛門」 [青印「傳馬徒歩」]→	寛永2年4月12日	堅切紙・1通	377-16
(渡野中の扶持方など相渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「左衛門」 [青印「傳馬徒歩」]→	寛永8年正月4日	堅切紙・1通	377-17
(岩崎逗留中の扶持方など相渡すべきに付伝馬手形) * (裏書)「美作」 [青印]→	明暦2年3月18日	堅切紙・1通	377-18
(中間運助を飛脚に差し遣わすに付通行手形) (印)・山方市之進→雄勝御番衆中	安政4年巳5月13日	横切紙・1通	379
寛(土崎湊町近年衰微・大火のため駅場御用難渋に付、五ヶ年人馬賃錢五割増の御書付)	6月	横切紙・1通	385

4.6. 往来

4.6.1. 国目付

(書状、拙者ども其地在留中は御丁寧な御取扱や御音物に預かるに付礼状) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 丹羽五左衛門・三浦甚五郎」 三浦甚五郎正通(花押)・丹羽五左衛門長堅(花押)→佐竹左衛門様 人々御中	(文政4年)11月21日	折紙/(134-1~5は一括)・1通	134-1
(書状、御領分湯沢駅休みの節、御音信・御迎等御念を入れられるに付挨拶状) * (包紙上書)「佐竹左衛門様人々御中 丹羽五左衛門」 丹羽五左衛門長堅(花押)→佐竹左衛門様 人々御中	(文政4年)11月15日	折紙・1通	134-2
(書状、拙者帰府の砌湯沢駅休みの節、御音物・御迎等御念を入れられるに付挨拶状) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 三浦甚五郎」 三浦甚五郎正通(花押)→佐竹左衛門様 人々御中	(文政4年)10月26日	折紙・1通	134-3
(書状、拙者御領分湯沢泊の節は御音信・御送迎に念を入れられるに付挨拶状) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 丹羽五左衛門」 丹羽五左衛門長堅(花押)→佐竹左衛門様 人々御中	(文政4年)5月25日	折紙・1通	134-4

(書状、拙者御領分巡見、湯沢駅泊の節、御音信・御迎送に念を入れられるに付挨拶状) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 三浦甚五郎」 三浦甚五郎正通(花押)→佐竹左衛門様人々御中	(文政4年)5月22日	折紙・1通	134-5
(書状、その表罷通る節旅宿へ御尋に預かり、初めて御意得るにより大慶の旨致) * (包紙上書)「佐竹三郎様 安西彦五郎」 建部荒次郎廣般(花押)→佐竹三郎様人々御中	(宝暦9年)7月28日	折紙/(135-1~6は一括)・1通	135-1
(書状、拙者近々当表発足致すにより御見舞として箱肴一種進覧の旨) * (包紙上書)「佐竹三郎様 建部荒次郎」 安西彦五郎元維(花押)→佐竹三郎様人々御中	(宝暦9年)11月7日	折紙・1通	135-2
(書状、拙者近々当表発足致すにより御見廻として箱肴一種進上の旨) * (包紙上書)「佐竹三郎様 安西彦五郎」 建部荒次郎廣般(花押)→佐竹三郎様人々御中	(宝暦9年)11月7日	折紙・1通	135-3
(書状、その御地罷通る所、初めて御意を得て大慶致すによりこの節進物一種御意を懸けられ忝きに付) * (包紙上書)「佐竹三郎様 建部荒次郎」 安西彦五郎元維(花押)→佐竹三郎様人々御中	(宝暦9年)7月28日	折紙・1通	135-4
(書状、今般拙者帰参湯沢駅休により御見舞として塩引鮭2尺御意に懸けられるに付挨拶状) * (包紙上書)「佐竹三郎様 建部荒次郎」 安西彦五郎元維(花押)→佐竹三郎様人々御中	12月6日	折紙・1通	135-5
(書状、昨日湯沢駅へ罷越す所、御見廻として御出でに預かり、進物一種御意を懸けられ忝きに付) * (包紙上書)「佐竹三郎様 安西彦五郎」 建部荒次郎廣般(花押)→佐竹三郎様人々御中	(宝暦9年)12月7日	折紙・1通	135-6
(書状、御領分湯沢駅泊の節は御出でに預り、御音信・御迎送御念を入れ忝き旨) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 青木新五兵衛」 青木新五兵衛義處(花押)→佐竹左衛門様人々御中	(嘉永2年)閏4月29日	折紙・1通	286
(書状、御領分湯沢駅泊の節は御出でに預り、御音信・御迎送御念を入れ忝き旨) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 本多主税」 本多主税忠正(花押)→佐竹左衛門様人々御中	(嘉永2年)5月	折紙・1通	285

4.6.2. 隣国ほか

(書状、松平大和守遣鷹について御鷹方に御内々に御頼申し上げる所、御承知の上御取り計らい下されるにより御礼の旨) * (包紙上書)「佐竹左衛門様 瀬川小兵衛・竹村半」 竹村半勝由(花押)・瀬川小兵衛章陸(花押)→佐竹左衛門様	12月2日	折紙・1通	132
(書状、檀那義道中恙なく旅行致され今晚御当駅止宿致されるに付) * (包紙上書)「津軽様御止宿の節御役人より御用座へ手紙」原田織江殿・山方市之進殿 跡部惣兵衛)/(端裏書)「寛政十年五月三日 山形市之進様・井上才藏様・大和武右衛門様 津軽越中守内須藤勝司・黒石弥右衛門 右兩人共大目付」 津軽越中守内須藤勝司・黒石弥右衛門→山形市之進様・井上才藏様・大和武右衛門様	寛政10年5月3日	横切継紙・1通	1145
(書状、東叡山の会符を用いて秋田藩領内を往来の旅人の吟味を元光院に御頼みになるに付、東叡山よりの通達書等の旨、それを学寮の伴領へ申し達すに付) * (端裏貼紙)「湯沢」	11月	横切継紙・1通	693-1

4. 所預/4.6. 往来/4.6.2. 隣国ほか

(書状、東叡山の会符を用いて秋田藩領内を往来の旅人の吟味を元光院に御頼みになるに付、東叡山よりの通達書等の旨、それを年行事へ相達すに付)	11月	横切継紙・1通	693-2
(書状、岩城左京亮殿御家中岩城八百助・岩城帯刀・太内図書并諸士徒組足輕迄百余人去已四月中亀田表退散出境に及ぶ一件御相談に付、「亀田藩士秋田退散事件」)	(宝暦11年)3月	横切継紙・1通	1074
(北村平四郎が角館・横手・湯沢・院内を廻に二付達書) *(端裏貼紙)「湯沢」	閏8月	横切継紙・1通	367

4.7. 入会山

覚(知行所雄勝郡杉沢村百姓専右衛門より、成沢村草飼山の内へ水野目御札林立て下されたたき旨を願出に付仰渡書) 杉山三太郎・太田正之助・岡村忠右衛門→左衛門殿誰頼	(寛政6年)6月9日	横切継紙・1通	183
---------------------------------------------------------------------------------	------------	---------	-----

4.8. 軍役(幕末・維新)

4.8.1. 海岸警備

覚(蝦夷地警衛持場に付老中阿部伊勢守正弘御差図の内容に関する仰せ知らせ書、マシケ・ソウヤ・北蝦夷地) *(包紙上書)「被仰渡書」	(安政2年)4月	横切継紙・1通	340
口達之覚(箱館表松前并蝦夷地警衛は別紙場所割の通りに付早々見分家臣を派遣し実地研究されたき旨の幕府老中阿部伊勢守正弘指示、およびマシケ・ソウヤなどの場所割)	(安政2年)4月	横切継紙・1通	341
(支配足輕10人蝦夷地警固のため当春出立にてソウヤ半年詰仰せ付けられるに付、合力金などの申渡) →佐竹三郎	(安政4年)正月	横切継紙・1通	342
マシケ御固(蝦夷地警衛関係、鉄砲頭・与力など番士の名簿や路用扶持米)	(安政4年)	半・1通	889

4.8.2. 京都警衛

聞書故文言相違可有之於京師土州公へ(此度関東へ勅使差し下されるに付、松平〈山内〉土佐守にも叡旨貫徹の儀周旋これ有る様に遊ばされたく思し召しの旨御沙汰の事ほか、京都の政治情勢)		半・1冊	1010
(包紙) *(包紙上書)「亥七月 被仰渡書式通」	(文久3年)亥7月	包紙/(811-2と812入)・1点	811-1
(文久3年6月6日に発せられた、諸藩一致して攘夷の叡慮を貫徹すべき旨の朝廷沙汰書の旨を、京都〈武家伝奏〉坊城大納言〈俊克〉様より仰せ渡されるに付、久保田藩からの仰せ出され書)	(文久3年)7月	横切継紙・1通	811-2
覚(公儀仰渡書の写し、来子年京都御警衛のため諸大名に対し在京を仰せ付けられる旨、別紙担当諸大名家名の書上也写す)	(文久3年)7月	横切継紙・1通	812
(包紙) *(包紙上書)「亥八月三日御達 被仰渡書式通入」	(文久3年)8月3日	包紙・1点	813-1

覚(先月25日に京都において〈武家伝奏〉飛鳥井中納言〈雅典〉様をもって別紙御書付を仰せ出され、当9日参着の旨を心得るべきに付)	(文久3年)8月	横切継紙・1通	813-2
(方今容易ならざる時勢にて、御用に付急速上京するよう仰せ出される旨の達書) →御名	(文久3年)7月	横切紙・1通	813-3
覚(被仰渡書、給分小役・衣服の規制・来2月上洛御供の件など) * (端書)「文久二壬戌年九月被仰渡」/下書	(文久2年)9月～10月	半・1冊	625

4.8.3. 戊辰戦争

覚(戊辰戦争による出兵申渡並びに部隊編成の書付など)	(明治元年)11月	横長半/(329-1～3は一綴)・1冊	329-1
(振遠隊に属する兵の出兵命令書写、今泉惣治ほか6名)	9月17日	横折紙・1通	329-2
追々御跡慕駆付候人数左之通り(佐川欽治ほか兵士名前書上)		横折紙・1通	329-3
於檜岡新町御本陣ニ 御軍割惣人数取調帳(戊辰戦争従軍隊割・戦士名前など)	辰8月20日	横長半・1冊	451
(湯沢御足輕・御中間の戊辰戦争出兵時の軍功書上、御足輕伊之松ほか)	(午11月8日)	半・1冊	633
(旗本隊・常備隊の兵士の勤番場所割・勤番体制に関する達書、久保田藩の兵制改革に伴うもの)	(明治初年)8月	半・1冊	810
(総督府達の写し、諸兵隊を出兵し、諸軍と力を戮せて庄内を屠り、平治の功を奏すべしとの宸襟の御沙汰に旨) →佐竹右京大夫(佐竹義亮)	(慶応4年)7月	横切継紙・1通	814
(羽州庄内征討を申し付けるので、速やかに討ち入り、奏功すべき旨の達書写し) * (包紙上書「四月七日於仙台表川井小六・岡内之丞御呼出、下参謀衆を以御渡御書面写」) 鎮撫総督 朱印→御名(佐竹義亮)	(慶応4年)辰4月6日	横切紙・1通	815
(包紙) * (包紙上書)「四月六日於仙台表川井小六・岡内之丞御呼出、御総督・副督・参謀御列席ニ而御渡御書面写」	(慶応4年)4月6日	包紙・1点	816-1
(庄内藩征討にあたっての心得向の達し、応援兵の派遣・敵開城の際の城請取・敵勢降伏の際は猥りに分取をしないようにとの旨)	(慶応4年)辰4月7日	横切継紙・1通	816-2
(羽州庄内征討を佐竹右京大夫に申し付けるので、応援人数を差し出すべき旨の達書写) 鎮撫総督 朱印→津軽越中守	(慶応4年)辰4月6日	横切継紙・1通	817
(書状、御三卿より御渡しになった太政官御達書の写し2通を差し遣わす旨) * (包紙上書「佐竹三郎殿 小野岡右衛門・小貫宇右衛門頼房(花押)・真崎兵庫陸貴(花押)・石塚源一郎茂致(花押)・岡本又太郎元賢(花押)・戸村十太夫茂致(花押)・小野岡右衛門茂礼(花押)→佐竹三郎殿	(慶応4年)8月2日	横切継紙・1通	818
(奥羽出征の諸軍に令して兵乱流離の窮民を撫恤せしめる旨の7月16日付け太政官達の写し) * (包紙上書「御書附写 慶応四年辰八月三日夜五ツ時梨木御本陣江相達」) →諸軍江	(慶応4年)7月	横切継紙・1通	819

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

5. 組下・足輕

5.1. 系図・文書

佐竹淡路組下湯沢給人(各人所持の先祖伝来証文数の書上、並びに御記録に載せ置いた旨、後代の亀鑑に備えるべき旨の秋田史館達書の写)	元禄11年寅12月	縦継紙・1通	34
(佐竹淡路組下湯沢給人根本治兵衛所持証文1通、伝来の理由を記した口上書を指し出すべき旨、吟味のうえ返付する旨の達書)	元禄11年寅12月	縦紙・1通	36
(佐竹淡路組下湯沢給人芳賀小右衛門所持古書状4通などは近來の書に付御記録には載せざる旨の達書、並びに芳賀作右衛門所持証文に関する達書)	元禄11年戌亥12月	縦紙・1通	37
(佐竹淡路組下湯沢給人小川忠兵衛・小川又兵衛所持証文に関する達書、忠兵衛所持証文は小川又兵衛へ返付するようにと御参府前に仰せ付けられるに付、ほか)	元禄11年寅12月	縦継紙・1通	38
(佐竹淡路湯沢給人小川又兵衛所持証文6通のうち、佐竹義重証文写1通は秘蔵すべきに付達書)	元禄11年12月	縦紙・1通	39
先祖傳覚書(曾祖父石井信濃より5代の履歴) * (端裏書)「石井 三ノ四」 石井兵右衛門(印)廣祐ヵ(花押)→	元禄11年寅2月8日	縦継紙・1通	575
(佐竹淡路組下湯沢給人木口惣右衛門に伝来の東中務大輔義久書1通を写して御記録に載せ置いた旨、向後火災・紛失の際は写しを拝領させるので、後代の亀鑑に備えるべき旨の申渡書) →(木口惣右衛門[印「種」])	宝永7年3月	縦紙・1通	560-2
組下被仰渡覚(新調系図・御書替御直印書などの提出に付) 御記録所→	3月	横長美・1冊	42
覚(佐竹左衛門与下湯沢給人大野三右衛門に対し、安永年中本丸焼失の御御青印1通焼失に付提出されたき旨、人見主膳・和田安房守知行奉書1通返却の旨ほかの伝達文書) * (端裏書)「本書被相渡候写也」 御記録所→	3月日	横切継紙/(311-1~3は一括)・1通	311-1
覚(小川岡之丞が、小川又兵衛と同苗か不分明につき分け置かれたく願ひ出るに付、追って吟味のうえ申し渡す旨) * (端裏書)「本書被相渡候写也」	9月日	横切紙・1通	311-2
覚(御組下面々の系図・証文など写にて指し出すようにとの命に付、形式・諸注意などの補足事項書上)	6月29日	縦継紙・1通	41

5.2. 組下

5.2.1. 支配・身分

覚(与下御扶持方人数・名前書上)		横切紙・1通	435-1
覚(与下御扶持方人数・名前書上) * (端裏書)「亥年被仰達候御与下二人御扶持方人数」	天和3年亥閏5月14日	横切紙・1通	435-2
(包紙) * (包紙上書)「佐藤与一兵衛子供召捕可指出御老中より被遣候御書并御返答御草稿」享保十七年子八月十日」		包紙・1点	1118-1

(包紙) * (包紙上書)「佐竹淡路殿 多賀谷左兵衛」		包紙・1点	1118-2-1
(宿継御用状、御組下佐藤弥市兵衛子長右衛門と妻御僉議の御用あるに付搦め捕り此表へ指し出すべし、長右衛門妻は道中用心として腰縄付の儀は苦しからざる旨) 多賀谷左兵衛峯経(花押)→佐竹淡路殿	享保14～延享2年8月8日	折紙・1通	1118-2-2
(包紙) * (包紙上書)「覚書」		包紙・1点	1118-3-1
覚(湯沢給人佐藤弥市兵衛子長右衛門兵衛とその妻を搦め捕り久保田へ差し越すべき旨、居所相知れずともこの儀露見致さざるように御捕えなさるべき旨)	8月	横切継紙・1通	1118-3-2
(宿継御用状、組下佐藤弥市兵衛子の長右衛門と妻はこの頃他国致すと申す風説あり、何とぞ召捕る様に致したきに付) * 下書 →多賀谷左兵衛殿	8月10日	折紙・1通	1118-3-3
(宿継御用状、組下佐藤弥市兵衛子の長右衛門とその妻はこの頃他国致すと申す風説あり、何とぞ召捕る様に致したきに付) →多賀谷左兵衛殿	8月10日	折紙・1通	1118-4
(宿継御用状、長右衛門居所相知れず、本庄在に罷り有りしなどと風説これ有り、もし実説なら召し捕らえさせ申すべきや御覧い致すに付) →多賀谷左兵衛殿	8月21日	縦継紙・1通	1118-5
覚(御入部の御入用を調達出来かねるに付、御用銀穀の割合を仰せ付けられる件を組下中に申し渡すべき旨) * (端裏書)「明和貳年西三月十六日上使八代弥太郎仰付織右衛門を以被仰渡候御書付」	(明和2年)2月	縦継紙・1通	545
申談之覚(御家中旧家について、城下と在々の別やその家の新古による差別はなき旨、大番の新家は大小姓・御小姓の旧家より先に召し出される訳でなく、家筋輕重の沙汰に預る訳にもなき段を申し聞けるようにとの旨) * (包紙上書)「文政九年戊三月中御与下より御城下新家と着席御伺申上候節被仰渡書附入」/「覚」と上書のある包紙を再利用	(文政9年)3月	横切継紙・1通	558
(組下湯沢給人石井良馬の嫡子隆蔵逐電に付、役儀召放蟄居申渡書) →佐竹左衛門組下湯沢給人石井良馬	(文政13年)11月	縦紙・1通	331
(上使引渡御相手番・無役引渡の内指し遣わされ申すべき所廻座御相手番梅津小太郎指し遣わさるに付覚書) * (包紙上書)「御書付入」		縦紙/(1123-1～4は紐一括)・1通	1123-1
演説(御与下青柳勘ヶ助去月中大病に付、御境奉行へ相願う際に、御境目山役御免と調え指し出されたところ、「御山役」の御の字付でなければ取り扱われざる旨申し聞けられる件) 矢野清兵衛→飯田嘉七郎様	5月	半・1冊	1123-2
覚(閏3月9日、牛丸市右衛門演説を以て先頃仰せ達せられる御願書を御老寄中へ申し上げる処、当時上の御財用御指し聞え、尚御障りこれ有るに付)	已4月23日	折紙・1通	1123-3
口上(在々給人は御城下諸士とは相違う故、在々給人に相限りて以来家人共より養子取り組み致す様に仰せ付けられ下されたきに付)	月日	折紙・1通	1123-4
(包紙) * (包紙上書)「養子ノ義、真崎五郎左衛門書状入」		包紙/(190-1～3は包紙一括)・1点	190-1

5. 組下・足輕/5.2. 組下/5.2.1. 支配・身分

覚(養子縁組に際し取り交わしたき約定の書上、これを田崎治左衛門に申し談じた旨ほか)	9月8日	横切継紙・1通	190-2
(書状、養子縁組に際しての約定の件を治右衛門や同名新左衛門へ咄し置いた旨) (真崎)五郎左衛門→左太夫様	9月8日	折紙・1通	190-3
上り御扶持(添田兵藏ほか4名の組下にかかる属住扶持)		半・1冊	632-1
上(添田順藏ほか4名の組下にかかる属住扶持返上に付) *(表紙上書)「上 益子又八」		半・1冊	632-2

5.2.2. 触書

覚(家中の諸士陪臣より養子をとることを停止していたのを緩和し、陪臣であっても本姓の続きあらば従弟まで縁組を許可するなどに付) *(包紙上書)「元禄年中被仰渡候養子取組候事 御條目」	元禄14年巳極月	豎継紙・1通	330
覚(火の本用心および他所者を長屋などへ留め置かず一町限り格別に申し合わせ吟味を遂げるべき旨など治安・風俗取締りに関する申渡書)	2月	横切継紙・1通	683-1
覚(陰陽道職業の者は土御門家支配たるべき所、近年乱雑になるにより、改めて土御門家より免許を受け支配下知を堅く守るようにとの公儀触書を組下に申渡すべき旨) *(端裏書)「亥五月十日御触 写済」	(寛政3年)5月	横切継紙・1通	683-2
覚(遊山などが美麗になるにより、諸士が慰みに罷り出るのは法度とはしないものの、先々において出入なきように致すべき旨、諸士茶屋などにての参会は禁ずる旨などの申渡書) *(端裏書)「写」	8月	横切継紙・1通	683-3
覚(先頃仰せ渡された代天宣化丸の件に付、疱瘡以前に相用い、初熟より疱瘡中は用いないようにとの旨) *(端裏書)「写済」	11月	横切紙・1通	683-4
覚(御家中名の文字を色々字替えることは禁ずる旨、出仕の節申し立て認めた文字を使用すべき旨の申渡書) *(端裏書)「写」	8月	横切継紙・1通	683-5
覚(二ノ丸は女中乗物・歩行往来並びに輕き御奉公の者・百姓・町人に至るまで横通り往来致すまじき旨、近年相弛むにより再申渡書) *(端裏書)「写」	8月	横切紙・1通	683-6
覚(江戸川・神田川御普請御手伝を滞りなく御勤め成されたに付、上意により御時服30拝領遊ばれる旨など幕府老中より申渡された旨を組下へ申し渡すべき旨の達書) *(端裏書)「写」	(寛政4年)9月	横切継紙・1通	683-7
覚(久保田城二ノ丸御金藏御番は当12日より来5月12日まで当所が相勤め、13日より湯沢勤に相成る旨) 大館→	酉4月	横切紙・1通	683-8
覚(明年御入部仰せ出されるにつき御借上銀の件、並びに属住御給銀の件ほか、申し渡すべき旨の達書)	9月	横切継紙・1通	683-9
覚(在々給人新御扶持願書提出の際に素読御試・武芸入門の段を書き載せるべき旨などの仰渡に付) *(端裏書)「寛政六とら敷 写ス」	正月	横切継紙・1通	691
覚(組下給人出府の儀見合わせに付、領内巡覧の際に御目見仰せ付けられる旨)	6月	横切継紙・1通	692-1

(以来は御歛の際、組下のうち惣代2人に出府仰せ付けられる旨を申し渡すべくに付)	4月	横切継紙・1通	692-2
口達(藩主御自筆御書付を以て与下心得方の儀仰せ出されるに付、御請として惣代出府の件、訴訟などせず静謐に務めるべき旨の南家申論)		半・1冊	334
口達(御自筆御書付の趣意達書、与下の内家筋歴然の族もあるが、差別なく器量に応じ御旗本諸士に相混じて召仕う儀は勿論に付、文武に相励み奉公を大切にすべき旨)	寅3月	縦継紙・1通	339
(組下の者へ文武の道を励ませるなど指揮よろしき故御賞言なし置かれる旨の御書付) →佐竹左衛門	寛政5年丑8月21日	折紙・1通	169
(包紙) * (包紙上書)「御直筆入 但御組下心得形 佐竹左衛門殿 岡本又太郎・小野崎庄九郎」		包紙/(167-1~4は一括)・1点	167-1
(①書状、この度御直書をもって御深慮の旨仰せ知らせ委曲承知の旨、②書状、〈佐竹西家当主義種〉石見病氣により隠居の件) ①佐竹左衛門義良(花押)、②佐竹左衛門御判→①②岡本但馬殿・宇都宮小膳殿・匹田斎殿・大越十郎兵衛殿	(寛政7年)6月25日	横切継紙・1通	167-2
(書状、御組下とも一統心得形について御深慮のうえ御直筆御書付仰せ出されるに付銘々篤と勤めるべき旨) 小野崎庄九郎通恒(花押)・疋田斎定綱(花押)・大越十郎兵衛範國(花押)・岡本又太郎元長(花押)→佐竹左衛門殿	3月21日	横切継紙・1通	167-3
(組下の内には家筋歴然の族もあるが差別なく旗本諸士に相混じり召し使うは勿論にて、疎意に存ずるのは本意にあらず、文武の道忠勤に励むよう組下に申し含めるべき旨の申渡書) * (包紙上書)「御組下御心得扣 御直筆」 →佐竹左衛門へ	3月	横切継紙・1通	167-4
覚(在々給人久保田へ出訴の風儀取締に付、組下へ申し渡すべき旨の仰出) * (包紙上書)「文政十三寅三月被仰渡候」湯沢」	(文政13年)3月	横切継紙・1通	332
(組下指揮兼々心を用い、組下共吉凶の手当・武器の備えなども設け置き感悦斜めならざるに付申置) * (包紙上書)「書附」 →(佐竹)左衛門江	3月	横切継紙・1通	283
覚(手前与下の儀、去戌正月より嫡子御扶持召上げられ面々難渋に相及ぶに付、米助成願) 佐竹左衛門→	4月27日	横切継紙・1通	986
覚(諸役所より催促あるも出勤せざる面々には屹度仰せ付けらるべき旨の触書など写) 喜藤治→(飯田)嘉七郎様	4月	横切継紙・1通	688
(申渡書の写、組頭ほか役々進退ともに罷り出るべき旨)	7月	横切継紙/ (1006-1~2は紙縫一括)・1通	1006-2
覚(久保田家中不如意の者に対し、御軍事御備の内より拝借金を知行高などに応じて仰せ付けられる旨)	10月11日	横切継紙・1通	259
(諸役人衣服や表御門・裏御門通路の件など書付)		横切紙・1通	1051
覚(茶町梅町村山利兵衛よりの預書を吟味するに付、御町奉行所に持参致すべき旨の申渡) * (端裏書)「写」	2月	横切継紙・1通	689-1
覚(茶町村山利兵衛よりの銀銭預書を所持の面々は、御町奉行所に持参致すべき旨の申渡) * (端裏書)「写」	正月	横切紙・1通	689-2

5.2.3. 新開・給分

5.2.3.1. 土地所持

(包紙) * (包紙上書)「明和七年 御分御組下共起返開出高書付二通、寅八月二日久保田より相達」	(明和7年)	包紙/(180-1~3は包紙一括)・1点	180-1
覚(雄勝郡村々起返御用仰せ付けられるにより、組下知行所のうち開起返り出高は今年より所務致す旨) 近藤忠左衛門・中川弥右衛門・関久米之助→(佐竹)左衛門殿屋敷番	寅7月24日	横切継紙・1通	180-2
覚(荒地起返し御用に付、知行所雄勝郡相川村・湯沢村ほか2ヶ村の起返・御指紙下新開共に出高の分は今年より所務致すべき旨) 近藤忠左衛門・中川弥右衛門・関久米之助→(佐竹)左衛門殿誰頼	寅7月24日	横切継紙・1通	180-3
覚(佐竹左衛門組下湯沢給人添田忠右衛門知行地不熟に付、米1石を下される旨) 真壁掃部助→湯沢御米蔵衆	天明4年辰4月19日	縦紙・1通	164
覚(組下星軍八・佐藤存兵衛による雄勝郡中村の荒地休高起返り御忠進願に付、願の通り仰せ付けられる旨) 戸沢与右衛門・石川藤右衛門→(佐竹)左衛門殿屋敷番	(寛政6年)6月5日	横切継紙・1通	181
覚(組下小川岡之丞による雄勝郡関口村薬師山社地へ杉植立御忠進願に付、願の通仰せ付けられる旨) 杉山三太郎・太田正之助・岡村忠右衛門→(佐竹)左衛門殿屋敷番	(寛政6年)6月9日	横切継紙・1通	182
覚(雄勝郡関口村薬師山御忠進地の杉6本を薬師別当が伐り取った事件に付回答書) 豊田主鈴・小川岡之丞→	文化元年子4月	半・1冊	1208
覚(荒地起返新開高御吟味に付、組下知行所の新開高についても検使による吟味を行う旨ほか仰渡書) 坂元吉五郎・近藤長左衛門・小貫忠助→(佐竹)左衛門殿屋敷番	10月	横切継紙・1通	179
(包紙) * (包紙上書)「天明五年巳八月中被仰渡候御分御下分起返り出高之書付本書也、写ハ惣兵衛被相渡候」		包紙/(176-1~3は紙縫り一綴)・1点	176-1
覚(知行所雄勝郡金屋新田村御百姓茂右衛門手前物入をもって起返御忠進の、休明高の措置に付仰せ渡しの旨) 加藤三郎兵衛・小貫忠助・杉山三太郎・戸沢与右衛門→(佐竹)左衛門殿誰頼	8月26日	横切継紙・1通	176-2
覚(組下給人知行所雄勝郡八幡村捨高内に起返高あるにより今年より所務仰せ付けられる旨) 加藤三郎兵衛・小貫忠助・杉山三太郎・戸沢与右衛門→(佐竹)左衛門殿屋敷番	8月26日	横切継紙・1通	176-3
(諸士知行高開の内荒川欠あれば当分の有高をもって御判紙改め下されるべき由など組下支配中へ周知すべき旨申渡)	7月	縦継紙・1通	170
覚(組下阿王治兵衛・斎藤江太夫ほか12名に対し、今年雄勝郡山田村へ平均御竿入により職高は引き落とし、出高の分は御判紙御書替願を申し上げるよう仰せ渡すべき旨) 茂木勇右衛門・須田形右衛門・石井藤兵衛・榎尾与七郎・富岡多右衛門・上神谷藤左衛門→(佐竹)三郎殿屋敷番		横長半・1冊	171
覚(湯沢給人は当御役銀を1石に付銀36匁の値段にて霜月中に指し上げらるべき旨、および御役銀帳を例年の如く2冊認めるべき旨) 多賀谷左兵衛→佐竹淡路殿	戌10月18日	横切紙・1通	982

口上(祖父与五右衛門宮田村開発地の本入に付) 根本造酒(花押)→	丑3月12日	縦紙・1通	881
覚(雄勝郡三又村へ平均御竿入れにより、〈組下〉斎藤五左衛門開減高に付、御判紙より引き落としのうえ御書替を願い出るべき旨仰せ渡し) 須田形右衛門・芳賀宅右衛門・茂又新太郎・楨尾与七郎・加藤三郎兵衛→淡路殿屋敷番	酉8月29日	横切紙・1通	430

5.2.3.2. 根本家新開

(雄勝郡宮田村之内下川原の土地に付、起返り御忠進致したき旨の願書) 根元与五左衛門→芳賀宅右衛門殿・近藤平九郎殿・片庭久治殿	宝暦8年5月22日	縦継紙・1通	178
作食米借用手形事(作食米代2貫借用に付) 宮田村借主万吉(印)→芳賀文八様・根本作之丞様・根本与右衛門様	辰6月25日	縦紙・1通	395-1
作食米借用証文事(作食米代銭7貫110文借受に付、実借受人の借用高書上・署名・押印あり) 宮田村請合万吉(印)・同村同断伊兵衛(印)→根本与右衛門殿・芳賀文八殿・根本作之丞殿	明和9年辰5月22日	縦継紙・1通	395-2
(去々辰年拝借作食の返済残り分は当秋11月20日切にて返済する旨) *前欠カ 宮田村伊兵衛(印)・同三之丞(印)・同与右衛門(印)、ほか7名→根元治部右衛門殿・芳賀文八殿・根元与右衛門殿	安永3年午正月27日	縦継紙・1通	396-1
口上(午年分作食銭の残り3貫90文のうち、1貫545文は4月切、1貫540文は11月中旬に上納する旨) 宮田村借用主金助(印)・同仁兵衛(印)・同万助(印)、ほか6名→根元治部右衛門殿・芳賀文八殿・根本与右衛門殿	安永4年未正月13日	縦紙・1通	396-2
覚(湯沢給人根元与右衛門の雄勝郡宮田村の起返御忠進に付、私共検使にて見分吟味の報告書) *(包紙上書)「根元与右衛門御忠進開場所見分境共ニ相渡候 御書付御検地役より相渡候御書付也」/(包紙裏書)「安永二年巳七月、御検地役近藤惣左衛門・小松弥八郎・関久米之助」 近藤惣左衛門・小松弥八郎・関久米助→(佐竹)左衛門殿屋敷番	安永2年巳7月9日	横切継紙・1通	166
(包紙) *(包紙上書)「五数入 根本造酒」		包紙/(349-1~6は包紙入)・1点	349-1
(雄勝郡宮田村内先年捨り高場所に付、去寅年親与五左衛門が起返御忠進願の通り仰せ付けられて開発仕る所、場所統地障りも無きにより開発申したき旨など開発趣意書) 根元与右衛門→近藤惣左衛門殿・小松弥八郎殿・関衆之助殿	安永2年巳閏3月18日	縦継紙/(349-2~6は綴一括)・1通	349-2
(御与下湯沢給人根元与五左衛門より、雄勝郡宮田村内下川原地所は宮田村百姓共本入普請致しかねるにより、私方より御開に取立て申したき旨願出るに付、許可の書付) 芳賀宅右衛門・近藤平九郎・片庭久治→	6月21日	縦紙・1通	349-3
写(御与下湯沢給人根元与五左衛門より、雄勝郡宮田村内下川原地所は宮田村百姓共本入普請致しかねるにより、私方より御開に取立て申したき旨願出るに付、許可の書付) *349-3と同文 芳賀宅右衛門・近藤平九郎・片庭久治→	6月21日	横切継紙・1通	349-4
覚(湯沢給人根本与右衛門が雄勝郡宮田村内地所について親与五左衛門起返願の通り仰せ付けられる所、場所統地も起返仰せ付けられるに付仰渡書) 近藤惣左衛門・小松弥八郎・関衆之助→	安永2年巳7月9日	縦継紙・1通	349-5

5. 組下・足輕/5.2. 組下/5.2.3. 新開・給分/5.2.3.2. 根本家新開

覚(宝暦8寅年亡父与五左衛門が雄勝郡宮田村内地所開 發仕る所、地所続地も起き返し仰せ付けられ、結果とし て当夏中御調の上当高11石余出高となるにより、その 三分一は辛労免高として下し置かれる旨ほか) 近藤 惣左衛門・中川弥右衛門・小松丹右衛門・石川孫左衛門→	安永4年末閏12月28日	豎継紙・1通	349-6
(雄勝郡宮田村内の御忠進場に付、御竿請の上辛労免高 拝領仕りたき旨願書) 根本与右衛門→近藤惣右衛門殿・ 中川弥右衛門殿・小松弥八郎殿・石川孫左衛門殿	安永4年末6月3日	豎継紙・1通	248
(包紙) *(包紙上書)「上 根本治部右衛門・芳賀治部之助」		包紙/(401-1~4 は包紙一括)・ 1点	401-1
宮田村開発手前本入覚写(50貫200文) 根本造酒→		横長半・1冊	401-2
(宮田村開発本入料の内訳不分明により御吟味に及ぶに つき書付)		半・1冊	401-3
雄勝郡宮田村開発ニ付本入致候覚書(入目銭・人足賃な ど、76貫619文) 根本治部右衛門・芳賀治部之助→		半・1冊	401-4
(根元与右衛門宮田村新開地御竿願に関する書付)		横切紙/(436-2 ~20は紙縫にて 一綴)・1通	436-4
(安永4末年より兩度拝領分4石1斗などの書付、造酒並び に兩人分)		横切紙・1通	436-5
口上(宮田村開発場所忠進地高分出入に付裁判願) 根 本治部右衛門(花押)・芳賀治部之助(花押)→	(寛政12年)申2月9日	豎継紙/(346-1 ~2は一括)・1通	346-1
口上(根本造酒祖父与五左衛門開発御忠進地は寛政12年 に本入の所、申定め齟齬により争論に及び、辛労免配当 の御裁決がなされるも、高分の仰せ渡しがなきに付) 芳賀治部之助(花押)・根本治部右衛門(花押)→	(文化元年)子2月6日	豎継紙・1通	346-2
口上(親類根本造酒祖父与五左衛門先年開発本入不足に より根本治部右衛門・芳賀治部之助兩人より借受金の 件) *(包紙上書)「上 根本正九郎 森田五郎 舟尾甚一郎」 根本正九郎(花押)・森田五郎(花押)・舟尾甚一郎(花押)→	酉11月26日	豎継紙・1通	347
口達(祖父与五左衛門先年宮田村開発仕り、御割合高4石 1升を拝領するも開発半途にて本入銭不足により、根本 治部右衛門らから借りた助力金の返済に付) *(包紙上 書)「上 根本造酒」 根本造酒(花押)→	申2月13日	豎継紙・1通	348-1
口上(私祖父旧借錢あるに付、私知行高の内3分1を差し 遣わす旨を仰せ付けられ御受申し上げるに旨、並びに 元利済切の際は向高手本へ相返されたき旨) *(包紙 上書)「上 根本造酒」 根本造酒(花押)→	酉11月26日	豎継紙・1通	348-2
口上(私祖父旧借について根本治部右衛門などから御披 露に及ぶに付、私方手前本入などについての説明) *(包紙上書)「上 根本造酒」 根本造酒(花押)→	申9月13日	豎継紙・1通	348-3

5.2.4. 貸付金・合力銀

(御屋敷御組下石井伊兵衛年賦銭当申年分上納銭4貫282 文受取手形) 丹田源左衛門(印)→中村伊太夫殿・井上才 藏殿・沼倉亘殿	文政7年申8月22日	豎切紙/(238-1 ~8は一綴)・1通	238-1
-----------------------------------------------------------------------	------------	-------------------------	-------

(御屋敷御組下石井案助年賦銭当申年分上納銭5貫617文 受取手形) 丹田源左衛門(印)→中村伊太夫殿・井上才藏 殿・沼倉亘殿	文政7年申8月22日	堅切紙・1通	238-2
(御屋敷御組下芳賀恒吉年賦銭当申年分上納銭4貫492文 受取手形) 丹田源左衛門(印)→中村伊太夫殿・井上才藏 殿・沼倉亘殿	文政7年申8月22日	堅切紙・1通	238-3
(御屋敷御組下芳賀恒吉年賦銭当酉年分上納銭4貫491文 受取手形) 丹田源左衛門(印)→中村伊太夫殿・井上才藏殿	文政8年酉9月6日	堅切紙・1通	238-4
覚(勝方年割返上酉年分上納銭4貫282文受取に付) 御 蔵元松井藤吉(印「センボクユサワ《マス記号》に松井」)→石 井伊兵衛様	酉9月12日	小切紙・1通	238-5
覚(勝方年割上納酉年分返上銭5貫618文受取に付) 御 蔵元松井藤吉(印「センボクユサワ《マス記号》に松井」)→石 井浅右衛門様	酉9月12日	横切継紙・1通	238-6
覚(勝方御年賦当戌年分上納文金2歩2朱銭32文受取に 付) 御蔵元松井藤吉(印「センボクユサワ《マス記号》に松 井」)→石井伊兵衛様	文政9年戌9月2日	小切紙・1通	238-7
覚(勝方御年賦当戌年分上納銭2貫809文受取に付) 御 蔵元松井藤吉(印「センボクユサワ《マス記号》に松井」)→石 井才吉様	文政9年戌12月2日	小切紙・1通	238-8
(御合力銀代168貫受取書) 安嶋又右衛門[印]→沼倉亘殿	天保12年丑3月8日	堅切紙・1通	847
山子上納銭御勘定帳 内藤吉兵衛[印]→芳賀小八郎殿・石井 宇八郎殿	安政6年未12月	半・1冊	409
山子上納銭御勘定帳(預り金差引書上) 内藤吉兵衛[印] →	文久元年酉11月	半・1冊	443
御忠進場所奉差上候一札(私不如意にて拝借金元利175 両余返済できざるに付、森村御忠進場所地形を差し 上げる旨) * (包紙上書)「拝借金無之候得共相場之筋ニ いたし御名目拝借一通ニ候事 書付式通入 石川平兵衛 森合勘 六」 岩崎村石川平兵衛(印)→加藤傳助殿・猪狩喜惣太殿・佐 瀬兵治殿	元治2年丑2月	堅紙・1通	882
口上(私共親類真崎治太夫儀、石井監物より借方年賦返 済日延願) * (包紙上書)「上 添田清右衛門 芳賀源右衛門 星軍八」 添田清右衛門(花押)・芳賀源右衛門(花押)・星軍八 (花押)→	巳12月22日	堅紙・1通	878
覚(当高8石物成小役文銀70目は倉内村百姓共より上納 致す旨ほかの書付) 真崎治太夫→	巳12月22日	折紙/(168-1~3 は一括)・1通	168-1
口上(私親前々より困窮にて去辰年に石井監物へ当高15 石指向け調銭80貫文借用致すに付、来春まで返納日延 願) * (包紙上書)「上 真崎治太夫」 真崎治太夫(花押)→	巳12月22日	堅紙・1通	168-2
口上(私親前々より困窮にて石井監物へ当調銭80貫文借 用の返済のため、当秋より当高1石の物成・小役銀を銀 主に渡したき旨) * (包紙上書)「上 真崎治太夫」 真崎 治太夫(花押)→	未2月28日	堅紙・1通	168-3
口上(私共親類真崎惣助代裏判にて石井監物より金子を 借用し、内々に治太夫方へ助力したところ当人困窮に 付、当秋中より銀主に勘定致したき旨の願書) * (包紙 上書)「上 添田清右衛門 星軍八 芳賀源右衛門」 添田清右 衛門(花押)・星軍八(花押)・芳賀源右衛門(花押)→	未2月28日	堅紙・1通	879

5. 組下・足輕/5.2. 組下/5.2.4. 貸付金・合力銀

口上(私共親類真崎惣助・治太夫父子による石井監物からの借入金返済は、倉内村・明沢村からの物成小役銀などの上り分を指向けたき旨) 添田清右衛門(印)・星軍八(印)・芳賀源右衛門[印]→	未5月6日	縦紙・1通	880
覚(購買入並びに養蚕拝借金返納に付、石井伊兵衛受合加印渡部外記ほか)	未11月	横切継紙・1通	926

5.2.5. 備銭・差上銀銭

先々より御用銀差上申候御帳(ノ62ノ956匁4分9厘) 斎藤五左衛門・萩屋弥右衛門→	寛保元年酉9月13日	横長半・1冊	440
覚(手前与下塩硝煎方斎藤多郎右衛門・青柳八十八の指上高の儀、久保田勤並の御割合に仰せ付けられたき旨) *(端裏書)「安永四年未 斎藤多郎右衛門・青柳八十八久保田勤並御割合指上高被成度被仰達被下候御草紙」 御苗御名処→	安永4年10月15日	横切継紙/ (1068-1~8は紙縫一括)・1通	1068-8
御軍用御備上納出銭覚帳(貸付金元利差引書付、惣銭ノ912貫余) 取扱方石井監物(印)・同上遠野平蔵(印)・同石井与市郎(印)→	文政8年酉12月	横長半・1冊	447-1-1
御軍用御備銭取纏帳(組下宛貸付金など、惣銭ノ802貫余) 取扱方石井監物(印)・同上遠野平蔵(印)・同石井与市郎(印)→	文政8年乙酉正月	横長半・1冊	447-1-2
御軍用御備銭惣纏覚帳(貸付金元利勘定、元利ノ924貫余) 取扱方石井監物(印)・同上遠野平蔵[印]・同石井与市郎(印)→	文政9年戌ノ12月	横長半・1冊	447-1-3
御軍用御備上納出銭覚帳(貸付金元利勘定、元利ノ1136貫余) 石井監物(印)・上遠野平蔵(印)・石井与市郎(印)→	文政10年亥12月	横長半・1冊	447-1-4
御軍用御備銭取調帳(貸附金元利差引勘定、元利ノ1270貫余) 取扱方上遠野平蔵(印)・同石井与市郎(印)・同益子正兵衛(印)→	文政11年子ノ12月	半・1冊	447-1-5
御軍用御備銭取纏一紙(貸附金差引勘定、惣銭ノ1369貫余) 取扱方上遠野平蔵(印)・同石井与市郎(印)・同益子正兵衛(印)→	文政12年丑ノ12月	半・1冊	447-1-6
御軍用御備銭取調帳(貸附金差引勘定、惣銭ノ1539貫余) 扱方上遠野平蔵(印)・同石井与一郎(印)・同益子正兵衛(印)→	文政13年寅ノ12月	半・1冊	447-1-7
御軍用御備銭取纏帳(貸附金差引勘定、惣銭合1714貫余) 取扱方上遠野平蔵(印)・同石井与市郎(印)・同益子正兵衛(印)→	天保2年卯ノ12月	半・1冊	447-1-8
御軍用御備銭取調帳(貸附金差引勘定、惣銭合2255貫余) 上遠野平蔵(印)・益子正兵衛(印)・石井兵右衛門(印)→	天保5年午12月	半・1冊	447-1-9
御軍用御備銭取調帳(貸附金差引勘定、惣銭合2347貫余) 上遠野平蔵(印)・益子正兵衛(印)・石井兵右衛門(印)→	天保6年末12月	半・1冊	447-1-10
御軍用御備銭取調帳(貸附金差引勘定、惣銭合5642貫余) 上遠野平蔵(印)・石井兵右衛門[印]→	弘化4年末12月	半・1冊	447-1-11
御軍用御備銭取調帳(貸附金差引勘定、惣銭合6058貫余) 上遠野平蔵(印)・石井兵右衛門[印]→	嘉永元年申12月	半・1冊	447-1-12
御軍用御備銭取調帳(貸付金差引勘定、惣銭合7101貫余) 上遠野平蔵(印)・石井兵右衛門[印]→	嘉永3年戌ノ12月	半・1冊	447-1-13

軍用備錢取調帳(受取錢・払方明細書上、武備經費など) 備方山本慶吉(印)・兼勤渡部惣治(印)・小頭古川喜市郎(印)・ 山村周蔵(印)・古川善蔵(印)→	嘉永4年亥正月吉日	横長半・1冊	447-2-1
御軍用御備錢取調帳(貸付錢差引勘定、惣錢合7612貫余) 御軍用取扱方石井兵右衛門[印]・同芳賀甚五右衛門[印]→	嘉永4年亥12月	半・1冊	447-2-2
御軍用御備錢取調帳(貸付錢差引勘定、惣錢合8100貫 余) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同芳賀甚五右衛門[印]→	嘉永5年子12月	半・1冊	447-2-3
御軍用御備錢取調帳(貸付錢差引勘定、惣錢合8810貫 余) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同芳賀甚五右衛門[印]→	嘉永6年丑ノ12月	半・1冊	447-2-4
御軍用御備錢取調帳(貸付錢差引勘定、惣錢合272貫余) 御軍用方石井兵右衛門[印]・上遠野藤助[印]→	安政2年卯12月	半・1冊	447-2-5
御軍用御備錢取調帳(貸付錢差引勘定、惣錢合284貫余) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同上遠野藤助[印]・同佐藤貞吉 (印)→	安政3年辰12月	半・1冊	447-2-6
御軍用御備錢取調帳(貸付錢差引勘定、惣錢合293貫余) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同佐藤貞吉(印)・同根本西之助 (印)→	安政5年午12月	半・1冊	447-2-7
御軍用御備錢取調帳(貸付錢差引勘定、惣錢合309貫余) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同佐藤貞吉(印)・同根本西之助 (印)→	安政6年未12月	半・1冊	447-2-8
御軍用御備錢取調帳(貸付錢差引勘定、惣錢合400貫余) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	文久2年戌12月	半・1冊	447-2-9
御軍用御備錢取調帳(貸付錢差引勘定、惣錢合452貫余) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	文久3年亥12月	半・1冊	447-2-10
御軍用御備錢取調帳(貸付錢差引勘定、惣錢合503貫余) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	元治元年子12月	半・1冊	447-2-11
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢元利書上、生 田目舎人・石井政治ほか) 扱方石井監物(印)・上遠野平 蔵(印)・石井与一郎(印)→	文政6年未12月	横長半・1冊	448-1
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢元利書上、石 井政治・阿王伊七ほか) 取扱方石井監物(印)・上遠野平 蔵(印)・石井与一郎(印)→	文政8年酉12月	横長半・1冊	448-2
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢元利書上、石 井政治・阿王伊七ほか) 取扱方石井監物(印)・上遠野平 蔵(印)・石井与一郎(印)→	文政8年乙酉正月	横長半・1冊	448-3
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢元利書上、石 井政治・阿王伊七ほか) 取扱方石井監物(印)・上遠野平 蔵(印)・石井与一郎(印)→	文政9年戌12月	横長半・1冊	448-4
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢元利書上、芳 賀但見・酒出公ほか) 石井監物(印)・上遠野平蔵(印)・石 井与一郎(印)→	文政10年亥12月	横長半・1冊	448-5
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、根本十 内・根本小藤太ほか) 取扱方上遠野平蔵(印)・石井与一郎 (印)・益子庄兵衛(印)→	天保2年卯12月	横長半・1冊	448-6
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、根本免 毛・益子太郎兵衛ほか) 取扱方上遠野平蔵(印)・益子正 兵衛(印)・石井兵右衛門(印)→	天保5年午12月	横長半・1冊	448-7

5. 組下・足輕/5.2. 組下/5.2.5. 備錢・差上銀錢

御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、根本免毛・宇留野源太郎ほか) 上遠野平藏(印)・益子正兵衛(印)・石井兵右衛門(印)→	天保6年末12月	横長半・1冊	448-8
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、酒出八郎・早川庄九郎ほか) 取扱方上遠野平藏(印)・同石井兵右衛門[印]→	弘化4年末12月	横長半・1冊	448-9
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、酒出八郎・早川庄九郎ほか) 取扱方上遠野平藏(印)・同石井兵右衛門[印]→	嘉永元年申ノ12月	横長半・1冊	448-10
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、酒出八郎・早川庄九郎ほか) 取扱方上遠野平藏(印)・同石井兵右衛門[印]→	嘉永2年酉ノ12月	横長半・1冊	448-11
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、酒出八郎・早川庄九郎ほか) 御軍用取扱方石井兵右衛門[印]・同芳賀甚五右衛門[印]→	嘉永4年亥12月	横長半・1冊	448-12
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、酒出八郎・早川庄九郎ほか) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同芳賀甚五右衛門[印]→	嘉永5年子12月	横長半・1冊	448-13
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、酒出八郎・早川庄九郎ほか) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同芳賀甚五右衛門[印]→	嘉永6年丑ノ12月	横長半・1冊	448-14
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、酒出八郎・早川庄九郎ほか) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同芳賀甚五右衛門[印]→	安政元年寅12月	横長半・1冊	448-15
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛貸付錢書上、安嶋文右衛門・小川岡之丞ほか) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同上遠野藤助[印]→	安政2年卯12月	横長半・1冊	448-16
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、安嶋文右衛門・小川岡之丞ほか) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同上遠野藤助[印]・同佐藤貞吉(印)→	安政3年辰12月	横長半・1冊	448-17
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、安嶋文右衛門・小川岡之丞ほか) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同上遠野藤助[印]・同佐藤貞吉(印)→	安政4年巳12月	横長半・1冊	448-18
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、安嶋文右衛門・小川岡之丞ほか) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	安政6年末12月	横長半・1冊	448-19
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、安嶋文右衛門・小川岡之丞ほか) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	万延元年申ノ12月	横長半・1冊	448-20
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、安嶋文右衛門・小川岡之丞ほか) 御軍用方石井兵右衛門[印]・同佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	文久元年酉12月	横長半・1冊	448-21
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、安嶋林太・小川岡之丞ほか) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	文久2年戌12月	横長半・1冊	448-22
御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、安嶋林太・小川岡之丞ほか) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	文久3年亥12月	横長半・1冊	448-23

御軍用御備錢御貸附帳(組下宛ほか貸付錢書上、安嶋林太・小川岡之丞ほか) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	元治元年子12月	横長半・1冊	448-24
御上下御備錢取調帳(郷貸・町方貸附金、惣錢1913貫余) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本治兵衛(印)→	慶応元年丑12月	半・1冊	445-1
御上下御備錢取調帳(郷貸・町方貸附金、惣錢439貫余) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	文久3年亥12月	半・1冊	445-2
御上下御備錢取調帳(郷貸・町方貸附金、惣錢243貫余) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	文久2年戌12月	半・1冊	445-3
御上下御備錢取調帳(郷貸・町方貸附金、惣錢1337貫余) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本治兵衛(印)→	慶応2年寅12月	半・1冊	445-4
御上下御備錢御貸附帳(上関村郷中・金屋村郷中ほか宛貸付錢243貫余) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	文久2年戌12月	横長半・1冊	446-1
御上下御備錢御貸附帳(上関村郷中・金屋村郷中ほか宛貸付錢435貫余) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本西之助(印)→	文久3年亥12月	横長半・1冊	446-2
御上下御備錢御貸附帳(金屋村郷中・角間村郷中ほか宛貸付錢1912貫余) 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本治兵衛(印)→	慶応元年丑12月	横長半・1冊	446-3
御上下御備錢御貸附帳(上関村郷中・金屋村郷中ほか宛貸付錢2010貫余) 御軍用方佐藤貞吉(印)・根本治兵衛(印)→	慶応2年寅12月	横長半・1冊	446-4
壹紙(寅正月月中升屋与右衛門へ新規貸附128貫文を、12月中の御勘定へ指し出すべきに付) * (包紙上書)「一紙」 御軍用方佐藤貞吉(印)・同根本治兵衛(印)→	慶応2年寅4月	縦紙・1通	449
別紙(辰4月中に斎藤東太へ拝借仰せ付けられた錢を軍用方より御取替分ほか94貫250文書上)	巳12月	縦継紙・1通	450
申年分御備高差引覚(別段新屋敷ほか5ヶ所御物成など惣メ高61石余につき、払方の書上)	申年	横長半・1冊	841

5.2.6. 湯沢屋敷

享保三年戊七月廿九日久保田より被仰渡候御書付写(湯沢給人天神林善太夫の下屋敷蠟絞蔵屋敷を御用地に召上の件、佐竹南家の堰向屋敷の件などに関する書付を差し上げる旨) * (端裏書)「別紙 天神林善太夫」 天神林善太夫(印)→	(享保3年)丑2月11日	縦継紙・1通	350-1
口上書(先祖半平代より預け置かれた屋敷は御薪揚場所に召し上げられる旨承知奉るも、先祖よりの次第にてこれまでの通り御預地に成し下されたき旨) * (端裏書)「上 願之通被仰付候故大野七右伊右衛門以申渡候 明和六年うし二月十五日 天神林善太夫」 天神林善太夫(印)→	(明和6年)丑2月11日	縦紙・1通	350-2
①口上(郷校隣の泉寿院屋敷を質地に引き受けた理由並びに去秋中廣大寺より申し越されるも御取直しを以て私居掛屋敷に仰せ付けられたく願う旨)、②当寺握カ之内泉寿院屋敷質地證文之事(写、泉寿院屋敷祠錢45貫文槌かに受け取り、貴殿居掛り屋敷拝領まで幾年成るとも質地に相渡す旨) ①御郷校取担役石井源七郎、②質地主廣大寺印・末寺受取普門寺印・旦那家多右衛門判→②石井源七郎殿	①未8月②寛政9年丁巳10月24日	半・1冊	1214

口上(泉寿院私預り屋敷一件に付申上、表立ち御訴え御苦柄筋申し上げるのは恐れ多く存ずる旨) 石井源七郎(花押)→	(文化10年)酉8月17日	豎継紙/(368-1~4は一綴)・1通	368-1
①覚(泉寿院屋敷の儀廣大寺より訴えの件に付、久保田表へ如何の次第にて書載を指し出したか御尋に付回答)、②覚(泉寿院屋敷一件回答書) 大野正治(花押)・豊田主鈴→	酉9月①8日、②11日	半・1冊	368-2
口上(預り屋敷一件の書付のうち私手元控が見当たり申さざるに付) 石井氏蔵(花押)→	酉閏11月10日	豎紙・1通	368-3
覚(泉寿院屋敷一件に付石井源七郎の説明書、並びに大野正治・豊田主鈴申上書写などの書留)		半・1冊	368-4
(包紙)「上」*(包紙上書)「上 近進並 石井源七郎」		包紙/(369-1~5は包紙一括)・1点	369-1
口上(私儀近進並に召し立てられ御郷校取擔役に仰せ付けらるも、私居掛屋鋪遠方につき、廣大寺より御当所御郷校北隣泉寿院屋敷質地を引受けるも、廣大寺当住承服致さるに付) 御郷校取擔役石井源七郎→	未8月	豎紙・1通	369-2
口上(私預かり屋敷一件の始末内々久保田表へ申し遣わしたは不心得に付、一件の始末書並びに証文写を教授手元へ申し立て、謙退願ひ上げたき由) 石井源七郎(花押)→	酉8月23日	豎切紙・1通	369-3
口上(私病気につき暇拝願ひ) 石井源七郎(花押)→	戌3月23日	豎切紙・1通	369-4
覚(按文など教授より指図なき旨並びに井上才蔵御用書の件) 石井源七郎(花押)→	戌2月朔日	半・1冊	369-5
(書状、御学館教授鈴木主馬より源七郎預屋敷の義、次第書を書載せ指し出すよう申し来るに付)		折紙/(436-2~20は紙縫にて一綴)・1通	436-17
(書状、源七郎預屋敷一件、6ヶ年以前廣大寺と直談にて土地を寄進のところ、相応の屋敷もなきにより土地借用に付)		横長半・1冊	436-18
(書状、御支配近進並石井源七郎預地一件、源七郎より廣大寺末庵へ屋敷引き戻しの件ほか) 圓太夫→(佐竹)左衛門様机下	11月15日	横切継紙・1通	436-19
(書状、源七郎が申し断ってきたならば教授・源七郎共に遠慮御免とすべきか、廣大寺・源七郎を取り糺しのうえ借受年限が過ぎたなら立ち去るよう仰せ渡すべきかなどの伺書)		横長半/(下札あり、剥離下札あり)・1冊	436-20
(書状、廣大寺末寺千(ママ、泉)寿院は先住代に屋敷地を石井源七郎へ代錢45貫文にて貸し置いたが、受け返しを要求し、当人共上へ申し出た一件に付、証文並びに訴書など写し取り差し上げるので御覧下さるべき旨)		横切継紙・1通	1209
(書状、御郷校隣屋敷は石井源七郎預り屋敷にて下人を住居させていたので、寺地に相成りては甚だ指障りになるに付、替地を下されたく御指図を願う旨) *(包紙上書)「石井源七郎書載并証文写、教授共手元より御学館へ指出候節鈴木主馬所へ遺候書状写」 大野正治・豊田主鈴→	未8月21日	折紙・1通	1210

口達覚(廣大寺の返答書、泉寿院の寺屋敷を質地とした儀は京都御本山へ対し不敬等の理由により受返しの段を石井源七郎へ承り及んだ事情に付回答)	西正月	半・1冊	1211
口達覚(廣大寺の返答書、泉寿院の寺屋敷を質地とした儀は京都御本山へ対し不敬等の理由により受返しの段を石井源七郎へ承り及んだ事情に付回答) *1211とほぼ同文		半・1冊	1212
覚(源七郎預屋敷を廣大寺へ戻し寺地に相成りては郷校御用の指支えになるに付、右屋敷替地に成し下されたき旨ほか) 大野正治(花押)・豊田主鈴(花押)→	戊正月24日	半・1冊	1213

5.2.7. 境口番

(小安口御番所敷物などに付申上書、御扶持・御伝馬・薪などの賄方) 豊田藤次右衛門・木口奎之丞・渡辺伝内→	宝永4年亥4月4日	縦紙・1通	874
覚(雄勝郡小安山へ高橋惣左衛門ほか手代・下男・柚子ら杣入を願出、小安口御番所出入に付) *(端裏書)「安永五年申十二月中小安山杣入被仰渡御書付」 (吉田源蔵)→	(安永5年)12月16日	横切紙・1通	864
覚(雄勝郡小安口御番所御足軽代5人の者ども肝煎支配にて御用相勤め難きに付、肝煎支配御免、御足軽代の名目立て下される様に願い申し出でる旨) 佐竹左衛門→	4月22日	折紙・1通	943-3

5.3. 足軽

5.3.1. 支配・身分

(支配御足軽佐治右衛門は自分物入にて忠進杉植立に付、一代苗字御免並びに調銭を下される旨の書付) → 佐竹左衛門支配湯沢御足軽佐治右衛門	辰2月	横切継紙・1通	189
(足軽に渡し置かれる鉄砲が破損の場合は引き替えるべき旨の達書) *(端裏貼紙)「湯沢」	4月	横切継紙・1通	428
覚(手前支配足軽忠太・小作を囚人に附添わせその表へ指し登らせた処、道中荏和野村において囚人が取り遁れた段申し達すに付) 御苗御名→	10月3日	縦紙・1通	1127

5.3.2. 蔵出支給ほか

覚(石井理兵衛・阿王治太夫ほか分、上関村・下関村・倉内村知行御用知成に付御代地小役銀御蔵出手形) → 石山弥右衛門殿・桜田喜右衛門殿・小野崎五兵衛殿	宝暦6年12月25日	縦継紙/(掛紙あり)・1通	237
覚(去卯年思召により御足軽・御小人・御町同心知行所村々5ヶ年御蔵高に成し置かれるに付申渡) *(包紙上書)「寛政八年辰ノ七月 御足軽知行高御蔵入被仰付候御書付」 飯田嘉七郎・岩崎吉兵衛→御用座	(寛政8年)7月(～明治32年書かへ)	横半半/(236-1～2は一括)・1冊	236-1
(包紙) *(包紙上書)「寛政八年辰八月中御足軽知行高今年より五ヶ年中御蔵入被仰付候小役銀於御金蔵ニ被相渡候右御渡方帳面式冊」	(寛政8年8月)	包紙/(236-2-1～3は包紙一括)・1点	236-2-1
覚(御支配御足軽知行方御蔵入に成し置かれ御蔵出をもって御渡しに付、渡方の詳細を伝達)	(寛政8年)8月	半・1冊	236-2-2

5. 組下・足輕/5.3. 足輕/5.3.2. 蔵出支給ほか

覚(在々御足輕知行高は御蔵入に成し置かれ、当秋より御足輕共へは御蔵出をもって相渡さるに付心得書)	(寛政8年)8月	半・1冊	236-2-3
御足輕御利足返上済残人数(佐藤茂右衛門ほか13名の差引銭高書上) 小頭鈴木伝右衛門(印)・高橋友之助(印)・小沼久之助・芳賀弥七郎(印)→	安政5年午12月(万延元年申6月)	半・1冊	438
覚(古山十郎支配足輕に渡す関口村上地当高16石6斗9升8合ほか、足輕・中間地(ママ)行の村々当高書上) 御金蔵→高島弾平殿	丑8月	横切継紙・1通	854
覚(近年六郡村々衰微に及ぶに付、当西より来丑年迄5か年中足輕知行高を蔵入を以て渡し下されるに付) *(端裏書)「写済」/(端裏貼紙)「佐竹左衛門」	9月	横切継紙・1通	679
覚(当西より来丑年迄御足輕・町同心・御小人知行高は御蔵入をもって渡されるに付、御米蔵役へ申し渡すべき旨) *(端裏貼紙)「佐竹左衛門」	9月	1通	680
覚(御足輕分の村々辛労免指引の儀、御足輕蔵出米受取の節駄賃銭の儀、小役銀納方などにつき申渡書) *(端裏書)「写済書」	10月	横切継紙/(下札あり)・1通	328
覚(湯沢御足輕知行雄勝郡上関村・下関村地形の見分仰付けられ、御吟味の上、両村地形は御蔵入に仰付けられる旨、右御足輕前は他村にて御代知下し置かれる旨) *(包紙上書)「御足輕知行御引替地此未他村より御渡之筈ノ御検地仮書付、此写指引江相渡候筈也」 伊藤儀右衛門・潮田喜内・熊谷藤八→三郎殿屋敷番		横切継紙・1通	1073

5.3.3. 貸付・合力銀銭

安永二歳巳四月より午九月迄江戸御渡残銀帳(湯沢御足輕式拾五人御定式被下銀覚) 御足輕小頭吉右衛門(印)・同小頭仮役平右衛門(印)→	安永8年5月6日	半・1冊	258
丁酉年戌戌年二ケ年壱倍増引落備取調貸附帳(高橋第蔵・佐々木太内による預り銭とその貸付口内訳) 小頭山村周蔵(印)・吉成半内(印)→	天保12年丑12月18日	横長半/(441-1~2は一括)・1冊	441-1
丁酉年戌戌年二ケ年壱倍増引落備取調貸附帳(古川喜市郎・高橋多右衛門らによる預り銭とその貸付口の内訳) 小頭高橋多右衛門(印)・古川喜市郎(印)→	天保12年丑12月19日	横長半・1冊	441-2

出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家分家早川家
文書目録
(その2)

出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家分家早川家文書目録（その2）本文細目次

1. 家	126
1.1. 知行地	126
1.1.1. 分限書付ほか	126
1.1.2. 検地帳・野帳書拔	126
1.1.3. 新開・休高	127
1.1.4. 年貢・小役銀・皆済勘定	128
1.1.4.1. 今泉村	128
1.1.4.2. 猿半内村	129
1.1.4.4. 今宿村	130
1.1.4.5. 駒場村	130
1.1.4.6. 横沢村	130
1.1.4.7. 樺台村	130
1.1.4.8. 手倉河原村	131
1.1.4.9. 大沢村	132
1.1.4.10. 下仙道村	132
1.1.4.11. 八幡村	132
1.1.4.12. 木下村	132
1.1.4.13. 金屋村	133
1.1.4.16. 滝川村	133
1.1.4.17. 荻袋村	133
1.1.4.18. 八木村	133
1.1.4.19. 林崎村	133
1.1.4.20. 泉沢村	134
1.1.4.21. 下田沢村	134
1.1.4.22. 宮沢村	134
1.1.5. 指上高	134
1.1.6. 村方願書	136
1.2. 経営	137
1.2.1. 買物・無尽	137
1.2.2. 借用金	138
1.2.3. 貸付金	138

1.3. 通信	139
1.3.1. 早川庄九郎差出	139
1.3.2. 清操院差出	140
2. 藩士	141
2.1. 役務	141
2.2. 達書ほか	141
2.3. 幕末・維新	141
2.4. 日記	141
3. 近代	142
3.1. 資産	142
3.1.1. 土地手続きほか	142
3.1.3. 建物	142
3.1.4. 給禄	142
3.2. 諸商売・事業	143
3.3. 勝雄忠国社・尽忠報国会	143
3.4. 税金	144
3.4.1. 地方税（山方家分）.....	144
3.5. 家計	145
3.5.1. 諸払帳・買物	145
3.5.2. 借入金	145
3.5.3. 貸付金	146
3.6. 日記	149
3.7. 届出	149
3.8. 南家後見	149
3.9. 通信	149
3.9.1. 佐竹義隣差出	149
3.9.2. 佐竹義隣世話役差出	152
3.9.3. そのほか差出	153

出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家分家早川家文書 解題（その2）

【史料群番号】 22K

【史料群名】 でわのくに おがちぐん ゆざわ さたけみなみけふんけは やかわけもんじょ
出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家分家早川家文書

【年代】 宝永6年(1709)～大正

【レコード数】 429 データ(本目録(その2)の収載レコード数)

【入手の経緯】 1948年に原蔵者より当館に譲渡された。

【役職等】 久保田藩士、佐竹南家分家、士族

1. 伝来と整理方針

出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家分家早川家文書の伝来については、『出羽国雄勝郡湯沢佐竹南家文書・南家分家早川家文書』（『史料目録 第114集』2022、以下、114集と略記）の解題に記したので、ここでは省略する。

本目録収載文書は整理番号13～1250である。このうち、整理番号327、381、539、768～770、858、915～925は欠番(未使用)である。今回の整理でも、国立史料館時代の番号を継承しつつ、包紙・紙縫り・綴・巻き込みなどで一括されたものは、新たに枝番号を付けた。

本目録では、114集と同様に、文書群を発生させた組織・集団に留意しつつ、佐竹南家文書と佐竹南家分家早川家文書という2つの文書群として、それぞれに目録編成をおこなうこととした。大方針は以上の通りである。

2. 早川家の歴史

早川家は佐竹南家の分家で、南家3代佐竹義種<よしだね 生没年1567-1619>の次男宣直<のぶなお 生没年1602-1643>を始祖とする。早川家の歴代の通称は、おおむね図書、治大夫、庄九郎、喜太郎である。

宝暦12年(1762)8月、早川庄九郎処久<すみひさ>の嫡子峯昌(のちの義以 生没年1712-1769)は、嫡子久米八(のちの佐竹義良 生没年1745-1806)をともなって、本家(佐竹南家)に入った。逆に義以の次男和昆(生没年1769-1791)が早川家を継いでいる。佐竹南家と早川家は密接な関係にあった。

以下、114集の記述を一部訂正する。訂正箇所は早川珍伝<はるつぐ>と考之助睦友<ちかとも>の位置づけである。

義隣<よしちか>の実父である早川考之助睦友は、慶応2年(1866)に早川庄九郎の跡を継ぐ。一方、本家13代佐竹義珍<よしはる>の三男珍伝は早川姓の新家をすでにたてている。珍伝は天保2年(1831)生まれで、通称輔四郎である。珍伝は、慶応4年2月に本家16代となった義隣に代わって陣代を務め、9月戊辰戦争中に没している。

慶応4年9月、珍伝の新家は早川左五郎の子邦太郎義雄（生没年 1868-1916）が継ぐ。その後、義雄は義隣（生没年 1857-1887）の跡を、義隣の妻エイ（生没年 1865-1908）の養子となって、本家を継ぐ（人事興信所編、1915）。これは明治20年（1887）のことである。

なお、左五郎は、13代義珍の四男で、天保5年生まれであることが分かっている（渡辺喜一編、1993、p.223）。また義雄の妻レイは義隣とエイの長女である（維新史料編纂会編、1929）。ただし、早川考之助陸友の実父、陸友が後見人となった早川キンについては調査を続ける必要がある。

3. 文書群の階層構造と内容

本文書群の整理を進めるにあたって、階層構造をもとに編成するように努め、早川家の組織はつぎの3つの大項目（フォンド）を設定しようと考えた。

- ① 江戸時代の家の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群
- ② 久保田藩の一門（藩士）としての機能に基づいて作成、授受、保管された史料群
- ③ 近代の家の機能に基づいて作成、授受、保管された史料群

本目録には大項目 1. 家、2. 藩士、3. 近代として収録する。大項目の下には機能を重視して中項目・小項目を設定した。それらの内容は次の通りである。

サブ・フォンド（大項目）1. 家 レコード数 240

本項目には、家の機能に基づいて作成、授受、保管された文書群を配置した。

1.1. 知行地の 1.1.1. 分限書付はかは、早川家の経済的基盤に関わるものである。当高制は石高制に代わる久保田藩独自の租法である。早川家の知行高は、「（早川氏知行 480 石の諸村有高書上、今泉村・堀内村・横沢村・猿半内村・椿台村・大久保村・別明村・横沢村・横堀村・手倉河原村）」（整理番号 1200）、文化7年（1810）「知行分限帳 御控（早川喜太郎知行高 194 石、秋田郡堀内村ほか 11 ヶ村）」（整理番号 913-1）、慶応2年（1866）10月「（分限高帳御控（高 255 石余、雄勝郡椿台村ほか 18 ヶ村）」（整理番号 913-7-1）である。知行地の場所・高内訳については、本解題の最後に掲載している「表3 早川家知行所一覧」を参照されたい。

1.1.2. 検地帳・野帳書抜は、安政6年（1859）から文久3年（1863）までの検地帳・野帳（のちょう）である。

1.1.3. 新開・休高は、安政6年から慶応3年（1867）までの平鹿郡今泉村・雄勝郡椿台村の新田開発（新開）と水害にともなう年貢減免に関わる文書である。

1.1.4. 年貢・小役銀・皆済勘定は、天保3年（1832）から明治2年（1869）までの年貢・小役銀（夫役・小役の貨幣代納）書上、皆済目録、差引勘定である。1.1.4.1 今泉村から 1.1.4.22 宮沢村まで、村別に配置した。

1.1.5. 指上高は、天保3年から明治2年分である。慶応2年の場合、指上高は知行地の 58% 余に達している（整理番号 914-4-3）。

1.1.6. 村方願書は、嵐大風・大洪水や凶作による毛見願、戊辰戦争での使役と凶作による休高願（やすみだかねがい）である。

1.2. 経営には、小項目 1.2.1. 買物・無尽、1.2.2. 借入金、1.2.3. 貸付金を立てた。作成はいずれも天保期から明治ゼロ年代である。

1.3. 通信の小項目 1.3.1. 早川庄九郎差出、1.3.2. 清操院差出である。1.3.1. 早川庄九郎差出の受取は庄九郎の子早川考之助である。清操院は不明である。

大項目 2. 藩士 レコード数 13

本項目には、藩士の機能に基づいて作成、授受、保管された文書群を配置した。

2.1. 役務は、1 点である。嘉永 3 年 (1850) に早川庄九郎が藩の大番頭を務めるにあたり、知行 186 石に加えて、役料 113 石を支給されているが、指上高を差し引くと 51 石余となると記されている (整理番号 1217)。

2.2. 達書ほかは、別紙 (法令の具体的な内容を記したもの) を含む (金森正也、2017)。

2.3. 幕末・維新の、整理番号 871「(異国船防禦のため釜屋より岩館まで御番頭代にて海岸御固仰せ付けられるに付達書)」、整理番号 872「覚 (拙者御堅所釜谷岩館の軍将、付属の面々、台場建造、装備などに付尋ね)」は、安政 3 年 (1856) 3 月に早川考之助が番代頭として、弘前藩との境に置かれた境目番所である岩館番所に赴いたことを示している (下中邦彦、1980、p.526)。また、整理番号 808「御兵制御改革御用係り中諸手控 (早川考之助による司兵局勤務中日記)」によれば明治 3 年 (1870) に藩の兵制改革に考之助は関与していたことがわかる。

2.4. 日記は、藩の大番頭を務めた早川庄九郎、久保田城下での考之助の日記である。

大項目 3. 近代 レコード数 176

本項目には、近代の家の機能に基づいて作成、授受、保管された文書群を配置した。

3.1. 資産には、小項目 3.1.1. 土地手続きほか、3.1.3. 建物、3.1.4. 給禄を設けた。3.1.4. 給禄は (士族) 早川考之助・士族早川睦友宛が混在している。考之助から睦友への改名の時期は 3.7. 届出から明らかになる (後述)。

3.2. 諸商売・事業は、作田・炭・養蚕である。

3.3. 勝雄忠国社・尽忠報国会は、明治 26 年 (1893) の営業が確認できる雄勝忠国社 (社長佐竹義隣) がすでに明治 32 年に閉鎖していたことを示している。

3.4. 税金の小項目は、3.4.1. 地方税 (山方家分) である。山方家の地方税を早川家で肩代わりしている模様である。

3.5. 家計には、小項目 3.5.1. 諸払帳・買物、3.5.2. 借入金、3.5.3. 貸付金を立てた。いずれも明治期の文書である。

3.6. 日記のうち、整理番号 1178「諸手控 (綿商用にて廻村中の日記、6 月 26 日～7 月 25 日)」は綿商売などに関わるもので、湯沢を訪れている。

3.7. 届出は、1 点で、「(御布告に基づき、通称を廃し実名睦友に罷りなしたきに付、御届書)」(整理番号 989) である。明治 5 年 (1872) 9 月 12 日作成、秋田県庁宛に早川考之助の睦友への改名を届けて

いる。「御布告」は明治5年5月7日の太政官布告149号通称・名乗の併用禁止であろう。

3.8. 南家後見は、早川睦友による佐竹南家の後見である。明治3年、佐竹義隣（守雄）は数え年14歳であったためである。

3.9. 通信の小項目は、3.9.1. 佐竹義隣差出、3.9.2. 佐竹義隣世話役差出、3.9.3. そのほか差出である。3.9.1. 佐竹義隣差出は、主として東京に遊学していた明治5年から同7年ころの、義隣より実父早川睦友に宛てた書状である。赤坂の兵馬私学校（整理番号1239-16-3）、儒学の芳野立蔵塾（整理番号1243-9）などと具体的に記されている。3.9.2. 佐竹義隣世話役差出は、義隣の世話役である井上和作・松下元祐などが差出の書状である。これら3.9. 通信からは早川家の明治期の居所は秋田城下の中谷地町（三の曲輪内、下中邦彦、1980、p.365）であったことがわかる。なお、本目録9ページに記したように、南家後見中の早川睦友は久保田城郭内の下中城（佐竹南家屋敷）を居所とした可能性があるので、南家文書目録1.22 通信（近代）を合わせてご覧いただきたい。

【検索手段】

国文学研究資料館学術資料事業部『史料目録』114集、『史料目録』第119集（本目録）

【複製の存在】

マイクロフィルムによる複製物がある。このマイクロフィルム撮影は秋田県公文書館によっておこなわれたもので、秋田県公文書館・国文学研究資料館で閲覧利用できる。ただし、若干ではあるが撮影されていない史料がある。本目録で新たに枝番号を付した番号通りに撮影されていない場合があるので、利用にあたっては注意いただきたい。

【参考文献】

維新史料編纂会編、1929、『現代華族譜要』、日本史籍協会

金森正也、2017、「政策はどのようにして決定されたか」『「秋田藩」研究ノート』無明舎出版

下中邦彦、1980、『日本歴史地名大系5 秋田県の地名』平凡社

人事興信所編、1915、『人事興信録』4版

渡辺喜一編、1993、『新編佐竹七家系図』加賀谷書店

表 3 早川家知行地一覧

村名	文化 7 年（早川喜太郎）194 石		慶応 2 年（早川考之助）255 石	
	（本田）<64.999>	（開）<129.114>	（本田）134.980	（開）120.997
秋田郡堀内村	16.725		16.725	
平鹿郡今泉村	37.185	64.239	37.216	54.020
雄勝郡椿台村	0.128	3.271	0.128	3.271
雄勝郡猿半内村	0.488	56.951	0.438	56.951
仙北郡駒場村	4.473		4.473	
仙北郡今宿村	6.000		6.000	
仙北郡横沢村		1.903		3.301
平鹿郡別明村		0.306		
雄勝郡手倉川原村		2.444		2.454
雄勝郡金屋村			5.000	
雄勝郡八幡村			7.000	
雄勝郡下仙道村			20.000	
雄勝郡大沢村			22.500	
平鹿郡木下村			5.000	
秋田郡瀧川村			2.000	
秋田郡野石村			2.500	
秋田郡弘戸村			6.000	

作成：戸森麻衣子

典拠：文化 7 年は「知行分限帳 御控（早川喜太郎知行高 194 石、秋田郡堀内村ほか 11 ヶ村）」（国文学研究資料館所蔵出羽国雄勝郡佐竹南家分家早川家文書、整理番号 913-1）、慶応 2 年は「慶応二年寅十月分限高帳御控（高 255 石余、雄勝郡椿台村ほか 18 ヶ村）」（同、整理番号 913-7-1）。

註 数字の表記は、「」までが石、その下がそれぞれ、「斗」「升」「合」である。

1. 家/1.1. 知行地/1.1.1. 分限書付ほか

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

1. 家

1.1. 知行地

1.1.1. 分限書付ほか

(早川氏知行480石の諸村有高書上、今泉村・堀内村・横沢村・猿半内村・椿台村・大久保村・別明村・横沢村・横堀村・手倉河原村)		縦継紙・1通	1200
(本知288石6斗1合のところ、被下高・償高・指上高など差し引き文銀平目155匁7厘渡し下されるに付) 早川治太夫[印]→相沢又三郎殿・平山万六殿	天明2年寅4月	堅切紙/(別の文書の一部分が貼付されており「治太夫様御小姓中忠光(花押)」)・1通	954
知行所高附帳(秋田郡堀内村ほか8ヶ村当高など)	天明3年卯9月	半・1冊	628
知行分限帳 御控(早川喜太郎知行高194石、秋田郡堀内村ほか11ヶ村)	文化7年午8月	半・1冊	913-1
分限帳(知行高196石、雄勝郡椿台村ほか11ヶ村) 早川庄九郎→	天保3年辰11月	半・1冊	913-2
分限書出控(知行高196石、雄勝郡椿台村ほか11ヶ村)	天保3年辰11月	半・1冊	913-3
分限書付控(知行高196石、雄勝郡椿台村ほか11ヶ村) *下書 名前判→御役名前一殿・一殿	天保12年丑9月	半・1冊	913-4-1
覚(分限書出、知行高196石余、雄勝郡椿台村ほか11ヶ村) 早川庄九郎→	天保12年丑9月	横切紙/(913-4-1に合綴)・1通	913-4-2
分限帳御控(知行高196石余、雄勝郡椿台村ほか11ヶ村) 早川庄九郎→	嘉永元年申8月	半・1冊	913-5
分限帳御控(知行高190石余、雄勝郡椿台村ほか10ヶ村) 早川庄九郎→	安政2年卯3月	半・1冊	913-6
慶応二年寅十月分限高帳御控(高255石余、雄勝郡椿台村ほか18ヶ村) 早川考之助→	慶応2年寅10月	半・1冊	913-7-1
(安政6年旧前拝領地70石の内訳書上、雄勝郡金屋村ほか7ヶ村) 早川考之助→	(安政6年)10月	横切紙/(913-7-1に合綴)・1通	913-7-2
(封筒) * (封筒上書)「慶應二年寅十月 分限高書出帳手控」	慶應2年10月	封筒・1点	1026
蔵村々扣(平鹿郡今泉村ほか10ヶ村分高、100石7斗6升書上)		半・1冊	913-9
已十二月高調(早川考之助の給知259石7升7合の内訳に付、仙北郡手倉川原村ほか)	(明治2年)巳12月	半・1冊	938
(早川考之助知行所4ヶ村高書上、259石7升7合)		堅切紙・1通	1048

1.1.2. 検地帳・野帳書抜

上 水高書上帳(雄勝郡八幡村) 八幡村肝煎長蔵(印)・同村長百姓庄治(印)・同又右衛門(印)→早川庄九郎様御内福田多門様	安政6年末10月	半・1冊	912-1
--------------------------------------------------------------	----------	------	-------

秋田郡男鹿瀧川村野帳拔書水高帳 肝煎目黒周兵衛(印)・長百姓矢太郎(印)・七兵衛(印)→早川庄九郎様御内福田多門様	安政6年未10月	半・1冊	912-2
御野帳書抜帳(払戸村) 払戸村肝煎五兵衛(印)・同見習惣与松(印)・長百姓惣吉(印)・同七郎兵衛(印)・同仁右衛門(印)・同市右衛門(印)・同孫四郎(印)・同十三郎(印)・同勘右衛門(印)→早川庄九郎様御内福田多門様	安政6年未8月	半・1冊	912-3
筆限書抜帳(雄勝郡八幡村) 雄勝郡八幡村肝煎長蔵(印)・同村長百姓庄治(印)・同又右衛門(印)→早川庄九郎様御内福田多門様	安政7年申4月	半・1冊	912-4
上(平鹿郡木下村野帳書抜覚) 平鹿郡木下村肝煎萬助[印]・長百姓治兵衛[印]→早川庄九郎様御内福田多門様御取次迄	安政7年申4月2日	半・1冊	912-5
雄勝郡大沢村水高書上帳 大沢村肝煎佐藤長太郎[印]・同村長百姓七右衛門[印]・同吉郎兵衛(印)→早川庄九郎様御内福田多門様	万延元年申4月	半・1冊	912-6
秋田郡男鹿宮沢村(水高書上帳) 宮沢村肝煎藤蔵(印)・長百姓長五郎(印)・同吉兵衛(印)・同久三郎(印)・同勘兵衛(印)・長百姓長三郎(印)・同千代吉(印)・同長四郎(印)・同久左衛門(印)・同儀右衛門(印)・同又兵衛(印)・同彦三郎(印)・同角左衛門(印)→早川庄九郎様御内福田多門様 上	万延元年申5月	半・1冊	912-7
上 分米帳(雄勝郡八幡村) 雄勝郡八幡村肝煎又右衛門(印)・同兵治(印)・長百姓三九郎(印)→早川庄九郎様御内福田多門様 御取次	文久元年酉11月	半・1冊	912-8
御野帳書抜帳(払戸村) 払戸村肝煎惣与松(印)・長百姓与左衛門(印)・同仁右衛門(印)・同七郎兵衛(印)・同孫四郎(印)・同新兵衛(印)・同勘右衛門(印)・同市右衛門(印)・同惣吉(印)→早川庄九郎殿	文久元年酉8月	半・1冊	912-9
雄勝郡大沢村水高書上帳 大沢村肝煎佐藤長太郎[印]・同村長百姓吉左衛門[印]・同吉郎兵衛(印)→早川庄九郎様御内福田多門様	文久3年亥9月	半・1冊	912-10
覚(金屋村水高書上) * (包紙上書)「上」 金屋村肝煎平蔵(印)→早川庄九郎様御取次	文久元年酉11月	豎紙・1通	912-11
(袋、「新知行所水高帳」) * (袋裏書)「一、六石 秋田郡拂戸村」(他7ヶ村分)	文久元年9月7日	袋・1点	1059

1.1.3. 新開・休高

(雄勝郡椿台村当高7升2合は当末年1ヶ年休高になる旨の通知書の下書) 大和田市右衛門□・渡部治兵衛○・澤畑佐兵衛・幕内金蔵○→	安政6年10月	豎切紙/(1045-1~3はこより一綴)・1通	1045-1
(雄勝郡椿台村当高4升は当末年より川欠捨り高になる旨の通知書の下書) 大和田市右衛門□・渡部治兵衛○・澤畑佐兵衛・幕内金蔵○→	安政6年10月	豎切紙・1通	1045-2
(平鹿郡今泉村当高6升1合新開は来る申年より出高に成る休高の旨通知書の下書) 大和田市右衛門□・岩屋久治○・山崎時之助○→	安政4年巳11月	豎切紙・1通	1045-3
口上(拙者知行所平鹿郡今泉村にて御判紙ほか開高6石9斗9合町所御備へ相渡し申したきに付)	4月2日	豎紙・1通	1116
(早川幸(ママ)之助分今泉村当高5升9合につき改より御差紙下、新開来午年より出高休明になる旨) 高井豎治(印)・布川長右衛門(印)→	慶応3年卯11月	豎切紙/(1153-1~2は一綴)・1通	1153-2

(8升6合の御割合代納の事に土崎治助へ談じた処、右分上納に及ばざる趣伊織へ申談これ有る旨の覚書)	辰3月21日	堅切紙・1通	1153-1
--------------------------------------------------	--------	--------	--------

1.1.4. 年貢・小役銀・皆済勘定

1.1.4.1. 今泉村

御皆済目録(当高年貢、過納分差引書上とも) 今泉村組代六三郎(印)→古川敬助様	天保9年戊閏4月日	堅継紙/(下札1枚あり)・1通	980
覚(中谷地開出高2斗4升4合など早川家当高101石8斗6升3合に付) 今泉村組代多左衛門(印)→早川庄九郎様御内寺山弁蔵様御取次御披露	卯11月4日	堅継紙・1通	965
辰年御皆済下目録帳(当高102石余) 今泉村肝煎多左衛門→早川庄九郎様御家来様	弘化2年巳7月	横長半・1冊	1114
去午年御皆済下目録(当高102石) * (裏書)「今泉写済」 今泉村組代土谷茂右衛門(印)→早川庄九郎様御内高橋永吉様御取次	弘化4年未8月	半/(付箋あり)・1冊	945-3
去未年御物成御皆済下目録(当高102石余) 平鹿郡今泉村御組代土谷茂右衛門(印)→早川様御内高橋永吉様	嘉永元年申7月	堅継紙・1通	1137
覚(平鹿郡今泉村年貢皆済下目録) 平鹿郡今泉村組代栄蔵(印)→早川庄九郎様上御家来衆中	嘉永2年酉 12月	堅紙・1通	1221
上(今泉村嘉永2年分取立年貢明細書上) * (裏表紙貼)「申年皆済下目録酉年小役指引下書」 平鹿郡今泉村組代栄蔵→早川庄九郎様御家来衆中	嘉永2年酉	半・1冊	945-6
上(今泉村嘉永3年分取立年貢明細書上) * (裏書)「今泉」	嘉永3年戌	半・1冊	945-4
上(今泉村嘉永2年分取立年貢明細書上) * (裏書)「今泉」 平鹿郡今泉村組代栄蔵→早川庄九郎様御家来衆中	嘉永4年亥	半・1冊	945-5
覚(平鹿郡今泉村当春垣銀150匁上納に付) 平鹿郡今泉村組代栄蔵→谷地町様御内高橋永吉様	嘉永4年亥3月5日	堅紙・1通	1222
上(皆済下目録) 今泉村御組代栄吉→谷地町様御内寺山駒之助様	嘉永4年亥10月	半・1冊	1163
上(今泉村年貢皆済下目録、当高92石) 平鹿郡今泉村御組代栄吉→谷地町様御内寺山駒之助様	嘉永4年亥10月	半・1冊	1238
今泉村御替(ママ、皆)済下目録 組代栄蔵→松岡政六様	嘉永5年子4月11日	半・1冊	1165
上(皆済下目録) 今泉村五組代栄吉→谷地町様御内寺山駒之助様	嘉永5年子10月	半・1冊	1164
覚(当高分・御開出高分年貢上納に付引合されたき旨) 今泉村肝煎土屋茂左衛門(印)・組代栄吉[印]→寺山駒之助様	嘉永6年丑8月	堅継紙・1通	959
覚(当高101石余に付、出高・配当・関下成分など差引書上) 今泉村肝煎土谷茂右衛門判・組頭栄吉判→寺山駒之助様	嘉永6年丑8月	堅紙・1通	1086
上(今泉村嘉永5年分取立年貢明細書上) 平鹿郡今泉村御組代栄吉→谷地町様御内寺山駒之助様	嘉永6年丑10月	半・1冊	945-1
上(今泉村嘉永7年分取立年貢明細書上) 今泉村御組代栄吉→谷地町様御内寺山駒之助様御取次	嘉永7年寅10月	半/(付箋訂正あり)・1冊	931
覚(当高101石余につき年貢米高差引勘定書) 今泉村組代栄吉→寺山駒之助様御披露	安政2年卯正月	堅継紙・1通	1034

覚(当高101石に対する御年貢米高差引書上) 今泉村組 代栄吉→寺山駒之助様御披露	安政2年卯2月	縦紙・1通	1025
上(今泉村嘉永7年分取立年貢明細書上) 今泉村与代栄 吉→谷地町様御内大嶋貞吉様御披露	安政2年(ママ)卯10月	半・1冊	930
上(今泉村嘉永6年分取立年貢明細書上) 今泉村与代栄 吉→谷地町様御内大嶋貞吉様御披露	安政2年卯10月	半・1冊	945-2
上(今泉村安政3年分取立年貢明細書上) 与代栄吉拜→ 谷地丁様御内福田多門様御披露	安政3年辰	半・1冊	927
上(今泉村安政3年分取立年貢明細書上) 組代栄吉拜→ 谷地丁様御内福田多門様御披露	安政3年10月21日	半・1冊	928
覚(年貢当高米・小役銀の差引勘定書上、当高92石余) 今泉村今蔵拜→谷地丁様御内福田多門様	(安政4年)巳4月10日	縦継紙・1通	1060
覚(当高92石1斗2升4合・小役銀594匁4分8厘に付差引上 納の旨) (今泉村)与代栄吉→谷地町様御内福田様 御披露	安政4年巳11月11日	縦継紙・1通	970
上(今泉村安政4年分取立年貢明細書上) 今泉村永吉拜 →福田多門様御披露	安政4年巳	半・1冊	929
覚(知行所年貢小役銀より諸入用差引計算書) *(端裏書) 「安政五午年」 (今泉村)永吉→福田多門様御披露	安政5年午11月	縦継紙・1通	1223
未年皆済目録(知行所年貢米) 平荒(ママ、鹿)郡今泉村→	安政6年	半・1冊	1072
覚(平鹿郡今泉村年貢上納に付計算書) 今泉村永吉→福 田多門様	(安政6年)未11月	縦紙・1通	1224
覚(去申不納分軽升7斗6升余代銭228貫135文に付、御 内々御引合上納成し下し置かれたきに付) 今泉村与代 栄吉→福田多門様	酉11月7日	縦紙・1通	968
覚(年貢銭2604文上納に付) (今泉村)栄蔵→福田多門様	酉11月12日	縦紙・1通	971
覚(当高51石余に対する年貢銀差引勘定書上) 今泉村栄 吉→福田多門様	文久元年酉11月13日	縦紙・1通	1011
覚(今泉村年貢皆済下目録) *(端裏書)「文久二戌年十月 今泉村」 今泉村栄蔵→福田多門様	文久2年戌10月	縦継紙・1通	1199
覚(当高6石今泉村年貢・小役銀差引勘定書付) (平鹿郡今泉村当高書上、92石余)		横切継紙・1通	1155
		堅切紙・1通	1039-2

1.1.4.2. 猿半内村

早川様御分天保十五辰年村々小役銀取立帳(猿半内村 ほか5ヶ村分、350貫余) 松岡兵蔵→	天保15年辰10月29日	横長半・1冊	1102
早川様御分仙北銀穀代取纏帳(早川氏知行猿半内村・椿 台村ほか小役銀など324貫文余上納) 松岡兵蔵→高 橋辰吉様	弘化3年午10月17日	横長半・1冊	1216
嘉永七寅年御収納銀石上納下目録(当高年貢・小役銀・小 間物) 猿半内村肝煎庄右衛門(印)・同仁右衛門(印)→早川 庄九郎様御家頼松岡平蔵様 御取次	嘉永7年寅10月	縦継紙・1通	979
安政二卯年御収納上納目録(当高52石7斗9升7合につき 年貢米差引勘定書) 猿半内村肝煎→大嶋貞吉様御取次	安政3年辰正月	横切継紙・1通	1028

1. 家/1.1. 知行地/1.1.4. 年貢・小役銀・皆済勘定/1.1.4.2. 猿半内村

覚(当高年貢米・小役銀より諸差引分書上) * (端裏書)「安政六未年」 猿半内村肝煎正右衛門[印「センホクワカチ猿半内」]→早川様御内福田多門様 御取次	安政6年未11月	縦継紙・1通	978
(袋) * (袋上書)「安政六未年十一月 知行所諸書付入 但分地書附入」	安政6年未年11月	袋・1点	981
覚(猿半内村年貢皆済下目録、当高・小役銀など) * (端裏書)「文久二戌年十二月指出候目録 猿半内村」 猿半内村肝煎正右衛門[印「センホクワカチ猿半内」]→福田多門様 御取次	文久2年戌12月	縦継紙・1通	1201
小役銀指上手控(早川考之助分249石、雄勝郡猿半内村)	慶応2年寅10月	半・1冊	405

1.1.4.4. 今宿村

上(今宿村安政5年分年貢小割付に付) * (裏書)「仙北郡今宿村」 今宿村組代茂左衛門(印)→早川庄九郎様御家来様	安政5年午12月	半・1冊	958
覚(今宿村已～未年貢のうち既納分・不納分指引勘定書上) * (端裏書)「酉年指出候 今宿村」 組代茂左衛門→早川庄九郎様御内 御家来様	文久元年酉12月	縦継紙・1通	1207
覚(午年調進指上金5兩と未・申・酉年分の小役銀などの差引勘定) * (端裏書)「今宿村」 今宿村茂左衛門→早川庄九郎様御内御家来様	文久元年酉12月	縦紙・1通	1203

1.1.4.5. 駒場村

(仙北郡駒場村年貢保銀28匁余上納に付届書) 駒場村与治右衛門→早川庄九郎様御内福田多門様 上	万延元年庚申11月9日	折紙・1通	1229
覚(早川様御分当高4石の寅年・卯年・辰年分かん米不足分書上書、合3斗9升9合) (駒場村)与治右衛門→当村松蔵殿へ	巳4月	横切紙・1通	1237

1.1.4.6. 横沢村

覚(横沢村ほか2ヶ村分小役銀書上) 横沢村組代六郎兵衛→早川様分石川兎毛様	天保3年辰11月	縦紙・1通	1039-1
覚(仙北郡横沢村・同郡今宿村・同郡駒場郡・雄勝郡猿半内当高書上)		縦紙・1通	1038
覚(横沢村分の卯年・辰年分年貢上納米高書上)	安政4年巳11月10日	折紙・1通	1228

1.1.4.7. 椿台村

上(椿台村年貢上納分指引につき) 椿台村肝煎佐吉(印)→早川御内御家来様	嘉永元年申10月	半/(1241-1～6は紐一括)・1冊	1241-1
(当高3石3斗3升5合に対する小役銀10貫39文上納に付) 椿台村肝煎佐吉(印)→早川様御内	嘉永3年戌10月11日	縦紙/(957-1～5は紙縫一括)・1通	957-1
覚(椿台村分当戌年物成穀3石9斗5升1合・保銀25匁5分上納に付) 椿台村肝煎→早川庄九郎様御披露	戌11月28日	縦切紙・1通	957-5
上(椿台村申・酉・戌3ヶ年年貢上納に付指引書) 椿台村肝煎佐吉(印)→松岡兵蔵殿	嘉永4年亥10月	半/(1241-1～6は紐一括)・1冊	1241-4
上(椿台村小役銀指引申上げに付) 椿台村肝煎佐吉(印)・同村長百姓源四郎(印)→寺山駒之助殿	嘉永7年とら7月28日	半・1冊	1241-2

上(椿台村御収納高に付、高2石7斗8合) 椿台村肝煎佐吉・同村長百姓源四郎→寺山駒之助殿	嘉永7年寅閏7月	半・1冊	1241-3
(当高・小役銀の年貢高に付覚) 椿台村肝煎佐吉(印)→大嶋貞吉様	安政2年卯10月	堅切紙・1通	976
覚(椿台村分当辰年物成穀2升9合・保銀25匁7分5厘上納に付) 椿台村肝煎[印「雄勝椿台役所」]→早川庄九郎様御内御家来様	安政3年辰12月	堅紙/(957-1~5は紙縫一括)・1通	957-2
(剥離付箋カ、「式拾五匁七分五厘代式ノ七百五十五文…」)		小切紙・1通	957-3
覚(椿台村年貢当高・保銀上納に付) 椿台村肝煎助右衛門・同甚右衛門→早川様御内福田多門様御取次	安政4年巳11月	横切継紙/(下札あり)/(1241-1~6は紐一括)・1通	1241-6
覚(椿台村年貢当高・小役銀上納に付) 椿台村擔肝煎正右衛門(印)・長百姓藤五郎(印)→福田多門様御取次	万延元年申11月	堅紙・1通	1241-5
覚(椿台村分物成穀3石9斗5升1合・保銀25匁5分上納に付) 椿台村肝煎→早川庄九郎様御披露	文久元年酉11月	堅紙/(957-1~5は紙縫一括)・1通	957-4
覚(椿台村分保銀17匁4分7厘上納に付) 貞治拝→大嶋貞吉様御取次	西11月27日	堅紙・1通	960
早川庄九郎様分(上納分248文・保銀12匁2分4厘などノ錢1貫623文上納に付)		横切継紙・1通	961

1.1.4.8. 手倉河原村

当辰年御皆済下目録(手倉河原村当高・小役銀) 手倉河原村肝煎三右衛門(印)→早川庄九郎様御内	天保3年辰12月	堅紙/(1240-2~11は紐一括)・1通	1240-8
雄勝郡手倉河原村亥子両年御皆済下目録、当高・小役銀) 手倉河原村御組代四郎兵衛(印)→早川庄九郎様御内古川敬助殿	天保11年子11月19日	半・1冊	1240-2
去寅年御皆済下目録(手倉河原村当高・平目銀、上納分4貫121文) 手倉河原村御組代四郎兵衛→早川庄九郎様御内御家来衆	天保14年卯5月	堅紙/(1240-9-1~2は巻込一括)・1通	1240-9-1
覚(手倉河原村早川庄九郎様分年貢当高上納残額に付) 手倉河原村四郎兵衛→猿半内村親郷様	(天保14年)卯11月7日	横切紙・1通	1240-9-2
上(嘉永元~3年分手倉河原村御小役銀上納残額に付) 手倉河原村肝煎四郎兵衛(印)→早川正九郎様御内高橋永吉殿	嘉永4年亥10月	半・1冊	1240-3
(手倉河原村小役銀上納残額に付書上) 手倉河原村肝煎四郎兵衛(印)→早川正九郎様御内高橋永吉殿	嘉永4年亥10月	堅紙・1通	1240-5
(嘉永元年~6年分手倉河原村御収納銀石の差引書上) 手倉河原村肝煎四郎兵衛(印)・同村仮擔兵右衛門(印)→寺山駒之助様御取次	嘉永7年寅7月	横長半・1冊	1240-11
上(手倉河原村御収納高に付、当高2石5升2合) 手倉河原村肝煎四郎兵衛(印)・同村仮擔兵右衛門(印)→寺山駒之助殿	嘉永7年寅閏7月17日	半・1冊	1240-4
覚(手倉河原村年貢保銀12匁2分4厘上納に付) 手倉河原村肝煎兵右衛門→福田多門様御取次	安政4年巳11月	横切紙/(下札あり)・1通	1240-10
覚(手倉河原村銀石上納高に付、当高・小役銀ほか) 手倉河原村肝煎兵右衛門→福田多門様御取次	安政5年午11月	堅紙・1通	1240-6

1. 家/1.1. 知行地/1.1.4. 年貢・小役銀・皆済勘定/1.1.4.8. 手倉河原村

(袋) * (袋上書)「手倉椿台皆済下目録并諸書付入」	安政7年申3月21日	袋/(1240~1241は1240-1の袋に一括)・1点	1240-1
覚(手倉河原村銀石上納高に付、当高・小役銀ほか) 手倉村肝煎兵右衛門(印)→福田多門様御取次	万延元年申11月	堅継紙/(付箋訂正あり)/(1240-2~11は紐一括)・1通	1240-7

1.1.4.9. 大沢村

覚(雄勝郡大沢村当高15石5斗分の小役銀100目2厘上納に付) 大沢村肝煎佐藤長太郎(印)・与代七右衛門(印)・吉郎兵衛(印)→早川庄九郎様御内福田太右衛門様	安政6年末10月	堅継紙/(966-1~4は一綴)・1通	966-4
代納覚(写済、当高10石年貢米を代銭納に付) 大沢村組代七右衛門[印]・吉郎兵衛(印)→早川庄九郎様御内福田多門様 上	万延元年申11月4日	堅紙・1通	1234
覚(雄勝郡大沢村当高、22石5斗のうち上納分に付書上) 肝煎佐藤長太郎[印]→福田多門様御取次	文久元年酉11月6日	堅紙・1通	967
覚(雄勝郡大沢村御小役銀145匁1分9厘上納に付) 肝煎佐藤長太郎[印]→早川様御内福田多門様御取次	文久元年酉11月	堅紙・1通	972
覚(雄勝郡大沢村当高22石余分の年貢代銀上納に付) * (包紙上書)「上 大沢村」 組代吉郎兵衛(印)→早川正九郎様御内福田多門様	文久2年戌10月	堅紙/(1205-1・2は包紙一括)・1通	1205-1
覚(雄勝郡大沢村年貢として保銀145匁余上納に付) 組代吉郎兵衛(印)→早川正九郎様御内福田多門様	文久2年戌10月	堅紙・1通	1205-2
(包紙) * (包紙上書)「上 雄勝郡大沢村」「福田様」		包紙・1点	1082

1.1.4.10. 下仙道村

小役銀上納覚(、14貫9文) * (端裏書)「文久二戌年 下仙道村」 下仙道村組代清四郎(印)→早川正九郎様御家来衆中	(文久2年)戌10月	堅紙・1通	1202
-------------------------------------------------------------	------------	-------	------

1.1.4.11. 八幡村

覚(当高7石分・保銀45匁1分7厘上納に付) 雄勝郡八幡村→上	未10月28日	堅切紙/(966-1~4は一綴)・1通	966-3
覚(当高7石の年貢・小役銀両口、27匁123文の上納書) * (包紙上書)「上 雄勝郡八幡村 銀穀共上納書紙入」 雄勝郡八幡村肝煎又右衛門・兵治→福田多門様 御取次	文久2年戌10月	横折紙・1通	1204
(包紙) * (包紙上書)「上 分米帳 雄勝郡八幡村」		包紙・1点	1024

1.1.4.12. 木下村

写(木下村分上納年貢銀差引計算書、保銀32匁余のうち銀2匁350文御上納)		横切継紙・1通	1231
---------------------------------------	--	---------	------

1.1.4.13. 金屋村

上(金屋村当高502石余に対する年貢・助成米など書上) 金屋村肝煎平蔵(印)・同村長百姓左助・長太郎・要蔵・小左衛門・五郎右衛門・八兵衛→上	万延2年酉2月	半/(977-1~3は紙縫一括)・1冊	977-2
上納目録(当高5石に対する軽舁年貢米・小役銀高書上) *(包紙上書)「上 上納目録 金谷村」 金谷村組代肝煎平蔵(印)→早川庄九郎様御家来福田多門様	文久元年酉11月	豎紙・1通	977-3
覚(年貢代銀4両正銭305文上納に付) 金屋村肝煎平蔵(印) →早川庄九郎様御家来福田多門様	酉11月12日	横切継紙・1通	977-1
上納目録(当高5石年貢代銀として保銀32匁余上納に付) *(包紙上書)「上 小役銀上納目録 金屋村肝煎」 金屋村肝煎平兵衛(印)→早川庄九郎様内福田多門様 御取次	文久2年戌10月	豎紙・1通	1206
(年貢金銭皆済差引勘定書、ノ16貫665文差引残り16貫80文を此度上納皆済に付) 金谷むら御組代彦市→福田多門様	2月26日	横切継紙・1通	998

1.1.4.16. 滝川村

覚(年貢代納願い分の銭16貫文などノ銭62貫33文上納に付) 滝川村肝煎→早川庄九郎様御内御家来様	文久2年戌12月	豎継紙・1通	962
覚(当高米・小役銀上納に付) *(端裏書)「巳十二月廿三日皆納之時也」 瀧川村与代小平→早川庄九郎様御内御家来様	明治2年巳12月23日	豎継紙/(1243-1~15は紐一括)/(1243-13~15は紐一括)・1通	1243-14
覚(瀧川村当高2石年貢米・小役銀上納に付) 瀧川村肝煎→早川庄九郎様内上 御家来様	申12月	豎継紙・1通	1235

1.1.4.17. 荻袋村

(荻野袋村年貢皆済下目録、当高7石年貢米・小役銀) 荻袋村組代清治→早川庄九郎様御家来様	万延元年申8月29日	横切継紙・1通	1232
(小役銀45匁1分7厘上納に付書付) 荻袋村組代→上	10月22日	横切継紙/(966-1~4は一綴)・1通	966-1
(荻野袋村御小役銀上納に付銭替の計算書)		横切継紙・1通	1230

1.1.4.18. 八木村

下目録之事(八木村当高3石分の保銀22匁5分9厘上納に付) 御組代長左衛門(印)→早川庄九郎様御家来衆	安政6年末10月	豎切紙/(966-1~4は一綴)・1通	966-2
写(八木村当高3石年貢米代銭上納に付) 御組代 長左衛門(印)→早川庄九郎様御内福田多門様	万延元年申11月	豎切紙・1通	1236

1.1.4.19. 林崎村

覚(林崎村当高5石の年貢銀差引勘定書上) 林崎村肝煎彦十郎(印)・同村長百姓清左衛門(印)→早川庄九郎様御内福田多右衛門様	万延元年10月	豎紙・1通	1143
---------------------------------------------------------------	---------	-------	------

1. 家/1.1. 知行地/1.1.4. 年貢・小役銀・皆済勘定/1.1.4.19. 林崎村

覚写(当高5石・年貢米銀書上) * (包紙上書)「上 林崎村 本書壹枚入」 林崎村肝煎彦十郎(印)・同村長百姓清左衛門(印)→早川庄九郎様御内福田多門様	万延元年申11月6日	縦紙・1通	1226
------------------------------------------------------------------------------	------------	-------	------

1.1.4.20. 泉沢村

上納一紙写(当高7石・年貢米銀書上) * (包紙上書)「上 泉沢村」 雄勝郡泉沢内肝煎清助(印)・兵四郎(印)→福田多門様御取次上	万延元年申10月	縦紙・1通	1225
覚写(当高5石・年貢御物成代納錢御上納に付) 泉沢村組代彦十郎→早川彦九郎様御内御家来様御取次	万延元年申11月	横切紙・1通	1227

1.1.4.21. 下田沢村

上納下目録(当高20石分・小役銀穀上納に付) 下田沢村肝煎清四郎→早川様御内福田多門様	文久元年酉11月1日	縦継紙・1通	969
---------------------------------------------	------------	--------	-----

1.1.4.22. 宮沢村

当末年御皆済目録(当高2石5斗・小役銀16匁1分3厘3毛上納に付) 宮沢村組代郷中(印)→福田多門様	安政6年末11月	縦継紙・1通	963
申年御皆済目録(写済、当高2石5斗年貢米・小役銀) 宮沢村組代郷中(印)→早川庄九郎様御内福田多門様	万延元年申11月	縦紙・1通	1233
戌年御皆済目録(当高2石5斗・小役銀16匁1分3厘3毛皆済上納に付) 宮沢村郷中→早川庄九郎様御内福田多門様	文久2年戌10月	縦継紙・1通	964

1.1.5. 指上高

当辰指上帳 扣(手倉川原村ほか6ヶ村出高122石余) 早川庄九郎→	天保3年辰6月	半/(914-1-1~12は一綴)・1冊	914-1-1
当巳年指上高扣(手倉川原村ほか6ヶ村指上高107石余) 早川庄九郎→	天保4年巳6月	半・1冊	914-1-2
当午年指上高扣(手倉川原村ほか6ヶ村指上高122石余) (早川庄九郎)→	天保5年午8月	半・1冊	914-1-3
当未年指上高扣(手倉川原村ほか6ヶ村指上高122石余) (早川庄九郎)→	天保6年未閏7月	半・1冊	914-1-4
当申年指上高扣(手倉川原村ほか6ヶ村指上高116石余) * (表紙添書)「酉年指上高も加入」 (早川庄九郎)→	天保7年5月	半/(付箋訂正多数あり)・1冊	914-1-5
当酉年指上高帳扣(手倉川原村ほか6ヶ村指上高116石余) (早川庄九郎)→	天保8年6月	半/(付箋訂正多数あり)・1冊	914-1-6
当戌年指上高帳扣(手倉川原村ほか6ヶ村指上高119石余) 早川庄九郎→真崎善九郎殿・飛田貞治殿	天保9年戌5月	半/(付箋訂正多数あり)・1冊	914-1-7
戌年指上高控(早川庄九郎の高196石のうち115石余) (早川庄九郎)→	天保9年	縦紙/(縦紙2枚を一綴)・1通<2枚>	1167
亥年指上高扣(手倉川原村ほか6ヶ村指上高113石余)	天保10年亥	半/(914-1-1~12は一綴)・1冊	914-1-8
当子年指上高扣(手倉川原村ほか6ヶ村指上高113石余) (早川庄九郎)→	天保11年子6月	半・1冊	914-1-9-1

(雄勝郡椿台村の当高5斗6升3合は当子年休高になる旨の書付) 伊庭傳右衛門(印)・岩屋彦右衛門(印)・高山与兵衛(印)→	天保11年12月	横切紙/(914-1-9の綴じ紐に結び付け)・1通	914-1-9-2
当丑年指上高扣(手倉川原村ほか6ヶ村指上高113石余)(早川庄九郎)→	天保12年丑6月	半・1冊	914-1-10
天保十三寅年指上高控(手倉川原村ほか6ヶ村指上高113石余) 早川庄九郎→	天保13年寅6月	半・1冊	914-1-11
天保十四卯年指上高控(手倉川原村ほか6ヶ村指上高113石余) 早川庄九郎→	天保14年卯6月	半・1冊	914-1-12
(弘化2年指上高控、早川庄九郎の高196石のうち113石余)(早川庄九郎)→	弘化2年6月	半・1冊	1168
(弘化3年指上高控、早川庄九郎の高196石のうち113石余)(早川庄九郎)→	弘化3年午6月	半・1冊	1169
弘化四未年指上高指上銀扣(猿半内村ほか6ヶ村指上高113石余、指上銀94匁) (早川庄九郎)→	弘化4年未6月	半・1冊	914-2-3
嘉永元申年指上高控(猿半内村ほか6ヶ村指上高113石余)(早川庄九郎)→	嘉永元年申6月	半/(914-2-2-1～2は一綴)・1冊	914-2-2-1
嘉永二酉年指上高控(猿半内村ほか6ヶ村指上高107石余)(早川庄九郎)→	嘉永2年酉6月	半・1冊	914-2-2-2
指上高帳控(猿半内村ほか6ヶ村指上高107石余) (早川庄九郎)→	嘉永3年庚戌6月	半・1冊	914-2-1
指上高御控(猿半内村ほか6ヶ村指上高107石余) (早川庄九郎)→	嘉永4年亥6月	半・1冊	914-2-4
(指上高控、猿半内村ほか6ヶ村指上高89石余) (早川庄九郎)→	嘉永5年子6月	半・1冊	914-2-5
(指上高控、猿半内村ほか6ヶ村指上高89石余) (早川庄九郎)→	嘉永5年子6月	半・1冊	914-2-6
嘉永六年丑年指上高控(猿半内村ほか6ヶ村指上高108石余) 早川庄九郎→	嘉永6年丑6月	半・1冊	914-2-7
(指上高控、猿半内村ほか5ヶ村出高108石余) (早川庄九郎)→	嘉永7年寅6月	半・1冊	914-2-8
当寅年指上高帳御控(猿半内村ほか5ヶ村指上高110石余)(早川庄九郎)→	嘉永7年寅6月	半・1冊	914-2-9
嘉永七寅年御指上高控(猿半内村ほか5ヶ村指上高110石余) (早川庄九郎)→	嘉永7年寅6月	半・1冊	914-2-10
安政二卯年御指上高控(猿半内村ほか5ヶ村指上高89石余) (早川庄九郎)→	安政2年卯7月	半・1冊	914-3-1
安政三辰年御指上高控(高196石早川庄九郎拝領高の内、先荒起返高・新開出高など) (早川庄九郎)→	(安政3年)	半・1冊	913-8
安政四巳年六月扣(猿半内村ほか3ヶ村指上高107石余)(早川庄九郎)→	安政4年巳6月	半・1冊	914-3-2
(指上高控、猿半内村ほか3ヶ村差上高107石余) (早川庄九郎)→	安政4年巳6月	半・1冊	914-3-3
(指上高控、猿半内村ほか3ヶ村差上高124石余) (早川庄九郎)→	安政5年午6月	半・1冊	914-3-4

1. 家/1.1. 知行地/1.1.5. 指上高

当未年指上高帳御控(猿半内村ほか3ヶ村差上高124石余) (早川庄九郎)→	安政6年末6月	半・1冊	914-3-5
安政六未年差上高帳扣(猿半内村ほか7ヶ村指上高124石余) (早川庄九郎)→	安政6年末	半・1冊	914-3-6
安政六未年指上高帳(猿半内村ほか10ヶ村指上高124石余) (早川庄九郎)→	安政6年末	半・1冊	914-3-7
当申年指上高帳御控(猿半内村ほか8ヶ村指上高149石余) (早川庄九郎)→	万延元年申6月	半・1冊	914-3-8
当酉年指上高帳控(猿半内村ほか6ヶ村指上高149石余) (早川庄九郎)→	文久元年6月	半・1冊	914-3-9
当戌年指上高帳控(今泉村ほか7ヶ村指上高149石余) (早川庄九郎)→	文久2年6月	半・1冊	914-3-10
当亥年指上高帳扣(木下村ほか8ヶ村指上高149石余) (早川庄九郎)→	文久3年6月	半・1冊	914-3-11
当子年指上帳扣(木下村ほか7ヶ村指上高149石余) (早川庄九郎)→	元治元年6月	半・1冊	914-4-1
当丑年差上高帳扣(木下村ほか7ヶ村指上高149石余) (早川庄九郎)→	慶応元年6月	半・1冊	914-4-2
当寅年指上高帳扣(秋田郡堀内村ほか10ヶ村指上高149石余) (早川庄九郎)→	慶応2年6月	半・1冊	914-4-3
当卯年指上高帳扣(秋田郡野石村ほか9ヶ村指上高157石余) (早川考之助)→	慶応3年6月	半・1冊	914-4-4
(指上高帳控、指上高157石余) (早川考之助)→	(慶応3年卯)	半・1冊	914-4-5
慶応四年辰さし上高(平鹿郡木下村ほか8ヶ村差上高149石余) (早川考之助)→	慶応4年辰	半・1冊	914-4-6
当指上高帳扣(平鹿郡木下村ほか8ヶ村差上高149石余) (早川考之助)→	明治2年巳5月	半・1冊	914-4-7
小役指上銀手控(今泉村指上銀647匁4分) (早川考之助)→	明治2年11月	半・1冊	914-4-8
(当高188石のうち指上高・小間物など差引書上)		半・1通	1055
(袋) *(袋上書)「安政七申年三月廿一日 指上高帳入」		袋・1点	1027

1.1.6. 村方願書

上(今泉村天保4年分取立年貢明細書上、並びに皆済遅延の旨とりなし願書写) 今泉村組代新右衛門(印)→古川忠蔵様御披露	天保4年巳12月	半・1冊	932
①乍恐以書付を奉願上候(三左衛門下畑、仙台嶽嵐大風・大洪水により御見分願)、②乍恐以書附を奉願上候(仙台嶽嵐大風・大洪水にて当一作休願高の分押し流れに付御見分願) ①手倉河原村肝煎兵右衛門○(丸印)・同村長百姓助右衛門○(丸印)、②椿臺村肝煎五郎兵衛○(丸印)・同長九郎○(丸印)・同村長百姓六兵衛○(丸印)→①②早川庄九郎様御内福田多門様	①②安政6年末8月	豎継紙・1通	1061
覚(深井村船頭船へ年貢米を積下し上納仕るに付、御受取を願う旨) (大沢村)当与代七右衛門[印]・同吉郎兵衛(印)→早川庄九郎様御内福田多門様御取次	安政6年末11月15日	豎紙・1通	975

覚(船頭深井村松四郎船へ年貢米を積下し上納奉るに付、御請取願いたき旨) (雄勝郡大沢村)組代七右衛門[印]・同吉郎兵衛(印)→早川庄九郎様御内福田多門様	万延元年申11月	縦紙・1通	973
積状之事(船頭深井村松四郎船にて米11俵余を積下すに付、御請取願う旨) 大沢組代七右衛門[印]・同吉郎兵衛(印)→早川庄九郎様御内福田多門様御取次	(万延元年)申11月	縦切紙・1通	974
上(当8日の大風にて田畑とも大いに吹き飛び皆無同然に付、困窮の御百姓御助け成し下されたく願上げ奉る旨) 椿台村肝煎正右衛門(印)・長百姓太郎左衛門(印)→福田多門様御取次	慶応2年とら8月	半・1冊	936
上(稲は当月8日の大風にて多分大痛みに相成るに付、困窮の御百姓ども御救助成し置かれたく恐れながら願い上げる旨) 平鹿郡木下村肝煎萬助[印]・長百姓治兵衛[印]→福田多門様迄御披露	慶応2年寅8月25日	半・1冊	937
仙北郡横澤村御毛見願書(大雨にて痛穂に付) 横沢村肝煎又五郎(印)・長百姓彦五郎(印)・同惣十郎(印)→福田多門様	慶応2年寅8月	半・1冊	934
仙北郡今宿村御毛見願書(凶作同様の作合に付) 今宿村肝煎喜市郎(印)・組頭又兵衛(印)・長百姓茂左衛門(印)→早川様御内御家来様	慶応2年寅8月	半・1冊	933
仙北郡今宿村御毛見願書(三郎右衛門所持下田ほか9ヶ所に付) 肝煎喜市郎(印)・組代長百姓亦兵衛(印)・同茂左衛門(印)→早川様御内福田多右衛門様	慶応2年寅8月	半・1冊	935
上(去る巳年大凶作以来村方軒別人勢なく、潰尻を取り直し申すべきようなきに付、御検使様下し置かれ御見分の上5ヶ年休高に仰せ付けられたき旨) 猿半内村肝煎正右衛門(印)・長百姓太郎左衛門(印)→福田多門様御取次	慶応3年卯正月	半・1冊	939
上(去辰年儀は御軍事にて口夫口馬其外継立人馬など多分御召使に罷成り、その上違作に付御百姓共一同窮し果てるに付、一作休高願) 雄勝郡下仙道村長谷山惣助(印)・宇之吉(印)・同村長百姓茂左衛門[印]→早川考之助様御内福田多門殿	明治2年巳9月23日	半・1冊	1095

1.2. 経営

1.2.1. 買物・無尽

到来帳(贈答品の書上、酒・手拭・食品類など、～明治3年まで16年分)	安政元年寅12月21日	横半半・1冊	1191
受払帳(入金・買物代などの払金の書付)	万延2年酉正月	横半半・1冊	1171
亥受払帳(入金・払金の書付)	文久3年亥	横半半・1冊	1172
諸方無尽懸子手控帳(荒川弁治企ての無尽ほか加入無尽の番数・掛金など書付、～明治8年)	慶応元年丑11月	横長半・1冊	1162
金払帳(買物代・給金・無尽掛金など)	慶応3年卯正月	横半半・1冊	1181
口上之覚(兼て御通達の通り出席仕るべき所、引風相募り頭痛罷在るに付恐れ乍ら御申訳仕る旨、実は小貫様迷惑の旨) * (裏書)「午十月分御配当五両諍り休会ニ而先とり配当 未四月五日会ニ而三銭かけね」 館岡久内→和田様無尽御連中様	5日	横切紙/(1248-1～10は紐一括)/(1248-1～15は紐一括)・1通	1248-5

1.2.2. 借入金

証文(拙者手内難渋に付通札500貫文拝借願ひ申すに付) *(包紙上書)「証文 早川五百メ文捨りニ致事」 早川庄九郎 [印]→原田織衛殿・山方市之進殿・田中造酒殿	天保14年癸卯年12月18日	堅紙・1通	1218
証文(此度江戸御登り仰せ付けられ調達を頼み入り、金子100両を10ヶ年割付にて8朱の御利足成し崩しまで献納申受けけれども、村方引受にて70両を借受仕るに付) 早川庄九郎内福田多門→今泉村肝煎三之助殿・同村長百姓久三郎殿・同嘉助殿・同清左衛門殿・同太右衛門殿・同重右衛門殿・同三郎衛門殿・同太左衛門殿・同作右衛門殿・同忠右衛門殿・同甚左衛門殿、(奥書)組代栄吉	安政5年午	堅継紙・1通	1000
覚(古内へ返済金の書付、元利メ金31両1分3朱・銀3匁4分6厘) *(端裏書)「古印勘定書返り証文入」	(未9月29日)	横切継紙/(1015-1~6は巻込一括)・1通	1015-1
覚(9月20日御用立銀の証文をお改め下されたき旨、残金28両・銀87匁3分5厘) *(端裏書)「右之通り七月廿七日証文遣候」	7月24日	横切紙・1通	1015-2
(書状、昨晚応接仕り漸々金5両向出来仕れ共、口難しき銀主ゆえ福神様に言上奉り置く旨、新記5両の御證札拝領仕りたきに付) *(端裏書)「御堀向の大福神さま机下銭札附上 谷地町角の貧子百拝」	3月27日	横切継紙・1通	1015-3
覚(貸金元利メ金64両・銀97匁5分を返済下されたき旨)	未6月	横切継紙・1通	1015-4
壱札(御国銀5両拝借に付) *(端裏書)「未三月廿七日新記五両五月廿日キリ 早印」 早川考之助(印)→古内茂右衛門様	未3月27日	横切紙・1通	1015-5
(金銭差引計算書、2口メ265文)		横切継紙/(継目剥離)・1通	1015-6
覚(御屋敷替成し置かれるに付、当村へ金子30両御調達御頼み仰せ付けられ、御請の旨) *(包紙上書)「上 書附 猿半内村」 猿半内村長百姓惣代孫右衛門(印)・同重蔵(印)→福田多門様御取次	明治3年午閏月9日	堅紙・1通	1113

1.2.3. 貸付金

証文之事(大小並びに女帯差上げ金9両拝借に付) 権田嘉吉(印)→福田多門様	慶応3年卯10月	堅紙/(1065-1~2は巻込一括)・1通	1065-1
証文之事(大小並びに女帯差上げ金9両拝借に付) *真中に抹消線あり 権田嘉吉(印)→福田多門様	慶応3年卯9月4日	堅紙・1通	1065-2
(包紙) *(包紙上書)「一札 館岡久内」		包紙/(1133-1~5は包紙一括)・1点	1133-1
一札(御山師大坂屋儀八・斎藤又三郎両名の証文通り御手内へ願ひ申し上げ、御世話を以て銅山方へ御貸付申し上げるに付) 館岡久内(印)→早川考之助様	慶応3年卯5月	堅紙・1通	1133-2
覚(元金327両の銅山方吟味役裏印証文相拝借仕るに付) 館岡久内→	卯3月24日	横切紙・1通	1133-3

證文(保金65兩永28匁9分5厘要用の儀これ有り拝借に付) 館岡久内(印)→早川様	慶応3年卯12月	縦紙・1通	1133-4
金子拝借證文(金子28兩永63匁9分3厘拝借) 拝借主村 上宇吉(印)・請合土田富藏[印]→早川様御家来様	慶応4年戊辰5月21日	縦紙・1通	1133-5
金子拝借證文(金子36兩永30匁拝借) 拝借主村上宇吉 (印)・請合土田富藏[印]→早川様御家来様	慶応4年戊辰5月	縦紙・1通	1133-6
(書状、金子の御返金に付延日致し恐れ入るが、佐藤様へ 金高の内40兩差し上げし間御改めの上御落手成下され たき旨) * (包紙上書)「早川様御内福田多門様上 植田村 より曾仙「土田富藏拜 十一月廿九日達」 (土田)富藏拜→早 川様御家来様	辰11月23日	横切継紙・1通	1239-1
(古内親子による連印金子借用証雛型及び元利金差引勘 定書上) * 前欠		横切継紙/(1239- 5-1~3は括り紐 一括)・1通	1239-5-2
(書状、中野村一条は慶助油断なく催促致せどもなかなか 取る事叶わず、証文返上申し上げるゆえ御受取下 されたき旨ほか) * (包紙上書)「中野村中泉久右衛門証券 三枚在中」「早川様 松野は、」「御書付三枚入」「無事五月七日 達」 松のぼより→早川様	5月4日	横切継紙/(包紙 共)・1通	1071

1.3. 通信

1.3.1. 早川庄九郎差出

(書状、久四郎が自由に致すのは久四郎水にて開発致す 場所の事にて、他の者の水を以て開きし処迄綺い申す 事に無き様挨拶いたすに付) * (封筒裏書)「十月廿八日 三[]持参受取 無事」 (早川)庄九郎→(早川)考之助殿	10月23日	横切紙・1通	992
(書状、米直段も引上り申される事にて左内様も取立て申 し参る由、並びに重兵衛より借り受けた錢1000貫文を 今日取揃え元利返済に付、ほか) * (封筒裏書)「十月廿八 日御代主殿歸り便りニテ請取「平安」 (早川)庄九郎→(早 川)考之助殿	10月25日	横切継紙/(紙紐 共)・1通	1070
(書状、源吉・常蔵は皆々衆の勧めにて男鹿嶋めぐり岩館・ 能代までも参る旨、知行所見分の件ほか) * (封筒表書) 「考之助殿早々 庄九郎」 (早川)庄九郎→(早川)考之助殿	5月21日	横切継紙・1通	1037
(書状、織衛へ味噌押鯛を50遣わしたき旨、昨24日今泉村 栄蔵新ぼこ1本持参、金子1兩2分持参致せし故受取り 遣す旨、ほか) * (封筒表書)「考之助殿 庄九郎 十月二十六 日出 無事」 (早川)庄九郎→(早川)考之助殿	10月25日夜認	横切継紙・1通	1239-11
(書状、昨年の皆済帳遣わす様に仰遣わされるも差出し申 さず見得申さず以来嚴重に申付くべきに付、並びに格 別の思召しを以て御合力として玄米25俵ツ、3ヶ年下 し置かれる旨などの演説写し) * (包紙上書)「早川考之 助殿 同庄九郎」 (早川)庄九郎→(早川)考之助殿	11月9日	横切継紙/(1243- 1~15は紐一括)・ 1通	1243-6-1
(書状別紙、左内より元利1590貫文余り返済、其内1000貫 文は佐藤久治へ一半にて頼み申すに付)		横切紙/(1243- 6-1に巻込)・1通	1243-6-2
(書状、井口屋敷は明春雪が消えたら引き上げるようにと 太縄織衛申し条の旨、並びに鯛一向参らぬ旨、ほか) * (封筒表書)「早川考之助殿 同庄九郎 印紙入 十月廿八日 達 無事」 (早川)庄九郎→(早川)考之助殿	10月22日	横切継紙・1通	1239-12

1. 家/1.3. 通信/1.3.2. 清操院差出

1.3.2. 清操院差出

(書状、との様〈佐竹義誠カ〉御名あわち様とお改め遊ばし よろしかるべき旨、あなた様方も8日に御長屋へ御うつ り遊ばさるよし、さぞさぞ御とりこみ御不自由なくおか れることと御うわさ申し上げる旨ほか) 清操院→谷地 町様御ひろふ	8月12日	横切継紙/(1032- 1~10は括り紐一 括)/(1032-1,7~ 9は(その1)に採 録・1通	1032-2
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------	----------------------------------------------------------------	--------

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

2. 藩士

2.1. 役務

(保金29両調銭8貫346文受取り申すに付覚書、本知186石余に大番頭勤役の償高113石より指上高などを引き、引残高51石余の年貢保銀) *墨消しあり 早川庄九郎→	嘉永3年戌9月	縦紙・1通	1217
(書状、御用これ有る間、明26日4ツ時登城致さるべきに付) * (端裏書)「慶應三丁卯七月廿六日大御番頭被仰付候砌之来書 早川考之助 石塚源一郎」 石塚源一郎→早川考之助	慶応3年丁卯7月25日	横切紙/(1243-1~15は紐一括)/ (1243-1~5は紐一括)・1通	1243-4
口上(私今年55歳に罷り成れ共、男子これ無く大嶋源治実二男佐四郎を娘へ婿養子仕りたきに付) * (包紙上書)「口上書 清水東八」 清水東八(花押)→	(明治2年)3月	半・1冊	1243-11
口上(親久兵衛病死により遺跡を継ぐに付、家督御礼仰せ付けられたく願ひ奉る旨) * (包紙上書)「上 早川考之助 御番組片庭金太郎」 片庭金太郎(花押)→内藤新一郎殿・平澤内蔵進殿	4月	縦紙・1通	1243-12

2.2. 達書ほか

(大鐘主税への申し渡しの写、大鐘が黒澤伊兵衛宅へ催促に罷り越せし節苛察の致し方無調法に付逼塞仰せつけらる旨)	天保元年寅11月22日	横切継紙/(1032-1~10は括り紐一括)・1通	1032-3
別紙(上使御納戸役を以て右御品下し置かるべきに付、親類名代を以て拝領致さるべき旨)	正月	横切継紙・1通	1032-5
(書状、今般養老を御執行、老人を厚く御いたわり成されしは若き輩老人を大切にいたすために付、御教諭の趣は家内のものへも常々申し諭すべき旨)	8月	横切紙/(1248-1~10は紐一括)/(1248-1~15は紐一括)・1通	1248-7

2.3. 幕末・維新

(異国船防禦のため釜屋より岩館まで御番頭代にて海岸御固仰せ付けられるに付達書) →早川考之助	(安政3年)3月	横切紙・1通	871
覚(拙者御堅所釜谷岩館の軍将、付属の面々、台場建造、装備などに付尋ね) 早川考之助→	(安政3年)3月	横切継紙・1通	872
御兵制御改革御用係り中諸手控(早川考之助による司兵局勤務中日記)	明治3年午8月8日	横半半・1冊	808

2.4. 日記

大御番頭被仰付候已来日記草稿(誓詞など) (早川庄九郎カ)→	天保6年末9月	横半半・1冊	627
日記(早川考之助久保田滞在中の日記カ、正月~7月分)	安政7年申正月ヨリ	横半半・1冊	1187
馬術稽古鞍数覚帳(久保田での日記共)	万延2年辛酉正月	小横帳・1冊	1017

3. 近代/3.1. 資産/3.1.1. 土地手続きほか

表題・作成等	年代	形態・数量	整理番号
--------	----	-------	------

3. 近代

3.1. 資産

3.1.1. 土地手続きほか

(県庁より請取金証書、去壬申2月下中城町四拾一番地私屋敷は金150円にて官宅御買上のところ、県庁御焼失のため右証書を差し出すよう仰せ付けられるに付) *草稿 早川睦友・印→秋田県権令国司仙吉殿	明治6年9月	堅紙/(1058-1~6は紅白紙縫一括、巻込一括)・1通	1058-6
記(仙北郡川原村戸沢与五左衛門地券状正に請取るに付) *(包紙上書)「仙北郡川原村高橋和太郎十二月廿日返來分証書入」 第五大区二小区仙北郡川原村高橋和太郎(印)→早川睦友殿	明治8年7月28日	堅切紙/(1248-1~10は紐一括)/(1248-1~15は紐一括)・1通	1248-8
(羽後雄勝郡湯沢町字古館山原野8畝1歩売渡しに付土地形状図面の綴) *同内容8通の下書 雄勝郡湯沢町四百六十六番地 売渡人早川キン・後見人早川睦友→同郡同町買請人		綴・1綴(4枚)	1219

3.1.3. 建物

建屋売渡証券(金170円、湯沢町265番借地建物、略絵図面添付) * (朱書)「第拾七号」 羽後国雄勝郡湯沢町売渡人佐藤信三[印]・同国同郡同町証人猪狩信至[印]、(奥書)雄勝郡湯沢町四百六拾番地佐竹義隣(印)・戸長代理筆者荒巻秀永(印)→雄勝郡湯沢町早川睦友殿	明治12年5月	半/(1058-1~6は紅白紙縫一括、巻込一括)・1冊	1058-1
約定証(谷地町反別1反5畝・建家1棟・板小屋1棟を代金90円にて売り渡すに付) *下書 早川——→川井忠往殿		堅紙/(赤色罫紙、13行)/(版心)「弘前裁判所秋田支廳」・1通	1058-4

3.1.4. 給禄

銀穀受取帳(受取った米・大豆・油や小役銀の書上)	明治3年午9月ヨリ	横半半/(1159-1~2は一綴)・1通	1159-1
(米・油・大豆などの小手形綴) 御米御払方→早川考之助様	(未~午)	綴・1綴(15枚)	1159-2
給禄御渡方覚 但し小役きんとも(受取米・払米の書上)	明治5年壬申11月28日	横半半・1冊	1160-1
(米・金の引渡し小手形綴) (印「大ー 一 小 戸長」)→中谷地町早川睦友行	(1月~6月)	綴・1綴(5枚)	1160-2
(米・荳油など払方小手形の綴) 御払方→早川考之助行		綴・1綴(14枚)	1175-1
御渡米覚(川端桃屋へ渡し米・酒造米など)	明治4年辛未9月	横半半・1冊	1175-2
半紙(小役銀受取手形の雛型、中谷地丁士族某分) 代人 中屋善右衛門印→(大町四丁め高橋清右衛門)	明治5年壬申9月17日	横切紙/(紫色の紙)/(1175-2の挟込文書)・1通	1175-3
給禄御渡手控(受取米・払米の明細書付)	明治7年戌12月	横半半/(1158-1~3は一綴)・1冊	1158-1
(現米45石5斗8升4合代金勘定書上)	(近代)亥3月31日	横切紙・1通	1158-2
(米俵の荷札綴、中谷地町早川睦友行米8俵余ほか)		綴・1綴(7枚)	1158-3

資本金御下渡願(給禄現米32石余・家禄金37円余奉還に付) 第一大区一小区中谷地町七十式番地住願人早川睦友(印)・ 第一大区一小区西根小屋中町百三十四番地住金主神保左記 (印)、(奥書)一小区出納扱人[印]→第一大区一小区扱処御中	明治8年2月20日	半・1冊	994
公債證書御下ヶ渡願(給禄現米32石5斗6升・家禄金37円 64銭3厘) 第一大区一小区中谷地町七十二番地住願主早 川睦友(印)・第一大区一小区西根小屋中町百三十四番地住金 主神保左記(印)、(奥書)一小区扱処[印(抹消)]→第一大区一 小区扱処御中	明治8年2月20日	半/(青色罫紙、 16行)/(黒色罫 紙、16行)・1冊	997
俸禄奉還資本金引宛借用金之證(給禄現米32石余・家禄 金37円余を奉還に付、資本金700円を貴殿金主に相頼 み借用の旨) 第一大区一小区中谷地町七十式番地住借人 早川睦友(印)・同区中谷地町三十一番地居住引受証人古内義 勇(印)→貸人神保左記殿	明治8年2月20日	縦継紙/(印紙7 枚貼付)・1通	1014
証(公債証書金額465円の受取書雛形) →山方精一郎	明治12年12月6日	縦紙・1通	1023-1
金禄公債証書御買上願(金465円) 士族早川睦友(印)→秋 田県令石田英吉殿	明治12年6月30日	縦折紙/(青色罫 紙、10行)・1通	1023-2
(書面願の趣聞き届ける旨) 秋田県令石田英吉[印]→	明治12年9月13日	縦折紙/(赤色 罫紙、13行)/ (1023-1~1023-2 は綴一括)・1通	1023-3

3.2. 諸商売・事業

記(作田米2ヶ年分今以て上納なきに付、旧ノ12月7日まで 出縣、直に罷り出で取り極め申上げる旨) 中澤村鈴木 豊之助(印)→早川睦友殿	12月31日	縦紙・1通	1128-1
(書状、作田米未納分早々上納成さるべき趣、並びに控訴 一件未だ御裁許に相成らず本年4月頃迄御日延成し下 し置かれたき旨) 鈴木豊之助→早川睦友様	2月4日	横切継紙/ (1127-1に巻 込)・1通	1128-2
寺中堀内村重右衛門炭受取覚帳(重右衛門への貸金5両 を炭にて返済させた際の記録)	明治5年壬申7月	横半半・1冊	1186
桑取人名帳(短期雇人に対する給金支払記録) (山や最 上武野)→(御屋様)	(明治)17年6月	横長半・1冊	1183
養蚕悉皆帳(雇人に対する賃銭支払・諸道具買物代ほか)	明治17年6月	横長半・1冊	1161
桑葉地払帳(桑取賃など)	明治27年5月	横半半・1冊	1042
目録(葉貰15斤) * (包紙上書)「上」、(包紙裏書)「九月十九日郷 人彦兵衛・源右衛門」 郷人彦兵衛・源右衛門→	9月19日	縦紙/(1243-1~ 15は紐一括)・1通	1243-10

3.3. 勝雄忠国社・尽忠報国会

加入金請取帳(尽忠報国会加入者雄勝郡猿半内村部理 代人高橋五郎吉ほか29名) 尽忠報国会(印)、(奥書)尽忠 報国会々頭代理柿岡源十郎(印)・同代理麻生七郎兵衛(印)→	明治14年1月	横半半・1冊	1180
(書状、盡忠発会の義に付加入人名へ夫々通知致す処、手 内非常にて掛銭など差支え、連綿加入致すべきよう覚 束なきに付、以来相省く様に成し下されたき旨) * (包 紙上書)「湯澤御内町 盡忠会負 早川睦友様玉机下急件 より 川井村 栗田善左衛門拜 [印]」 栗田善左衛門→早川睦友様	(明治)14年2月22日	横切紙・1通	1239-8

3. 近代/3.3. 勝雄忠國社・尽忠報国会

証(元雄勝忠國社配当証朱丙2番組第2号・145号ほか、配当金証書10通綴) 元雄勝忠國社残務扱処[印]→高橋力蔵	(明治27～28年)	綴/(1057-2～11は紙帯一括)・1綴	1057-8
証(元雄勝忠國社配当証朱乙6番組第2号・540号ほか、配当金証書10通綴) 元雄勝忠國社残務扱処[印]→雄勝郡湯沢町所有者高橋力蔵	明治27年(3月)	綴・1綴	1057-7
証(元雄勝忠國社配当証朱丙10番組第4号・979号ほか、配当金証書10通綴) 元雄勝忠國社残務扱処[印]→雄勝郡湯沢町所有者高橋力蔵	明治27年3月	綴・1綴	1057-9
証(元雄勝忠國社配当証朱己2番組第3号・153号ほか、配当金証書10通綴) 元雄勝忠國社残務扱処[印]→雄勝郡湯沢町所有者高橋力蔵	明治27年(3月～4月)	綴・1綴	1057-10
証(元雄勝忠國社配当証朱甲1番組第2号・34号ほか、配当金証書10通綴) 元雄勝忠國社残務扱処[印]→雄勝郡湯沢町所有者高橋力蔵	明治27年(3月～4月)	綴・1綴	1057-11
証(元雄勝忠國社配当証朱丁1番組第4号・94号の配当金4円に付) * (墨書)「第六百二号」「明治三十三年三月廿八日書換」 元雄勝忠國社残務扱処[印]→雄勝郡湯沢町所有者高橋力蔵・(墨消し「今井」)丑松	明治27年4月25日	堅切紙/(1057-2～6は巻込一括)・1通	1057-6
証(元雄勝忠國社配当証朱42番組第4号・178号の配当金4円に付) * (朱書)「第壹〇四五号」 元雄勝忠國社残務扱処[印]→湯沢町所有者高橋力蔵	明治29年5月8日	堅切紙・1通	1057-3
証(元雄勝忠國社配当証朱乙6番組第2号・545号の配当金4円に付) * (朱書)「第壹〇五六号」 元雄勝忠國社残務扱処[印]→湯沢町所有者高橋力蔵	明治32年2月5日	堅切紙・1通	1057-4
証(元雄勝忠國社配当証朱丁1番組第1号・8号の配当金4円に付) * (朱書)「第壹〇五五號」 元雄勝忠國社残務扱処[印]→湯沢町所有者高橋力蔵	明治32年2月5日	堅切紙・1通	1057-5
(紙帯、「御譲後ニ及候配当証 五拾貳枚(印「高橋」))		紙帯・1点	1057-1

3.4. 税金

3.4.1. 地方税(山方家分)

(諸税受取書などの綴)			1176-1
山方名目諸上納手控(山方分の諸税代理納付など)	明治11年7月ヨリ	横半半/(1176-1～2は一綴)・1冊	1176-2
(船川通路開段金入費として金4厘収入の証書) 赤袴村外三ヶ村事務所[印]→山方精一郎	(明治)11年7月	横切紙・1通	1176-1-4
証(第壹期分25銭2厘受取書) 湯沢町北事務處[印「秋田県第七大区二小区湯沢町北事務處」]→山方精一郎殿	明治11年8月19日	堅切紙/(1176-1-1～6は一綴)・1通	1176-1-5
(第一期割25銭2厘納付通知書) 湯沢町[印「秋田県第七大区二小区湯沢町北事務處」]→山方精一郎	明治11年8月	堅切紙・1通	1176-1-6
証(第貳期手数料63銭受取書) 湯沢町北事務處[印「秋田県第七大区二小区湯沢町北事務處」]→山方精一郎殿	明治11年10月15日	堅切紙・1通	1176-1-3
証(十一年後半年度教育費10銭8厘受取書) 湯沢町事務局[印「秋田県第七大区二小区湯沢町北事務處」]→山方精一郎殿	明治11年11月30日	堅切紙・1通	1176-1-2
証(第三期割37銭8厘受取書) 湯沢町事務局[印]→山方精一郎殿	明治11年12月14日	堅切紙・1通	1176-1-1

3.5. 家計

3.5.1. 諸払帳・買物

金払帳(雑用・酒代・初穂・炭代など)	明治3年午正月	横半半・1冊	1190
金払帳 但し国札(買物代・給金・無尽掛金など)	明治4年未正月より	横半半・1冊	1182
飯料覚(日にち順米俵数・薪炭数書上)	明治4年 未5月	横半半/(1177-1 ~2は一綴)・1冊	1177-2
長之助・伊之助米搗覚帳	明治4年辛未10月天赦日	横半半・1冊	1188
雑用帳(買物代金書付、かれい・印肉・うるし・あめなど)	明治5年申正月吉日	横長半/(秋田中 谷地丁早川考之 助宛書状包紙の 反故紙を使用)・ 1冊	1185
官札諸払控(生活用品などの買物代金書付)	明治6年癸酉1月より	横半半・1冊	1179
諸払帳(雑用・髪摘代・炭代・区費など)	明治7年戌1月より	横半半・1冊	1189
(薪炭係より中谷地丁早川睦友行の薪炭荷札綴、櫛・櫓な ど) [印「薪炭係」]→中谷地丁 早川睦友行	戌2月	綴/(1177-1~2は 一綴)・1綴(9枚)	1177-1
金請払手控(貸金・返金分・買物代など)	明治11年10月	横長半/(1107-1 ~4は一綴)・1冊	1107-1
記(女帯・手織嶋など8品代金請求書) 本屋店[印]→早川様 上	11月12日	横切継紙・1通	1107-4
誓約證書(金融講関係、這回同志商議の上交信会を開き 蓄積金の法方を設け将来家計の一大基礎興起せんた め規則を確定する旨) 處持主早川睦友(秋田県雄勝郡 湯沢町佐竹義隣(印)・早川睦友(印)・松井元方(印)・荒巻秀永 (印)・沼倉隆吉(印)・野尻弟力[印])→	明治14年3月	半・1冊	995
覚(東京馬具師久治へ馬具品々注文、注文の品は東京出足 の御足輕へお渡し下されたき旨、ほか) *下書 早川考 之助内福田多門(印)・福原忠三郎内佐川源吾[印]→御飛脚御 小人様	5月25日	横切継紙・1通	1239-7
(書状、本月9日より西馬音内村祭礼の知らせ、並びに御注 文の板を差上げる節の駄賃金員50銭御渡し相成りた く願ひ上げる旨) * (封筒表書)「湯澤御屋敷浦二而 早川睦 友様」、(封筒裏書)「西馬音内堀廻村 丹桃溪 丹桃溪」 (丹 桃溪→(早河)睦友公尊下	10月6日	横切継紙・1通	1239-27
記(大豆6俵代金の勘定書付など)		横切紙・1通	1016
(受取銭の覚、94匁500文、芥川英五郎面小手9通り小貫様 へ差し出し候払い書付)	未10月22日	折紙・1通	1005

3.5.2. 借入金

證文(20両拝借に付) * (端裏書)「小貫分 申二月廿八日惣て 勘定済」 早川考之助(印)→小貫又三郎様	明治4年未12月晦日	横切継紙・1通	993
證文(天札64両97匁5分要用出来御世話を以て拝借に付) * (端裏書)「未六月廿五日改天札六拾四両九拾七匁五分七月 廿日キリ早印」 早川考之助(印)→古内茂右衛門様	明治4年辛未6月	横切紙・1通	1002

3. 近代/3.5. 家計/3.5.2. 借入金

(書状、天札19両ほか拝領したき旨、全くかし方渡世の人に無きゆへ我がままの方にて、證文の外間違いは以の外の旨) * (端裏書)「御下内用早々」 古内→早川様	9月5日	横切継紙・1通	1003
證文(守札20両にて銀17匁3分5厘を要用出来拝借に付) * (端裏書)「早印九月廿日キリ」 早川考之助(印)→古内茂右衛門様	明治4年辛未7月	横切紙・1通	1004
(書状、拙者愚兄より度々立替金御勘定の儀を申上げるも一向に御沙汰これ無く、拙者東京表へ罷り登るに付右金勘定ありたき旨) * (端裏書)「早川君 呈下 大曲村より福田拜」 (福田)建→早川様	4月27日	横切継紙・1通	1239-18
(封筒) * (封筒上書)「湯澤内町二而 早川睦友様 急用早々 福田孝蔵 無為」十二年五月三日福田建参り、段々申談四門五十錢ニテ承知為致、惣論ノ受留同人ヨリ手形 四月廿六日」	(明治12年)	封筒/(1239-19-2~3は封筒入)・1点	1239-19-1
記(佐藤左源司より譲金にて返済分などを除く残金20円65銭を実弟建へ御渡し下されたく願上げ奉るに付) 福田(孝蔵)拜(印)→早川様	明治12年4月	横切紙・1通	1239-19-2
(書状、佐藤左源司譲書並びに差引書を差上げるので、残金を実弟建へ御勘定御渡し成し下されたき旨) (福田)孝蔵拜→早川様	4月26日	横切紙・1通	1239-19-3
金借用證(湯沢町山林3ヶ所抵当に差入、金235円80銭借用に付) 湯澤町借用主早川睦友(印)・同町引受取証人早川邦太郎(印)→社長佐竹義隣殿・司計沼倉隆吉殿	明治16年6月20日	堅継紙/(印紙あり)/(1243-1~15は紐一括)/(1243-13~15は紐一括)・1通	1243-15
(川井より為替分ほか金48円55銭勘定書上) 川井→早川様	10月20日	横切紙/(1107-1~4は一綴)・1通	1107-2
記(金8円を御精算くだされたきに付) 東風兵太郎→早川様	10月20日	横切紙・1通	1107-3

3.5.3. 貸付金

(包紙) * (包紙上書)「湯沢御代清より勘定書入」		包紙/(996-1~7は包紙一括)・1点	996-1
①覚(メ1貫67匁2歩拝借に付)、②覚(金62両46匁1分7厘当午閏月迄メ高なれば是非当月中御弁金成し下されたき旨) * (端裏書)「午閏月15日御代清より勘定覚」 御代清拜→館岡久内様	(明治3年)午閏月15日	横切継紙・1通	996-6
(金70円無利息借用證文写) 早川睦友→御代隣重殿	明治5年壬申10月	堅切紙・1通	996-5
記(貸金元利書上、卯4月元金327両) 御代辰之助→早川様	明治8年亥3月	横長半・1冊	996-2
①記(辰年・午年拝借分外に当春拝借の3両2分2朱と札100貫文メ13円64銭と4厘札100貫文に付)、②記(2口メ19両73銭3厘は20両とし、来る酉戌両年に無利足にて1ヶ年に10両ずつ館岡金之助を以て御引落し成し下される事)、③(92両館岡分無利息3ヶ年わり当申年12月より戌年迄1ヶ年30両ずつ返済に付)		横切継紙・1通	996-3
記(貸金元利書付、卯12月元金65円、当分館岡久内殿へかし置く分)	申10月	折紙・1通	996-4
記(午11月より永1貫67匁2分御代へさし引き勘定に付、並びに申3月7日3両2分2朱御代請出しの指支えに付)		横切紙・1通	996-7

(包紙) * (包紙上書)「おの崎通寛年賦ノ証入并代言人柿崎政信より来書約証書トモ入」		包紙/(1239-1~12は紙縫一括)・1点	1239-2-1
(封筒) * (封筒上書)「雄勝郡湯沢町ニテ早川睦友様 要旨」『十二月五日 秋田縣下寺町柿崎政信」		封筒/(1239-2-2~6は包紙一括)・1点	1239-2-2
(書状、御依頼の柿崎一件陳上の通りの顛末にて私の不行き届きと今更謝言の外これ無く、御預りの書類は返納仕るに付御改め御落手成下し置かれたき旨) * (封筒上書)「湯沢町ニテ早川睦友様 要旨 秋田県下柿岡源十郎」 柿岡拝→早川様	4月21日	縦紙/(青色罫紙、10行)・1通(2枚)	1239-2-3
記(被告人身代限に付、紙代並びに呼出賃は見込み1円50銭御送金の様に御配計願ひ奉る旨、及び示談済方にて出金相願ひ謝金受取高100分の7申し受くべき旨) 柿崎政信(印)→赤尾関先生	6月29日	横切継紙・1通	1239-2-4
(書状、小野崎壱件懇篤申越さるに付、別紙為替手形をもって御送金仕り候間御落手願ひ奉る旨) 柿崎政信→早川大君	12月5日	横切継紙・1通	1239-2-5
記(13年分10円28銭9厘のうち残金7円28銭9厘郵送に付) (柿崎)政信→	12月5日	横切紙・1通	1239-2-6
(書状、睦合事件は11月1日には取極めになる様懇願奉る旨、並びに此度呉服物売捌き方のため御地出張ゆえ佐竹様にて御用あらば御屋敷へ持参の旨ほか) * (封筒表書)「湯澤 早川睦友様 宇間野良之助 書中平安」從横手岩崎町十一月三日達 袋三ッ添 宇間野良之助→早川睦友様	10月29日	横切継紙・1通	1239-14
(書状、道順義、証書改めのことを兩人より仰せ含められるも何らの申し出もなく不埒に付、表方公裁を仰ぐほかほか事なき決意の旨、ほか) 宇間野良之助→早川睦友様	(明治9年)11月3日	横切継紙・1通	1239-24
(御姉さま宛、睦友様宛一紙書状、①御姉様宛:日増し御快方の由御安心存じ奉るに付、②睦友宛:道順茂助の一件、大曲向へ本訴の体裁に付) 宇間野良之助→①御姉さま、②睦友様	11月12日	横切継紙・1通	1239-33
(書状、廣大寺に金子御世話の儀は決して御話し下し置かれまじく願上げ奉る旨、私出府の儀に付、ほか) * (包紙上書)「秋田表二而谷地丁様 佐藤左内」、(包紙裏書)「五月廿一日認 五月廿四日達廿五日返書済」 佐藤左内→谷地丁様	5月21日	横切継紙・1通	1239-31
(書状、60円を来月下旬に持参するので、9月20日頃迄は取り纏ひになる旨) * (端裏書)「早川様御左右 中村孟尚」 中村孟尚→早川様	7月25日	横切継紙・1通	1239-42
(書状、金80銭御請取くだされたき旨) * (封筒表書)「早川様 金八拾銭在中 外四銭六厘添」 荒巻秀永(印)→早川様	2月8日	横切継紙・1通	1239-43
(書状、金15円入掌遊ばされたき旨) * (端裏書)「早川公 金拾五円添 船後隆武」 船後隆武→早川公	明(治)10(年)10月8日	横切紙・1通	1239-46
(書状、三口合金230円28銭9厘と存ぜられ、願は200円に致して端金受取の事に御取扱下されば此上無き旨) *前欠		横切継紙/(1243-1~15は紐一括)/(1243-1~5は紐一括)・1通	1243-2

3. 近代/3.5. 家計/3.5.3. 貸付金

約定証書(金40円、日延願のうえ元利急度返弁に付) *下書(包紙表書)証書入 子三月十五日返弁之定め 湯澤丁竹内友之丞 二月中証書約定証書共七月廿六日の中立寄友之丞へかへし → 早川睦友殿		横切紙/(1248-1~10は紐一括)/(1248-1~15は紐一括)・1通	1248-2
(書状、殿様より金30円借り奉りし所商用の炭を積んだ舟が参らざるに付、何とぞ日延仰せ上げられ下されたく願上げ奉る旨) 第七大区二小区湯澤丁竹内友之丞(印)→早川様御内福田多門様	明治9年子4月22日	縦継紙・1通	1248-3
(書状、拝り借金返上の事25日か9日迄に金配仕りて利足とも返上申上げる間、何とぞ御上へ右の段仰せ上げられ下されたき旨) 竹内友之丞拝→早川様御内福田多門様上	23日	横切継紙・1通	1248-4
(書状、御思召しを以て金子拝借の旨、御利分に相成る分は当20日出縣の上元高・払高仕切指上げ、御目通りにて御勘定願い上げ奉りたきに付) *(包紙上書)「県下中谷地町早川幸之助様御内 福田多門様 従湯澤御囲地丁 竹内友之丞 急用平安 三月十六日達」 竹内友之丞拝→福田多門様	3月12日	縦紙/(青色罫紙、17行)・1通	1248-6
約定証書(小貫頼武殿要用の趣に付、貴殿並びに他3名引受となし金70円59銭来る明治11年7月25日返金の約を以て用立てるに付) 早川睦友(印)・佐竹義隣(印)→小貫保太郎殿	明治10年10月20日	縦切紙・1通	1009
約定書添書(小貫頼武要用のため金70円59銭無利子拝借に付) 福田孝蔵(印墨消)・小貫保太郎代理(墨消)「小貫松吉(印)」→佐竹義隣殿・早川睦友殿	明治10年10月20日	縦紙/(1058-1~6は紅白紙縫一括、巻込一括)・1通	1058-2
約定証書(約定書添書(小貫頼武要用のため金70円59銭無利子拝借に付) 早川睦友(印墨消)・佐竹義隣(印墨消)→佐藤左源司殿	明治10年10月20日	縦切紙・1通	1058-3
御預御品(金目銀目メ2通など) *写 佐藤左源司印→下中城様	未9月28日	横切紙・1通	1001
金借用証券(金2円50銭借用仕るに付) *(包紙上書)「証三 收入 十三年八月返金ノ定沼倉隆久・同断長谷部礼造・十三年七月返金ノ定メ渡辺三蔵」 金借主沼倉隆久(印)・証人沼倉隆吉(印)→早川睦友殿	明治12年3月13日	縦紙/(1243-1~15は紐一括)/(1243-13~15は紐一括)・1通	1243-13
東部収入金諸払帳(貸金管理簿)	明治17年10月26日	横半半/(456~458-4は一括)・1冊	456
東部収入金(貸金管理簿)	(明治)17年10月	横半半・1冊	457
東部利子収入(貸金管理簿)	明治18年4月	横半半・1冊	458-1
東部利子収入控(貸金管理簿)	明治18年4月	横半半・1冊	458-2
東部利子収入(貸金管理簿)	(明治)18年10月	横半半・1冊	458-3
東部利子収入(貸金管理簿)	(明治)19年4月	横半半・1冊	458-4
委任書(本月出勤賃金の内半額前借、受取方は委任するに付) 荒巻秀尚(印)→製練課会計係御中	明治25年7月1日	縦切紙/(1058-1~6は紅白紙縫一括、巻込一括)・1通	1058-5
記(貸金利子・手数料など書上、惣メ196円21銭) (小野崎) 通寛→早川様	(明治)12月6日	横切継紙・1通	1085

3.6. 日記

向福帳(早川氏某による湯沢など滞在中日記)	明治7年戌11月	横半半・1冊	1192
諸手控(綿商用にて廻村中の日記、6月26日～7月25日) *(表紙上書)「于時明治九年六月廿六日湯澤へ発向ニ付」 (早川睦友)→	于時明治9年6月26日	横半半・1冊	1178
日記(1月2日～12月28日の行動記録)	明治17年1月	横半半・1冊	1174

3.7. 届出

(御布告に基づき、通称を廃し実名睦友に罷りなしたきに付、御届書) 第一大区中第一小区中谷地町士族早川考之助(印)、(奥書)副戸長(印)→秋田県御庁	(明治5年)壬申9月12日	縦紙・1通	989
---------------------------------------------------------------------------	---------------	-------	-----

3.8. 南家後見

湯沢表主立御用被仰付已来此事手控おほひ(其方親類佐竹守雄家政向不取締に付政庁より諸事取計を仰せ付けられるに付日記) (早川考之助)→	明治3年午9月8日ヨリ	横半半・1冊	1193-1
(書付、「御検読 安東了助・御代清」)		小切紙/(1193-1に挟込)・1通	1193-2
(御締・御高筆頭・御財用・御納戸役・御高御目附などの名前書上、御歩行以下諸支配御用に付伺いの旨書付)		横切継紙・1通	1193-3

3.9. 通信

3.9.1. 佐竹義隣差出

(書状、井上和作帰邑の節は相替わず結構の珍味御恵投成し下され御厚配千萬多謝奉る旨、小貫御祖父様も全快の由安堵仕るなどに付) *(包紙上書)「谷地丁様 湯沢 無事」(佐竹)守雄→大人様呈机下	7月27日	横切継紙/(1248-11～15は紐一括)/(1248-1～15は紐一括)・1通	1248-12
(包紙) *(包紙上書)「縣下中谷地町一番地ニテ 早川睦友様 佐竹義隣 大東寶監在中」「寧」「第六月五日認」「東京神田豊嶋町一丁目十二番地藤井正亭治方ヨリ 六月廿三日達 七月三日郵便返書」		包紙/(1077-2～3は包紙一括)・1点	1077-1
(書状、湯沢より登京仕る者の姓名仰せ下されたき旨願、および先月中より両国にて弘法大師の開帳にて撃剣の見世物これあり絵紙送り申す旨などに付) *(端裏書)「早川君公」(佐竹)義隣→御尊大人様	6月5日	横切継紙・1通	1077-2
(書状別紙、大東宝鑑を献上申し上げるに付、御閑暇の節御覧成し下されたき旨)		横切紙・1通	1077-3
(書状、阿久沢町にて舟に乗り東京までの旅路の様子並びに、東京では馬喰町上州屋弥平方に止宿、屋形様へ御機嫌伺に罷り出た旨ほか様子を報告) *(包紙上書)「三月廿一日認 從東京壬申四月十三日達 無事 五月十五日新太郎登り返書済 大人様玉机下 義隣」(佐竹)義隣→尊大人様 御披露	3月21日	横切継紙・1通	1239-3-1

3. 近代/3.9. 通信/3.9.1. 佐竹義隣差出

(書状、御祖母様も少々御不快のよし承り御案事申上げる旨、並びに盆中誠ににぎにぎしく、大町や柳町の者の招きに預かった旨) (佐竹)義隣→(早川)睦友尊大人様御披露	9月19日	横切継紙・1通	1239-9
(包紙) * (包紙上書)「早川睦友様 佐竹義隣拜 至急要用 東京 赤坂伝馬表三丁目一番地にて 第四月十二日認 従弓馬私学校 六月廿一日達 七月三日郵便返書」		包紙/(1239-16-2 ~3は包紙一括)・1点	1239-16-1
二十六文字ヲ以ツヂリ エビス二十六文字(都市ニューヨークに関する英文、ABCアルファベット・アラビア数字などを記す)		縦紙・1通	1239-16-2
(書状、島田・湯口・添田様の心配りをもって此節赤坂伝馬表三丁目1番地兵馬私学校へ入校仕る旨、学校の様子に付) 義隣再拜→尊大人様御披露	第4月12日	横切紙・1通<4枚>	1239-16-3
(書状、結構の御菓子沢山仕送り成し下され有難き仕合せ、時也の東京登りの件、ほか) * (包紙上書)「秋田県中谷地丁二而早川考之助様 佐竹義隣 八月十二日発候九月八日達九月十日藤井便返事 書中無事」 佐竹義隣→大人様	8月12日	横切継紙・1通	1239-20
(書状、本所小泉町常平社下宿仕り、当時この表にて高名の大先生佐々木東洋と申す人の薬用を用いる旨、ほか東京の状況) * (封筒表書)「羽後秋田県下中谷地丁一番地ニテ早川睦友様 東京第六大区小六区本處小泉丁廿二番地常平社ニテ佐竹義隣」/(封筒裏書)「西第十一月十四日出シ 五月廿二日達シ五月廿八日郵便返書 書中無事」 佐竹義隣→御尊大人様御披露	5月13日	横切継紙・1通	1239-25
(書状、結構のからしみ御仕送り成し下されたことへの御礼、太田家離縁の件、私勤学の事屋形様御立腹の風聞に付、ほか) * (包紙上書)「[]後秋田県中谷丁ニテ 早川考之助様 東京 佐竹義隣 書中無事」、(包紙裏書)「六月廿日発シ 従東京府 七月九日達七月十一日新一郎便返書致候」 (佐竹)義隣拜→尊大人様御披露	6月20日	横切継紙・1通	1239-26
(書状、御三人様共揃いの写真拝領仰せ付けられたく願ひ奉るに付、ほか) (佐竹)義隣→尊大人様御披露	(明治)11月24日	横切継紙/(紫インク使用)・1通	1239-30
(書状、奉賀新年に付、疋田も東京より下る旨、ほか) * (包紙上書)「早川睦友様 佐竹義隣」、(包紙裏書)「一月五日 無事 同廿五日達 晴方帰り返書」 佐竹義隣→尊大人様	1月5日	折紙・1通	1239-32
(書状、御祖母様・御母様へも一度東京の盛んなところを御覧申上げたき旨) 佐竹義隣再拜→尊君大人様御披露	(明治)霜月9日	縦紙(洋紙)/(破損)・1通	1239-34
(書状、昨日は湯澤より参った泉屋善と申す人などと横手の湯口行蔵田様が休日に付写真へ参る旨ほか)	(明治)	縦紙(洋紙)/(破損)・1通	1239-35
(書状、寒冷に付兩人様御保養あそばされたき旨)	(明治)	縦紙(洋紙)/(破損)・1通	1239-36
(書状、御登りの件、御祖母様・御母様御機嫌の件、ほか) (佐竹)義隣→尊大人様御披露	(明治)2月12日	縦紙(洋紙)/(裏表表面に記載有)・1通	1239-37
(書状、此表の評判に御一門の人が我、登京御暇願を申し立てたと話している件に付、ほか) * (封筒表書)「秋田県中谷地一番地ニテ早川考之助様 佐竹義隣 用事」「十一月廿一日達一月一日建登京供(カ)返簡」東京柳原土手下タ於玉池岩本丁三十四番地明治義塾ニテ」 佐竹義隣再拜→尊大人様御披露	11月6日	縦紙(洋紙)・1通<2枚>	1239-38

(書状、此表風聞に元御学校の御手本御払の由に付、結構なる王義之の書なり御求めなしたされたき旨) * (封筒上書)「秋田縣下中谷地丁ニテ大人様 義隣」 湯沢拜(佐竹義隣)→中谷地丁様	酉12月18日	横切継紙・1通	1239-39
(書状、当月中旬に商法の御用にて御登りととの事に対し延引を勧める旨、ほか) * (包紙上書)「秋田縣下中谷地町一番地ニテ 早川睦友様 東京神田豊嶋丁一丁目十二番屋敷ニテ佐竹義隣 従東京府」 佐竹義隣→御尊大人様御披露	2月5日	横切継紙・1通	1239-40
(書状、当3月にはぜひぜひ御登り遊ばされたき旨) * (包紙上書)「早川考之助様 佐竹義隣」 佐竹義隣→御尊大人様	1月25日	横切紙/(1239-41-1~2は包紙一括)・1通	1239-41-1
(書状、湯澤の泉屋善治という人に此表の模様を委曲咄すよう申し付けたので、御聞取りなされたき旨)		横切紙・1通	1239-41-2
(書状、昨5日より芳野隆蔵(ママ)へ入塾の旨、並びに5日藤井正亭治へ招かれ参り、正亭治所にては衣服類を始め万事心配致し呉れし故安心罷在り申すなどに付) * (包紙上書)「秋田中谷地丁ニテ早川考之助様 東京下嶋丁浦丁藤井正亭治宅ニテ佐竹義隣」同八日認書中無事 壬申五月三日達五月十五日返書済 (佐竹)義隣→尊大人様御披露	4月7日	横切継紙/(1243-1~15は紐一括)・1通	1243-9
(書状、当10日教授始め附添いとも指し越され日々屋敷において、小生主立ち組下・家中馬上筒などを稽古罷在るに付) * (包紙上書)「谷地丁様 湯沢 平安」 湯澤→谷地丁様	12月14日	横切継紙/(1248-11~15は紐一括)/(1248-1~15は紐一括)・1通	1248-11
(書状、困事もこれ有り実は1日も早く帰県仕りに君公御相手仕りたけれども、来正月10日前には帰県仕るに付左様思召されたき旨、ほか) (佐竹)義隣→尊大人様玉机下	12月27日	横切継紙・1通	1248-15
(書状、岩崎様も御入塾にて御心安く申し上げる旨、先月若殿様の御便りへの御書の通り塩谷へ参り滞府中万事の事相頼み候処大いに都合も宜しく御案事遊ばされ下されまじき旨、ほか) * (包紙上書)「羽後国秋田中谷地丁ニ而早川考之助様 東京戸嶋丁浦丁藤井正亭治宅ニテ佐竹義隣拜 要用入」申四月十三日發 西四月六日於湯沢披見 書中無事 (佐竹)義隣→尊大人様御披露	4月13日8ツ時	横切継紙/(1249-1~9は紐一括)・1通	1249-1
(書状、畑龍太郎と申す人へ写真相頼み御仕送り申し上げるに付、及び秋田の人は皆々免官に相成るとのこの表にて風聞に付、ほか) * (包紙上書)「秋田県早川考之助 東京佐竹義隣」七月十五日發 書中無事 八月三日達 八月廿日疋田便り返書 (佐竹)義隣→尊大人様玉机下	7月15日	横切継紙・1通	1249-2
(書状、教師を始め塾生の者も写真をとり候故一枚御仕送に付、及び評議も御用明に罷り成り候由大慶の至りに付など) * (包紙上書)「羽後秋田縣中谷地町ニテ早川睦友様 佐竹義隣無事 要用 西ノ三月三日郵便返書」一月十六日西二月廿六日達 従東京府 (佐竹)義隣→尊大人様御披露	1月16日夜	横切継紙・1通	1249-3
(書状、太田より参りし送籍仕送れ共右の返事も無き旨、並びに私も近くには洋学へも入学いたす旨、両三年も稽古これ無くば相成らざる故洋学は専一に致す旨、ほか) * (包紙上書)「羽後国秋田縣中谷地町ニテ早川考之助様呈机下 東京神田明神下タ同朋丁芳野立蔵塾ニテ佐竹義隣拜」壬申八月六日發シ十月六日達 書中安寧 十月廿日奥山便返事 (佐竹)義隣→尊大人様玉机下	8月6日夜第12字	横切継紙・1通	1249-4

3. 近代/3.9. 通信/3.9.1. 佐竹義隣差出

(包紙) * (包紙上書)「羽後秋田縣早川考之助様机下 東京佐竹義隣」十月廿一日奥山登り返事 九月廿六日発シ 書中無異」		包紙/(1249-5-1 ~4は包紙一括)・ 1点	1249-5-1
(書状、小野岡登京の事件困り入る事に付、同列従三位様方へ給禄残らず献上の件、及び藤井正亭治も御心配遊ばされる件、ほか) (佐竹)義隣→尊大人様玉机下	9月16日第10字	横切継紙・1通	1249-5-2
別紙(仁賀保の家来角藤茂助へ遣わす書状を相頼まれる間、茶町の幸野治右衛門方へ御届け成し下されたき旨) (佐竹)義隣→尊大人様	9月16日	横切継紙・1通	1249-5-3
別紙(当月10日若先生も病死仕り困り居り申すに付、並びに和作下りの節献上申上げし御筆具・盃差上げんと存じ奉るに付、ほか)	16日	横切紙・1通	1249-5-4
(書状、塾の規則を始め宜しく茶の外私飲食相成らず酒は禁じて万事宜しき旨、並びに主上当月上旬には西海の方へ舟にて御出遊ばされるに付、塩谷も断髪、従四位様も洋学先生箕作周平へ御入学の件、ほか) * (包紙上書)「羽後國秋田縣中谷地早ニテ早川考之助様玉机下 東京戸島町表丁藤井正亭治宅ニテ佐竹義隣拜」五月六日認六月朔日岸直衛ヨリ達 書中無事三月二日便七日便返書」 (佐竹)義隣→尊大人様御玉机下	5月6日	横切継紙・1通	1249-6
(書状、高倉時方帰宅の節は御尊書並びに御菓子・御看など御取り揃え拝領仰せ付けられるに付、当表にて鶏のシャム流行に付、小介川光貫ほか4名給禄奉還に付、ほか) * (包紙上書)「秋田縣下中谷地早ニテ早川睦友様大至急要用 佐竹義隣 安」戌二月十九日出シ同廿一日朝達 書中平安」 湯澤→谷地町様呈机下	2月19日	横切継紙・1通	1249-7
(書状、福原忠三郎罷り登りの節御書・御仕送りの金子とも確かに相達し有り難く拝領仕るに付、並びに尊大人様湯沢表へ御出の上は御書を下されるはずのところ模様なく案じている旨、ほか) * (包紙上書)「秋田縣下中谷地丁一番地ニテ早川睦友様要用 七月三日返書」四月廿九日認無事 従藤井正亭治 六月廿一日達」 (佐竹)義隣→尊大人様御披露	4月29日	横切継紙・1通	1249-8
(包紙) * (包紙上書)「羽後秋田縣中谷地丁ニ而早川考之助様玉机下 東京神田同朋丁芳野立蔵塾ニ而佐竹義隣拜」五月十一日発シ六月八日達 書中無事 七月十一日次田新一郎便返書済」 佐竹義隣→早川考之助様		包紙/(1250-2~ 3は包紙一括)・ 1点	1250-1
(書状、当月中横浜見物に火輪車にて参り申すに付、並びに又々御祖母さま久府へ御引越し申し候御沙汰にて困り申す由などに付) * (端裏書)「早川様」 (佐竹)義隣→尊大人様玉机下		横切継紙・1通	1250-2
(書状、御伯母さまも15日夜御死去成され実に当惑至極に付、並びに小貫御祖母様は快方にもこれあるやの旨、ほか) (佐竹)義隣→尊大人様閣下	(明治)7年12月23日	横切継紙/(罫紙、10行)・1通	1250-3

3.9.2. 佐竹義隣世話役差出

(書状、此度歳入・歳出相調べ集議に及ぶ処、是迄の姿にては御借財相嵩み相続の目途無きに付、当月中是非考えを仰せ下されたき旨、ほか) 井上和作・松下元祐→早川様	2月22日	横切継紙・1通	1239-15
--------------------------------------------------------------------------------	-------	---------	---------

(包紙) * (包紙上書)「早川様 井上和作・松下元祐」[「耕造帰り一月十五日返書」]		包紙/(1239-21-2~3の包紙)・1点	1239-21-1
(年賀状、謹賀新年に付) 井上和作・松下元祐・須藤薦信→早川様御左右	(明治10年)1月3日	横切紙・1通	1239-21-2
(書状、井上孟寅へ為替に致した10円を受留められ、殿様御入学料として御持参遊ばれたき旨、並びに御縁女様と当春婚姻に関する打ち合わせの件、ほか) 井上和作・松下元祐→早川様御左右	(明治10年)1月8日	横切継紙・1通	1239-21-3
(書状、殿様御機嫌よく御精学なされ芳野龍蔵(マ)先生へ入塾、入塾生は30余人にて徳川民部大輔様ら華族56名や鳥越様も入塾の旨、ほか近況報告) * (包紙上書)「謹上早川様御左右 神田末廣丁芳野立蔵先生塾より井上和作拝行」[書中獨平安 壬申五月三日達] (井上)和作→元ノ谷地町様御左右	卯月9日	横切継紙・1通	1249-9

3.9.3. そのほか差出

(書状、仏前へ結構の御品頂戴仰せ付けられ有り難き旨) 今泉忠治→谷地町様御左右	5月17日	横切継紙/(継目剥離)/(1032-1~10は括り紐一括)・1通	1032-4
(書状、実家くらし方により品物仕送り覚束なき旨、母儀ふとした縁にて当家へ引越の旨、ほか) 南秋田郡小袴村西水口大淵玄貞方 母より→おのゝとの	旧12月12日	横切継紙・1通	1239-3-2
(書状、親類より当人へ色々申し諭すも聞き入れ申さざるに付、この上は速やかに御暇下されたき旨) 秀然カ→半蔵様	9月13日	横切継紙/(1239-5-1~3は括り紐一括)・1通	1239-5-3
(相馬紙、紙片入り) * (包紙上書)「相馬紙」		小切紙・1通	1239-6
(書状、従四位様来る3月朔日御昼所にて御遠馬に出られるに付、御預り御馬召され候旨) * (端裏書)「湯沢屋敷早川考之助殿 根岸司 早々」 根岸司→早川考之助殿	2月晦日	横切継紙・1通	1239-13
(書状、春中佐藤門内様参りし節御返事差上げた通り吟味役へ差上げるべき所、相見え申さず、亦々吟味役へ差上げ奉る間、何分左に成し下されたき旨) * (包紙上書)「湯沢御屋敷ニ而福田多門様 上 御披露 今泉村 信太久之助拜 七月九日出シ 直尊報」(今泉村)信太久之助拜→福田多門様御家来様御取次	7月19日	横切継紙・1通	1239-10
(書状、半治様門弟吟味仕るも未だ見当たり申上げず、何卒今少し御日延べ成し下されたく願ひ上げ奉るに付) * (封筒表書)「下中城様机下 谷地丁拜」/(封筒裏書)「十二月廿七日発シ無事」(今泉村)信太久之助→福田様御取次上	7月23日	横切継紙/(1248-11~15は紐一括)/(1248-1~15は紐一括)・1通	1248-14
(書状、湯澤家昨年献上云々内々に仰せ下され承知、いかに程位の値の品を献上なされたかお知らせ下されき旨、ほか) 岡→早川様	9月26日	横切継紙・1通	1239-17
(書状、御祖母様この度御帰りの節寿代衆御供の都合これあり、御一人にての御道中となった旨、ほか) * (封筒表書)「湯澤ニて早川睦友様」(封筒裏書)「七月七日 中[虫損]高久景福」 高久→早川君机下	7月7日	横切紙・1通	1239-29-1

3. 近代/3.9. 通信/3.9.3. そのほか差出

(書状、早川様御同地御地払いの儀、阿方様御依頼に付私 買戻すにより地券手続きの件など) (早川)考之助(カ) →高久景福様	(明治)6月15日	横切紙/(青色罫 紙)・1通	1239-29-2
(書状、湯澤様春中より御不快にて佐々木東洋先生の療治 を受けるに付、ほか) 藤井正亭治→早川様	6月5日	横切継紙・1通	1239-45
(書状、当月13日より院内辺へまゆ買に出張致した所思い 候ては恐れ入るに付、ほか) *(包紙上書)「秋田中谷地町 二て 早川考之助様 佐藤左内 要用」『無異 六月廿六日認七月 十日達』 佐藤信至→谷地丁様	6月26日	横切継紙/(1243- 1～15は紐一括) /(1243-1～5は 紐一括)・1通	1243-1

史料目録 第119集

**出羽国雄勝郡湯沢
佐竹南家・佐竹南家分家早川家文書目録（その2）**

印刷発行 令和6年3月31日

発行者 人間文化研究機構 国文学研究資料館

編集 学術資料事業部

〒190-0014

東京都立川市緑町 10-3

電話 050-5533-2900（代）

印刷 株式会社トリッド

© 人間文化研究機構 禁無断複写

（本目録は国文学研究資料館史料館の『史料館所蔵史料目録』（第78集まで発行）を継続しています。）

ISBN 978-4-87592-213-1

ISSN 2435-2055



9784875922131

ISBN 978-4-87592-213-1

ISSN 2435-2055